

ApeosPort®-VII P4022 JM

ユーザーズガイド

Adobe、および PostScript は、米国ならびに他の国における Adobe の登録商標または商標です。

Microsoft、Active Directory、Azure、Windows、Windows Server、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Apple, AirPrint, App Store, Bonjour, iBeacon, iPad, iPhone, Mac, macOS, and OS X are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.

The trademark “iPhone” is used in Japan with a license from Aiphone K.K.

IOS は、Cisco の米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。

BMLinkS は、社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会（JBMA）の商標です。

RSA および BSAFE は、EMC コーポレーションの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Mopria® は、Mopria Alliance, Inc. の米国およびその他の国における登録商標およびサービスマークです。無断使用は固く禁じられています。

その他の社名、または商品名等は各社の登録商標または商標です。

Microsoft Corporation の許可を得て画面写真を使用しています。

この取扱説明書のなかで  と表記されている事項は、安全にご利用いただくための注意事項です。必ず操作を行う前にお読みいただき、指示をお守りください。

平成明朝体™W3、平成角ゴシック体™W5 は、財団法人日本規格協会を中心に制作グループが共同開発したものです。なお、フォントの一部には、弊社でデザインした外字を含みます。許可なく複製することはできません。

万一、本体の補助記憶装置に不具合が発生した場合、受信したデータ、蓄積されたデータ、設定登録されたデータなどが消失することがあります。データの消失による損害については、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

コンピューターウイルスや不正侵入などによって発生した障害については、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

ご注意

- ・ このマニュアルの編集、変更、または無断で転載はしないでください。
- ・ このマニュアルに記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- ・ このマニュアルに記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OS のバージョンによって異なることがあります。

Xerox、Xerox ロゴ、Fuji Xerox ロゴ、および CentreWare は、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。ApeosPort、ApeosWare、DocuLyzer、DocuWorks、および TrustMarkingBasic は、富士ゼロックス株式会社の登録商標または商標です。

目次

1	お使いいただく前に	11
	はじめに	12
	本書の使い方	13
	本書の構成	13
	本書の表記	14
	本機のセキュリティ設定	15
	各部の名称と働き	16
	本体	16
	操作パネル	18
	本機で使用している記号	19
	ライセンス	20
2	本機のセットアップ	21
	電源について	22
	電源を入れる	22
	初期情報を設定する	22
	電源を切る	22
	リモート操作で電源を切る	23
	本機をコンピューターに接続する	24
	有線 LAN で接続する	24
	USB で接続する	24
	無線 LAN で接続する	25
	IP アドレスを設定する	25
	Windows 用のソフトウェアをインストールする	26
	Linux 用のソフトウェアをインストールする	30
	無線キットの接続	31
	本機とモバイル機器との接続方法	31
	Wi-Fi で接続する	32
	Wi-Fi Direct で接続する	39
	Wi-Fi Direct の接続を切断する	43
	メール機能の設定	45
3	本機の基本操作	47
	節電機能について	48
	節電状態に移行する	48
	節電状態から復帰する	48
	暖機モードについて	50
	暖機モード動作を設定する	50
	タッチパネルディスプレイについて	51
	ホーム画面の説明	51
	基本の操作方法	54
	共通の操作ボタンの説明	56

文字の入力方法	57
認証モードへのログイン	58
タッチパネルディスプレイで認証モードにログインする	58
IC カード利用時に認証モードにログインする	58
カスタマイズ機能について	59
ホーム画面のカスタマイズ	59
機能リストのカスタマイズ	60
CentreWare Internet Services を使う	63
Web ブラウザーの設定	63
CentreWare Internet Services を起動する	64
認証モードへのログイン	65
用紙をセットする	66
弊社が推奨する用紙	66
使用できる用紙	66
使用できない用紙	68
用紙の保管と取り扱い	69
用紙トレイ 1 ～ 4 に用紙をセットする	70
手差しトレイに用紙をセットする	72
はがき、往復はがきをセットする	73
封筒をセットする	75
かんばん用紙をセットする	76
小サイズ対応用紙ガイド（オプション）を装着する	79
用紙の設定を変更する	80
 4 プリント	 81
機能の紹介	82
最新ソフトウェアの入手方法について	82
コンピューターからの指示でプリント	83
プリンタードライバを使ってプリント	83
メールに添付した文書をプリント（メール受信プリント）	83
CentreWare Internet Services を使ってプリント	85
本機に蓄積したデータのプリント	86
サンプルプリント	86
時刻指定プリント	87
セキュリティープリント	88
認証プリント	88
プライベートプリント	90
USB メモリーに保存されたデータのプリント	92
文書プリント	93
USB メモリーの取り外し	94
機能リスト	94
その他のプリントサービス	95
モバイル機器からのプリント	95
AirPrint	96
Mopria プリントサービス	98
BMLinkS	98

5	ジョブ情報	99
	ジョブ情報の概要	100
	実行完了 / 実行中 / 実行待ちジョブの確認	101
	実行中 / 実行待ちジョブの中止	102
	実行待ちジョブを優先実行	103
	実行待ちジョブのプリント	104
6	基本設定	105
	概要	106
	[言語切り替え]	107
	[キーボード]	107
	[ホームに [言語切り替え] ボタンを表示]	107
	[機械確認 / レポート]	108
	[機械構成]	108
	[ソフトウェアバージョン]	108
	[無線 LAN の接続状態]	108
	[レポート / リストの出力]	108
	[通知]	111
	[用紙トレイ]	112
	[共通設定]	112
	[消耗品確認]	116
	[メーター確認]	117
	[ユーザー別メーター確認]	117
	[機能別カウンターのリセット]	118
	[保守]	119
	[保守レポートの出力]	119
	[点検 / 修理依頼] / [EP 診断 / 修理依頼] / [EP 診断] / [修理依頼]	120
	[初期設定項目]	121
	[EP 通信確認]	121
	[ソフトウェアオプションの設定]	121
	[ソフトウェアオプションの設定 -USB]	121
	[ソフトウェアバージョンアップ]	121
	[機械起動時のプログラム診断]	121
	[IC カード情報の確認]	122
	[証明書の一括削除 / 初期化]	122
	[カスタムトナー / ドラム]	122
	[画質調整]	122
	[機械の詳細設定]	122
	[標高設定]	122
	[定着温度調整]	122
	[ブロッキング対策]	123
	[現像器と転写ユニットのクリーニング]	123
	[目標濃度の設定]	123
	[トナーリフレッシュ]	123
	[転写出力調整]	123

7	詳細設定	125
	概要	126
	[システム設定]	127
	[システム時計 / タイマー設定]	127
	[節電モードの設定]	128
	[音の設定]	129
	[画面の設定]	130
	[レポート設定]	132
	[強制アノテーション]	132
	[UUID 印字]	133
	[イメージログ管理]	134
	[プラグイン設定]	136
	[その他の設定]	136
	[アプリ設定]	139
	[プリンター設定]	139
	[ジョブ情報設定]	145
	[外部アクセス設定]	145
	[Web ブラウザー設定]	146
	[リモートアシスタンス設定]	147
	[ネットワーク設定]	148
	[ポート設定]	148
	[無線 LAN 設定]	152
	[プロトコル設定]	152
	[本体メールアドレス / ホスト名]	155
	[プロキシサーバー一覧]	155
	[EP プロキシサーバー設定]	157
	[メール送受信設定]	158
	[外部認証サーバー設定]	159
	[セキュリティ設定]	163
	[その他の設定]	166
	[認証 / 集計管理]	167
	[ユーザー情報の設定]	167
	[集計管理]	167
	[認証・セキュリティ設定]	170
	[監査ログ設定]	178
	[リセット]	180
	[IPsec と 802.1x の設定をリセット]	180
	[フォントとフォーム、マクロを消去]	180
	[工場出荷時の設定に戻す]	180
8	暗号化と署名機能の設定	181
	暗号化と署名機能の概要	182
	証明書の種類	182
	証明書の状態	183
	通信の暗号化機能	183
	HTTP の通信を暗号化するための設定	185
	Step1 証明書の準備	185
	Step2 証明書の設定	186

Step3 コンピューターから本機へのアクセス方法.....	186
IPsec を使用して暗号化するための設定	187
Step1 証明書の準備.....	187
Step2 IPsec の設定	188
Step3 通信先機器の設定	188
9 認証と集計管理機能について.....	189
認証機能と集計管理機能の概要	190
ユーザーの種類について	190
管理の権限と権限グループについて	190
利用制限について	191
認証の種類について.....	191
集計管理機能について	192
認証機能を使ったサービスの利用制限.....	195
利用制限できるサービス	195
認証モードと集計管理モードの組み合わせ	195
ユーザー認証機能を有効にする	197
認証方式を設定する.....	197
アクセス制御を設定する	197
権限グループを設定する（本体認証）.....	198
ユーザーを登録する（本体認証）.....	199
デフォルト権限グループを設定する（外部認証）.....	200
認証システムを設定する（外部認証）.....	201
外部認証の LDAP サーバーを設定する	201
その他の設定事例（LDAP）.....	203
外部認証の Azure Active Directory を設定する.....	205
その他の設定事例（Azure Active Directory）.....	207
IC カードリーダー（オプション）で認証するための設定	210
Step1 事前準備.....	210
Step2 IC カードとパスワードの併用の設定.....	210
Step3 IC カード使用時の認証解除の設定	210
Step4 IC カード情報の登録.....	211
Step5 外部認証に LDAP サーバーを使うときの設定	211
集計管理するための設定.....	212
ユーザー認証の操作	213
登録ユーザーの認証.....	213
パスワードの変更	213
10 日常の管理	215
消耗品を交換する	216
トナーカートリッジを交換する	217
ドラムカートリッジを交換する（スポット保守のお客様のみ）	219
本体を清掃する	222
本体外部の清掃	222
本体内部（LED プリントヘッド部）の清掃	222
タッチパネルの清掃.....	224
アライメント調整を行う.....	225

手動アライメント調整	225
転写出力調整	228
転写出力調整の設定.....	228
11 困ったときは.....	229
トラブルを解決する	230
機械本体のトラブル.....	231
画質のトラブル	234
プリンターのトラブル.....	238
プリントできない.....	238
思ったとおりのプリント結果にならない.....	239
ネットワークのトラブル	240
TCP/IP を使用したときのトラブル.....	240
CentreWare Internet Services を使用したときのトラブル	240
メール機能のトラブル	241
インターネット / イン트라ネット接続のトラブル	242
IPv4 または IPv6 接続のトラブル.....	243
ヘルプ / リモートアシスタンス接続時のトラブル	245
文書プリントのトラブル	246
プライベートプリント（一括出力）のトラブル.....	247
メール受信プリントのトラブル	248
AirPrint のトラブル対処.....	249
プリンター選択時のトラブル	249
プリント時のトラブル	249
用紙が詰まった場合	250
用紙トレイ 1、手差しトレイでの紙づまり.....	250
用紙トレイ 2～4 での紙づまり	252
定着ユニットでの紙づまり.....	253
エラーコード	255
12 オプションの取り付け・取り外し	257
オプション製品について	258
無線キットの取り付け・取り外し.....	259
取り付け	259
取り外し	260
ストレージの取り付け.....	262
データ上書き消去キットの取り付け.....	265
13 付録	267
主な仕様.....	268
プリント機能.....	268
プリント可能領域	273
標準印字領域.....	273

拡張印字領域.....	273
エミュレーションについて	274
エミュレーションモード	274
プリント言語の切り替え	274
モードメニュー画面.....	275
使用できるフォント	275
ART IV、ESC/P エミュレーションについて	275
PC-PR201H エミュレーションについて	282
PCL エミュレーションについて	288
HP-GL/2 エミュレーションについて	293
PDF ダイレクトプリントを使用するには	308
モードメニュー画面.....	308
PDF ダイレクトプリント機能の設定項目	309
DocuWorks ダイレクトプリントを使用するには	310
モードメニュー画面.....	310
DocuWorks ダイレクトプリント機能の設定項目	310
外部アクセス.....	312
外部アクセスの概要.....	312
接続先を登録する	312
サーバー証明書の検証を行う場合の設定	313
外部サービスに接続する	314
EP システムについて	315
使い方のヒント	317
操作パネルでヘルプを使う	317
本機とコンピューターで厚紙を指定してプリントする.....	318

1

お使いいただく前に

はじめに

このたびは ApeosPort-VII P4022 JM（以降、本機と呼びます）をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書には、本機の操作方法および使用上の注意事項を記載しています。本機の性能を十分に発揮させ、効果的にご利用いただくために、本書を最後までお読みください。

なお、本書の内容は、お使いのパーソナルコンピュータの環境や、ネットワーク環境の基本的な知識や操作方法を習得されていることを前提に説明しています。お使いのパーソナルコンピュータの環境や、ネットワーク環境の基本的な知識や操作方法については、パーソナルコンピュータ、オペレーティングシステム、ネットワークシステムなどに付属の説明書をお読みください。

富士ゼロックス株式会社

本書の使い方

本書の構成

■1 お使いいただく前に

本書の使い方、各部の名称について説明しています。

■2 本機のセットアップ

電源の入 / 切、コンピューターとの接続方法、メール機能の初期設定について説明しています。

■3 本機の基本操作

アプリの概要や、用紙などについて説明しています。

■4 プリント

プリントの基本的な操作方法と、機能について説明しています。

■5 ジョブ情報

ジョブの状態を確認したり、ジョブを削除したりする方法について説明しています。

■6 基本設定

[設定] アプリのうち、一般ユーザーや機械管理者が確認 / 設定できる項目を説明しています。

■7 詳細設定

[設定] アプリのうち、機械管理者が確認 / 設定する項目を説明しています。

■8 暗号化と署名機能の設定

本機で暗号化と署名機能を利用するための設定方法について説明しています。

■9 認証と集計管理機能について

各機能を利用するときに利用に制限をかける認証機能と、認証機能を元にして、各機能の利用状況を管理する集計管理機能について説明しています。

■10 日常の管理

消耗品を交換する方法や、本体を清掃する方法について説明しています。

■11 困ったときは

本機に何らかのトラブルが発生した場合の対処方法について説明しています。

■12 オプションの取り付け・取り外し

オプションの取り付け方法を説明しています。

■13 付録

本機の主な仕様や、保守サービスなどについて説明しています。

本書の表記

- 本書に記載している画面や本機のイラストは、各種オプション製品が装着された状態のものです。使用している機種や構成によっては、表示されない項目や使用できない機能があります。
- 各種ドライバーやユーティリティソフトウェアのバージョンによって、本書に記載している内容が、お客様がお使いのものと異なる場合があります。
- 本文中の「コンピューター」は、パーソナルコンピューターやワークステーションの総称です。
- 本文中では、説明する内容によって、次のマークを使用しています。

注記

- 注意すべき事項を記述しています。必ずお読みください。

補足

- 補足事項を記述しています。

参照

- 参照先を記述しています。
- 本文中では、次の記号を使用しています。

- | | |
|--------------|---|
| 「 」 | • 本書内にある参照先を表しています。 |
| 『 』 | • メディア、機能、タッチパネルディスプレイのメッセージなどの名称や入力文字などを表しています。 |
| [] | • 参照するマニュアルを表しています。 |
| | • 本機のタッチパネルディスプレイに表示されるボタンやメニューなどの名称を表しています。 |
| | • コンピューターの画面に表示されるメニュー、ウィンドウ、ダイアログボックスなどの名称と、それらに表示されるボタンやメニューなどの名称を表しています。 |
| < > キー | • コンピューターのキーボード上のキーを表しています。 |
| > | • 操作パネルまたはコンピューターで順に項目を選択する手順を、省略して表しています。 |

- 本文中では、用紙の向きを、次のように表しています。

- | | |
|--|------------------------------------|
|  たて置き | • 本機の正面から見て、用紙をたて長にセットした状態を表しています。 |
|  よこ置き | • 本機の正面から見て、用紙をよこ長にセットした状態を表しています。 |

- 機能によっては、オプション製品やカスタマーエンジニアの設定が必要になります。詳しくは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。
- 認証状態や装着しているオプションによって、操作パネルに表示される項目は異なります。
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。
- 本書では、内蔵増設ハードディスク（HDD）や Solid State Drive（SSD）を総称して「ストレージ」と表記します。
- 本書の内容は予告なく変更する場合があります。最新の情報は、弊社公式サイトをご覧ください。

本機のセキュリティ設定

本機の設定が次のどれかを満たす状態で機械管理者モードに入ると、セキュリティ警告画面が表示されます。本機をより安全にご利用いただくために、本機を設置したあと、すぐに設定を変更することをお勧めします。

- 機械管理者のユーザー ID とパスワードが初期値
- SNMP プロトコルの設定でコミュニティ名や認証用パスワードが初期値
- グローバル IP アドレスが設定され、かつ [認証方式の設定] が [認証しない] に設定されている

機械管理者のユーザー ID とパスワードおよび、SNMP プロトコルのコミュニティ名や認証用パスワードの設定を初期値から変更することをお勧めします。これらの初期値を変更することで、悪意のある第三者による攻撃（設定変更や情報搾取など）を防ぐことができます。

補足

- 機械管理者のユーザー ID とパスワード、SNMP プロトコルのコミュニティ名や認証用パスワードを初期値から変更すると、複合機と連携するソフトウェアやユーティリティの動作に影響が出る場合があります。影響を確認のうえ、実施してください。

また、本機にグローバル IP アドレスを設定する場合、受付 IP アドレスを制限することにより、本機を外部ネットワークからの不正アクセス（ジョブ履歴の閲覧）から防ぐことができます。

さらに、[認証方式の設定] を [本体認証] または [外部認証] に設定することをお勧めします。[本体認証] の場合、本機に登録したユーザー情報を使用して認証管理を行います。認証が成功したユーザーだけが本機を使用できます。ただし、使用時には操作パネルからユーザー ID を入力するか、IC カードの利用が必要となります。[外部認証] の場合、外部認証サーバーに登録されたユーザー情報を使用して認証管理を行います。

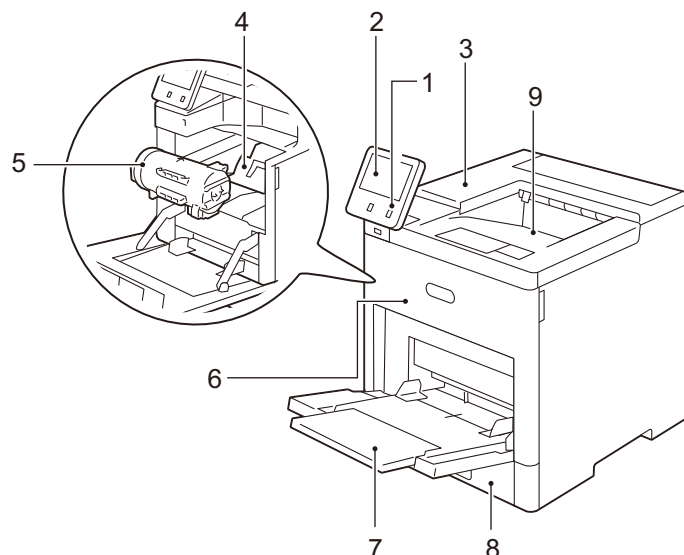
参照

- 機械管理者のユーザー ID とパスワードの変更については、「[機械管理者情報の設定]」(P.170) を参照してください。
- SNMP 認証データの変更と受付 IP アドレス制限の設定については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。
- 認証方式の設定については、「[認証の設定]」(P.170) を参照してください。

各部の名称と働き

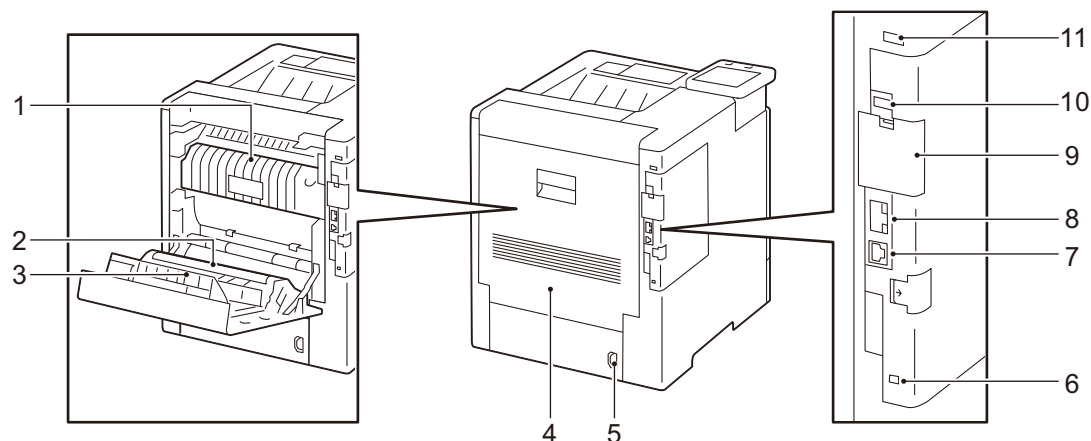
本体

前面



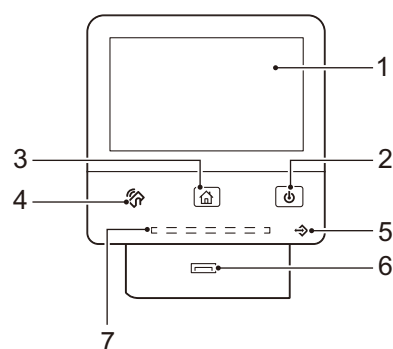
番号	名称	働き
1	電源 / 節電ボタン	本機の電源を入 / 切します。 参照 ・詳しくは、「電源について」(P.22) を参照してください。
2	操作パネル	操作に必要なボタン、ランプ、タッチパネルディスプレイがあります。 参照 ・詳しくは、「操作パネル」(P.18) を参照してください。
3	本体内蔵型IC カードリーダー (オプション)	IC カードでユーザー認証するときに使います。IC カードをタッチすると、登録されたユーザー情報が本体に読み込まれ、機械がユーザー認証します。 補足 ・機械が低電力モードで節電中に IC カードをタッチすると、節電状態は解除されます。ただし、スリープモードに移行した場合は解除されません。詳しくは、「節電状態から復帰する」(P.48) を参照してください。
4	ドラムカートリッジ	感光体がセットされています。
5	トナーカートリッジ	トナーが入っています。
6	フロントカバー	消耗品交換や清掃を行うときに開けます。
7	用紙トレイ 5 (手差し)	用紙トレイにセットしていない用紙、またはできない用紙 (厚紙などの特殊用紙) をセットできます。
8	用紙トレイ	用紙をセットします。 補足 ・用紙トレイ 2、3、4 はオプションです。
9	排出トレイ	プリントされたものが排出されます。

左側面部、および背面



番号	名称	働き
1	定着ユニット	トナーを用紙に定着させます。
2	転写ロール	トナーを用紙に転写するためのローラーです。
3	両面出力ユニット	両面印刷をするためのユニットです。
4	背面カバー	紙づまりの処置、消耗品交換や清掃を行うときに開けます。
5	電源コネクター	本機の電源ケーブルを接続します。
6	セキュリティーロット	盗難防止用のケンジントンロックを取り付けます。
7	USB3.0 インターフェイスコネクター	プリンター用の USB ケーブルを接続します。
8	Ethernet インターフェイスコネクター	ネットワークケーブルを接続します。
9	無線キットソケット	無線キット（オプション）を使用する場合は、ここに取り付けます。
10	USB2.0 インターフェイスコネクター（下）	4Gnet-BOX を接続します。
11	USB2.0 インターフェイスコネクター（上）	内蔵型の IC カードリーダーを接続します。

操作パネル



番号	名称	働き
1	タッチパネルディスプレイ	操作に必要なメッセージや各機能のボタンが表示されます。タッチパネルディスプレイに直接触れて、画面の指示や機能の設定をします。
2	電源 / 節電ボタン	このボタンを押して、本機の電源を入 / 切します。このボタンを使って、本機を節電状態から解除したり、節電状態にしたりすることもできます。節電状態のときは、このボタンが点滅します。
3	ホームボタン	ホーム画面を表示するときに押します。
4	NFC タッチエリア	お使いの NFC 対応モバイル機器をかざすエリアです。相互通信するには、本機の NFC 機能が有効になっている必要があります。 参照 詳しくは、「NFC 機能でプリントする」(P.95) を参照してください。
5	データランプ	本機からデータを送信中や、クライアントからのデータを受信中に、点滅します。
6	USB メモリー差込口	USB2.0 用のメモリー差込口です。
7	状態表示ランプ	操作を受け付けたときや、処理が完了したときに、青色で短く光ります。システムエラーや、紙づまり、用紙切れ、トナー切れなどで機械に異常が発生している間は、オレンジ色で点滅します。

本機で使用している記号

記号	説明
	注意、危険、警告
	高温注意
	裏紙（他機で印刷した紙）を使用しないこと
	インクジェット紙を使用しないこと
	OHP フィルムを使用しないこと
	折り目、しわ、カール紙を使用しないこと
	ホチキス、クリップを使用した用紙を使用しないこと
	紙幣をコピーしないこと
	IC カードリーダー
	プリント面を上セット
↓MAX↓	最大積載量

	用紙残量
	清掃
	USB 端子
	LAN 端子
	無線キットソケット
	セキュリティースロット
	電源 / 節電ボタン
	ホームボタン
	紙詰まり
	冷却
	経過時間

ライセンス

ここでは、ソフトウェアライセンスについて説明します。必ずご確認ください。

本製品は、第三者が権利を有するオープンソースソフトウェア（以降、OSS と呼びます。）が含まれています。各 OSS の適用ライセンス、著作権表示および個別のライセンス条件については、CentreWare Internet Services の [ホーム] タブ > [サポート] > [OSS ライセンス情報のダウンロード] から取得できます。

本製品は、GNU Library General Public License 2.0 など、OSS ライセンスに基づき許諾されるソフトウェアを含んでいます。

OSS ライセンスに基づき、対象となるソフトウェアのソースコードの入手を希望される方は、以下のサイトより入手が可能です。

https://www.fujixerox.co.jp/etc/oss/mfp/ap7_c4422/v1_0

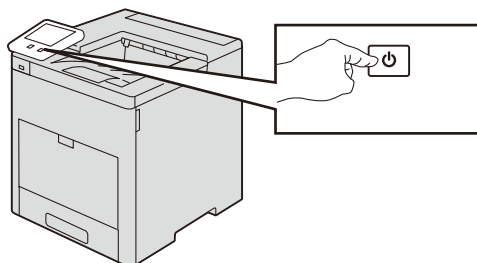
2

本機のセットアップ

電源について

電源を入れる

- 1 電源 / 節電ボタンを押して、電源を入れます。



補足

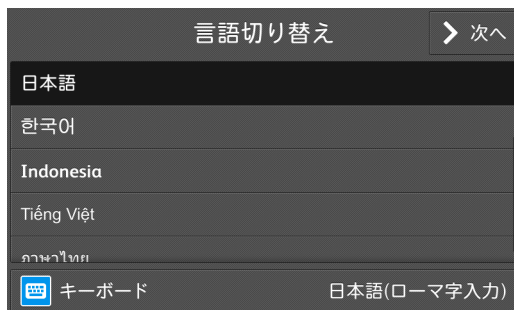
- 電源が入らない場合は、電源プラグが入っているか確認してください。

初期情報を設定する

初めて電源を入れたときに、本機の初期情報を設定するウィザードが起動します。

各画面で必要な情報を設定し、[次へ] をタップします。画面に従って、必要な情報を設定してください。

[初期設定終了] が表示されたら、[完了] をタップします。



補足

- 設定内容については、各項目の説明を参照してください。初期設定ウィザードで設定する項目は、あとで変更できます。

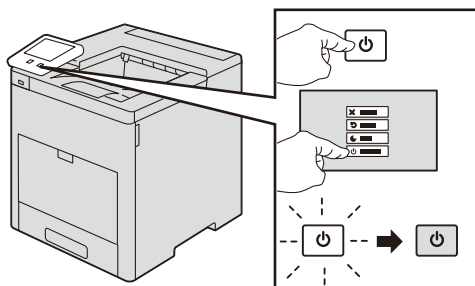
電源を切る

- 1 プリントが完全に終了していることを確認します。また、データランプが点滅していないことを確認します。

注記

- 次の状態の場合は、電源を切らないでください。電源を切ると、処理中のデータが消去されることがあります。
 - データの受信が行われている
 - プリント処理が行われている
- 用紙排出終了後、5 秒たってから、電源を切ってください。

2 電源 / 節電ボタンを押し、[電源を切る] を選択して、電源を切ります。



注記

- 電源を切ったあとも、しばらくの間は本機内部で電源オフ処理をしています。タッチパネルディスプレイが消灯して電源 / 節電ボタンの点滅が終わるまで、ほかの操作をしないでお待ちください。

補足

- 電源を切ったあとに、再度、電源を入れる場合は、タッチパネルディスプレイ消灯後、電源 / 節電ボタンの点滅が終わってから入れてください。
- 指定した時刻に電源がオフになるように設定することもできます。詳しくは、「[電源の自動制御]」(P.129) を参照してください。

リモート操作で電源を切る

補足

- リモート操作で電源を切るには、機械管理者 ID とパスワードが必要です。機械管理者 ID とパスワードについては、機械管理者にお問い合わせください。

1 コンピューターから CentreWare Internet Services に接続します。

参照

- CentreWare Internet Services については、「CentreWare Internet Servicesを起動する」(P.64) を参照してください。

2 機械管理者モードにログインします。

3 [クイックリンク] の [サポート] をクリックします。

4 [操作項目] の [電源を切る] をクリックします。

5 [はい (電源を切る)] をクリックします。

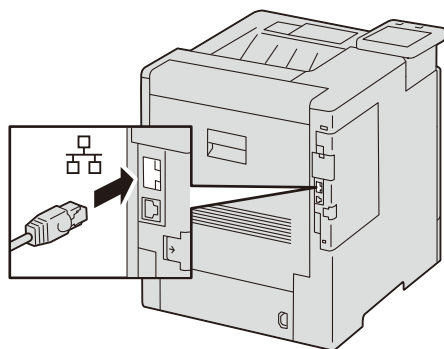
本機をコンピューターに接続する

有線 LAN で接続する

補足

- 次の不具合が発生する場合、[設定] > [ネットワーク設定] > [プロトコル設定] > [Ethernet 設定] > [Energy Efficient Ethernet] を [無効] に設定すると改善することがあります。
- 本機のネットワーク接続が遅い
- 本機のネットワーク接続が不安定で、頻繁にタイムアウトする
- 長時間のスリープモードから復帰した後に、本機がネットワークに接続できなくなる

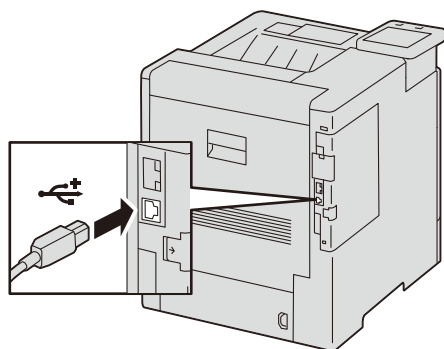
- 1 電源 / 節電ボタンを押し、[電源を切る] を選択して、電源を切ります。
- 2 タッチパネルディスプレイと電源 / 節電ボタンが消灯していることを確認します。
- 3 Ethernet インターフェイスのコネクターに、ネットワークケーブルを接続します。



- 4 電源 / 節電ボタンを押して、電源を入れます。

USB で接続する

- 1 電源 / 節電ボタンを押し、[電源を切る] を選択して、電源を切ります。
- 2 タッチパネルディスプレイと電源 / 節電ボタンが消灯していることを確認します。
- 3 インターフェイスコネクターに、USB インターフェイスケーブルを接続します。



- 4 コンピューターに、USB インターフェイスクーブルのもう一方のコネクターを接続します。
- 5 電源 / 節電ボタンを押して、電源を入れます。
- 6 コンピューターを再起動します。

無線 LAN で接続する

無線 LAN で接続するためには、無線キット（オプション）が必要です。また、無線 LAN 接続には設定が必要です。無線キット（オプション）が本機に取り付けられていることを確認してから、無線 LAN 接続を設定します。

参照

- 無線キットについては、「無線キットの取り付け・取り外し」(P.259) を参照してください。
- 無線 LAN 接続の設定方法については、「無線キットの接続」(P.31) を参照してください。

IP アドレスを設定する

本機をネットワーク環境で使用するときはあらかじめ、IP アドレスとその他のネットワーク情報を設定する必要があります。

補足

- IPv6 環境の IP アドレスを手動で割り当てるときは、本機のインストーラーまたは CentreWare Internet Services を使用してください。CentreWare Internet Services の起動方法については、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.64) を参照してください。

- 1 ホームボタンを押します。
 - 2 機械管理者モードにログインします。
- 補足
- 詳しくは、「認証モードへのログイン」(P.58) を参照してください。
- 3 [設定] をタップします。
 - 4 [ネットワーク設定] > [プロトコル設定] をタップします。
 - 5 [TCP/IP— 共通設定] をタップします。
 - 6 [IP 動作モード] をタップし、お使いの環境に合わせて、[デュアルスタック]、[IPv4 モード] または [IPv6 モード] をタップします。

補足

- 使用するネットワークが IPv4 および IPv6 の両方に対応している場合は、[デュアルスタック] を選択してください。

- 7 [プロトコル設定] 画面に戻って [TCP/IP— ネットワーク設定] をタップし、お使いの環境に合わせて IP アドレスの取得方法を設定します。
ここでは手順 6 で [IPv4 モード] を選択した場合を例に説明します。
- 8 [IPv4-IP アドレス取得方法] をタップします。
- 9 IP アドレスの割り当て方法を設定します。

■IP アドレスを自動で設定する場合

- 1) [DHCP/AutoIP から取得]、[BOOTP から取得]、[DHCP から取得] のどちらかをタップし、手順 10 に進みます。

■IP アドレスを手動で設定する場合

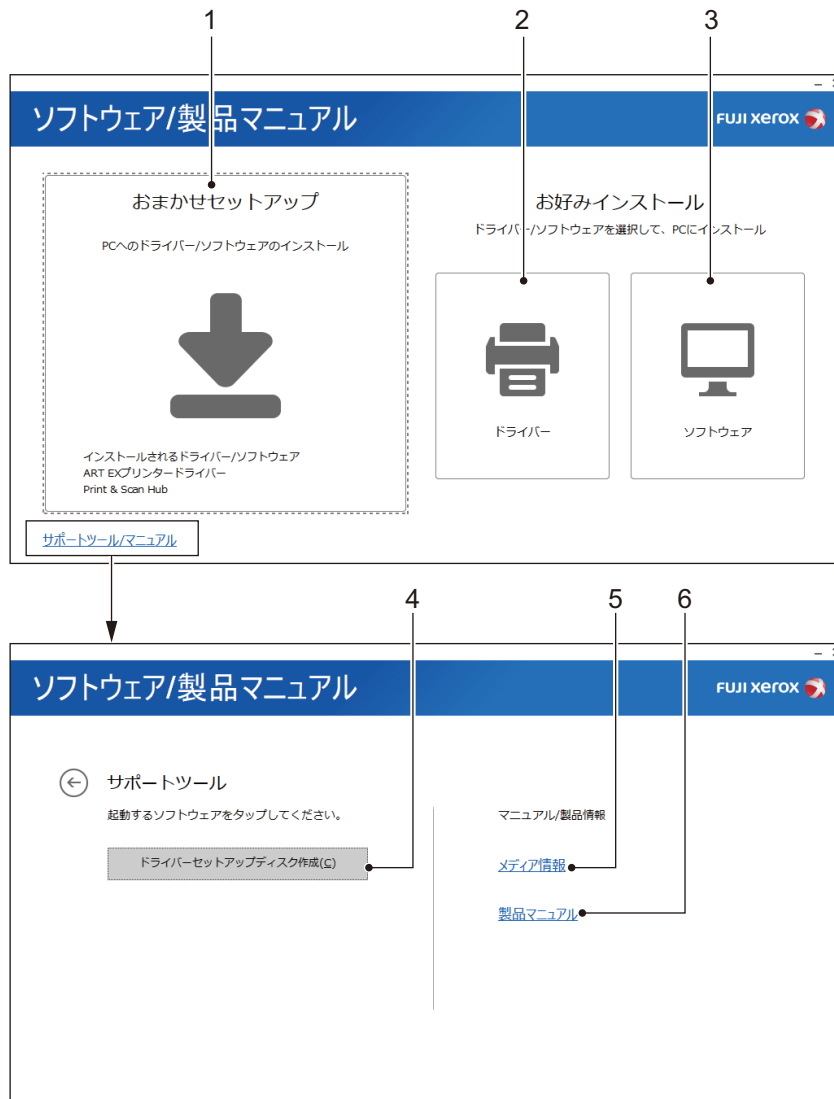
- 1) [手動で設定] を選択し、[OK] をタップします。
- 2) [IPv4-IP アドレス] をタップします。
- 3) IP アドレスを入力し、[OK] をタップします。
- 4) [IPv4- サブネットマスク] をタップします。
- 5) サブネットマスクを入力し、[OK] をタップします。
- 6) [IPv4- ゲートウェイアドレス] をタップします。
- 7) ゲートウェイアドレスを入力し、[OK] をタップします。

10 本機の電源を切り、再度電源を入れます。

Windows 用のソフトウェアをインストールする

「ソフトウェア / 製品マニュアル」ディスクを使う

付属の「ソフトウェア / 製品マニュアル」ディスクを使って、次の機能を利用できます。



1 [おまかせセットアップ]

本機で利用できる基本的なソフトウェアを、まとめてインストールできます。インストールできるソフトウェアは次のとおりです。

- ART EX プリンタードライバー
- Print & Scan Hub

参照

- インストール方法については、「[おまかせセットアップ] でインストールする」(P.28) を参照してください。

2 [お好みインストール] > [ドライバー]

必要なドライバーだけを選んでインストールできます。インストールできるドライバーは次のとおりです。

- ART EX プリンタードライバー
- 共通プリンタードライバー

参照

- インストール方法については、「[お好みインストール] でインストールする」(P.29) を参照してください。

3 [お好みインストール] > [ソフトウェア]

必要なソフトウェアだけを選んでインストールできます。インストールできるソフトウェアは次のとおりです。

- Print & Scan Hub
- ContentsBridge Utility
- Supply Monitor

参照

- インストール方法については、「[お好みインストール] でインストールする」(P.29) を参照してください。

4 [サポートツール] > [ドライバーセットアップディスク作成]

ドライバーのセットアップディスクを作成できます。複数のコンピューターに同じ設定でドライバーをインストールする場合に、作業負担を軽減できます。

補足

- セットアップディスクは、ディスクを作成したコンピューターのOS と異なるOS のコンピューターでは使用できません。OS ごとにセットアップディスクを作成してください。

5 [メディア情報]

[ソフトウェア / 製品マニュアル] ディスクの収録内容を確認できます。

6 [製品マニュアル]

富士ゼロックスの公式 HP に掲載されている、ユーザーズガイドを表示します。

[おまかせセットアップ] でインストールする

補足

- 事前に次のどれかの手順で本機をコンピューターに接続してからインストールを開始してください。
 - 「有線 LAN で接続する」(P.24)
 - 「USB で接続する」(P.24)
 - 「無線 LAN で接続する」(P.25)

1 [ソフトウェア / 製品マニュアル] ディスクをコンピューターにセットします。

補足

- [ソフトウェア / 製品マニュアル] ディスクが起動しない場合は、次の操作をしてください。
 1. スタートボタンを右クリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。
 2. 「D:¥Launcher.exe」(「D」は光学ディスクドライブの名称) を入力し、[OK] をクリックします。

2 「おまかせセットアップ」をクリックします。



3 画面の指示に従ってインストールを完了します。

【お好みインストール】でインストールする

補足

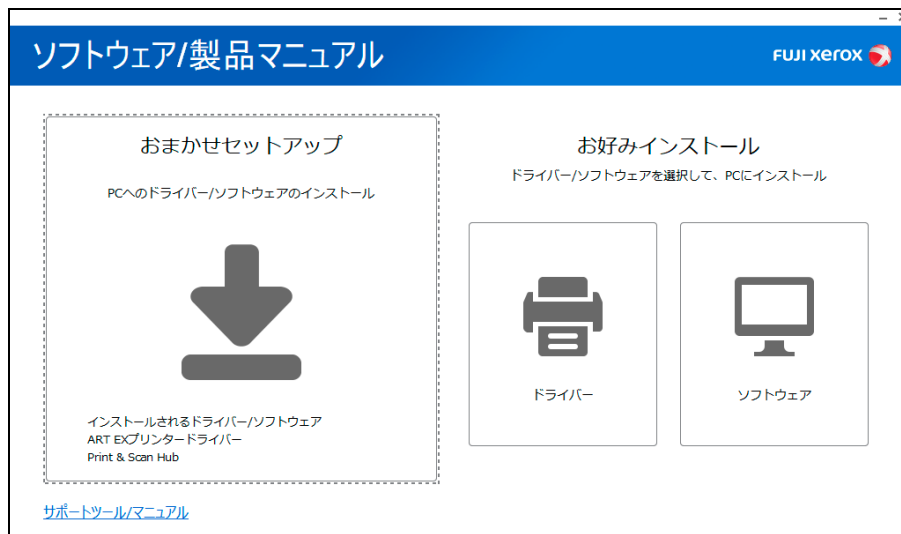
- 事前に次のどれかの手順で本機をコンピュータに接続してからインストールを開始してください。
 - 「有線 LAN で接続する」(P.24)
 - 「USB で接続する」(P.24)
 - 「無線 LAN で接続する」(P.25)

1 【ソフトウェア / 製品マニュアル】ディスクをコンピュータにセットします。

補足

- 【ソフトウェア / 製品マニュアル】ディスクが起動しない場合は、次の操作をしてください。
 1. スタートボタンを右クリックし、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。
 2. 「D:¥Launcher.exe」（「D」は光学ディスクドライブの名称）を入力し、[OK]をクリックします。

- 2 [ドライバー] または [ソフトウェア] をクリックします。
[ソフトウェア] を選んだ場合は、手順 5 に進みます。



- 3 [使用許諾契約の条項に同意する] を選び、[次へ (N)] をクリックします。
- 4 お使いの接続方法を選び、[次へ (N)] をクリックします。
- 5 画面の指示に従ってインストールを完了します。

Linux 用のソフトウェアをインストールする

最新版の Linux 用のプリンタードライバーは、弊社公式サイトから入手できます。

無線キットの接続

本機とモバイル機器との接続方法

無線ネットワークで本機を使用するときの接続方法には、「Wi-Fi 接続」と「Wi-Fi Direct 接続」があり、どちらも本機での設定が必要です。

■ Wi-Fi 接続

本機とモバイル機器を無線 LAN アクセスポイント経由で接続します。社内に無線ネットワークがある場合、こちらの設定を行ってください。

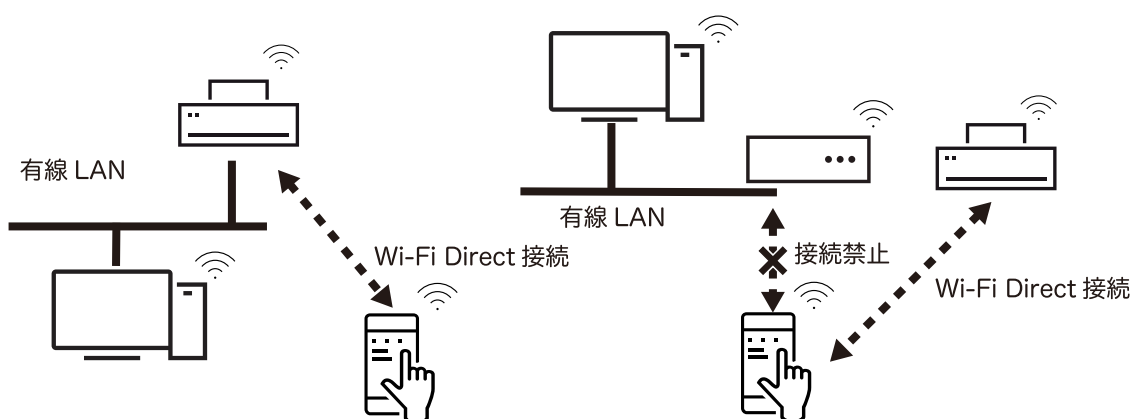


参照

- 詳しい設定方法については、「Wi-Fi で接続する」(P.32) を参照してください。

■ Wi-Fi Direct 接続

無線 LAN アクセスポイントを経由せず、本機とモバイル機器を直接接続します。社内に有線ネットワークしかない場合や、社内に無線ネットワークはあるが、スマートフォンなどを接続させたくない場合は、こちらの設定を行ってください。



補足

- Wi-Fi Direct は、IPv6 やアドホック環境では使用できません。
- Wi-Fi Direct では、同時に 3 台まで接続できます。

参照

- 詳しい設定方法については、「Wi-Fi Direct で接続する」(P.39) を参照してください。

Wi-Fi で接続する

Wi-Fi 接続の設定方法

Wi-Fi 接続には、次の設定方法があります。

- 本機の操作パネルから、自動設定で接続する
- 本機の操作パネルから、手動設定で接続する

自動設定には、WPS（プッシュボタン方式）および WPS（PIN コード方式）があり、本機はどちらにも対応しています。

- WPS（プッシュボタン方式）

操作パネルから本機を設定したあと、無線 LAN アクセスポイントに付いている WPS ボタンを押して設定します。

- WPS（PIN コード方式）

本機に割り当てられている PIN コードを、無線 LAN アクセスポイントに入力して設定します。

ただし、これらの方法で設定する場合は、無線 LAN アクセスポイントが WPS 方式に対応している必要があります。

参照

- 無線 LAN アクセスポイント側の WPS 操作については、無線 LAN アクセスポイントの取扱説明書を参照してください。

本機に Wi-Fi 接続の設定をする

補足

- 設定内容によっては、本機の再起動が必要です。再起動を指示する画面が表示された場合は、再起動してください。

- 1 機械管理者モードにログインし、ホーム画面で「設定」をタップします。

参照

- 詳しくは、「認証モードへのログイン」(P.58) を参照してください。

- 2 「ネットワーク設定」をタップします。



- 3 「無線 LAN 設定」をタップします。

補足

- 「無線 LAN 設定」が表示されない場合は、本機に正しくキットが取り付けられていません。正しくキットが取り付けられているか確認してください。

参照

- 詳しくは、「無線キットの取り付け・取り外し」(P.259) を参照してください。



4 「基本設定」をタップします。



5 「有効」を選択し、「OK」をタップします。



6 RADIUS サーバ認証 (IEEE802.1X 認証) を使用する無線 LAN アクセスポイントに接続する場合は、CentreWare Internet Services で証明書を設定する必要があります。「CentreWare Internet Services を使って高度なセキュリティ環境に接続する」(P.38) に進みます。 証明書が不要な接続先に接続する場合は、手順 7 に進みます。

7 [Wi-Fi 接続設定] をタップします。



8 次のどれかの方法で、無線ネットワークに接続します。

補足

- Wi-Fi についての本機の設定値は、機能設定リストをプリントすることで確認できます。



方法	設定内容	手順の参照先
一覧から選択して接続する *1	表示されている無線 LAN アクセスポイントの一覧から SSID（無線ネットワークを識別する名前）を選択して接続します。	(P.34)
手動設定で接続する *1	接続する無線 LAN アクセスポイントが一覧に表示されていない場合は、SSID を指定して無線ネットワークに接続します。	(P.36)
WPS（プッシュボタン）で接続する *2	本機の操作パネルで接続指示をしたあと、2 分以内に、お使いの無線 LAN アクセスポイントに付いている WPS ボタンを押して接続します。	(P.36)
WPS（PIN コード）で接続する *2	本機に割り当てられる PIN コードを、2 分以内に無線 LAN アクセスポイントに入力して設定します。	(P.37)

*1 :無線 LAN アクセスポイントの SSID と、認証情報（WEP キー、パスフレーズなど）が必要になります。無線 LAN アクセスポイントの情報については、機械管理者またはネットワーク管理者に確認してください。
*2 :無線 LAN アクセスポイントが WPS 方式に対応している必要があります。無線 LAN アクセスポイント側の WPS 操作については、無線 LAN アクセスポイントの取扱説明書を参照してください。

■ 一覧から選択して接続する

1 [Wi-Fi 接続設定]画面に表示されている一覧から、接続する無線 LAN アクセスポイントの SSID をタップします。

補足

- アクセスポイントにセキュリティが設定されていない場合は、これで設定は完了です。
- 一覧に表示される無線 LAN アクセスポイントは、電波が強いものから順に 5 台までです。



- 2** アクセスポイントにセキュリティが設定されている場合は、認証情報画面が表示されます。必要な情報を入力して、[OK] をタップします。

補足

- アクセスポイントを選択したとき、すでに他のアクセスポイントと接続中だった場合は、接続解除の確認画面が表示されます。[はい（解除する）] をタップします。

- 3** 設定が更新されたことを確認できたら [確認] をタップします。
本機が再起動し、設定が有効になります。

■ 手動設定で接続する

- 1 [Wi-Fi 接続設定] 画面で [手動設定] をタップします。
- 2 使用環境にあわせて各項目を設定し、[OK] をタップします。

設定項目		設定内容
SSID		無線ネットワークを識別する名前を設定します。32 文字以内の英数字を入力できます。
通信モード		[Infrastructure] または [Ad-hoc] ^{*1} のどちらかに設定します。
暗号化設定	暗号化なし	暗号化を設定しません。
	WEP	WEP キーは、4 つまで登録できます。[送信キー] で、その中から使用する WEP キーを選択します。
	WPA2 Personal ^{*2}	パスフレーズを設定します。
	Mixed mode Personal(AES/TKIP) ^{*2}	
	WPA2 Enterprise ^{*2}	認証方式を設定します。
	Mixed mode Enterprise(AES/TKIP) ^{*2}	PEAP を選択した場合は、さらに [Identity]、[ユーザー名]、[パスワード] を設定します。 EAP-TLS や EAP-TTLS を使用する場合は、CentreWare Internet Services で証明書を設定したり、認証方式の詳細設定をする必要があります。 参照 CentreWare Internet Services での設定方法については、「CentreWare Internet Services を使って高度なセキュリティ環境に接続する」(P.38) を参照してください。

*1 :Wi-Fi Direct 接続が有効の場合は、使用できません。

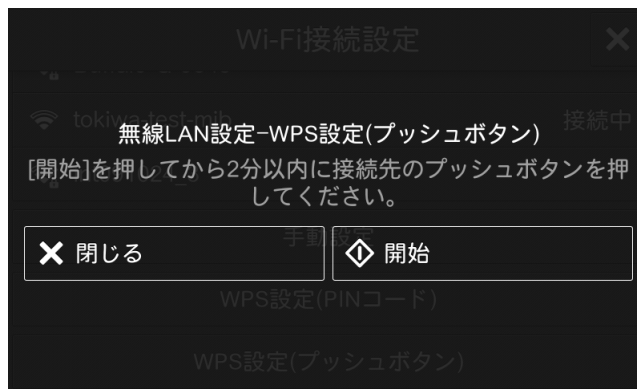
*2 :[通信モード] を [Ad-hoc] に設定した場合は、使用できません。

- 3 設定が更新されたことを確認できたら [確認] をタップします。
本機が再起動し、設定が有効になります。

■ WPS (プッシュボタン) で接続する

- 1 [Wi-Fi 接続設定] 画面で [WPS 設定 (PIN コード)] をタップします。

- 2 [開始]をタップしてから2分以内に、無線 LAN アクセスポイントに付いている WPS ボタンを押します。



- 3 本機の画面で、設定が更新されたことを確認できたら [確認] をタップします。本機が再起動し、設定が有効になります。

■ WPS（PIN コード）で接続する

- 1 [Wi-Fi 接続設定] 画面で [WPS 設定（PIN コード）] をタップします。
- 2 [開始]をタップしてから2分以内に、表示された PIN コードを無線 LAN アクセスポイントに入力します。



- 3 本機の画面で、設定が更新されたことを確認できたら [確認] をタップします。本機が再起動し、設定が有効になります。

CentreWare Internet Services を使って高度なセキュリティ環境に接続する

本機の Wi-Fi 接続では、IEEE802.1X 認証を使用できます。IEEE802.1X 認証方式を使用する場合は、認証局に証明書の発行を依頼し、発行された証明書を CentreWare Internet Services で本機にインポートします。

各 IEEE802.1X 認証方式と必要な証明書は、以下のとおりです。

項目	EAP-TLS	EAP-TTLS	PEAP
CA 証明書	必須	必須	任意*
クライアント証明書	必須	-	-

*: サーバー証明書検証を行う場合に必要です。サーバー証明書検証は CA 証明書が登録されている場合に行われます。

インポートできる証明書の規格は、以下のとおりです。

- X.509 証明書 (DER/PEM) (ルート CA 証明書)
- PKCS#7 (DER) (ルート CA 証明書)
- PKCS#12 (DER) (デバイス証明書 (=クライアント証明書) / ルート CA 証明書)

補足

- CentreWare Internet Services で証明書をインポートするには、HTTP の通信を暗号化する設定がされている必要があります。CentreWare Internet Services の操作、および HTTP 通信を暗号化する方法については、「HTTP の通信を暗号化するための設定」(P.185) を参照してください。
- 証明書の種類については、「暗号化と署名機能の概要」(P.182) を参照してください。

- 1 Web ブラウザーのアドレス入力欄に「https:// (本機の IP アドレス)」を入力して <Enter> キーを押し、CentreWare Internet Services を起動します。
- 2 証明書をインポートします。
 - 1) [ログイン] をクリックします。
 - 2) 表示された画面で機械管理者 ID とパスワードを入力して [OK] をクリックします。
確認画面が表示された場合は、2 回続けて [確認] をクリックします。
 - 3) [システム] > [セキュリティ設定] > [証明書設定] をクリックします。
 - 4) [インポート] をクリックします。
 - 5) [選択] をクリックし、インポートするファイル名を指定します。
 - 6) [パスワード] にインポートする証明書に設定されたパスワードを入力します。
 - 7) [パスワードの再入力] に同じパスワードを入力します。
 - 8) [実行] をクリックします。
 - 9) Web ブラウザーの再読み込みを行います。
- 3 Wi-Fi 接続の設定をします。
 - 1) [ネットワーク] をクリックします。
 - 2) [インターフェイス設定] > [Wi-Fi] をクリックします。
[Wi-Fi] 画面が表示されます。
 - 3) [SSID] に接続先の SSID を入力します。

4) [通信モード] を選択します。

4 セキュリティの設定をします。お使いの環境の認証方式によって、設定方法が異なります。

1) [システム] > [セキュリティー設定] をクリックします。

2) [暗号化設定] で、[WPA2 Enterprise] または [Mixed Mode Enterprise(AES/TKIP)] を選択します。

3) [認証方式] を選択します。

4) [Identity] に EAP-Identity の値を入力します。
認証方式が EAP-TLS の場合は、手順 9) に進みます。

補足

- EAP-Identity については、RADIUS サーバー管理者に確認してください。

5) 認証方式が PEAPv0 MS-CHAPv2、EAP-TTLS/PAP、EAP-TTLS/CHAP、EAP-TTLS/MS-CHAPv2 の場合は、[ユーザー名] および [パスワード] に WPA-Enterprise 認証用のログインユーザー名およびパスワードを設定します。

6) [パスワードの再入力] に同じパスワードを入力します。

7) [ルート証明書] で、インポートした CA 証明書を選択します。

8) 認証方式が EAP-TLS の場合は、[クライアント証明書] で、インポートしたクライアント証明書を選択します。

9) [保存] をクリックします。

10) [再起動] をクリックします。
本機が再起動し、設定した値が反映されます。

Wi-Fi Direct で接続する

本機に Wi-Fi Direct 接続の設定をする

補足

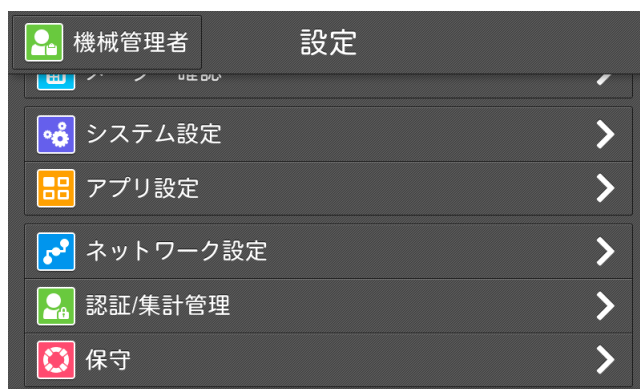
- 設定内容によっては、本機の再起動が必要です。再起動を指示する画面が表示された場合は、再起動してください。
- CentreWare Internet Services を使って設定することもできます。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

1 機械管理者モードにログインし、ホーム画面で [設定] をタップします。

参照

- 詳しくは、「認証モードへのログイン」(P.58) を参照してください。

2 [ネットワーク設定] をタップします。



3 [無線 LAN 設定] をタップします。

補足

- [無線 LAN 設定] が表示されない場合は、本機に正しくキットが取り付けられていません。正しくキットが取り付けられているか確認してください。

参照

- 詳しくは、「無線キットの取り付け・取り外し」(P.259) を参照してください。



4 [基本設定] をタップします。



5 [有効] を選択し、[OK] をタップします。



6 [Wi-Fi Direct 設定] をタップします。



7 [有効] を選択し、[OK] をタップします。



■グループ設定について

[グループ設定] では、次の項目が設定できます。初期設定はグループオーナーです。必要に応じて、変更してください。

設定項目		設定内容
自動		本機をグループオーナーに固定しない場合に選択します。
	デバイス名	Wi-Fi Direct ネットワークで識別する本機の名前を、32 文字以内の英数字で入力します。モバイル機器から接続先を選択するときは、ここで指定した名前が表示されます。
グループオーナー		本機を Wi-Fi ネットワークのグループオーナーに設定します。グループオーナーに設定すると、無線 LAN アクセスポイントと同様に、モバイル機器から本機を検出できるようになります。
	SSID サフィックス	Wi-Fi Direct で識別するネットワークの名前を表示します。「DIRECT-」に続く部分を 23 文字以内の英数字で入力できます。モバイル機器から接続先のネットワークを選択するときは、ここで指定した名前が表示されます。
	パスフレーズ	パスフレーズとして 8 ～ 63 文字の英数字を入力できます。モバイル機器から Wi-Fi Direct ネットワークに接続するときは、ここに表示されるパスフレーズを入力します。

注記

- iOS 端末など、Wi-Fi Direct に対応していない機器を接続する場合は、[グループオーナー] に設定されている必要があります。

8 ホームボタンを押します。

9 [はい（再起動する）] をタップします。 本機が再起動し、設定が更新されます。

補足

- Wi-Fi Direct についての本機の設定値は、機能設定リストをプリントすることで確認できます。

モバイル機器と接続する

モバイル機器から本機に Wi-Fi Direct で接続する方法には、「自動接続」と「手動接続」があり、お使いのモバイル機器によって異なります。

補足

- 操作方法は、モバイル機器によって異なります。詳しくはお使いのモバイル機器の取扱説明書を参照してください。

■自動接続する（Android OS）

- 1 モバイル機器の Wi-Fi 設定画面を開き、Wi-Fi を [ON] にします。
- 2 （メニュー）をタップし、[Wi-Fi Direct] を選択します。
- 3 一覧から接続する本機を選択します。

補足

- 本機に設定されているデバイス名が表示されます。本機のデバイス名は、機能設定リストをプリントすることで確認できます。

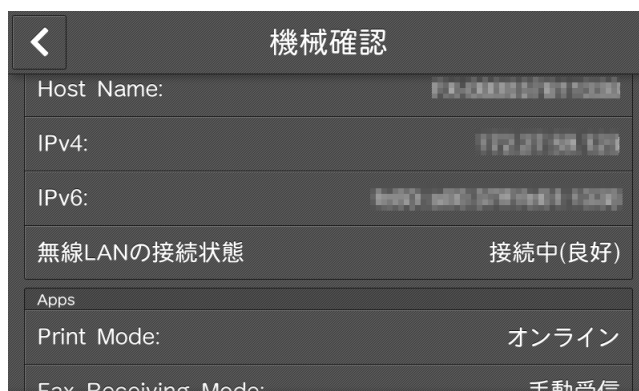
- 4 本機の操作パネルに表示される画面で、接続するモバイル機器名を確認し、[はい（開始する）] をタップします。

■手動接続する（Android OS/iOS）

補足

- 手動接続する場合は、本機で機械管理者モードに入り、[設定] > [ネットワーク設定] > [無線 LAN 設定] > [Wi-Fi Direct 設定] の [グループ設定] が [グループオーナー] に設定されている必要があります。

- 1 ホーム画面で [設定] > [機械確認 / レポート] をタップします。
- 2 [無線 LAN の接続状態] をタップします。



- 3 [Wi-Fi Direct 接続状況] の [SSID] と [パスフレーズ] を確認します。
- 4 モバイル機器の Wi-Fi 設定画面を開き、Wi-Fi を [ON] にします。
- 5 一覧から、手順 3 で確認した本機の SSID を選択します。
- 6 手順 3 で確認した本機のパスフレーズを入力し、接続します。

Wi-Fi Direct の接続を切断する

グループオーナー動作時の Wi-Fi Direct が接続台数の上限（3 台）に達してしまい、ほかの端末が接続できない場合は、次のように接続を切断できます。

本機のメニューからモバイル機器との接続を解除する方法

- 1 [設定] > [ネットワーク設定] > [無線 LAN 設定] の [Wi-Fi Direct 設定] メニューで、[SSID サフィックス] または [パスフレーズ] を変更します。

新しい SSID、パスフレーズで Wi-Fi Direct のグループが再構築されるため、モバイル機器との接続が解除されます。

補足

- 接続解除されたモバイル機器と本機を再接続する場合は、改めてモバイル機器の Wi-Fi 設定画面で新しい SSID の選択とパスフレーズの入力が必要となります。

接続中のモバイル機器の Wi-Fi 設定画面から本機との接続を解除する方法

1 モバイル機器の Wi-Fi 設定画面を開き、Wi-Fi の接続を解除します。

- モバイル機器の自動接続が有効の場合：

Wi-Fi の接続を解除しても、モバイル機器は自動で本機の Wi-Fi Direct と再接続します。そのため、新たなモバイル機器の接続の前に自動接続してしまい、再び接続上限になってしまう可能性があります。その場合は、モバイル機器の自動接続を無効に設定するか、手順 2 の設定削除を実行してください。

- モバイル機器の自動接続が無効の場合：

Wi-Fi 接続を解除すると、モバイル機器の Wi-Fi 設定画面から再接続を実行するまで接続が解除されます。

補足

- モバイル機器によっては、自動接続の切り替えができない場合があります。

2 モバイル機器の Wi-Fi 設定画面を開き、接続中の本機の SSID を選択し、モバイル端末に保存された Wi-Fi 接続設定情報を削除します。

補足

- 接続解除されたモバイル機器と本機を再接続する場合は、改めてモバイル機器の Wi-Fi 設定画面で新しい SSID の選択とパスフレーズの入力が必要となります。

メール機能の設定

利用するには、次の設定が必要です。

- メールポート
- TCP/IP アドレス
- サブネットマスク（必要に応じて設定）
- ゲートウェイアドレス（必要に応じて設定）
- DNS サーバーアドレス（必要に応じて設定）
- 本体メールアドレス
- メール受信プロトコル
- SMTP サーバーアドレス
- SMTP AUTH ログイン名、パスワード（必要に応じて設定）
- POP3 サーバーアドレス（必要に応じて設定）
- POP3 ログイン名、パスワード（必要に応じて設定）

参照

- TCP/IP アドレスの設定については、「[プロトコル設定]」(P.152) を参照してください。

1 機械管理者モードにログインします。

参照

- 詳しくは、「認証モードへのログイン」(P.58) を参照してください。

2 ホーム画面で、[設定] をタップします。

3 メールポートを起動します。

1) [ネットワーク設定] > [ポート設定] > [メール受信] > [メール受信 - ポート] をタップします。

2) [起動] をタップします。

補足

- メール通知、ジョブの終了通知を使用する場合は、同様に [メール通知サービス] の [メール通知サービス - ポート] を [起動] に設定します。

3) [<] をタップして、[ネットワーク設定] 画面まで戻ります。

4 受信プロトコルを設定します。

1) [その他の設定] > [メール受信プロトコル] をタップします。

2) [SMTP] または [POP3] をタップします。

3) [<] をタップして、[ネットワーク設定] 画面まで戻ります。

5 本機のメールアドレスを設定します。

1) [本体メールアドレス / ホスト名] をタップします。

2) メールアドレスやホスト名を設定します。

参照

- 詳しくは、「[本体メールアドレス / ホスト名]」(P.155) を参照してください。

3) [＜] をタップして、[ネットワーク設定] 画面まで戻ります。

6 受信の設定をします。

1) [メール送受信設定] をタップします。

- [メール受信プロトコル] で [SMTP] を選んだ場合
SMTP サーバーの設定をします。

参照

- SMTP サーバーの設定については、「[SMTP サーバー設定]」(P.158) を参照してください。
- SMTP受信をする場合の本体メールアドレスの設定については、「[本体メールアドレス/ホスト名]」(P.155) を参照してください。
- [メール受信プロトコル] で [POP3] を選んだ場合
POP3 サーバーの設定をします。

参照

- POP3 サーバーの設定については、「[POP3 サーバー設定]」(P.158) を参照してください。
- POP3受信をする場合の本体メールアドレスの設定については、「[本体メールアドレス/ホスト名]」(P.155) を参照してください。

補足

- POP3 サーバー設定で POP over SSL を ON にすると、メールの受信が暗号化されます。POP over SSL は CentreWare Internet Services を使用して設定できます。

7 送信の設定をします。

補足

- メール送信には、SMTP サーバーの設定が必要です。[メール受信プロトコル] で [POP3] を選択した場合は、[メール送受信設定] で SMTP サーバーを設定してください。詳しくは、「[SMTP サーバー設定]」(P.158) を参照してください。

8 ホームボタンを押します。

補足

- 設定を有効にするには、再起動が必要です。画面の表示に従って再起動してください。

3

本機の基本操作

節電機能について

節電機能を利用すると、電力消費量を抑えることができます。

節電機能には、低電力モードとスリープモードがあります。本機は一定時間使用しないと低電力モードに入ります。そのあと、設定時間が経過すると、スリープモードに移行します。

補足

- 暖機モード動作中は、スリープモードに移行しません。

参照

- 節電モードに関する設定については、「[節電モードの設定]」(P.128)を参照してください。

節電状態に移行する

次の場合に節電状態になります。節電状態になると操作パネルの電源 / 節電ボタンが点滅します。

- 操作パネルの電源 / 節電ボタンを押して、[節電モードに移行する]をタップする
- 節電状態に移行する時間まで、本機を操作しなかったとき、ジョブが実行されなかったとき、プリントデータを受信しなかったとき

補足

- 用紙詰まりや、消耗品交換などエラー表示中は、節電状態に移行しません。
- 暖機モード動作中は、スリープモードに移行しません。
- タッチパネルディスプレイが消灯してすぐに電源 / 節電ボタンを押した場合や、本機が節電状態に完全に移行していない場合は、節電解除に時間がかかることがあります。本機が節電解除の操作を受け付ける状態になるまで待ってから、再度電源 / 節電ボタンを押してください。

参照

- 節電モードに移行するまでの時間を変更するには、「[節電モード移行時間]」(P.128)を参照してください。

節電状態から復帰する

節電状態からは、次の操作または状況により復帰します。

- 操作パネルの電源 / 節電ボタンを押す
- プリントジョブを受信する
- CentreWare Internet Services の [保存] をクリックする
- 正面カバーを開ける（低電力モード時のみ復帰）

補足

- オプション製品や別売品を操作することで、自動復帰する場合があります。

使用する部分のみ節電を解除する

本機には、節電状態から復帰する場合、使用する機能に必要な電力だけを供給して、消費電力を節約する機能が搭載されています。

参照

- 使用する部分のみ節電を解除するかどうかの設定は、「[節電解除の制御]」(P.129)を参照してください。

電源 / 節電ボタンを押しても、タッチパネルディスプレイは点灯しますが、出力部は節電状態から復帰しません。その後、タッチパネルディスプレイで機能を選択することで、機能の実行に必要な部分に電力を供給します。

注記

- 節電状態での用紙セットや消耗品交換では、本機は用紙や新しい消耗品の情報を取得できません。電源 / 節電ボタンを押し、ホーム画面で【設定】>【用紙トレイ】または【消耗品確認】をタップしてから、用紙のセットや消耗品の交換を行ってください。

補足

- プリントジョブを受信した場合は、タッチパネルディスプレイは点灯せず、出力部のみ節電状態から復帰してプリントを開始します。
- 蓄積プリントジョブ（セキュリティープリント、時刻指定プリント、課金認証プリント、プライベートプリント）を受信した場合は、タッチパネルディスプレイは点灯せず、ストレージのみ節電状態から復帰します。

暖機モードについて

使用環境によっては、スリープモードから復帰するときに、本機内の温度が上昇し、結露が発生する場合があります。暖機モードとは、結露の発生を防止または軽減する機能です。

季節の変わり目などに設定することをお勧めします。

補足

- 暖機モード動作中は、スリープモードに移行しません。
- お使いの環境によっては、消費電力が上がる場合があります。

暖機モード動作を設定する

- 1 機械管理者モードにログインします。

参照

- 詳しくは、「認証モードへのログイン」(P.58)を参照してください。

- 2 [設定] > [システム設定] > [システム時計 / タイマー設定] > [暖機モード動作] をタップします。

- 3 必要に応じて設定します。

参照

- 詳しくは、「[暖機モード動作]」(P.128)を参照してください。

- 4 [OK] をタップします。

タッチパネルディスプレイについて

ホーム画面の説明

ホーム画面に表示されているアプリをタップして、機能を利用できます。

よく利用するアプリだけを表示させたり、配置を変更したりできます。

次のホーム画面は、表示例です。利用状況に応じたホーム画面にカスタマイズしてご利用ください。

参照

- カスタマイズ機能については、「カスタマイズ機能について」(P.59) を参照してください。



■ 認証情報の表示エリア

画面左上の認証情報の表示エリアをタップすると、ユーザー ID の入力画面が表示されます。

認証されると、認証ユーザーが表示されます。

補足

- 認証状態からログアウトするには、認証情報の表示エリアをタップします。

■ [リセット]

操作中のすべてのアプリ設定をリセットします。

■ [カスタマイズ] または [個人用カスタマイズ]

ホーム画面に配置しているアプリの表示 / 非表示を変更したり、表示位置を変更したりします。

参照

- 詳しくは、「カスタマイズ機能について」(P.59) を参照してください。

アプリの説明

ホーム画面に表示されるアプリについて説明します。

■ [設定]

本機の設定を変更したり、状態を確認したりできます。

参照

- 詳しくは、「基本設定」(P.105) および「詳細設定」(P.125) を参照してください。

■ [ジョブ情報]

実行中や実行待ちのジョブや、完了したジョブなどを確認できます。また、プリントを中止したり、プリント待ちや操作待ちのジョブをプリントしたりできます。

参照

- 詳しくは、「ジョブ情報」(P.99) を参照してください。

■ [ヘルプ]

ヘルプを表示します。本機の操作方法を確認できます。

補足

- このボタンを初めて使用するときは、機械管理者モードで利用規約への同意が必要になります。

参照

- ヘルプの操作方法については、「操作パネルでヘルプを使う」(P.317) を参照してください。

■ [文書プリント]

USB メモリーに保存されている文書をプリントします。

参照

- 詳しくは、「文書プリント」(P.93) を参照してください。

■ [外部アクセス]

本機に組み込まれたブラウザーから、ネットワークを介して Web サーバーにアクセスし、データを格納したり表示したりします。

参照

- 詳しくは、「外部アクセス」(P.312) を参照してください。

■ [リモートアシスタンス]

操作方法でお困りのとき、オペレーターと画面を共有しながら、オペレーターの指示で問題を解決できます。

補足

- このボタンを初めて使用するときは、機械管理者モードで利用規約への同意が必要になります。

■ [プライベートプリント]

プライベートプリントに保存された文書をプリントまたは削除します。

参照

- 詳しくは、「プライベートプリント」(P.90) を参照してください。

■ [プライベートプリント (一括出力)]

プライベートプリントに保存された文書を一度にプリントできます。

補足

- 本機能は、サーバーレスオンデマンドプリント（オプション）で保存した文書でも利用できます。操作した複合機にサーバーレスオンデマンドプリントで保存された文書があれば、一括出力します。

参照

- 詳しくは、「プライベートプリント（一括出力）」(P.90) を参照してください。
- サーバーレスオンデマンドプリントについては、弊社の公式サイトを参照してください。

■ [セキュリティプリント]

セキュリティプリントに保存された文書をプリントまたは削除できます。

参照

- 詳しくは、「セキュリティプリント」(P.88) を参照してください。

■ [サンプルプリント]

サンプルプリントに保存された文書をプリントまたは削除します。

参照

- 詳しくは、「サンプルプリント」(P.86) を参照してください。

■ [時刻指定プリント]

時刻指定プリントに保存された文書をプリントまたは削除します。

参照

- 詳しくは、「時刻指定プリント」(P.87) を参照してください。

■ [認証プリント]

認証プリントに保存された文書をプリントまたは削除します。

参照

- 詳しくは、「認証プリント」(P.88) を参照してください。

■ [画面輝度調整]

画面の明るさを調整します。

■ [プリンターモード]

オンライン／オフラインの切り替え、ESC/P などのエミュレーション設定を行います。

本機の設定変更やメンテナンスをするときなど、コンピューターからのプリントデータを受信しない状態にしたい場合に [オフライン] にします。なお、データ受信中に切り替えた場合は、データ受信が中断され、プリントされません。

参照

- エミュレーション設定については、「エミュレーションについて」(P.274) を参照してください。

■ [メーター確認]

メーター確認画面を表示します。

参照

- 詳しくは、「[メーター確認]」(P.117) を参照してください。

■ [レポート / リストの出力]

レポートまたはリストをプリントします。

参照

- 詳しくは、「[レポート / リストの出力]」(P.108) を参照してください。

■ [保守レポートの出力]

保守レポート画面を表示します。機能別のカウンターレポートやユーザー別の集計管理レポートをプリントします。

参照

- 詳しくは、「[保守レポートの出力]」(P.119)を参照してください。

■ カスタムサービス

カスタムサービスがインストールされている場合、各サービスのアイコンを表示されます。

基本の操作方法

■ ドラッグ

タッチパネルディスプレイに軽く触れたままで、目的の位置まで指を移動させます。上下にドラッグすると画面のスクロールができます。

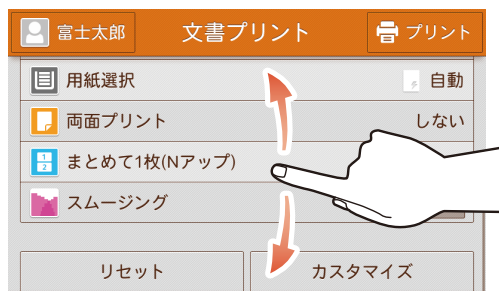


■フリック操作

タッチパネルディスプレイをはらうように指を動かします。
上下にフリック操作すると画面やリストのスクロールができます。

補足

- フリック操作の場合は、指を離れたあとでも少しの間スクロールが継続します。



■タップ / ダブルタップ

タッチパネルディスプレイに軽く触れ、すぐに指を離します。2回連続で同じ位置をタップする操作をダブルタップと呼びます。



■ロングタッチ

タッチパネルディスプレイ上のアプリやアイコンに指を触れたまま長押しすることをロングタッチと呼びます。

アプリや機能リストの配置を変更するときに使用します。



共通の操作ボタンの説明

各機能で表示される共通の操作ボタンについて説明します。

補足

- 機能によっては、操作ボタンの色が異なります。

操作ボタン	説明
	操作中のすべてのアプリの設定値をリセットして、ホーム画面に戻ります。
	ひとつ前の画面に戻ります。
	表示中の画面を閉じます。
	検索します。
	データや項目などを削除します。
	機能を表示します。
	最新の情報に表示を更新します。
	リスト形式で表示します。
	サムネイル形式で表示します。
	プレビューを表示します。
	ファイル、フォルダー、機能の詳細を表示します。
	選択しているすべての項目を解除します。
	すべての項目を選択します。
	登録または更新日時の新しい順で表示します。
	登録または更新日時の古い順で表示します。
	名称の昇順で表示します。
	名称の降順で表示します。

*: ボタン表示については、「[リセットボタンの表示]」(P.131)を参照してください。

文字の入力方法

キーボードを使って文字を入力する

各種設定などで文字を入力するときは、タッチパネルディスプレイに表示されるキーボードを使います。



ボタン	説 明
	入力方法、入力言語を変更できます。
	入力文字に対する予測候補が表示されます。
	入力文字に対する変換候補が表示されます。
	スペースを入力できます。
	アルファベットを入力します。
	アルファベットの大文字小文字を切り替えます。
	数字を入力できます。
	記号を入力できます。
	カタカナを入力できます。
	ひらがなを入力できます。
	カーソルを1文字ずつ移動できます。
	小さいひらがなやカタカナを入力できます。
	1文字ずつ消去できます。
	すべての文字を削除します。
	入力文字を確定します。
	入力文字を確定して、次の入力ボックスにカーソルを移動します。
	全角で入力できます。
	半角で入力できます。
	キーボードを非表示にします。

補足

- 入力画面、入力言語によって、表示されるボタンおよびボタンの色は異なります。
- 入力できる漢字は、JIS の第一水準と第二水準です。

認証モードへのログイン

認証モードにログインすると、認証情報の表示エリアに認証ユーザー名が表示されます。

認証機能を利用していないときは、[一般ユーザー] と表示されます。

機械管理者権限でログインすると [機械管理者] と表示されます。

参照

- 機械管理者のログイン情報については、「[認証・セキュリティ設定]」(P.170) を参照してください。

タッチパネルディスプレイで認証モードにログインする

- 1 認証情報の表示エリアをタップします。
- 2 ユーザー ID を入力して、[OK] をタップします。

補足

- パスワードの入力が必要な場合は、[次へ]をタップしてパスワードを入力し、[OK]をタップします。
- ユーザー ID の指定方法は、[一覧から選択] と [キーボードで入力] があります。[一覧から選択] に設定されている場合は、[アカウント選択] 画面からユーザー ID を指定できます。指定方法の変更については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。
- 認証を解除する場合は、認証情報の表示エリア> [ログアウト] をタップします。

IC カード利用時に認証モードにログインする

- 1 IC カードリーダー（オプション）に IC カードを確実にタッチします。

補足

- 認証を解除する場合の操作は、[非接触型 IC カード設定] に従います。詳しくは、「[非接触型 IC カード設定]」(P.173) を参照してください。

カスタマイズ機能について

ホーム画面のアプリや、各機能の機能リストの項目の表示 / 非表示を切り替えたり、並び順を変更したりしてカスタマイズできます。認証機能を使用している場合は、それぞれのユーザーごとにカスタマイズできます。

カスタマイズ機能を利用できる画面には、画面下部に「カスタマイズ」または「個人用カスタマイズ」が表示されます。

補足

- ・ 認証機能を利用していない場合は「カスタマイズ」、認証機能を利用している場合は「個人用カスタマイズ」が表示されます。
- ・ 機械管理者モードにログインした場合は、認証機能の利用の有無に関わらず、「カスタマイズ」または「個人用カスタマイズ」が表示されます。

「個人用カスタマイズ」 > 「ホームの編集」では、機械管理者モードにログインしたときに表示されるホーム画面をカスタマイズできます。「カスタマイズ」 > 「ホームの編集」では、カスタマイズしていないすべてのユーザーのホーム画面に反映されます。

ホーム画面の目的に応じて、個人モードまたは共用モードに切り替えてください。

ホーム画面のカスタマイズ

ホーム画面に表示するアプリを変更します。

- 1 ホーム画面の下部にある「カスタマイズ」または「個人用カスタマイズ」をタップします。



- 2 次の操作をします。

■アプリを非表示にする場合

- 1) 非表示にするアプリの  をタップします。



■アプリを表示させる場合

- 1) [追加] をタップします。
- 2) 追加するアプリをタップします。

補足

- 複数のアプリを表示させる場合は、手順 1)、2) を繰り返します。

■アプリの位置を変更する場合

- 1) アプリをロングタッチしたまま移動させます。



- 3 [完了] をタップします。

機能リストのカスタマイズ

機能リストとは、文書プリントなどの操作画面で設定できる機能のことです。利用できるカスタマイズ機能は次のとおりです。

補足

- 機械管理者モードにログインした場合は、認証機能の利用の有無に関わらず、[カスタマイズ] または [個人用カスタマイズ] が表示されます。

[個人用カスタマイズ] では、機械管理者モードにログインしたときに表示される機能リストのカスタマイズができます。[カスタマイズ] では、カスタマイズしていないすべてのユーザーの機能リストに反映されます。

機能リストの利用目的に応じて、個人モードまたは共用モードに切り替えてください。

カスタマイズ機能	説 明
[プリセットとして保存]	現在の設定をプリセットとして保存します。頻繁に使用する設定を保存しておくで、必要に応じて設定を呼び出すことができます。
[プリセットを上書き保存]	プリセットを選んでから設定を変更したときに、プリセットを上書き保存します。
[機能リスト編集]	機能リストの表示 / 非表示を設定します。表示順も変更できます。
[プリセット削除]	プリセットとして保存した設定を削除します。
[すべてのカスタマイズをクリア]	すべてのカスタマイズの設定を削除します。

補足

- 機能画面によって、利用できるカスタマイズ機能は異なります。

プリセットとして保存する

- 1 機能リストを設定します。
 - 2 画面下部の「カスタマイズ」または「個人用カスタマイズ」をタップします。
 - 3 「プリセットとして保存」をタップします。
 - 4 プリセット名を入力します。
 - 5 「次へ」をタップします。
 - 6 表示アイコンをタップします。
 - 7 「確定」をタップします。
- 機能リストの先頭に「プリセット」とプリセット名が表示されます。

保存したプリセットを上書きする

- 1 「プリセット」をタップして、変更するプリセットを呼び出します。
- 2 機能リストで設定を変更します。
- 3 画面下部の「カスタマイズ」または「個人用カスタマイズ」をタップします。
- 4 「プリセットを上書き保存：XXX」をタップします。(XXX は、プリセット名)

機能リストを編集する

- 1 画面下部の「カスタマイズ」または「個人用カスタマイズ」をタップします。
- 2 「機能リスト編集」をタップします。

■表示 / 非表示を設定する

- 1) 機能リスト編集画面でまたはをタップします。

補足

- 表示されている機能は、非表示の機能はのアイコンが表示されます。

■表示位置を変更する

1) 移動したい機能をロングタッチして、希望の位置まで移動します。



3 [確定] をタップします。

保存したプリセットを削除する

- 1 画面下部の [カスタマイズ] または [個人用カスタマイズ] をタップします。
- 2 [プリセット削除] をタップします。
- 3 削除するプリセットの  をタップします。
- 4 [はい (削除する)] をタップします。
- 5 [完了] をタップします。

カスタマイズで保存 / 編集した設定を削除する

- 1 画面下部の [カスタマイズ] または [個人用カスタマイズ] をタップします。
- 2 [すべてのカスタマイズをクリア] をタップします。
- 3 [はい (削除する)] をタップします。

CentreWare Internet Services を使う

CentreWare Internet Services は、Web ブラウザーを使用して、本機の状態やジョブの履歴を表示したり、本機の設定を変更したりするためのサービスです。

TCP/IP 環境で、本機とネットワーク接続されたコンピュータで使用できます。

メニュー名	主な機能
[ホーム]	用紙トレイ、排出トレイ、および消耗品の状態、サポート情報、通知などを確認できます。
[アプリ]	アプリの設定ができます。
[ジョブ]	ジョブ一覧やジョブ履歴を確認できます。
[ネットワーク] *	ネットワーク通信に必要な設定ができます。
[認証/集計/権限]*	ユーザーごとに認証、集計管理、権限の設定ができます。
[システム] *	セキュリティと機械管理者の設定ができます。

*:CentreWare Internet Services の管理者モードが有効の場合は機械管理者としてログインすると、メニューが表示されます。

補足

- 項目によっては、再起動後に有効になるものがあります。
- 操作パネルの操作中は、CentreWare Internet Services で設定を変更できません。

参照

- CentreWare Internet Services から設定できる項目については、CentreWare Internet Services ヘルプを参照してください。

Web ブラウザーの設定

ここでは、Internet Explorer 11 を例に説明します。

インターネット一時ファイルの設定をする

- 1 [ツール] > [インターネット オプション] をクリックします。
- 2 [全般] タブで、[閲覧の履歴] の [設定] をクリックします。
- 3 [インターネット一時ファイル] タブで、[保存しているページの新しいバージョンがあるかどうかの確認] から、[Web サイトを表示するたびに確認する] または [Internet Explorer を開始するたびに確認する] を選びます。
- 4 [OK] をクリックします。
- 5 [インターネット オプション] 画面で [OK] をクリックします。

本機の IP アドレスについて、プロキシサーバーを使用しないように設定する

- 1 [ツール] > [インターネット オプション] をクリックします。
- 2 [接続] タブで、[ローカル エリア ネットワーク (LAN) の設定] の [LAN の設定] をクリックします。

- 3 [プロキシサーバー] を、次のどちらかに設定します。
 - [LAN にプロキシサーバーを使用する] のチェックマークを外す。
 - [詳細設定] をクリックし、[例外] に本機の IP アドレスを入力して [OK] をクリックする。
- 4 [OK] をクリックします。
- 5 [インターネット オプション] 画面で [OK] をクリックします。

JavaScript を有効にする

- 1 [ツール] > [インターネット オプション] をクリックします。
- 2 [セキュリティ] タブで、[ローカル イン트라ネット] をクリックして、[レベルのカスタマイズ] をクリックします。
- 3 [スクリプト] までスクロールし、[アクティブ スクリプト] が有効化されていることを確認します。
- 4 [OK] をクリックします。
- 5 [インターネット オプション] 画面で [OK] をクリックします。

CentreWare Internet Services を起動する

- 1 Web ブラウザーを起動します。
- 2 Web ブラウザーのアドレス入力欄に、本機の IP アドレス、またはインターネットアドレスを入力し、〈Enter〉キーを押します。
 - IP アドレスの入力例
https://192.0.2.1/ (IPv4 の場合)
https:// [2001:DB8::1234] (IPv6 の場合)
 - インターネットアドレスの入力例 (本機のインターネットアドレスが、myhost.example.com の場合)
https://myhost.example.com/

補足

- お使いのネットワークが DNS (Domain Name System) を使用していて、DNS のネームサーバーに本機のホスト名が登録されている場合は、ホスト名とドメイン名を組み合わせたインターネットアドレスを使って本機にアクセスできます。ホスト名が「myhost」、ドメイン名が「example.com」の場合、インターネットアドレスは「myhost.example.com」となります。
- ポート番号を指定する場合は、IP アドレスまたはインターネットアドレスのあとに「:」を付けて、続けてポート番号を入力してください。
- 本機で認証機能を使用している場合は、[ユーザー名] と [パスワード] にユーザー ID とパスワードを入力してください。ユーザー ID とパスワードについては、機械管理者にお問い合わせください。ユーザーに与えられている機械管理の権限によって、操作できる機能が異なります。

参照

- CentreWare Internet Services が表示されない場合は、「CentreWare Internet Services を使用したときのトラブル」(P.240) を参照してください。

認証モードへのログイン

認証機能を利用している場合は、次の操作で認証モードにログインしてください。

- 1 CentreWare Internet Services を起動します。
- 2 画面右上の [ログイン] をクリックします。
- 3 [ユーザー ID] を入力して、[ログイン] をクリックします。

補足

- パスワードの入力が必要な場合は、パスワードを入力して、[ログイン] をクリックします。
- 認証を解除する場合は、画面右上の認証ユーザー名 > [ログアウト] をクリックします。

用紙をセットする

弊社が推奨する用紙

⚠ 警告

電気を通しやすい紙(折り紙 / カーボン紙 / 導電性コーティングを施された紙など)を使用しないでください。ショートして火災の原因となるおそれがあります。

用紙名	用紙トレイに設定する用紙種類	用紙種類別画質処理	用紙質量 (g/m ²)
P	普通紙	普通紙 (A)	64
C ²	普通紙	普通紙 (A)	70

その他の用紙については、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

補足

- 用紙を用紙トレイにセットするときには、セットした用紙に合わせて、用紙種類を設定してください。詳しくは、「用紙の設定を変更する」(P.80)を参照してください。
- 用紙の種類ごとに画質処理を設定すると、用紙に合った画質でプリントできます。詳しくは、「[用紙種類別画質処理]」(P.112)を参照してください。

再生紙の利用について

本機で利用できる再生紙は次のとおりです。

用紙名	用紙トレイに設定する用紙種類	用紙種類別画質処理	用紙質量 (g/m ²)	古紙パルプ配合率
C ^{2r}	再生紙	再生紙 (A)	70	70%
G70	再生紙	再生紙 (A)	67	70%
FR	再生紙	再生紙 (A)	64	50%

使用できる用紙

質量と枚数

用紙トレイ	対応用紙質量 (g/m ²)	セット可能枚数
用紙トレイ 1、2～4 (オプション)	60～220 g/m ²	550 枚
用紙トレイ 5 (手差しトレイ)	60～220 g/m ²	150 枚

用紙種類

用紙種類	用紙質量 (g/m ²)	用紙トレイ 1	用紙トレイ 2～4 (オプション)	用紙トレイ 5 (手差し)	自動両面
上質紙	60-105	○	○	○	○
再生紙	60-105	○	○	○	○
ユーザー定義用紙 1	60-105	○	○	○	○
ユーザー定義用紙 2	60-105	○	○	○	○
ユーザー定義用紙 3	60-105	○	○	○	○
ユーザー定義用紙 4	60-105	○	○	○	○
ユーザー定義用紙 5	60-105	○	○	○	○
穴あき紙	60-105	○	○	○	○
厚紙 1	106-176	○	○	○	○
厚紙 1 (うら面)	106-176	○	○	○	○
厚紙 2	177-220	○	○	○	×
厚紙 2 (うら面)	177-220	○	○	○	×
封筒	—	○	×	○	×
はがき	190	○	×	○	×
はがき (うら面)	190	○	×	○	×
ラベル紙	—	○	○	○	×

補足

- 自動両面機能は質量が 60 ～ 176 g/m² の用紙で使用できます。

用紙サイズ

- 定型サイズ (プリンタードライバーの項目で設定できるサイズ)

用紙サイズ	幅 × 長さ (mm)	向き	用紙トレイ 1	用紙トレイ 2～4 (オプション)	用紙トレイ 5 (手差し)	自動両面
A5	148×210	たて	○	○	○	○
A5	210×148	よこ	× ^{*1、*2}	×	○	×
A4	210×297	たて	○	○	○	○
B5 (JIS)	182×257	たて	○	○	○	○
5.5×8.5"	139.7×215.9	たて	×	×	○	○
7.25×10.5"	184.2×266.7	たて	○	○	○	○
8.5×11" (レター)	215.9×279.4	たて	○	○	○	○
8.5×13"	215.9×330.2	たて	○	○	○	○
8.5×14" (リーガル)	215.9×355.6	たて	○	○	○	○
郵便はがき	100×148	たて	× ^{*1、*2}	×	○	×

用紙サイズ	幅 × 長さ (mm)	向き	用紙トレイ 1	用紙トレイ 2 ~ 4 (オプション)	用紙トレイ 5 (手差し)	自動両面
往復はがき	148×200	たて	× ^{*2}	×	○	×
封筒長形 3 号	120×235	たて	× ^{*2}	×	○	×
封筒長形 4 号	90×205	たて	× ^{*2}	×	○	×
封筒角形 6 号	162×229	たて	× ^{*2}	×	○	×
封筒洋長形 3 号	120×235	たて	× ^{*2}	×	○	×
封筒洋形 2 号	114×162	たて	×	×	○	×
封筒洋形 3 号	98×148	たて	×	×	○	×
封筒洋形 4 号	105×235	たて	× ^{*2}	×	○	×
封筒 #10	104.8×241.3	たて	× ^{*2}	×	○	×
封筒モナーク	98.4×190.5	たて	× ^{*2}	×	○	×
封筒 DL	110×220	たて	× ^{*2}	×	○	×
封筒 ISO-C5	162×229	たて	× ^{*2}	×	○	×

*1 :小サイズ対応用紙ガイド (オプション) を使用するとセットできます。

*2 :用紙トレイ 1 にセットする場合は、プリンタードライバーでユーザー定義用紙を選択して、サイズを指定してください。

• ユーザー定義サイズ

用紙トレイ 5 (手差し)	よこ : 76.2 ~ 215.9 mm たて : 127.0 ~ 355.6 mm
用紙トレイ 1	よこ : 76.2 ~ 215.9 mm たて : 148.0 ~ 355.6 mm 補足 • たてが 190.5 mm 未満の用紙をセットする場合は、小サイズ対応用紙ガイド (オプション) が必要です。
用紙トレイ 2 ~ 4 (オプション)	よこ : 76.2 ~ 215.9 mm たて : 190.5 ~ 355.6 mm

自動両面機能は次の用紙サイズと用紙質量のときに利用できます。

- よこ : 139.7 ~ 215.9 mm
- たて : 203.2 ~ 355.6 mm
- 用紙質量 : 60 ~ 176 g/m²

補足

- このほかに「かんばん用紙」も使用できます。「かんばん用紙」については、「かんばん用紙をセットする」(P.76) を参照してください。

使用できない用紙

故障の原因となるので、次の用紙は使用しないでください。

- 折り目やしわが入った用紙
- 湿気を含んだ用紙、湿気で波打った用紙

- カールした用紙
- 使用後（一部のラベルを剥がした後）のラベル紙
- 本機以外のプリンターやコピー機で一度プリントした用紙
- OHP フィルム
- バックライトフィルム（電飾フィルム）
- 水転写紙
- インクジェット用紙
- 布地転写用紙
- ベタ塗りの裏紙
- ノーカーボン紙
- 横目用紙のような、コシの弱い用紙
- 凹凸処理を施した紙（エンボス紙）
- ミシン目のある用紙

そのほかにも、使用できない用紙があります。詳しくは弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

用紙の保管と取り扱い

用紙の保管

- 用紙はキャビネットの中や、湿気が少ない場所に保管してください。用紙が湿気を含むと、用紙づまりや画質不良の原因になります。
- 開封後、用紙の残りは包装紙に包んで保管してください。
- 用紙は、折れや曲がりを防ぐために、立てかけずに水平に保管してください。
- 直射日光を避けて保管してください。

用紙の取り扱い

- 用紙の束は、きちんとそろえてからセットしてください。
- サイズの異なる用紙を重ねてセットしないでください。
- 波をうったような用紙や、カールした用紙は、使用しないでください。

用紙トレイにセットする用紙の種類について

用紙トレイ 1 ～ 4 にセットした用紙のサイズと向きは、本機が自動的に検知しますが、用紙の種類は設定が必要です。通常、各トレイは、普通紙が設定されています。ほかの種類の用紙をセットする場合は、設定を変更してください。また、用紙に名前を付けて、ユーザー定義用紙として設定することもできます。ユーザー定義用紙は 5 種類まで設定できます。

注記

- 1 つのトレイに異なるサイズの用紙を重ねてセットしないでください。

補足

- 用紙トレイ 5（手差し）は、用紙のサイズや向きを検知できません。

参照

- 用紙種類の設定については、「用紙の設定を変更する」(P.80) を参照してください。
- 対応する用紙サイズについては、「[サイズ検知切り替え]」(P.137) を参照してください。

用紙補給について

プリント中に用紙がなくなると、操作パネルのディスプレイにメッセージが表示されます。メッセージに従って、用紙を補給してください。用紙を補給するとプリントが再開されます。

注記

- 紙づまりや用紙セットの間違いをしないために、用紙トレイに残っている用紙の上に用紙を補給しないでください。

補足

- 紙づまりを起こしたり、複数枚が同時に送られたりすることがあるので、用紙トレイにセットする前に、用紙をよくさばいてください。

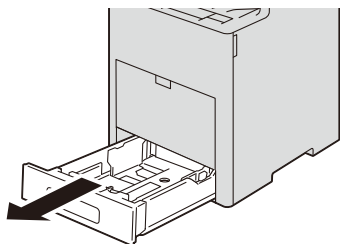
用紙トレイ 1 ～ 4 に用紙をセットする

用紙トレイ 1 ～ 4 に用紙をセットする手順について説明します。

補足

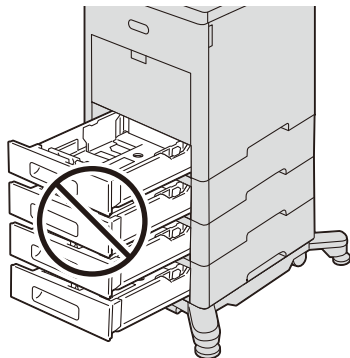
- 用紙トレイの長さを、A4、A5、B5、8.5×11" (レター)、8.5×14" (リーガル)、7.25×10.5" の範囲で調整できます。リーガルサイズの長さをお使いの場合、用紙トレイがプリンターの正面からはみ出します。
- 用紙トレイ 1 には、たてのサイズが 148.0～190.5 mm 未満の用紙もセットできます。セットする場合は、小サイズ対応用紙ガイド (オプション) が必要です。小サイズ対応用紙ガイド (オプション) の装着方法については、「小サイズ対応用紙ガイド (オプション) を装着する」(P.79) を参照してください。

- 1 用紙トレイが止まるまで引き出し、用紙トレイの手前を少し持ち上げます。用紙トレイを本体から取り外します。

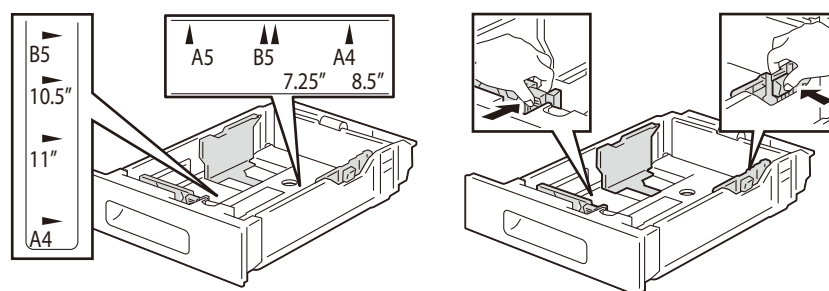


注記

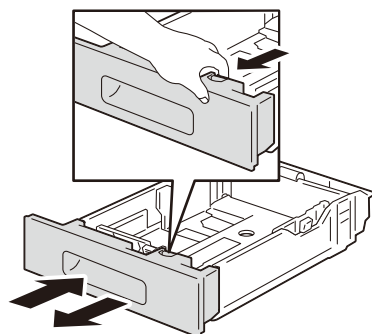
- 複数の用紙トレイを同時に引き出すと、機械全体が傾き、転倒などによりケガの原因となるおそれがあります。



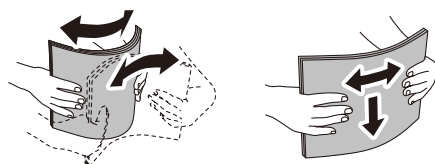
2 用紙ガイドレバーを用紙サイズに合った位置まで移動します。



リーガルサイズ用の紙をセットする場合は、トレイ前面のレバーをつまんで手前に引きます。



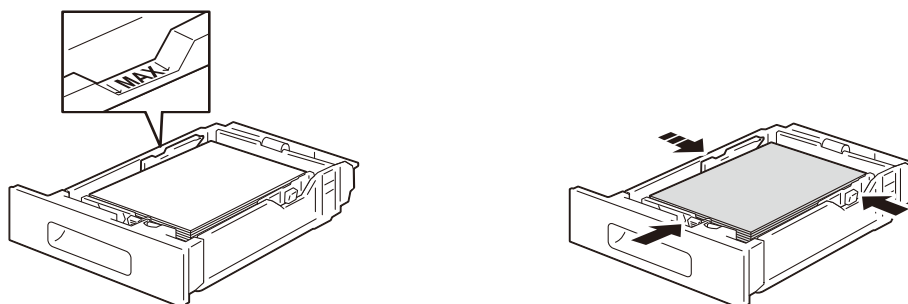
3 セットする前に、用紙をよくさばきます。平らな面で用紙の四辺を整えます。



4 プリントする面を上にして、用紙トレイに用紙をセットします。

補足

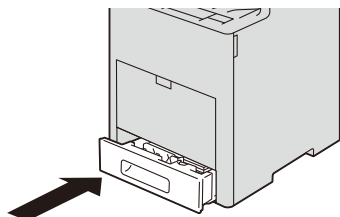
- 用紙上限線を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。



5 用紙トレイを本機に差し込み、奥に突き当たるまでゆっくりと挿入します。

補足

- リーガルサイズ用の紙をセットするためにトレイ前面を引き出している場合は、トレイが突き出た状態になります。



手差しトレイに用紙をセットする

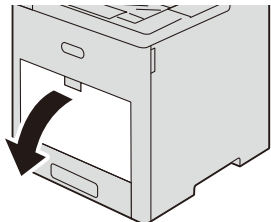
注記

- 手差しトレイからプリントをしているときに、手差しトレイに用紙を追加したり、用紙を取り除いたりしないでください。紙詰まりの原因となります。
- 手差しトレイの上に物を置かないでください。
- 手差しトレイに強い力をかけたり、下に押ししたりしないでください。

補足

- 用紙が詰まる場合は、用紙を1枚ずつセットしてください。

1 手差しトレイを開きます。

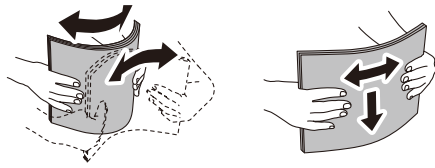


補足

- 必要に応じて、延長トレイを引き出します。延長トレイを引き出すときは、ゆっくりと引き出してください。



- 2 セットする前に、用紙をよくさばきます。平らな面で用紙の四辺を整えます。



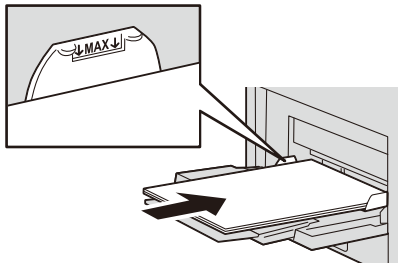
補足

- 使用するまで用紙を開封しないでください。

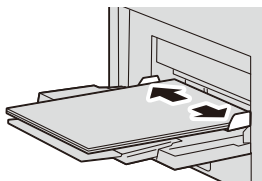
- 3 プリントする面を上にして、用紙をそろえた状態で先端が軽く突き当たるまで差し込みます。

補足

- 用紙上限線を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。



- 4 用紙ガイドレバーをセットした用紙のサイズに合わせます。



はがき、往復はがきをセットする

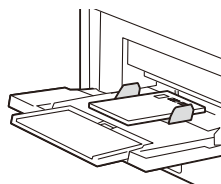
はがき、往復はがきは、手差しトレイとトレイ 1 にセットできます。

注記

- はがきや往復はがきの種類によっては、用紙送りローラーに汚れが付着し、紙詰まりを起こしたり斜めに印字されたりする場合があります。この場合は、用紙送りローラーを清掃してください。
- はがきは、幅が同一のものをセットしてください。幅が不揃いのはがきが混在すると、斜めに印字されることがあります。
- 折り目が大きい往復はがきの場合は、斜めに印字されることがあります。

はがきをセットする

手差しトレイにセットする場合は、はがきをよくさばいてから、プリントする面を上にして、はがきの上辺が先に本機に入るようにセットします。



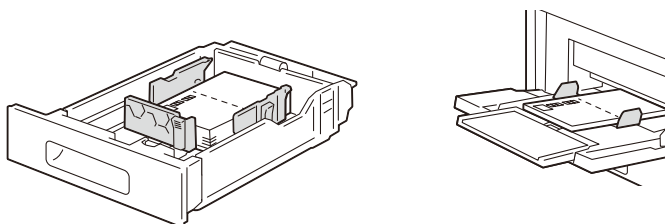
トレイ 1 にセットする場合は、小サイズ対応用紙ガイド（オプション）を装着し、はがきをセットします。プリントするときは、プリンタードライバーでユーザー定義用紙を選択し、サイズを指定します。

参照

- 小サイズ対応用紙ガイド（オプション）の装着については、「小サイズ対応用紙ガイド（オプション）を装着する」(P.79) を参照してください。

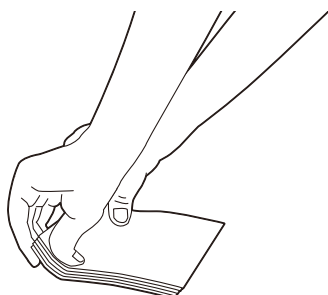
往復はがきをセットする

往復はがきをよくさばいてから、プリントする面を上にして、往復はがきの右辺が先に本機に入るようにセットします。



両面にプリントするときには

はがきや往復はがきの両面にプリントするときは、片面にプリントしたあと、はがきや往復はがきの端にできた反りを平らにならしてからうら面をセットします。反りを直さずにセットすると、はがきや往復はがきが正しく給紙されない場合があります。



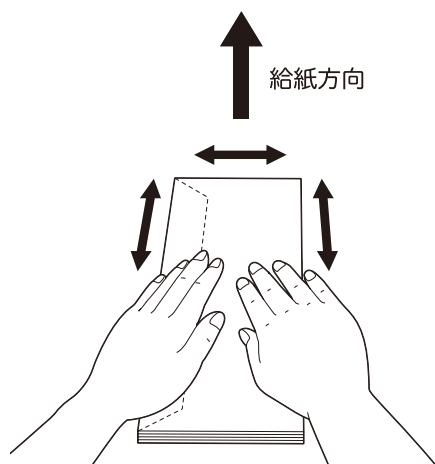
封筒をセットする

封筒は、手差しトレイとトレイ 1 にセットできます。

補足

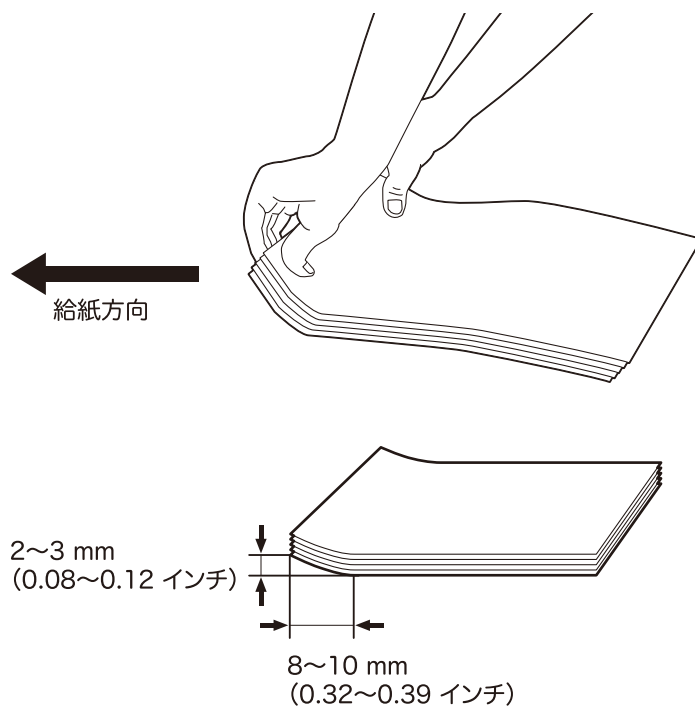
- トレイ 1 にセットする場合は、プリンタードライバーでユーザー定義用紙を選択し、サイズを指定してください。
- 開封したての新しい封筒を使用してください。

封筒をパッケージから取り出してすぐにセットしない場合は、封筒が反って（カールして）しまう可能性があります。紙詰まりを防止するため、セットするときには、次のように封筒全体をしっかり押さえて平らにしてください。



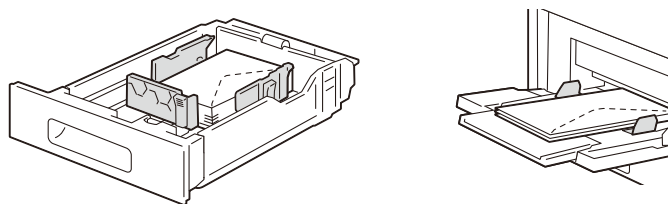
補足

- 異なるサイズの封筒を同時にセットしないでください。
- トレイに設定できる封筒の高さ（枚数）は、次のとおりです。
 - トレイ 1：約 45 mm 以下、かつ 50 枚以下
 - 手差しトレイ：約 16.5 mm 以下（10 枚程度）
- 封筒が正しく給紙されない場合は、封筒の端を図のようにカールさせてください。カール幅は 2～3 mm（0.08～0.12 インチ）をおすすめします。カールさせる領域は、封筒の先端から 8～10 mm（0.32～0.39 インチ）です。カールをつけすぎたり、しわをつけたりしないようにしてください。



洋封筒

プリントする面を上にして封筒のフラップを閉じます。フラップを、給紙方向に向かって右側にセットします。



和封筒

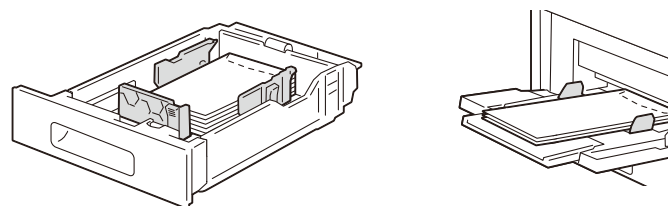
プリントする面を上にして封筒をセットします。フラップにのりが付いているか付いていないかで、セット方法が異なります。

補足

- プリントするときに、プリンタードライバーの【用紙設定ガイド】で封筒の向きと印字方向を設定できます。詳しくは、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- 角形6号の封筒を使用する場合、続けてプリントすると排出トレイから封筒が押し出されることがあります。排出トレイからプリント済みの封筒を取り出してから、次のプリントを実行してください。

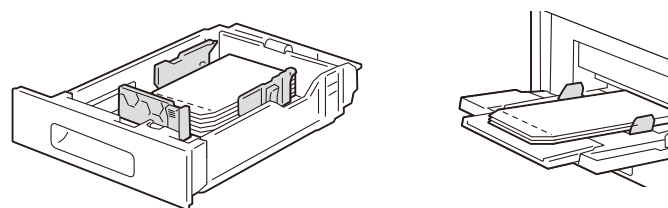
• のりが付いている場合

フラップを閉じて、フラップがある側を給紙方向に向けてセットします。



• のりが付いていない場合

フラップを開いた状態で、封筒の底辺（フラップがない側）を給紙方向に向けてセットします。



かんばん用紙をセットする

かんばん用紙とは、次の用紙を指します。

名称	幅 × 長さ (mm)	向き	用紙トレイ 1	用紙トレイ 2～4 (オプション)	用紙トレイ 5 (手差し)	自動両面
かんばん	85×200	たて	○	○	○	×
かんばん L	95×200	たて	○	○	○	×
かんばん X	100×210	たて	○	○	○	×

名称	幅 × 長さ (mm)	向き	用紙トレイ 1	用紙トレイ 2～4 (オプション)	用紙トレイ 5 (手差し)	自動両面
現品票	85×276	たて	○	○	○	×
現品票 L	105×276	たて	○	○	○	×
納品書 D	105×148	たて	×	×	○	×
納品書 H	85×170	たて	×	×	○	×

*:小サイズ対応用紙ガイド (オプション) を使用するとセットできます。

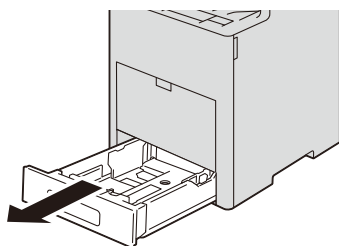
プリンタードライバーが ART EX の場合は、用紙を名称で選択できます。ほかのプリンタードライバーを使用する場合は、ユーザー定義用紙を選択しサイズを指定します。

かんばん用紙をトレイ 1 ～ 4 にセットする方法は、次のとおりです。

参照

- 手差しトレイにセットする場合は、「手差しトレイに用紙をセットする」(P.72) を参照してください。

- 1 用紙トレイが止まるまで引き出し、手前を少し持ち上げて本体から取り外します。



- 2 納品書 D、または納品書 H をセットする場合は、小サイズ対応用紙ガイド (オプション) を装着します。

補足

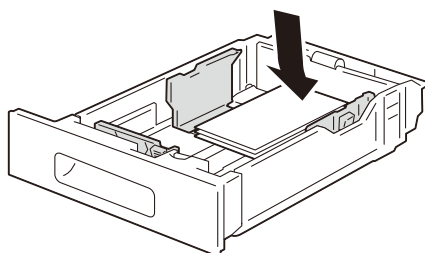
- 納品書 D および納品書 H は、トレイ 2 ～ 4 にはセットできません。

参照

- 「小サイズ対応用紙ガイド (オプション) を装着する」(P.79)

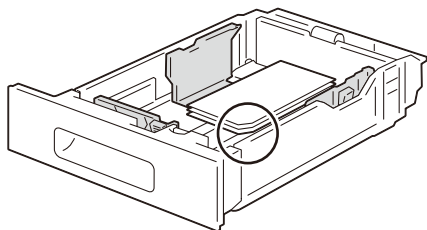
- 3 セットする用紙のうち10枚程度を、プリントする面を上にして用紙トレイにセットします。

一边をトレイの奥側に合わせて、トレイの中央に位置するように置いてください。

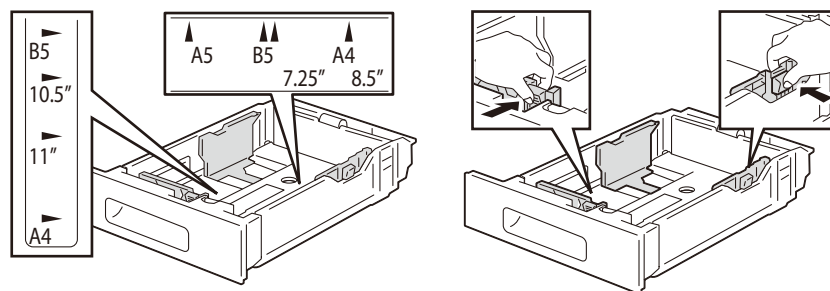


補足

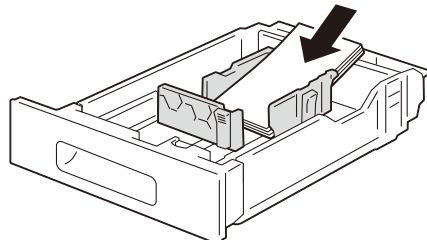
- 片側に切り込みがある用紙の場合、切り込みがある側がトレイの手前になるようにセットしてください。



- 4** 用紙ガイドレバーを用紙サイズに合った位置まで移動します。



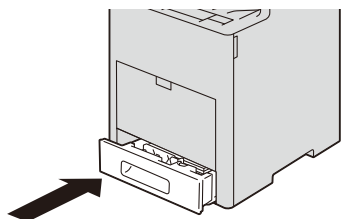
- 5** 用紙ガイドが用紙に合っている状態で、トレイの奥側から同じサイズの用紙を数回に分けてセットします。



補足

- 用紙上限線を超える量の用紙をセットしないでください。紙詰まりや故障の原因になります。

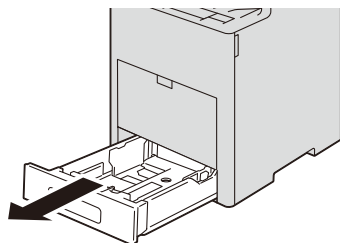
- 6** 用紙トレイを本機に差し込み、奥に突き当たるまでゆっくりと挿入します。



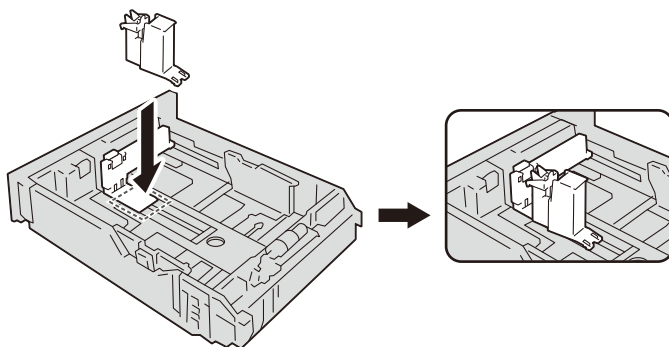
小サイズ対応用紙ガイド（オプション）を装着する

たてのサイズが 148.0 ～ 190.5 mm の用紙を用紙トレイ 1 にセットするときは、小サイズ対応用紙ガイド（オプション）を使用します。

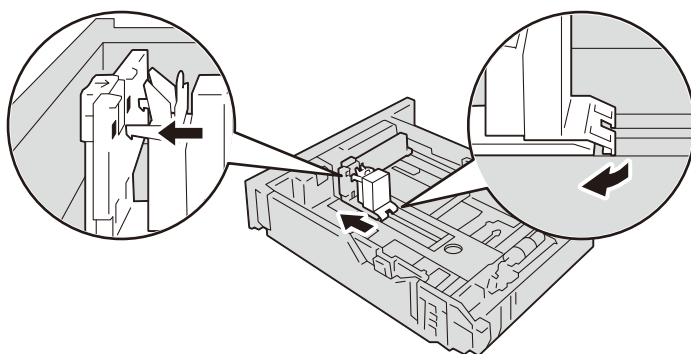
- 1 用紙トレイが止まるまで引き出し、手前を少し持ち上げて本体から取り外します。



- 2 トレイの用紙ガイドの上に、小サイズ対応用紙ガイド（オプション）を置きます。



- 3 小サイズ対応用紙ガイド（オプション）をスライドさせて、下側のツメを用紙ガイドの端に、上側のツメを上部の穴にはめ込みます。
上側のツメが、「カチッ」と音がするまではめ込んでください。



- 4 用紙トレイを本機に差し込み、奥に突き当たるまでゆっくりと挿入します。

用紙の設定を変更する

用紙トレイの用紙を変更したら、セットした用紙の種類、用紙の色などを設定してください。また、非定形サイズ of 用紙をセットした場合は、用紙サイズも設定してください。

補足

- [自動トレイ切り替え]、[トレイの優先順位]、および [定形サイズボタン設定] は、機械管理者モードで設定できます。

参照

- [共通設定] については、「[共通設定]」(P.112) を参照してください。

1 ホーム画面で、[設定] > [用紙トレイ] をタップします。

2 用紙設定を変更するトレイをタップします。

3 用紙サイズをタップします。

補足

- 非定形サイズの用紙をセットした場合は、[サイズ入力] をタップして、用紙サイズを設定します。
- [自動サイズ検知] を設定すると、用紙を自動的に認識します。

4 用紙の種類を変更する場合は、用紙の種類をタップして設定します。

5 用紙の色を変更する場合は、用紙の色をタップして設定します。

6 選択しているトレイの用紙がなくなったときに、自動的にトレイを切り替える場合は、[自動トレイ切り替え] をタップしてチェックマークを付けます。

7 自動トレイ選択時に同様の用紙設定で複数のトレイがセットされている場合、[トレイの優先順位] で優先順位を設定します。

8 トレイ 5 (手差し) の場合は、[定形サイズボタン設定] が表示されます。用紙サイズを変更する場合に、頻繁に使用する用紙を上位に設定しておくと、より使いやすくなります。

9 [OK] をタップします。

4

プリント

機能の紹介

プリント機能の概要について説明します。

本機では、次のようなプリント機能を利用できます。

■ コンピューターからの指示でプリント

- プリンタードライバーを使ってプリント
- メールに添付した文書をプリント（メール受信プリント）
- CentreWare Internet Services を使ってプリント

■ 本機に蓄積したデータのプリント

- サンプルプリント
- 時刻指定プリント
- セキュリティープリント
- 認証プリント
- プライベートプリント

■ USB メモリーに保存されたデータのプリント

- 文書プリント

■ その他のプリントサービス

- モバイル機器からのプリント
- AirPrint
- Mopria[®]
- BMLinkS

最新ソフトウェアの入手方法について

プリンタードライバー、ユーティリティなどの、最新版のソフトウェアは、弊社公式サイトから入手できます。なお、通信費用はお客様の負担になりますので、ご了承ください。

次の URL にアクセスして、ダウンロードしてください。

<https://www.fujixerox.co.jp/download/>

コンピューターからの指示でプリント

プリンタードライバーを使ってプリント

参照

- プリンタードライバーの機能については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

プリントする

ここでは代表的なプリント手順を説明します。

補足

- プリンタードライバー画面の【用紙設定ガイド】をクリックすると、ナビゲーション画面が表示され、印刷する用紙に応じて必要な項目を設定できます。

- 1 プリントするファイルを開きます。
- 2 【ファイル】メニューから、【印刷】を選択します。
- 3 本機を選び、必要に応じて設定を変更し、【OK】をクリックします。
- 4 【印刷】をクリックします。

プリントを中止する

実行中のプリントジョブを中止する方法を説明します。

- 1 ホーム画面で、【ジョブ情報】をタップします。
- 2 中止するプリントジョブをタップします。
- 3 【ストップ】をタップします。
- 4 【中止】をタップします。

メールに添付した文書をプリント（メール受信プリント）

コンピューターや携帯電話などから文書を添付したメールを本機に送信したり、転送したりできます。受信したメールは、本機の設定に応じて自動的にプリントされます。

補足

- 本機が認証モードに設定されている場合は、自動的にプリントされません。
- 本機能を利用するには、メールアドレスの登録およびメール機能の設定が必要です。

コンピューターからメールを送信する

1 お使いのメールソフトで本文を作成し、添付文書がある場合は添付します。

補足

- メール本文には、テキスト形式および HTML 形式を使用できます。HTML 形式の場合は、テキスト部分だけプリントされます。なお、HTML 形式でテキスト部分が送信されない場合、本文はプリントされません。
- 添付ファイルの拡張子が「.tif」、「.tiff」、「.pdf」、「.jpeg」、「.jpg」、「.jpe」、「.jfif」、「.xps」、「.oxps」、「.xdw」、「.xbd」の場合は、プリントされます。
- 添付ファイルの拡張子が「.txt」の場合は、Content-Type に「text/plain」が指定され、charset が指定されている場合のみ、プリントされます。

参照

- 本機がサポートする Web メールであっても、送信方法によっては正しくプリントされないことがあります。詳しくは、「メール受信プリントのトラブル」(P.248) を参照してください。

2 宛先に本機のメールアドレスを入力します。

3 メールを送信します。

ジョブ属性を指定してメールプリントする

ジョブ属性を指定すると、用紙サイズなどを設定してメールプリントできます。設定できるジョブ属性、項目、およびその指定方法は、次のとおりです。

ジョブ属性	指定できる項目	指定方法
両面 / 片面	片面	simp
	両面（長辺とじ）	dup
	両面（短辺とじ）	tumble
N-up ^{*1*2} （まとめて一枚）	1 アップ ^{*3}	1up
	2 アップ	2up
	4 アップ	4up
用紙サイズ ^{*2}	A4	a4
	B5	b5
	A5	a5
	レター（8.5 × 11"）	letter
	リーガル	legal

*1 : 添付文書の拡張子が「.pdf」の文書は、[PDF エミュレーション設定] の [プリント処理モード] を [PS] に設定している場合、N-up 指定は無効となります。1 アップ以外を指定しても 1 アップでプリントされます。

*2 : メールヘッダー、メール本文、および添付文書の拡張子が「.txt」の場合、指定は無効となります。

*3 : [1 アップ] を指定した場合は、出力サイズに印刷内容が収まるように、原稿を自動的に拡大縮小して印刷されます。

補足

- 本文と添付文書のジョブ属性は、個別に設定できません。転送メールの場合、本文とその添付文書、転送メールの本文とその添付文書のジョブ属性を個別に設定できません。添付文書は本文の設定に従ってプリントされます。
- 原稿サイズと用紙サイズが異なる場合、添付ファイルの種類により、拡大縮小されるものとされないものがあります。

1 お使いのメールソフトで本文を作成し、添付文書がある場合は添付します。

2 メールの件名の前に「@@ ジョブ属性 @@」と入力します。

ジョブ属性を複数指定する場合は、カンマ (,) で区切り、「@@ ジョブ属性 (, ジョブ属性) (, ジョブ属性) @@」と入力します。

例) 件名が「参考資料」で、モノクロ、両面（長辺とじ）、2 アップでプリントする場合

@@mono,dup,2up@@ 参考資料

補足

- ジョブ属性を指定するときに、大文字、小文字の区別はありません。
- ジョブ属性、カンマ (,)、およびアットマーク (@) は、半角で入力してください。

参照

- メール本文のプリントは、CentreWare Internet Services の [受信メールシートのプリント] でも設定できます。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

3 メールの件名を確認し、送信します。

CentreWare Internet Services を使ってプリント

ファイルをプリンタードライバを使用せずにプリントできます。

補足

- CMYK の TIFF ファイルと JPEG (JFIF) ファイルには対応していません。

参照

- 詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

2 ホーム画面下部の [プリント] をクリックします。

3 [選択] をクリックして、ファイルを指定します。

4 必要に応じて [プリント設定] を設定します。

5 [プリント実行] をクリックします。

本機に蓄積したデータのプリント

サンプルプリント

複数の部数をプリントする場合、試しに 1 部だけプリントして内容を確認したあと、残りの部数を本機側からプリントできます。

ここでは、保存された文書のプリント、および削除方法について説明します。

補足

- プリント指示はプリンタードライバーから行います。プリント方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- サンプルプリントは、[認証 / プライベートプリントの設定] の [受信制御] の設定によっては利用できません。詳しくは、「[受信制御]」(P.175) を参照してください。

1 ホーム画面で、[ジョブ情報] をタップします。

補足

- カスタマイズ機能を利用して、[サンプルプリント] をホーム画面に表示させることもできます。詳しくは、「カスタマイズ機能について」(P.59) を参照してください。

2 画面下部の [サンプルプリント] をタップします。

補足

- [サンプル / 時刻指定プリント] と表示されている場合は、[サンプル / 時刻指定プリント] > [サンプルプリント] をタップしてください。
- [その他の文書] の表示がある場合は、[その他の文書] > [サンプルプリント] をタップしてください。

3 文書が保存されているフォルダーをタップします。

4 プリントする文書をタップして、チェックマークを付けます。

補足

- 文書を削除する場合は、文書を選んで [削除] をタップします。
- 複数の文書を選択した場合、文書は選択順にプリントされます。
- USB メモリーに保存された文書のプレビュー画像は表示されません。

参照

- ボタン操作については、「共通の操作ボタンの説明」(P.56) を参照してください。

5 プリントするときは、部数を入力します。

補足

- 表示されている部数は、プリンタードライバーで設定した部数から 1 部差し引かれた部数です。

6 [プリント] をタップします。

サンプルプリント文書をプリントします。残り部数をプリントしたあと、文書は削除されます。

補足

- [プリント時の確認画面表示] が [しない] に設定されている場合は、確認画面は表示されずに、プリント後に文書は自動的に削除されます。詳しくは、「[プリント時の確認画面表示]」(P.140) を参照してください。

時刻指定プリント

指定された時刻に自動的に印刷を開始します。印刷待機中（指定したプリント時刻より前）に本機の電源を切った場合、指定時刻が過ぎたジョブは、次に本機の電源を入れた直後に自動的に印刷が開始されます。

ここでは、保存された文書を指定時間前にプリント、および削除方法について説明します。

補足

- プリント指示はプリンタードライバーから行います。プリント方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- 時刻指定プリントは、[認証 / プライベートプリントの設定] の [受信制御] の設定によっては利用できません。詳しくは、「[受信制御]」(P.175) を参照してください。

1 ホーム画面で、[ジョブ情報] をタップします。

補足

- カスタマイズ機能を利用して、[時刻指定プリント] をホーム画面に表示させることもできます。詳しくは、「カスタマイズ機能について」(P.59) を参照してください。

2 画面下部の [時刻指定プリント] をタップします。

補足

- [サンプル / 時刻指定プリント] と表示されている場合は、[サンプル / 時刻指定プリント] > [時刻指定プリント] をタップしてください。
- [その他の文書] の表示がある場合は、[その他の文書] > [時刻指定プリント] をタップしてください。

3 プリントする文書をタップします。

補足

- 文書を削除する場合は、文書を選んで [削除] をタップします。
- USB メモリーに保存された文書のプレビュー画像は表示されません。

参照

- ボタン操作については、「共通の操作ボタンの説明」(P.56) を参照してください。

4 [プリント] をタップします。

時刻指定プリントで保存されている文書をプリントします。プリントしたあと、文書は削除されます。また、手動でプリント指示をすると、予定時刻になってもプリントされません。

補足

- [プリント時の確認画面表示] が [しない] に設定されている場合は、確認画面は表示されずに、プリント後に文書は自動的に削除されます。詳しくは、「[プリント時の確認画面表示]」(P.140) を参照してください。

セキュリティプリント

プリント文書に暗証番号を設定して本機に保存します。操作パネルで暗証番号を入力したときだけプリントできるので、機密文書をプリントする場合に便利です。

ここでは、保存された文書のプリント、および削除方法について説明します。

補足

- プリント指示はプリンタードライバーから行います。プリント方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- セキュリティプリントは、[認証 / プライベートプリントの設定] の [受信制御] の設定によっては利用できません。詳しくは、「[受信制御]」(P.175) を参照してください。

1 ホーム画面で、[ジョブ情報] をタップします。

補足

- カスタマイズ機能を利用して、[セキュリティプリント] をホーム画面に表示させることもできます。詳しくは、「カスタマイズ機能について」(P.59) を参照してください。

2 画面下部の [セキュリティプリント] をタップします。

3 対象のユーザーをタップします。

補足

- ユーザーに  が表示されている場合は、プリンタードライバーで指定した暗証番号の入力が必要です。暗証番号を入力して、[OK] をタップしてください。

4 プリントする文書をタップして、チェックマークを付けます。

補足

- 文書を削除する場合は、文書を選んで [削除] をタップします。
- 複数の文書を選択した場合、文書は選択順にプリントされます。

参照

- ボタン操作については、「共通の操作ボタンの説明」(P.56) を参照してください。

5 プリントするときは、部数を入力します。

6 [プリント] をタップします。

プリントしたあとの文書処理の選択画面が表示されます。

補足

- [プリント時の確認画面表示] が [しない] に設定されている場合は、確認画面は表示されずに、プリント後に文書は自動的に削除されます。詳しくは、「[プリント時の確認画面表示]」(P.140) を参照してください。

認証プリント

認証プリントは、本機にユーザーを認証させることにより、不正なプリントをさせない機能です。

プリンタードライバーで蓄積用ユーザー ID を設定したジョブは、蓄積用ユーザー ID ごとに保存されます。プリンタードライバーで蓄積用ユーザー ID が設定されていないジョブは、[(ユーザー ID なし)] に保存されます。

ここでは、保存された文書のプリント、および削除方法について説明します。

補足

- 認証プリントは、プライベートプリントには保存できない、ユーザー ID なしのジョブ
(ContentsBridge、CentreWare Internet Services を使用したプリント、メールプリントなど) も認証してプリントできます。

- プリント指示はプリンタードライバーから行います。プリント方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- 認証プリントは、[認証 / プライベート プリントの設定] の [受信制御] の設定によっては利用できません。詳しくは、「[受信制御]」(P.175) を参照してください。

参照

- 本機でユーザー ID を設定するには、「[ユーザー登録 / 集計確認]」(P.167) を参照してください。
- 認証プリントの設定方法は、「[認証 / プライベートプリントの設定]」(P.175) を参照してください。

1 認証モードにログインします。

2 ホーム画面で、[ジョブ情報] をタップします。

補足

- カスタマイズ機能を利用して、[認証プリント] をホーム画面に表示させることもできます。詳しくは、「カスタマイズ機能について」(P.59) を参照してください。

3 画面下部の [認証プリント] をタップします。

補足

- [その他の文書] の表示がある場合は、[その他の文書] > [認証プリント] をタップします。

4 対象のユーザーをタップします。

補足

- ユーザーに  が表示されている場合は、暗証番号の入力が必要です。暗証番号を入力して、[OK] をタップしてください。

5 プリントする文書を選びます。

補足

- 文書を削除する場合は、文書を選んで [削除] をタップします。
- 複数の文書を選択した場合、文書は選択順にプリントされます。
- USB メモリーに保存された文書のプレビュー画像は表示されません。

参照

- ボタン操作については、「共通の操作ボタンの説明」(P.56) を参照してください。

6 プリントするときは、部数を入力します。

7 [プリント] をタップします。

プリントしたあとの文書処理の選択画面が表示されます。

補足

- [プリント時の確認画面表示] が [しない] に設定されている場合は、確認画面は表示されずに、プリント後に文書は自動的に削除されます。詳しくは、「[プリント時の確認画面表示]」(P.140) を参照してください。

プライベートプリント

プリントを指示したデータを一時的に認証用ユーザー ID ごとに蓄積させ、プリントしたいときに本機側の指示でプリントできます。必要な文書だけ選択してプリントできるため、無駄な出力を抑えることができます。また、認証されたユーザーの文書およびユーザーに関連づけられたサブユーザーの文書しか本機に表示されないため、プライバシーの保護を図ることができます。機械管理者によって管理されている特定ユーザーの認証 / 集計管理に向いています。

ここでは、保存された文書のプリント、および削除方法について説明します。

補足

- 認証ユーザーのユーザー ID にサブユーザーを関連づける機能を利用するには、別途アプリケーションが必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- プリント指示はプリンタードライバーから行います。プリント方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- プライベートプリントは、ユーザー ID 認証のほかに、カード認証や、カード認証とユーザー ID 認証の併用でも使用できます。詳しくは、「認証の種類について」(P.191) を参照してください。

- 1 認証モードにログインします。
- 2 ホーム画面で、[ジョブ情報] をタップします。
- 3 画面下部の [プライベートプリント] をタップします。
- 4 プリントする文書を選びます。

補足

- 文書を削除する場合は、文書を選んで [削除] をタップします。
- 複数の文書を選択した場合、文書は選択順にプリントされます。
- USB メモリーに保存された文書のプレビュー画像は表示されません。

参照

- ボタン操作については、「共通の操作ボタンの説明」(P.56) を参照してください。

- 5 プリントするときは、部数を入力します。
- 6 [プリント] をタップします。

プリントしたあとの文書処理の選択画面が表示されます。

補足

- [プリント時の確認画面表示] が [しない] に設定されている場合は、確認画面は表示されずに、プリント後に文書は自動的に削除されます。詳しくは、「[プリント時の確認画面表示]」(P.140) を参照してください。

プライベートプリント（一括出力）

プライベートプリントに保存された文書を、一度にプリントします。

- 1 認証モードにログインします。
- 2 ホーム画面で、[プライベートプリント（一括出力）] をタップします。

保存された文書がすべてプリントされます。

プリントが終了すると、自動でホーム画面に戻ります。

補足

- 正常にプリントされた文書は削除されます。

- 一度の操作で、100 文書までプリントできます。最新の文書から順にプリントされます。
- [ジョブ情報] 画面やジョブ履歴レポートでは、プライベートプリントのジョブとして扱われます。

■ プライベートプリント（一括出力）の制限事項

- 本機能の利用中は、ジョブの割り込みはできません。
- IC カードリーダー（オプション）以外の機器を接続している場合は、利用できません。
- 認証機能を利用していない場合は、利用できません。
- エラー画面が表示された状態で何も操作しないと、自動リセットが実行されて認証が解除されます。このとき、自動リセット後の画面を [ホーム] に設定していない、かつ [デバイスへのアクセス] を [制限する] に設定していない場合は、次のユーザーが認証したときに、エラージョブがプリントされることがあります。
- 外部認証で認証システムが「Authentication Agent」以外の場合、サービスの利用制限が適用されません。この場合、プリントの利用を制限していても、[プライベートプリント（一括出力）] が利用できます。

USB メモリーに保存されたデータのプリント

USB メモリーを本機に接続して、USB メモリーに保存されたデータをプリントします。この機能をメディアプリントと呼びます。

注記

- USB メモリー内のデータは、次のような理由により消失、破損するおそれがありますので、必ず内部のデータをバックアップしてからご使用ください。なお、お客様のデータ消失による直接、間接の損害につき、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
 - マニュアルに記載された方法以外で USB メモリーの抜き差しをしたとき
 - 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
 - 故障、修理などのとき
 - 天災による被害を受けたとき

補足

- 文書プリントでは、市販のシングルスロットタイプのメモリーカードリーダーを使用できますが、動作保証はできません。マルチスロットのメモリーカードリーダーでは、特定の1つのスロットだけしか使用できません。どのスロットを使用できるかはリーダーの機種ごとに異なり、お客様がしたいメディア / メモリーカードのスロットを複合機では使えない場合があります。また、動作保証はできません。
- CentreWare Internet Services での設定によっては、本機能を使用できないことがあります。

対応ファイル

対応ファイルは次のとおりです。

- PDF ファイル（拡張子：pdf、PDF1.3 以上）
- TIFF ファイル（拡張子：tif、MH/MMR 圧縮、8 ビットグレースケール（非圧縮、PackBits 圧縮、JPEG 圧縮）、8 ビット RGB インデックスカラー（非圧縮、PackBits 圧縮）、24 ビット RGB カラー（非圧縮、PackBits 圧縮、JPEG 圧縮））
- XPS ファイル（拡張子：xps、oxps）
- DocuWorks 文書（拡張子：xdw）
- DocuWorks バインダー文書（拡張子：xbd）
- JPEG（JFIF）ファイル（拡張子：jpg、グレースケール（8 ビット）、カラー（24 ビット、sRGB 色空間））

注記

- フォルダーの数が 900 個を超えるメディアは、正しく認識されないことがあります。
- ファイルのフルパス（すべての階層のフォルダー名、およびファイル名を含んだ文字列）が 257 文字を超える場合は、表示されません。
- ファイル名に、本機でサポートしていない文字が含まれる場合は、画面に表示されないことがあります。

補足

- メディアプリントで処理できるファイル数は、900 ファイルです。
- メディアは、コンピューターでフォーマットしたものを使用してください。対応しているフォーマットは FAT12、FAT16、FAT32 のみです。NTFS、exFAT フォーマットには対応していません。
- メディアは、最大容量が 128 GB までのものを使用してください。
- ファイル名に機種依存コードを使用している場合は、ファイル認識や画面表示が正しく行われない場合があります。
- CMYK の TIFF ファイルと JPEG（JFIF）ファイルには対応していません。

メディアプリント使用時の注意

メディアプリントを使用するときは、次のことに注意してください。

- Exif フォーマットでない画像ファイル（コンピューターで作成された JPEG/TIFF ファイル）はプリントできません。
- 本機の電源を切るときには、メディアを取り出してから行ってください。
- メディアは、プリントが終了したら必ず手順に従って取り出してください。
- メディア内のファイル数や容量によっては、プリントに数分から数十分かかることがあります。
- メディアプリントで PDF ファイルをプリントする場合、[PDF エミュレーション設定] の [プリント処理モード] の設定にかかわらず、[PDF Bridge] が使用されます。

参照

- プリント処理モードについては、「PDF ダイレクトプリントを使用するには」(P.308) を参照してください。
- USB ホストアダプターを利用して、お客様がお持ちの USB メモリーおよび USB ケーブル（必要に応じて）からプリントできますが、動作保証はできません。
- 複数の USB メモリーを同時に装着して使用することはできません。
- 次の USB メモリーは対象外です。
 - USB メモリーのコンテンツにアクセスするために別途ユーティリティが必要なメディアパーティションが複数ある USB メモリー
 - 外付けのハブを介して接続した USB メモリー
- 著作権保護機能付きの音楽データなどのバックアップできないデータが保存されたメディアは使用しないでください。データの破損・消失による直接・間接の損害につき、弊社は一切の責任を負いかねます。

文書プリント

- 1 USB メモリー差込口に、USB メモリーを差し込みます。

補足

- 節電中の場合は、節電状態を解除してから USB メモリーを差し込んでください。
- USB メモリーを差し込んだ状態のときは、ホーム画面で、[USB] をタップして、手順 3 へ進みます。

- 2 [確認] をタップします。

- 3 [文書プリント] をタップします。

- 4 対象フォルダーからプリントする文書をタップします。

補足

- [文書プリント] 画面が表示されたら、[文書を追加する] をタップしてください。
- 複数の文書をプリントまたは削除する場合は、チェックボックスにチェックマークを付けます。

- 5 必要に応じて、各機能を設定します。

参照

- 詳しくは、「機能リスト」(P.94) を参照してください。

- 6 [プリント] をタップします。

USB メモリーの取り外し

注記

- USB メモリー内のデータへのアクセス中やプリント中に USB メモリーを取り外すと、USB メモリー内のデータを破壊する場合があります。

USB メモリーは、次の手順で取り外してください。

- 1 設定画面の  をタップします。
- 2 「はい（取り出す）」をタップします。
- 3 USB メモリーを取り外します。

機能リスト

補足

- 機能によって、表示される項目が異なります。

【部数】

部数を入力します。

【用紙選択】

用紙トレイを選びます。[自動] を選ぶと、適切な用紙トレイが選択されます。

【両面プリント】

用紙の両面にプリントするかどうかを設定します。

【まとめて 1 枚（N アップ）】

2 枚、4 枚、8 枚の原稿を 1 枚にまとめてプリントします。プリント時のレイアウトや原稿のセット向きを指定します。

【スムージング】

イメージにスムージング処理をして、滑らかに見せるかどうかを設定します。

その他のプリントサービス

モバイル機器からのプリント

Print Utility (Android OS/iOS) や AirPrint (iOS)、Mopria (Android OS) で、モバイル機器から本機にプリントできます。ここでは、Android 端末から Print Utility を使って、プリントする例を説明します。

補足

- Print Utility for AndroidはGoogle Playから、Print Utility for iOSはApp Storeから無料でダウンロードできます。
- モバイル機器の操作方法については、モバイル機器の取扱説明書を参照してください。
- Print Utility については、弊社公式サイトをご覧ください。

- 1 [Print Utility] を起動します。
- 2 [プリント] をタップし、プリントしたい項目を選択します。
- 3 [印刷設定] をタップします。
- 4 [プリンター未登録] をタップし、本機を選択して [閉じる] をタップします。
- 5 [プリント] をタップします。

補足

- 本機が表示されない場合は、[IP アドレス指定に切り替える] をタップして、本機の Wi-Fi Direct の IP アドレスを設定してください。IP アドレスは、「手動接続する (Android OS/iOS)」(P.43) の手順を参照して確認してください。

NFC 機能でプリントする

モバイル機器が NFC タッチプリントに対応している場合は、操作パネルの NFC タッチエリアにタッチするだけで自動的にプリントできます。

本機の NFC 機能を利用するには、CentreWare Internet Services の設定が必要です。

■ NFC の設定を有効にする

- 1 CentreWare Internet Services を起動して、機械管理者モードにログインします。
- 2 左側のメニューから [ネットワーク] をクリックします。
- 3 [インターフェイス設定] の [NFC] をクリックします。
- 4 [有効] にチェックマークを付けます。
- 5 [保存] をクリックします。

補足

- 設定を反映するには再起動が必要です。画面の指示に従って、再起動してください。

AirPrint

AirPrint は、Apple Inc. が提供する印刷サービスです。プリンタードライバーや特別なソフトウェアをインストールすることなく、iPad/iPhone などの iOS 搭載端末や macOS/OS X のコンピューターから指示した文書をお使いの機械でプリントできます。

補足

- AirPrint の最新の情報については、Apple Inc. の公式サイトを参照してください。

iBeacon for Printers を有効にする

AirPrint を使ってプリントする際に、iOS 端末の [アクション] > [プリント] > [プリンタ] で近くにある本機を選択できるようにします。PIN の入力などは必要ありません。

iBeacon for Printers 機能を使用すると、異なるサブネットに接続されているために Bonjour で見つかることのできない本機を検索できます。

- 1 CentreWare Internet Services を起動して、機械管理者モードにログインします。
- 2 [ネットワーク] > [Bluetooth] をクリックします。
[Bluetooth low energy] 画面が表示されます。
- 3 [ポート (Bluetooth low energy)] にチェックマークを付けます。
- 4 [iBeacon for Printers] にチェックマークを選択します。
- 5 [保存] をクリックします。

補足

- 設定を反映するには再起動が必要です。画面の指示に従って、再起動してください。

AirPrint の設定を有効にする

- 1 CentreWare Internet Services を起動して、機械管理者モードにログインします。
- 2 左側のメニューから [ネットワーク] をクリックします。
- 3 [モバイルプリント設定] の [AirPrint™] をクリックして、[有効] にチェックマークを付けます。

補足

- USB で接続しているときは、[AirPrint] の [USB 接続] にもチェックマークを付けます。

- 4 必要に応じて、各機能を設定します。
- 5 [保存] をクリックします。

補足

- 設定を反映するには再起動が必要です。画面の指示に従って、再起動してください。

■コンピューター側の設定（macOS/OS X のみ）

AirPrint を使用する場合は、あらかじめお使いの機械をコンピューターに登録しておく必要があります。

補足

- USB 接続を経由して AirPrint を使用する場合は、本機とコンピューターを USB ケーブルで接続すると自動的に登録されるため、この設定は不要です。

- 1 ネットワークに接続されたコンピューターで、[Apple] メニュー > [システム環境設定] をクリックします。
- 2 [プリンタとスキャナ] をクリックします。
- 3 [+]（追加）をクリックします。

補足

- [+]（追加）をクリックしたときにドロップダウンメニューが表示された場合は、[プリンタまたはスキャナを追加] を選択してください。

- 4 [名前] の一覧から本機を選択します。

補足

- ネットワーク内のプリンターが自動的に検出されて [名前] の一覧に表示されます。表示されない場合は、本機とコンピューターのネットワーク設定を確認してください。

- 5 [ドライバ] > [Secure AirPrint] または [AirPrint] > [追加] をクリックします。
[プリンタとスキャナ] 画面の [プリンタ] の項目に本機が追加されます。

プリントする

■iOS からプリントする

ここでは iPad を例に、iOS からプリント指示する手順を説明します。

- 1 プリントする文書を開きます。
- 2  メニューから [プリント] をタップします。
- 3 [プリンタを選択] をタップします。
- 4 本機を選び、プリント設定をします。
- 5 [プリント] をタップします。

■macOS/OS X からプリントする

- 1 プリントする文書を表示します。
- 2 [ファイル] メニュー > [プリント] をクリックします。
- 3 [プリンタ] で本機を選択し、プリント設定を確認して、[プリント] をクリックします。

補足

- 本機で対応していないプリント設定は選択できません。

Mopria プリントサービス

Mopria プリントは Android 搭載のスマートフォンやタブレット（Android 4.4 以降）から、Mopria 認証を受けたプリンターに接続してプリントできるサービスで、特別な設定をすることなく利用できます。

はじめに Google Play ストアから、Mopria プリントサービスのアプリケーションを、お使いの Android 機器にダウンロードしてインストールします。

プリント時はモバイル機器を本機と同じネットワークに接続するか、Wi-Fi Direct 機能を使って本機に接続します。

補足

- 認証 / 集計管理機能を有効にしているときは、CentreWare Internet Services の [認証 / 集計 / 権限] > [権限設定] > [アクセス制限設定] > [ユーザー指定なしプリント] を [制限しない] に設定する必要があります。

本機に Mopria プリントサービスを設定する

- 1 CentreWare Internet Services を起動して、機械管理者モードにログインします。
- 2 左側のメニューから [ネットワーク] をクリックします。
- 3 [モバイルプリント設定] の [Mopria] をクリックして、[オン] をクリックします。
- 4 [保存] をクリックします。

補足

- 設定を反映するには再起動が必要です。画面の表示に従って、再起動してください。

Mopria プリントサービスでプリントする

参照

- 詳しくは、次の URL を参照してください。
<http://mopria.org/>

BMLinkS

BMLinkS は、JBMIA が推進しているオフィス機器インターフェイスです。

本機は、仕様環境 BMLinkS 2013 に準拠し、JBMIA による BMLinkS 認証を受けています。

BMLinkS 対応プリンターなら、機種およびメーカーを問わずプリントできます。印刷データの暗号化や認証プリント、出力可能な機器の検索なども利用できます。使用するには、プリンタードライバーが必要です。プリンタードライバーとマニュアルを次のアドレスからダウンロードしてください。

<http://bmlinks-committee.jbmia.or.jp/>

5

ジョブ情報

ジョブ情報の概要

ジョブ情報では、実行中や実行待ちのジョブや、完了したジョブなどを確認できます。また、プリントを中止したり、プリント待ちや操作待ちのジョブをプリントしたりできます。

実行完了 / 実行中 / 実行待ちジョブの確認

ジョブの状況を確認できます。

- 1 ホーム画面で、[ジョブ情報] をタップします。
すべてのジョブが表示されます。

ジョブ単位で表示

- 1 [すべてのジョブ] をタップします。
- 2 表示させるジョブをタップします。

実行中 / 実行待ちジョブの中止

- 1 ホーム画面で、[ジョブ情報] をタップします。
- 2 [すべてのジョブ] > [実行中 / 待ちジョブ] をタップします。
- 3 中止するジョブをタップします。
- 4 [中止] をタップします。

補足

- 機能によって、表示が異なります。画面の表示に従って操作してください。

実行待ちジョブを優先実行

- 1 ホーム画面で、[ジョブ情報] をタップします。
- 2 [すべてのジョブ] > [実行中 / 待ちジョブ] をタップします。
- 3 優先で実行するジョブをタップします。
- 4 [優先] をタップします。

実行待ちジョブのプリント

〔プリント起動〕で設定されている時間まで、プリント待ちになっているジョブを強制的にプリントできます。

また、プリント中に中断されているジョブがある場合は、プリントを再開します。

参照

- プリント起動については、「〔プリント起動〕」(P.127)を参照してください。

- 1 ホーム画面で、〔ジョブ情報〕をタップします。
- 2 〔すべてのジョブ〕>〔実行中 / 待ちジョブ〕をタップします。
- 3 実行するジョブをタップします。
- 4 〔スタート〕をタップします。

補足

- 機能によって、表示が異なります。画面の表示に従って操作してください。

6

基本設定

概要

本機の設定を変更したり、設定内容を確認したりできるメニューについて説明します。

ホーム画面で「設定」をタップしてください。

補足

- この章では、機械管理者モードでのみ操作できる項目も含めて記載しています。また、お使いの機種やほかの設定によって、表示されない項目もあります。

[言語切り替え]

タッチパネルディスプレイに表示される言語を切り替えます。

[キーボード]

文字入力時に表示されるキーボードのレイアウトを設定します。

[ホームに [言語切り替え] ボタンを表示]

ホーム画面に言語切り替えボタンを表示するかどうかを設定します。

[機械確認 / レポート]

シリアル番号やプリントページ数、IP アドレスなどの本機のさまざまな情報を画面で確認できます。また、レポート / リストをプリントして、ジョブの履歴や設定 / 登録内容などを確認できます。

[機械構成]

本機の構成を確認できます。

[ソフトウェアバージョン]

本機のソフトウェアのバージョンを確認できます。

[無線 LAN の接続状態]

Wi-Fi 接続状況と Wi-Fi Direct 接続情報が表示されます。

[レポート / リストの出力]

 をタップすると、レポートまたはリストをプリントできます。



[ジョブ確認]

■ [ジョブ履歴レポート]

ジョブの実行結果について確認できます。最新の 200 件までのジョブがプリントされます。ジョブの種類ごとのレポートをプリントすることもできます。

参照

- [ジョブ履歴レポート] は、50 件を超えるごとに自動的にプリントさせることもできます。自動プリントについては、「[レポート設定]」(P.132) を参照してください。自動プリントの場合は、すべてのジョブの実行結果が印字されます。

■ [エラー履歴レポート]

参照

- 詳しくは、「[エラー履歴レポート]」(P.110) を参照してください。

[プリンター設定]

■ [機能設定リスト (共通項目)]

本機のハードウェア構成やネットワーク情報、プリント機能の設定状態が確認できます。

■ [ART EX フォーム登録リスト]

オーバーレイ印字機能で、フォームとして登録した文書の一覧がプリントされます。

補足

- ART EX フォーム登録については、ART EX プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

■ [PCL 設定リスト]

PCL の各設定がプリントされます。

■ [PCL マクロ登録リスト]

PCL 用に登録したフォームの一覧がプリントされます。

■ [PDF 設定リスト]

PDF プリンターモードでの各設定がプリントされます。

■ [TIFF/JPEG 設定リスト]

TIFF および JPEG プリンターモードでの各設定がプリントされます。

■ [TIFF/JPEG 論理プリンター登録リスト]

TIFF および JPEG プリンターモードで作成した論理プリンターの一覧がプリントされます。

参照

- TIFF および JPEG 論理プリンターの設定は、CentreWare Internet Services で行います。各項目については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

■ [PostScript 論理プリンター登録リスト]

PostScript® で作成した論理プリンターの一覧がプリントされます。

参照

- PostScript 論理プリンターの設定は、CentreWare Internet Services で行います。各項目については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

■ [ESC/P 設定リスト]

ESC/P エミュレーションモードの各設定がプリントされます。

■ [ESC/P メモリー登録リスト]

ESC/P エミュレーションモードのメモリー登録の各設定がプリントされます。

■ [ART IV, ESC/P ユーザー定義リスト]

ART IV、ESC/P、PC-PR201H で利用できるフォーム、ロゴ、パターンの登録内容がプリントされます。

参照

- ART IV のユーザー定義については『リファレンスマニュアル (ART IV 対応)』を、ESC/P のユーザー定義については『リファレンスマニュアル (ESC/P 対応)』を、PC-PR201H のユーザー定義については『リファレンスマニュアル (PC-PR201H 対応)』を、それぞれ参照してください。

■ [HP-GL/2 設定リスト]

HP-GL、HP-GL/2、HP-RTL エミュレーションモードの各設定がプリントされます。

■ [HP-GL/2 メモリー登録リスト]

HP-GL、HP-GL/2、HP-RTL エミュレーションモードのメモリー登録の各設定がプリントされます。

■ [PC-PR201H 設定リスト]

PC-PR201H エミュレーションモードの各設定がプリントされます。

■ [PC-PR201H メモリー登録リスト]

PC-PR201H エミュレーションモードのメモリー登録の各設定がプリントされます。

■ [フォントリスト]

本機で利用できるフォントの一覧がプリントされます。

補足

- プリントされる内容は、取り付けられているオプションによって異なります。

■ [PCL フォントリスト]

PCL で利用できるフォントがプリントされます。

■ [PostScript フォントリスト]

PostScript で利用できるフォントがプリントされます。

■ [DocuWorks プリント設定リスト]

DocuWorks ダイレクトプリントのための設定がプリントされます。

[機能別カウンターレポート]

機能別のカウンターレポートをプリントします。機能別のカウンターレポートでは、各機能別に実際に利用した内訳（プリント枚数や使用回数など）や利用していない時間（待機時間、低電力モード時間、スリープモード時間、電源オフ時間など）の累計を分単位で確認できます。

[エラー履歴レポート]

本機に発生したエラーに関する情報を確認できます。

エラー履歴レポートには、最新の 50 件までのエラーがプリントされます。

補足

- [エラー履歴レポート] は、[レポート / リストの出力] 画面の [ジョブ確認] から指示できます。
- [レポート設定] の [レポート出力の許可] のチェックマークを外している場合は、[エラー履歴レポート] は表示されません。詳しくは、「[レポート設定]」(P.132) を参照してください。

[通知]

障害の状態、交換時期やその他の重要なメッセージなどの本機からの通知を重要度順に表示します。

通知を選ぶと、詳細や関連するページを確認できます。

[用紙トレイ]

本機に設定されている用紙トレイを、一覧で確認できます。

参照

- 各トレイの設定は、「用紙の設定を変更する」(P.80) を参照してください。

[共通設定]

[ユーザー用紙属性の名称設定]

[ユーザー用紙種類 1] ～ [ユーザー用紙種類 5]、および [ユーザー用紙色 1] ～ [ユーザー用紙色 5] に名称を付けられます。

たとえば、色付きの用紙に「色紙」と付けたり、上質紙に「表紙用」と付けるなど、用途に応じた名称を付けることもできます。

[トレイセット時の用紙変更画面表示]

用紙トレイを出し入れしたときに、対象トレイの設定変更画面を表示するかどうかを設定します。

補足

- トレイ 5（手差し）は設定できません。

[用紙種類の優先順位]

自動トレイ選択時に同一サイズ、同一方向の用紙が複数セットされている場合に、使用する用紙種類がセットされた用紙トレイの優先順位を設定します。

[トレイの優先順位] よりも、用紙種類の設定が優先されます。

ただし、異なる用紙種類に同じ優先順位を設定した場合は、[トレイの優先順位] によって、選択される用紙が決まります。また、[自動トレイ選択しない] に設定した用紙種類がセットされているトレイは、自動トレイ選択の対象にはなりません。

補足

- 自動トレイ選択とは、適切な用紙がセットされたトレイを、機械が自動的に選択してプリントすることです。

[自動トレイ動作制御]

選択しているトレイの用紙がなくなったときに、切り替える対象を設定します。

■ [自動トレイ切り替え]

自動切り替えの条件を設定します。[[自動] 選択時に切り替える] に設定すると、用紙トレイの [自動トレイ切り替え] の設定に応じて切り替えます。[同一用紙種類 / 色で切り替える] に設定すると、用紙種類と色が同じトレイを切り替え対象とします。

[用紙種類別画質処理]

用紙種類ごとに、画質の処理方法が設定できます。

本機は、プリントをするとき、[用紙種類別画質処理] で設定している用紙の種類と、その用紙種類に設定されている画質処理によって、画質をコントロールします。

設定できる項目は、次の表を参照してください。

参照

- 用紙の特長と使用上の注意は、「用紙をセットする」(P.66) を参照してください。

用紙種類	設定値	内 容
[普通紙の画質処理]	[普通紙 (A)]	P 紙、C ² 紙など国内の 60 ～ 80 g/m ² の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙 (B)]	XC4200 など海外の 60 ～ 90 g/m ² の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙 (C)]	国内の 81 ～ 105 g/m ² の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙 (D)]	海外の 91 ～ 105 g/m ² の用紙を使うときに設定します。
	[再生紙 (A)]	G70 など 60 ～ 80 g/m ² の再生紙を使うときに設定します。
	[うら紙 (A)]	P 紙、C ² 紙など国内の 60 ～ 80 g/m ² の用紙のうら面を使うときに設定します。
	[うら紙 (B)]	XC4200 など海外の 60 ～ 90 g/m ² の用紙のうら面を使うときに設定します。
	[うら紙 (C)]	国内の 81 ～ 105 g/m ² の用紙のうら面を使うときに設定します。
[上質紙の画質処理]	[普通紙 (A)]	P 紙、C ² 紙など国内の 60 ～ 80 g/m ² の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙 (B)]	XC4200 など海外の 60 ～ 90 g/m ² の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙 (C)]	国内の 81 ～ 105 g/m ² の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙 (D)]	海外の 91 ～ 105 g/m ² の用紙を使うときに設定します。
	[再生紙 (A)]	G70 など 60 ～ 80 g/m ² の再生紙を使うときに設定します。
	[うら紙 (A)]	P 紙、C ² 紙など国内の 60 ～ 80 g/m ² の用紙のうら面を使うときに設定します。
	[うら紙 (B)]	XC4200 など海外の 60 ～ 90 g/m ² の用紙のうら面を使うときに設定します。
	[うら紙 (C)]	国内の 81 ～ 105 g/m ² の用紙のうら面を使うときに設定します。

用紙種類	設定値	内 容
[再生紙の画質処理]	[普通紙 (A)]	P 紙、C ² 紙など国内の 60 ～ 80 g/m ² の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙 (B)]	XC4200 など海外の 60 ～ 90 g/m ² の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙 (C)]	国内の 81 ～ 105 g/m ² の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙 (D)]	海外の 91 ～ 105 g/m ² の用紙を使うときに設定します。
	[再生紙 (A)]	G70 など 60 ～ 80 g/m ² の再生紙を使うときに設定します。
	[うら紙 (A)]	P 紙、C ² 紙など国内の 60 ～ 80 g/m ² の用紙のうら面を使うときに設定します。
	[うら紙 (B)]	XC4200 など海外の 60 ～ 90 g/m ² の用紙のうら面を使うときに設定します。
	[うら紙 (C)]	国内の 81 ～ 105 g/m ² の用紙のうら面を使うときに設定します。
[穴あき紙の画質処理]	[普通紙 (A)]	P 紙、C ² 紙など国内の 60 ～ 80 g/m ² の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙 (B)]	XC4200 など海外の 60 ～ 90 g/m ² の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙 (C)]	国内の 81 ～ 105 g/m ² の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙 (D)]	海外の 91 ～ 105 g/m ² の用紙を使うときに設定します。
	[再生紙 (A)]	G70 など 60 ～ 80 g/m ² の再生紙を使うときに設定します。
	[うら紙 (A)]	P 紙、C ² 紙など国内の 60 ～ 80 g/m ² の用紙のうら面を使うときに設定します。
	[うら紙 (B)]	XC4200 など海外の 60 ～ 90 g/m ² の用紙のうら面を使うときに設定します。
	[うら紙 (C)]	国内の 81 ～ 105 g/m ² の用紙のうら面を使うときに設定します。
[厚紙 2 の画質処理]	[厚紙 2 (A)]	177 ～ 220 g/m ² の用紙を使うときに設定します。
	[厚紙 2 (R)]	177 ～ 220 g/m ² の粗目の用紙を使うときに設定します。
[厚紙 2 (うら面) の画質処理]	[厚紙 2 (A) (ウラ)]	177 ～ 220 g/m ² の用紙のうら面を使うときに設定します。
	[厚紙 2 (R) (ウラ)]	177 ～ 220 g/m ² の粗目の用紙のうら面を使うときに設定します。
[ラベル紙の画質処理]	[ラベル紙 1 (A)]	国内のラベル紙を使うときに設定します。
	[ラベル紙 1 (B)]	海外のラベル紙を使うときに設定します。

用紙種類	設定値	内 容
[ユーザー用紙 1 の画質処理] ~ [ユーザー用紙 5 の画質処理]	[普通紙 (A)]	P 紙、C ² 紙など国内の 60 ~ 80 g/m ² の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙 (B)]	XC4200 など海外の 60 ~ 90 g/m ² の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙 (C)]	国内の 81 ~ 105 g/m ² の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙 (D)]	海外の 91 ~ 105 g/m ² の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙 (S)]	通常は使いません。
	[再生紙 (A)]	G70 など 60 ~ 80 g/m ² の再生紙を使うときに設定します。
	[うら紙 (A)]	P 紙、C ² 紙など国内の 60 ~ 80 g/m ² の用紙のうら面を使うときに設定します。
	[うら紙 (B)]	XC4200 など海外の 60 ~ 90 g/m ² の用紙のうら面を使うときに設定します。
	[うら紙 (C)]	国内の 81 ~ 105 g/m ² の用紙のうら面を使うときに設定します。
	[うら紙 (S)]	通常は使いません。

〔消耗品確認〕

消耗品の状態は、〔消耗品確認〕画面で確認できます。



注記

- 使いかけのトナーカートリッジ（同じ機種のほかの製品から取り出したトナーカートリッジなど）を使用した場合、残量表示と実際の残量が合わないことがあります。トナーカートリッジを交換するときは、なるべく新品を使用することをお勧めします。

[メーター確認]

メーター別にプリントページ数を確認できます。

メーター確認	
シリアル番号:	999999
現在のカウンタ	
メーター1	0
機能別カウンタのリセット	

[シリアル番号]

本機のシリアル番号が表示されます。

[メーター 1]

プリントの合計ページ数が表示されます。

[ユーザー別メーター確認]

ユーザー別のページ数を確認できます。

集計管理機能が有効に設定されている場合に、現在認証されているユーザー ID のメーターを確認できます。

メーターを確認したい認証ユーザーで認証してから、この機能を使用してください。

ユーザー別メーター確認	
i	
今回のカウンタ	0
これまでの総合計	0
上限ページ数	9999999
残りページ数	9999999

補足

- [ユーザー別メーター確認] は、[集計管理機能の運用] が [本体集計管理] のときだけ表示されます。
- 集計管理機能で [集計する] に設定しているサービスのメーターを確認できます。
- 機械管理者モードのときには、[ユーザー別メーター確認] は表示されません。

参照

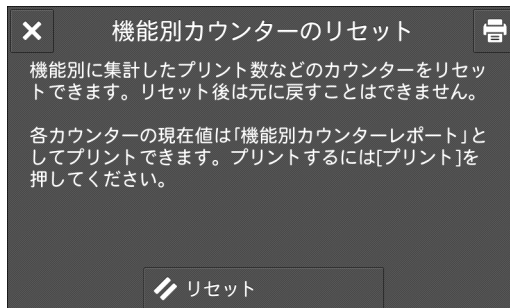
- 集計管理機能については、「[集計管理]」(P.167) を参照してください。

[機能別カウンターのリセット]

機能別に集計したプリント数や稼動状況の累積時間などのカウントをリセットできます。

補足

- [機能別カウンターのリセット] は、集計管理の権限を持つユーザーまたは機械管理者で認証しているときに表示されます。



各カウンターの現在の値を、機能別カウンターレポートとしてプリントできます。

■ [リセット]

機能別に集計した値をリセットできます。リセットする場合は、表示された確認画面で、[はい (リセットする)] を選びます。

注記

- リセットすると元に戻すことはできません。

[保守]

点検または修理の依頼、その他の調整をします。

[保守レポートの出力]

[機能別カウンターレポート]

参照

- 詳しくは、「[機能別カウンターレポート]」(P.110)を参照してください。

[ユーザー別集計管理]

ユーザー別の集計管理レポートをプリントできます。なお、ユーザー別集計管理レポートは、集計管理機能を有効にしているかどうかで、表示される画面が異なります。

補足

- レポートはファイルに出力できません。レポートをファイルに出力するには、ApeosWare Management Suite 2（別売）をご利用ください。

■ [集計管理機能の運用] が [本体集計管理] 以外に設定されている場合

[集計管理機能の運用] が [本体集計管理] 以外に設定されている場合は、次の画面が表示され、プリンター集計レポートをプリントできます。



◆ [プリンター集計]

クライアント別（ジョブオーナー別）に、本機でプリントした総ページ数、使用した用紙の総枚数を確認できます。[プリンター集計] は、データを初期化した時点からのカウントになります。

■【集計管理機能の運用】が【本体集計管理】に設定されている場合

【集計管理機能の運用】が【本体集計管理】に設定されている場合は、【ユーザー別集計管理】画面が表示されます。集計管理機能を【集計する】に設定している機能の、ユーザー別の集計管理レポートを、機能ごとにプリントできます。

参照

- 各機能の集計管理機能の設定は、「【集計管理】」(P.167)を参照してください。

集計管理レポートをプリントするには、各集計管理レポートを選び、ユーザー番号の範囲を指定します。

補足

- 【すべて選択】を選ぶと、すべてのユーザーが選択されます。

◆【プリンター集計管理】

クライアント別（ジョブオーナー別）に、本機でプリントした総ページ数、使用した用紙の総枚数を確認できます。【プリンター集計管理】は、データを初期化した時点からのカウントになります。

注記

- 【集計管理機能の運用】の【各機能の集計】で【プリンター】を【集計しない】に設定している場合は、【プリンター集計管理】ではなく、【プリンター集計】が表示されます。プリンター集計レポートについては、「【プリンター集計】」(P.119)を参照してください。

補足

- レポートに表示される【No.】は、【集計管理】、【認証・セキュリティ設定】で、ユーザー登録したNo.（ユーザー管理番号）です。

【使用済み製品回収情報シート】

使用済みの本機の回収を依頼する場合に、情報シートをプリントできます。お客様から弊社のカスタマーコンタクトセンターに本機の情報を通知していただくことにより、本機の回収経路が決定します。

【GS1-128 バーコードサンプル】

GS1-128 バーコードサンプルを出力できます。

バーコードモードを有効にした場合と無効にした場合のバーコードの印刷状態を確認することができます。

【点検 / 修理依頼】 / 【EP 診断 / 修理依頼】 / 【EP 診断】 / 【修理依頼】

点検や修理が必要になったときに、弊社のカスタマーコンタクトセンターに連絡します。

補足

- EP システムの利用有無や修理要否によって、表示される項目が異なります。

参照

- EP システムについて詳しくは、「EP システムについて」(P.315)を参照してください。

[初期設定項目]

本機を使うための初期設定が完了しているかどうかを確認できます。初期設定されていない項目は、ここから設定画面を起動できます。

[EP 通信確認]

インターネットを使った EP システムを利用している場合、本機と弊社の間で通信が正常に行われるかを確認できます。

参照

- EP システムについて詳しくは、「EP システムについて」(P.315)を参照してください。

[ソフトウェアオプションの設定]

この機能は、カスタマーエンジニアが設定します。

[ソフトウェアオプションの設定 -USB]

USB ドングルを取り付けてオプション機能を使えるようにします。

[ソフトウェアバージョンアップ]

EP システムを利用している場合、本機のソフトウェアのバージョンアップが必要になったときに、ソフトウェアを更新するための機能です。

ソフトウェア更新をすぐに実行したり、日時を指定して実行したりできます。

注記

- ソフトウェアがダウンロードされると、自動的に再起動して、ソフトウェアの更新を行います。そのあと再起動し、ホーム画面が表示されたらソフトウェアバージョンアップは終了です。ソフトウェアバージョンアップが終了するまで、電源は切らないでください。途中で電源を切ると、ソフトウェアが不完全な状態となり、本機が起動できなくなることがあります。

補足

- 本機能を利用するには、EP システムのご利用に加えて専用の契約が必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- EP システムは、一部の地域で利用できない場合があります。適用については、担当の営業または販売店にお問い合わせください。

参照

- EP システムについて詳しくは、「EP システムについて」(P.315)を参照してください。

[機械起動時のプログラム診断]

本機の電源を入れたときに、プログラム診断をするかどうかを設定します。

プログラム診断で意図的なプログラムの書き換えなどの異常が見つかった場合は、起動を停止し、監査ログに記録します。

補足

- プログラム異常の状態によっては、監査ログに記録されないことがあります。

[IC カード情報の確認]

[IC カード情報の確認] を選び、ご利用の IC カードを IC カードリーダー（オプション）にタッチすると、IC カードの情報がタッチパネルディスプレイに表示されます。

補足

- 認証に使用する情報は、CentreWare Internet Services で設定します。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

[証明書の一括削除 / 初期化]

証明書を一括削除し、初期化します。[ネットワーク設定] > [セキュリティ設定] の [SSL/TLS 設定] で証明書を使用するように設定しているにもかかわらず、証明書ファイルの異常などが原因で、証明書データが使用できなくなった場合に使用します。

[カスタムトナー / ドラム]

カスタムモードでプリンターを使用したい場合に設定します。

対応したトナー / ドラムでご使用ください。

注記

- 本設定による使用は、本来の本機の機能、性能が保たれないことがあり、当社推奨品における品質保証の範囲外となります。そのまま使い続けると、本機が故障する原因となることがあります。本機の故障となった場合は、有償修理となります。
- [使用する] に設定したときは、トナーカートリッジやドラムカートリッジの残量表示が行われません。

[画質調整]

[アライメント調整]

用紙にプリントする出力イメージの位置を調整します。

参照

- 手順については、「アライメント調整を行う」(P.225) を参照してください。

[機械の詳細設定]

本機の動作を調整します。

[標高設定]

本機の設置場所の標高を設定します。

高度を正しく設定することで印字品質が維持され、トナー残量が正しく表示されます。

[定着温度調整]

用紙種類ごとに定着温度を調整します。

用紙や使用環境によって、画像の剥がれや用紙のカールが生じる場合に、定着温度を調整すると改善されることがあります。

[ブロッキング対策]

用紙のブロッキング（用紙同士がくっついてしまう状態）を防止するための処理を行うかどうかを設定します。

[現像器と転写ユニットのクリーニング]

本機の電源を入れたままプリントを行わない状態が続いた場合、プリント結果の背景に意図しない色が付くことがあります。これを軽減するために、現像器と転写ユニットのクリーニングを行います。

[目標濃度の設定]

プリント時に使用するトナーの量を調整します。濃度を下げるとトナーの節約になり、濃度を上げるとはっきりとしたプリント結果になります。

[トナーリフレッシュ]

トナーの濃度と現像器の電圧を再調整します。トナーのリフレッシュによってプリント品質が最適化されます。

補足

- トナーリフレッシュは必要以上に行わないでください。トナーリフレッシュを繰り返し行くと、トナーの減りが速くなります。

[転写出力調整]

トナー画像が用紙に最適な状態で転写されない場合に、用紙種類ごとに最適な転写出力値を設定できます。

参照

- 詳しくは、「転写出力調整」(P.228) を参照してください。

7

詳細設定

概要

本機の動作を制御するための項目について説明します。本章の機能は、おもに機械管理者が設定します。

ホーム画面で「設定」をタップしてください。

補足

- お使いの機種やほかの設定によって、表示されない項目があります。

[システム設定]

[システム時計 / タイマー設定]

時刻をセットしたり、リセットなどの機能が働くまでの時間を設定したりします。

[日付]

本機のシステム時計の日付を指定します。

[時刻]

本機のシステム時計の時刻を指定します。

[時刻サーバー（NTP）と同期]

時刻サーバー（NTP）の時刻と同じになるように、サーバーから時刻を取得し、本機の時間を合わせます。

[時刻サーバーの接続間隔]

時刻サーバーに何時間ごとに接続するかを指定します。

[時刻サーバーアドレス]

時刻サーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

[自動リセット]

何も操作をしない状態で一定の時間が経過したとき、リセットされる時間を指定します。

補足

- [しない] に設定しても、原稿を読み込んでジョブに対する操作待ちになっている画面の状態で、操作を 1 分間しないと、操作待ちを解除し、読み込み済みの原稿の処理を開始します。

[ジョブ自動解除]

エラー（用紙の補給、用紙づまりなど）が発生したとき、現在のジョブを解除して、次のジョブを実行できるまでの時間を指定します。

[プリント起動]

操作パネル（[スタート] は除きます）の操作後、プリントができるようになるまでの時間を設定します。

[タイムゾーン]

GMT を基準に、-12 時間から +12 時間の範囲で設定します。

[サマータイム]

夏時間（サマータイム）を設定します。夏時間（サマータイム）として設定した期間は、現在の時間に 1 時間加えた時刻になります。

〔暖機モード動作〕

本機内の結露を防止または軽減する暖機モードに移行するかどうかを設定します。

- [する] を選択して、[開始時刻] と [継続時間] を指定すると、[開始時刻] から [継続時間] まで暖機モードに移行します。
- [自動的に動作する] にチェックマークを付けると、[しない] / [する] にかかわらず、結露状況を予測して自動的に暖機モード動作が有効になります。指定した [開始時刻] になると、暖機モードに移行します。
- [自動的に停止する] にチェックマークを付けると、結露しない状態が一定期間続いたときに、暖機モード動作が自動的に無効になります。
- [結露注意の表示] にチェックマークを付けると、本機が結露発生の可能性を感知したときに、メッセージを表示します。

補足

- お使いの製品によっては、カスタマーエンジニアの設定が必要です。詳しくは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。
- 暖機モード動作中は、スリープモードに移行しません。

〔オンデマンド印刷の有効時間〕

外部アクセスを使用してプリントする場合の有効時間を設定します。印刷を指示したあと、ここで設定した時間以内に外部接続先からプリントデータを受信しないと、プリント指示が無効になります。

補足

- 一度に大量の文書をプリント指示した場合や、処理に時間がかかる複雑な文書が含まれる場合、最後のページを受け付ける前にタイムアウトすることがあります。

〔節電モードの設定〕

〔節電モード移行時間〕

節電モードには、「低電力モード」と「スリープモード」があり、設定時間が経過すると次のように移行し、消費電力を下げます。

「本機を最後に操作」→「低電力モード」→「スリープモード」

補足

- 低電力モードおよびスリープモードに移行しないように設定することはできません。
- スリープモードに移行するまでの時間は、低電力モードに移行するまでの時間と同じか、それより大きくなるように指定してください。
- スリープモードに移行するまでの時間が低電力モードに移行するまでの時間と同じときは、低電力モードには移行せずにスリープモードに移行します。

〔自動プリント後の節電モード移行〕

コンピューターからのプリントが完了したあとに、節電モードへ移行するタイミングを設定します。

〔スリープモード設定〕

スリープモード中の動作を、省電力優先にするか復帰時間優先にするかを設定します。

補足

- [省電力優先] に設定されている場合でも、本機の構成や機能設定によっては、本機の内部で [復帰時間優先] として動作することがあります。

[節電解除の制御]

節電状態を解除するときに、使用する部分のみを解除するかどうかを設定します。

[電源の自動制御]

設定した時刻になると電源が切れるように設定します。

補足

- [自動的に電源を切る] が設定されていても、本機に紙づまりなどの異常が発生している場合や、ジョブなどの処理を行っている場合には、電源は切れません。

[音の設定]

ジョブの終了や機械の異常などを知らせる音を、鳴らすかどうかを設定します。

[音の種類]

[標準音]、[ビープ音] から選びます。

[正常入力音]

操作パネル上のボタンを正しくタップしたときに鳴る音量を設定します。

[異常入力音]

選べないボタンをタップしたときや、エラーが発生しているときに操作をしたときに鳴る音量を設定します。

[準備完了音]

電源を入れたときなど、本機がプリントできる状態になったときに鳴る音量を設定します。

[正常終了音]

ジョブが正常に終了したときに鳴る音量を設定します。
対象ジョブごとに鳴らすかどうかを設定します。

[異常終了音]

ジョブが異常終了したときに鳴る音量を設定します。
対象ジョブごとに鳴らすかどうかを設定します。

[自動リセット事前通知音]

自動リセット機能を設定している場合に、自動的に初期画面に戻る 5 秒前に鳴る音量を設定します。

参照

- 自動リセットについては、「[自動リセット]」(P.127) を参照してください。

[異常警告音]

用紙が詰まるなどの異常が発生し、ジョブが異常状態のまま保留になったときに鳴る音量を設定します。

[用紙切れ警告音]

用紙トレイの用紙切れによって、ジョブが異常状態のまま保留になったときに鳴る音量を設定します。

〔トナー残量警告音〕

トナーカートリッジが交換時期になったときに鳴る音量を設定します。

〔エラー解除通知音〕

エラーが解除され、操作が可能になったときに鳴る音量を設定します。

〔ログイン音〕

機械管理者や認証ユーザーとして本機にログインしたときに鳴る音量を設定します。

〔電源オフ音〕

本機の電源を切ったときに鳴る音量を設定します。

〔モバイル端末の接続音〕

本機がモバイル端末からの接続を検知したときに鳴る音量を設定します。

〔画面の設定〕

補足

- 〔初期表示言語〕、〔ボタンの配色〕、〔通知バナーの抑制〕は、最新のソフトウェアの場合に表示されます。

〔初期表示画面〕

電源を入れたり、節電状態を解除したときに表示する画面を設定します。

〔自動リセット後の画面〕

自動リセット後の画面を設定します。

〔認証画面の自動表示〕

認証機能を利用している場合、電源を入れたり、節電状態を解除したときに、認証画面を自動的に表示するかどうかを設定します。

〔画面輝度調整〕

タッチパネルディスプレイの明るさを調整します。

補足

- 調整スライダーの下側にある画面パーツは、表示サンプルです。

〔消耗品情報画面の表示〕

交換が必要な消耗品がある場合に、消耗品の状態を自動的に表示させるかどうかを設定します。

〔USB メモリー検出時の画面表示〕

USB メモリー差込口に USB メモリーを挿入したときに、画面表示を切り替えるかどうかと、切り替える場合の画面を設定します。

補足

- 〔機能選択画面〕に設定すると、USB メモリー挿入時に〔文書プリント〕を開く画面を表示できます。
- USB メモリーを挿入した状態で、電源を入れたときは、機能選択画面は表示されずにホーム画面が表示されます。
- 節電中は、USB メモリー差込口に USB メモリーを差し込んでも、タッチパネルディスプレイは点灯しません。節電状態を解除してから、USB メモリーを差し込み直すか、ホーム画面から利用する機能ボタンをタップしてください。

- 市販のメモリーカードリーダーを本機の USB メモリー差込口に常時差し込んである場合、そのメモリーカードリーダーにメディアを挿入しても、画面は切り替わりません。

[USB メモリー検出時の警告画面表示]

USB メモリー差込口に USB メモリーを挿入したときに、確認画面を表示させるかどうかを設定します。

[キーボード入力制限]

本機で表示されるキーボードの入力可能文字を ASCII のみに制限するかどうかを設定します。

[アップダウンボタンの操作]

スクロールボタンを長押ししたときに、スクロール動作を実施するかどうかを設定します。

[ダブルタップの間隔]

本機の操作パネルでダブルタップ操作をしたときに、ダブルタップとして認識される間隔を設定します。

[リセットボタンの表示]

アプリ画面の上部に、リセットボタンを表示させるかどうかを設定します。

[セキュリティ警告 - 機械管理者設定]

機械管理者のユーザー ID とパスワードが初期値のまま、本機または CentreWare Internet Services で機械管理者モードに入ったとき、セキュリティ警告画面を表示するかどうかを設定します。

[セキュリティ警告 -SNMP 設定]

SNMP プロトコルの設定で、コミュニティ名や認証用パスワードが初期値のまま、本機または CentreWare Internet Services で機械管理者モードに入ったとき、セキュリティ警告画面を表示するかどうかを設定します。

補足

- SNMP プロトコルの設定は、CentreWare Internet Services で設定します。
詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

[セキュリティ警告 - グローバル IP アドレス]

本機にグローバル IP アドレスが設定され、かつ [認証方式の設定] が [認証しない] に設定されている状態で、本機または CentreWare Internet Services で機械管理者モードに入ったとき、セキュリティ警告画面を表示するかどうかを設定します。

[アプリ起動時の設定継続確認画面表示]

ホーム画面の各機能をタップしたときに、前回の設定を引き継ぐかどうかの確認画面を表示するかどうかを設定します。

[通知バナーの表示時間]

メッセージの表示時間を選びます。

[ジョブ確認バナーの表示設定]

自動リセット後に実行中のジョブに関するメッセージを表示するかどうかを設定します。

〔ラン画面の表示形式〕

ジョブを実行したときに、実行中画面とメッセージのどちらを表示するかを設定します。

〔レポート設定〕

〔レポート出力の許可〕

チェックマークを外すと、〔機械確認 / レポート〕 > 〔レポート / リストの出力〕の内容が、機械管理者モード以外の際に表示されなくなります。

参照

- 〔レポート / リストの出力〕の詳細は、〔レポート / リストの出力〕 (P.108) を参照してください。

〔ジョブ履歴レポート〕

処理を行ったジョブの合計が 50 件になったときに、ジョブ履歴レポートを自動的にプリントさせるかどうかを設定できます。

参照

- ジョブ履歴レポートを手動でプリントする方法は、〔ジョブ履歴レポート〕 (P.108) を参照してください。

〔レポートの両面プリント〕

レポート / リストをプリントするときに、片面でプリントするか両面でプリントするかを設定します。

〔強制アノテーション〕

ジョブの種類ごとに関連づけられたレイアウトテンプレートに従い、ユーザー名や日付などの文字列（アノテーション）が強制印字されます。

補足

- UUID 印字が同時に指定されている場合は、重なって印字されます。

本機にはあらかじめ [preset1] ～ [preset4] のレイアウトテンプレートが用意されています。これらのテンプレートで印字される項目は次のとおりです。

- [preset1]、[preset2]

〔文字列登録 1〕で登録した文字が、用紙中央に透かし文字で斜めに印字されます。

用紙の右下（[preset1] の場合）、または左下（[preset2] の場合）に、次の項目が印字されます。

- 上段：文書名、印字を指示したコンピューターの IP アドレス
- 下段：ユーザー名、カード ID、ユーザー ID、年月日時

- [preset3]、[preset4]

〔文字列登録 1〕で登録した文字が、用紙中央に透かし文字で斜めに印字されます。

用紙の右下（[preset3] の場合）、または左下（[preset4] の場合）に、次の項目が印字されます。

- ユーザー ID、年月日時

**補足**

- ジョブの種類や実行形態によっては、印字されない項目があります。
- 本機が作成した白紙ページには、強制アノテーションは印字されません。
- 強制アノテーションで印字される時刻は、本機の状況や設定、出力内容によって、出力を指示した時刻と異なることがあります。印字される時刻は、出力を開始した時刻になります。

参照

- 文字列の登録は、「[文字列の登録]」(P.133) を参照してください。

[レイアウトテンプレートの関連付け]

レイアウトテンプレートとの関連づけを設定します。

補足

- クライアントプリントは、コンピューターからプリント指示をした場合です。
- メディアプリントは、USB メモリーに保存されたデータをプリント指示した場合です。

[レイアウトテンプレートの削除]

レイアウトテンプレートを削除します。

補足

- あらかじめ用意されているテンプレートは削除できません。

[文字列の登録]

強制アノテーションで使用する文字列を登録します。

補足

- あらかじめ用意されているテンプレートで使用できる文字列は、[文字列登録 1] だけです。

[UUID 印字]

印刷ジョブごとにジョブを特定できるように、識別 ID (UUID) を印字できます。

ApeosWare Management Suite 2 (別売) やイメージログ管理機能を利用すると、UUID をキーとしてログを検索し、ジョブごとに「いつ」、「誰が」、「プリントしたか」などの情報を確認できるため、情報漏えいの抑止に効果があります。

補足

- ユーザーに強制印字を一時的に解除する権限を与えることもできます。詳しくは、「権限グループ」(P.191) を参照してください。
- [強制アノテーション] の [レイアウトテンプレートの関連付け] でレイアウトテンプレートを設定している場合は、設定しているテンプレートの上に、ここで設定する文字が印字されます。

参照

- イメージログについては、「[イメージログ管理]」(P.134) を参照してください。
- 強制アノテーションについては、「[強制アノテーション]」(P.132) を参照してください。

[UUID 印字]

UUID 印字をするかどうかを設定します。

[印字位置]

印字する位置を設定します。

[印字位置の微調整]

印字する位置を調整します。

補足

- 微調整値は、用紙の端を 0 mm として、値を大きくすると用紙中央方向に移動します。ただし、印字位置で [中央上] または [中央下] を選んだ場合、よこ方向の調整値は用紙の中央を 100 mm としています。印字位置で [中央上] または [中央下] を選ぶ場合は、微調整値をいったん 100 mm に設定してから調整をしてください。

[うら面の印字位置]

両面にプリントするときに、うら面に印字する UUID の位置を設定します。

[イメージログ管理]

イメージログ管理は、本機で実行されたジョブの文書を画像データとして保存し、ジョブの利用者、利用時刻、部数などのデータと共に、ログとして蓄積 / 管理する機能です。文書が漏えいしたときに、対象文書に対してジョブを実行したユーザーを特定するための情報を保存します。

注記

- イメージログ管理の設定で、[作成保証レベル] を [高]、または [転送保証レベル] を [高] に設定すると、イメージログの作成や転送処理が行われてから印刷されるため、印刷開始が遅くなる場合があります。
- ジョブの文書イメージ、データの容量、イメージログ管理機能以外の複数ジョブの処理の有無、[作成保証レベル] の設定、または [転送保証レベル] の設定によっては、イメージログ管理機能が優先して処理されます。
- イメージログ管理機能は、文書に対するセキュリティ機能を補う目的があるため、イメージログの作成に時間がかかったり、イメージログ管理機能以外のジョブの処理に時間がかかったりすることがあります。
- セキュリティ機能の観点から、本機はデータを蓄積保存することを優先するため、イメージログの作成を中止（強制終了）できません。
- イメージや印刷ジョブのログ（ジョブログ）を検索することによって、システム管理者などが出力者の「識別情報」を把握することになります。イメージログ管理機能を使用したことによる出力者個人のプライバシー保護に関しては、責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 停電などで強制的に電源が切れた場合や、ストレージに異常が発生した場合などは、イメージログの作成・転送が必ず実施されるとは限りません。
- イメージログ管理機能の起動後に実行されたジョブだけが、イメージログ管理機能の対象になります。
- 管理するイメージは、入力イメージを元に作成するため、出力イメージと同じになるとは限りません。次に記載する情報は、出力時に加えられたり、編集されたりする情報のため、イメージには反映されません。
 - 出力時のレイアウト変更
 - 合紙
 - バナー
 - アノテーション
 - フォームオーバーレイ（プリント）
- [イメージログ作成] の [解像度] の設定にかかわらず、入力イメージよりも解像度が高いイメージは作成されません。入力イメージの解像度が、[イメージログ作成] の [解像度] よりも低い場合は、入力イメージと同じ解像度でイメージが作成されます。

- イメージは、最大 8,191 ページまで作成できます。本機への入力イメージが 8,191 ページ以上の場合は、[イメージログ作成] の [作成範囲] に [全ページ] を設定しても、8,191 ページまでのイメージが作成されます。
- ストレージ内のイメージ格納領域が不足した場合、[イメージログ作成] の [作成保証レベル] の設定によって、本機は次のように動作します。
 - [高] の場合：ジョブは中止されます。
 - [低] の場合：ジョブは実行されます。ただし、ジョブ終了時に警告が表示され、イメージ作成が失敗したことを知らせます。
- イメージ作成中にエラーが発生した場合、[イメージログ作成] の [作成保証レベル] の設定によって、本機は次のように動作します。
 - [高] の場合：イメージをエラーイメージ (1x1 ピクセル) と置き換え、システムエラーが発生します。本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。
 - [低] の場合：イメージをエラーイメージ (1x1 ピクセル) と置き換え、ジョブ終了時にエラー情報が記録されます。
- 本機に格納できるイメージログの最大数は、2,000 件です。
- [イメージログ作成] の [解像度] の設定によって、読み取り可能な文字のサイズが異なります。解像度を設定する場合は、次の表を参考にしてください。

解像度	読み取り可能な文字サイズ	一般文書でのめやす
200 dpi	6 pt	一般文書では問題ないレベルです。
100 dpi	14 pt	大きめの文字がわかるレベルです。
72 dpi (初期値)	18 pt	タイトルの文字がわかるレベルです。
50 dpi	24 pt	文字はわかりません。プレビュー用に適しています。
25 dpi	32 pt	文字はわかりません。サムネール用に適しています。

[イメージログ管理]

イメージログ管理を利用するかどうかを設定します。

[イメージログ作成対象]

ジョブの種類ごとに、イメージログを作成するかどうかを設定します。

[イメージログ作成]

ログとして管理する画像データについて設定します。画像データは、ジョブひとつに対して、1 ファイル (PDF 形式) 作成されます。

■ [作成保証レベル]

ログとして管理する画像データを確実に作成するかどうかの保証レベルを、[低]、[高] から設定します。

補足

- [低] に設定した場合、状況によっては、画像データが作成されないことがあります。

■ [解像度]

ログとして管理する画像データの解像度を設定します。

■ [作成範囲]

ログとして管理する画像データを作成する範囲を設定します。

[イメージログ転送]

本機で作成したイメージログは、ログ管理サーバーに転送して、保存 / 管理できます。

■ [転送機能]

転送機能を使用して、イメージログをログ管理サーバーに転送するかどうかを設定します。

■ [転送保証レベル]

作成したイメージログが、ログ管理サーバーに確実に転送されるかどうかを保証するレベルを設定します。[高] に設定すると、イメージログが転送できなかった場合、本体に 2,000 件まで未送信ログとして保存され、2,000 件を超えると次のジョブは実行できなくなります。[低] に設定すると、次のジョブは実行され、2,000 件を超えた古いジョブから削除されます。

■ [転送動作]

本機からログ管理サーバーに、イメージログを自動転送するかどうかを設定します。

■ [時刻指定転送]

[転送動作] で [まとめて転送] に設定すると表示されます。

毎日決まった時刻にイメージログを転送するかどうかを設定します。

■ [転送タイミング]

[転送動作] で [まとめて転送] に設定すると表示されます。

本機からログ管理サーバーに、イメージログを転送するタイミングを指定します。

[プラグイン設定]

カスタム認証機能を利用する場合に利用できるプラグインの一覧を表示したり、切り替えの設定をしたりできます。

補足

- この項目は、カスタマイズ拡張機能をご利用されている場合に表示されます。
- 電子署名の検証の設定は、CentreWare Internet Services で行います。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

[組み込みプラグイン機能]

組み込まれているプラグイン機能を使用するかどうかを設定します。

[組み込みプラグイン一覧]

本機に組み込まれているプラグインの名称、および状態を一覧表示します。

[その他の設定]

[プリントジョブの追い越し]

本機が何らかの原因で実行開始できない（プリントを開始しようとしたときに、用紙トレイの用紙がなくなったなど）場合、ほかに実行開始できるジョブがあるときに、ジョブの追い越しを許可するかどうかを設定します。

補足

- セキュリティプリントやサンプルプリントなどの蓄積文書は、追い越し許可の対象外です。

[プリント用紙サイズ初期値]

レポート / リストをプリントするときに使う用紙サイズを設定します。

[奇数ページ文書の両面処理]

文書のページ数が奇数のときに、最終ページを両面処理するかどうかを設定します。

[サイズ検知切り替え]

用紙を検知するときの用紙サイズグループを設定します。

[ミリ / インチ切り替え]

画面に表示される単位を設定します。

[データの暗号化]

本機に記録されるデータを暗号化するかどうかを設定します。

本機からの情報漏えいを抑止するため、本機に保存されている認証情報、蓄積文書などのデータを暗号化します。また、プリントしたデータを本機に書き込むときに、暗号化されます。

機能ごとに暗号化をするかしないかを設定することはできません。

■ データ暗号化機能の利用開始と設定変更について

データの暗号化の設定 / 解除、および暗号化キーを変更した場合、本機を再起動する必要があります。対応する記憶領域（ストレージ）は、再起動時に初期化されます。このとき、切り替え前のデータは保証されません。

記憶領域には、次のようなデータが保存されます。

- スプールされるプリントデータ
- セキュリティプリント、サンプルプリントなどのプリントデータ
- フォームオーバーレイ機能のフォーム
- デジタル証明書

注記

- データの暗号化機能の利用開始と設定変更は、必ず、必要な設定や文書を保存してから行ってください。
- 現在接続されているストレージが、暗号化の設定と一致しない場合は、エラーとなります。エラーメッセージと処置は、「エラーコード」(P.255)を参照してください。

[秘密情報の暗号化キー]

機械管理者のパスワードなどの秘密情報を暗号化するための暗号化キーを設定します。秘密情報を暗号化することで、ネットワーク上の盗聴や秘密情報の所有者以外からの参照を抑止します。

注記

- 暗号化キーを変更すると、バックアップした秘密情報を復元できなくなることがあります。

補足

- 暗号化キーは、工場出荷時には「x-admin」が設定されています。

[カスタマーエンジニアの操作制限]

カスタマーエンジニアのなりすましによって、本機のセキュリティーの設定が変更されないように、カスタマーエンジニアの操作を制限するかどうかを設定します。

カスタマーエンジニアは、次の項目が変更できなくなります。

- 「[イメージログ管理]」(P.134)
- 「[その他の設定]」(P.136)
- 「[データの暗号化]」(P.137)
- 「[秘密情報の暗号化キー]」(P.137)
- 「[カスタマーエンジニアの操作制限]」(P.138)
- 「[SSL/TLS 設定]」(P.163)
- 「[IPsec 設定]」(P.163)
- 「[機械管理者情報の設定]」(P.170)
- 「[不正使用防止の設定]」(P.174)
- 機械管理の権限を与えられたユーザーの作成 / 変更
- SNMP v 3 の設定変更

カスタマーエンジニアが本機の保守作業をするときには、保守パスワードの入力が必要になります。保守パスワードを 4 ～ 12 桁の英数字で設定してください。

注記

- [カスタマーエンジニアの操作制限] を設定した場合、次のことにご注意ください。
 - 機械管理者のユーザー ID とパスワードを忘れると、カスタマーエンジニアに制限されている項目の変更ができなくなります。
 - 保守パスワードを忘れると、本機でトラブルが発生したときにカスタマーエンジニアによる保守作業ができなくなります。
 - 制限項目の変更や保守作業をするには、電子基板の交換が必要になります。電子基板の交換には、代金ならびに交換手数料が必要になりますので、機械管理者のユーザー ID とパスワード、および保守パスワードは忘れないようにご注意ください。

参照

- 機械管理の権限は、「管理の権限」(P.190) を参照してください。

[ソフトウェアダウンロード]

ソフトウェアダウンロードを許可するかどうかを設定します。この機能は、カスタマーエンジニアが設定します。弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

[データランプの点灯パターン]

データランプの点灯パターンを設定します。

[ジョブ一時停止後の処理]

起動したジョブの操作を途中で止め、[自動リセット] で指定した時間が経過するまで放置した場合に、そのジョブを自動的に継続するか、自動的に中止するか、ユーザーが操作を再開するまで一時停止したままにするかどうかを設定します。

参照

- 自動リセットについては、「[自動リセット]」(P.127) を参照してください。

[アプリ設定]

[プリンター設定]

[プリンター設定] では、プリンター機能に関する仕様を設定します。

[メモリー設定]

インターフェイスごとに、受信バッファ（クライアントから送信されるデータを一時的に蓄えておく場所）のメモリー容量を設定します。

受信バッファ容量は、使用状況と目的に応じて変更できます。受信バッファ容量を増やすと、各インターフェイスに対応するクライアントの解放が早くなることがあります。

注記

- メモリー容量を変更すると、メモリーがリセットされるので、各メモリー領域に格納されているデータは、すべて消去されます。
- メモリーの全体量を超えた割り振りはできません。電源を入れたときに、設定値が搭載メモリー容量を超えた場合は、システムによって自動的に調整されます。

補足

- ポートが [停止] に設定されている場合は、対応する各項目は表示されません。
- クライアントから送信されるデータ量によっては、メモリーの容量を増やしてもクライアントの解放時間が変わらないことがあります。

■ [PostScript 使用メモリー]

PostScript の使用メモリー容量を指定します。

■ [ART EX フォームメモリー]

ART EX でフォームを使用するときの、作業用メモリー領域を設定します。ストレージが取り付けられているときは、ストレージが指定され、変更できません。ストレージが取り付けられていない場合は、作業用メモリー領域を指定します。

■ [ART IV, ESC/P, 201H フォームメモリー]

ART IV、ESC/P、201H でフォームを使用するときの、作業用メモリー領域を設定します。ストレージが取り付けられているときは、ストレージが指定され、変更できません。ストレージが取り付けられていない場合は、作業用メモリー領域を指定します。

■ [ART IV ユーザー定義用メモリー]

ART IV のユーザーが定義するデータ（外字、フォーム、線パターンフォームなど）を格納するメモリー容量を指定します。

■ [HP-GL/2 オートレイアウト用メモリー]

HP-GL/2 のオートレイアウト機能を使用するときの、作業用メモリー領域を設定します。ストレージが取り付けられているときは、ストレージが指定され、変更できません。ストレージが取り付けられていない場合は、作業用メモリー領域を指定します。

■ [ジョブチケット用メモリー]

ジョブチケット（ジョブの出力部数や後処理などを記述したもの）の処理に使用するメモリー容量を指定します。

■ [受信バッファ - LPD]

スプール処理するかどうかを設定します。スプール処理用の受信バッファは、ストレージが使用されます。

補足

- [スプールしない] に設定すると、LPD プリント処理をしている間は、同じインターフェイスで別のクライアントからのデータを受信できません。
- [LPD のプリント順序] の設定により、[受信バッファ -LPD] が変更できないことがあります。詳しくは、「[LPD のプリント順序]」(P.144) を参照してください。

■ [受信バッファ -IPP]

スプール処理するかどうかを設定します。スプール処理用の受信バッファは、ストレージが使用されます。

補足

- [スプールしない] に設定すると、IPP プリント処理をしている間は、同じインターフェイスで別のクライアントからのデータを受信できません。

[フォーム削除]

登録されたフォームを個別に削除します。プリンターモードごとのフォーム番号を指定して、表示されたフォーム名称を確認してから削除してください。

[蓄積プリント文書の保存設定]

蓄積されているプリント文書（認証プリント、プライベートプリント、セキュリティプリント、サンプルプリントの文書）を保存期間が経過したときに削除するかどうかを設定します。

[プリント文書一覧の初期表示]

蓄積プリント文書（認証プリント、セキュリティプリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、プライベートプリントの文書）の一覧を [リスト表示] または [サムネール表示] に設定します。

[プリント時の確認画面表示]

蓄積プリント文書をプリントするときに、プリント後の文書削除に関する確認画面を表示するかどうかを設定します。[しない] に設定すると、プリント後に文書は自動的に削除されます。

[プレビューイメージの作成]

蓄積プリント文書（認証プリント、セキュリティプリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、プライベートプリントの文書）の一覧を表示するときに、プレビューイメージを作成するかどうかを設定します。

補足

- プレビューイメージを作成するかしないかはプリンタードライバーから設定することもできます。プリンタードライバーと本体とで異なる設定が行われた場合は、プリンタードライバーの設定が優先されます。

[プレビューイメージの作成時間]

蓄積プリント文書のプレビューイメージの作成時間を制限するかどうかを設定します。[制限する] に設定すると、制限時間内で作成されたプレビューイメージだけが表示され、制限時間を越えたプレビューイメージは表示されません。

[蓄積時の暗証番号最小桁数]

セキュリティプリント文書や認証プリント文書を蓄積したり、プリントしたりするときに必要な暗証番号の最小桁数を設定します。

補足

- 最小桁数を指定しない場合や、暗証番号を入力しない場合は、[0] に設定します。

[全文書選択時のプリント順]

保存文書の全文書を選んだ場合のプリントの順番を設定できます。

[その他の設定]

プリンターで使用する用紙に関する設定をします。

■ [プリント可能領域]

プリント可能領域を拡張するかどうかを設定します。

参照

- プリント可能領域は、「プリント可能領域」(P.273) を参照してください。
- 拡張した場合の印字領域は、「拡張印字領域」(P.273) を参照してください。

■ [用紙の置き換え]

自動トレイ選択で選択された用紙サイズの用紙がセットされたトレイがない場合に、ほかの用紙トレイにセットされている用紙に置き換えてプリントをするかどうかを設定します。

補足

- ART IV、PC-PR201H、ESC/P、HP-GL/2 などのエミュレーションを使用してプリントする場合は、ここでの設定にかかわらず、用紙補給のメッセージが表示されます。
- クライアント側から指定があった場合は、クライアント側の指定が優先されます。

◆ [用紙補給を表示]

置き換えはしないで、用紙補給のメッセージを表示します。

◆ [大きいサイズを選択]

選択されている用紙サイズの次に大きなサイズの用紙に置き換えて、等倍でプリントします。

◆ [近いサイズを選択]

選択されている用紙サイズに最も近いサイズの用紙に置き換えてプリントします。置き換える用紙の長さ、または幅が画像のサイズに足りないときは、自動的に縮小してプリントされます。

◆ [近いサイズを選択 (等倍)]

選択されている用紙サイズに最も近いサイズの用紙に置き換えてプリントします。画像が収まらない場合でも縮小は行われません。

◆ [トレイ 5 (手差し) を選択]

選択されている用紙サイズでトレイ 5 (手差し) からプリントします。サイズが異なる用紙がセットされていた場合は、選択されているサイズの用紙をセットするようにメッセージが表示されます。

◆ [AB 系 / インチ系置き換え]

AB 系サイズの用紙と、インチ系サイズの用紙を置き換えてプリントします。

置き換え可能な組み合わせは以下の通りです。

- A5 と 5.5×8.5"
- A4 と レター (8.5×11")

■ [用紙種類不一致時の処理]

プリンタードライバーなどでプリント時に指定された用紙種類と、用紙トレイにセットされている用紙種類が一致しない場合の処理を設定します。

◆ [プリントする]

用紙トレイに設定されている用紙の種類でプリントされます。

◆ [確認画面を表示する]

プリントするかどうかの確認画面が表示されます。

プリントする場合は、プリンタードライバーなどでプリント時に指定された用紙種類の指定は無効となり、[トレイの優先順位] や用紙サイズ、[用紙の置き換え] の設定に従ってプリントされます。

◆ [設定変更画面を表示する]

ディスプレイに表示されたメッセージに従って、用紙トレイの用紙を入れ替えたあと、[スタート] をタップすると、用紙トレイに設定されていた用紙種類が、ディスプレイに表示された用紙種類の設定に変更されて、プリントされます。

注記

- 用紙種類が変更された用紙トレイは、プリントが終了したあとも、変更後の用紙種類の設定が保持されます。
- 用紙を入れ替えずに [スタート] をタップした場合、用紙トレイの用紙種類の設定が、ディスプレイに表示された用紙種類に変更されてプリントされますが、実際にセットされている用紙の種類とプリンタードライバーなどで指定した用紙種類が異なるため、印字品質は保証されません。

■ [手差しトレイの優先選択]

プリンタードライバーで [用紙トレイ選択] を [自動] に指定しているときに、トレイ 5 (手差し) を最優先で選ぶかどうかを設定します。

補足

- プリントジョブで指定している用紙サイズと用紙種類がセットされている用紙と一致するときに、トレイ 5 (手差し) から給紙されます。

■ [手差しプリントの確認]

トレイ 5 (手差し) の用紙にプリントするときに、セットされている用紙を確認する画面を表示するかどうかを設定します。

■ [未登録フォーム指定時の処理]

フォームデータファイル (オーバーレイ印字) にプリント指示されたフォームが、プリンター側で未登録だった場合に、ジョブをプリントするかどうかを設定します。[プリントする] に設定した場合、指定したフォームがないため、データだけがプリントされます。

■ [異常終了後のプリント処理]

エラーなどでプリントジョブがキャンセルされるときに、そのジョブを自動的にキャンセルするかどうかを設定します。

補足

- 本機は後続のプリントジョブを制限するため、オフライン状態になります。

◆ [自動的に再開する]

そのジョブを自動的にキャンセルし、以降のジョブを連続してプリントします。

◆ [ユーザー操作で再開する]

そのジョブをキャンセルする前に、確認画面を表示します。ジョブをキャンセルしてオンラインに戻すと、以降のジョブのプリントが再開されます。

■ [紙づまり発生時のプリント処理]

プリント実行中に紙づまりなどのエラーが発生した場合、紙づまりの処置が終了したあとのプリント処理方法を設定します。

◆ [紙づまり除去後再開する]

紙づまりの処置が終了すると、正常に排出された次のページから、自動的にプリントを再開します。

◆ [プリントを中止する]

プリントを中止して、そのプリントジョブを削除します。

補足

- 蓄積されているプリント文書（認証プリント、プライベートプリント、セキュリティープリント、サンプルプリントの文書）は、[プリントを中止する]を設定していても、紙づまりの処置が終了するとプリントを再開します。

■ [ID 印字]

プリンタードライバーを使ってプリントする場合、ユーザーを区別するために、プリントする用紙にプリンタードライバーに設定されたユーザー ID を印字するかどうかを設定します。プリンタードライバーに設定されたユーザー ID のうち、先頭の 64 文字まで印字されます。

補足

- ID 印字機能を使用するには、あらかじめプリンタードライバーで、ユーザー ID の設定が必要です。設定方法は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- プリンタードライバーに設定されたユーザー ID が取得できない場合は、「UnknownUser」と印字されます。

■ [バナーシート出力]

本機を複数のユーザーで使用している場合など、ユーザーごとのジョブを区分けして、印刷物が混在しないようにバナーシートを出力します。ジョブの前や後ろに出力できます。

バナーシートには、日付、時間、ユーザー名、ファイル名などが印刷されます。

補足

- macOS/OS X からのプリントジョブのバナーシートには、文書名は表示されません。
- バナーシートをプリントした場合は、メーターに加算されます。

■ [バナーシートトレイ]

仕分け用の用紙（バナーシート）を給紙するトレイを設定します。

トレイ 5（手差し）は設定できません。

■ [PostScript の用紙選択]

用紙選択時に、PostScript の遅延媒体選択（Deferred Media Selection）機能を有効にするかどうかを設定します。遅延媒体選択機能を有効にする場合は [自動] に、無効にする場合は [用紙トレイから選択] に設定します。

プリンタードライバー以外が生成する PostScript データを印刷するときに、PostScript データの記述方法によっては、意図どおりにトレイが選択されないことがあります。その場合は [用紙トレイから選択] に設定してください。

補足

- [自動] に設定していても、[用紙の置き換え] で [大きいサイズを選択] または [近いサイズを選択] を選んで、PostScript データを印字すると、自動的に [用紙トレイから選択] に切り換わります。

■ [PS フォント未搭載時の処理]

ジョブで指定された PostScript フォントがなかった場合の処理を設定します。
[フォントを置換えてプリントする] に設定したときに、指定されたフォントがなかった場合は、Courier に置き換えられます。

置き換えられたフォントが日本語の場合は正しくプリントされません。日本語フォントでプリントする場合は [PostScript のフォント置き換え] を [ATCx を使用する] に設定してください。

■ [PostScript のフォント置き換え]

ジョブで指定された PostScript フォントがなかった場合、フォントの置き換えで ATCx を使用するかどうかを設定します。

ATCx 機能は、ジョブで指定されたフォントが本機に搭載されていない日本語フォントの場合に、本機に搭載されている日本語の PostScript フォントに置き換えてプリントする機能です。

■ [XPS PrintTicket 処理]

XPS (XML Paper Specification) 文書内に記述された印刷設定 (PrintTicket) を読み込むときの本機の動作を設定します。

◆ [無効]

PrintTicket 処理をしません。

◆ [標準モード]

PrintTicket 処理を標準モードで行います。

◆ [準拠モード]

PrintTicket で記述された印刷設定を Microsoft の仕様に準拠した動作で行います。

■ [LPD のプリント順序]

LPD のプリントの順番を設定します。

補足

- [LPD のプリント順序] の変更により、[受信バッファ -LPD] が自動的に変更されることがあります。詳しくは、「[受信バッファ - LPD]」(P.140) を参照してください。

◆ [受け付けと同時にプリント]

印刷データを受信後すぐに印刷されます。

注記

- 本設定は LPD の受信バッファが [スプールする] 設定のときのみ有効です。ほかの設定のときは [データ処理順] で印刷されます。

◆ [データ処理順]

印刷データを受信後、出力可能な状態になった順序で印刷されます。

複数の文書を連続して印刷要求した場合、データ処理に時間がかかる印刷データを先に印刷要求しても、データ処理が終了した印刷データが先に印刷されることがあります。

◆ [受け付け順]

lpr の印刷要求を受け付けた順番で印刷されます。

注記

- 本設定は LPD の受信バッファが [スプールする] 設定のときのみ有効です。ほかの設定のときは [データ処理順] で印刷されます。

■ [OCR フォントのグリフ (0x5C)]

OCR フォントを使用するときに、「0x5C」の文字をバックスラッシュ (\) と円記号 (¥) のどちらで印字するかを設定します。

[ジョブ情報設定]

[蓄積プリント文書の保存設定]

蓄積されているプリント文書（認証プリント、プライベートプリント、セキュリティプリント、サンプルプリントの文書）を保存期間が経過したときに削除するかどうかを設定します。

[プリント文書一覧の初期表示]

蓄積プリント文書（認証プリント、セキュリティプリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、プライベートプリントの文書）の一覧を [リスト表示] または [サムネール表示] に設定します。

[プリント時の確認画面表示]

蓄積プリント文書をプリントするときに、プリント後の文書削除に関する確認画面を表示するかどうかを設定します。[しない] に設定すると、プリント後に文書は自動的に削除されます。

[プレビューイメージの作成]

蓄積プリント文書（認証プリント、セキュリティプリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、プライベートプリントの文書）の一覧を表示するときに、プレビューイメージを作成するかどうかを設定します。

補足

- プレビューイメージを作成するかしないかはプリンタードライバーから設定することもできます。プリンタードライバーと本体とで異なる設定が行われた場合は、プリンタードライバーの設定が優先されます。

[プレビューイメージの作成時間]

蓄積プリント文書のプレビューイメージの作成時間を制限するかどうかを設定します。[制限する] に設定すると、制限時間内で作成されたプレビューイメージだけが表示され、制限時間を越えたプレビューイメージは表示されません。

[蓄積時の暗証番号最小桁数]

セキュリティプリント文書や認証プリント文書を蓄積したり、プリントしたりするときに必要な暗証番号の最小桁数を設定します。

補足

- 最小桁数を指定しない場合や、暗証番号を入力しない場合は、[0] に設定します。

[全文書選択時のプリント順]

保存文書の全文書を選んだ場合のプリントの順番を設定できます。

[外部アクセス設定]

外部アクセスの接続先を設定します。

外部アクセスとは、本機と連携した外部サービスを操作パネルに直接表示したり、外部のサーバーに保存されている文書を選んで直接プリントしたりする機能です。コンピューターを経由せずに、ファイルのプリントができます。

〔接続先の登録〕

外部アクセスの接続先を登録します。

補足

- 登録したいサーバーが複数ある場合は、登録先をホーム画面に表示されるボタンに割り付けると便利です。ホーム画面のボタンの表示方法は、「ホーム画面のカスタマイズ」(P.59)を参照してください。

〔その他の設定〕

■〔認証情報送信時の確認画面〕

本機でユーザー認証をしたときのユーザー情報（認証したユーザー ID、パスワード、メールアドレス、サービス制限など）を外部アクセスの接続先サーバーに送信するときに、確認画面を表示するかどうかを設定します。

補足

- 〔表示しない〕に設定しても、認証情報に不備があるときには確認画面が表示されます。

〔Web ブラウザー設定〕

外部アクセス時の Web ブラウザーに関する設定をします。外部アクセスとは、本機と連携した外部サービスを操作パネルに直接表示したり、外部のサーバーに保存されている文書を選んで直接プリントしたりする機能です。コンピューターを経由せずに、ファイルのプリントができます。

注記

- 〔外部アクセスバージョンの選択〕は、他機との連携サービス使用時に必要に応じて設定します。

〔外部アクセスバージョンの選択〕

外部アクセスバージョンを設定します。

補足

- Web ブラウザーバージョンの V3 を使用する場合は、〔V4〕に設定します。

〔終了時の永続 Cookie 削除〕

外部アクセス終了時に永続（期限付き）Cookie を削除するかどうかを設定します。

補足

- 本機が認証モードに設定されている場合は、この機能の設定に関わらず、ユーザーがログアウトするたびに永続 Cookie を削除します。

〔終了時のキャッシュ削除〕

外部アクセス終了時にキャッシュを削除するかどうかを設定します。

〔キャッシュの使用〕

キャッシュを利用するかどうかを設定します。

〔Cookie の使用〕

Cookie を使用するかどうかを設定します。

〔SSL 証明書検証失敗時の動作〕

SSL サーバー証明書の検証を失敗したときに、サーバーへのアクセスを中止するか、アクセス確認画面を表示するかを設定します。

[ファイルプリント機能の使用]

ファイルプリント機能を使用するかどうかを設定します。ファイルプリント機能とは、外部 Web サーバーから取得した印刷可能なファイルを直接プリントできる機能です。

[機能コード]

他機との連携サービス使用時に必要に応じて設定します。

[リモートアシスタンス設定]

リモートアシスタンスに関する仕様を設定します。

[サービス起動待ち時間の上限]

サービス起動待ち時間の上限を、60 ～ 600 秒の範囲で 1 秒単位で指定します。

[ネットワーク設定]

参照

- ネットワーク設定については、「本機をコンピューターに接続する」(P.24)、「メール機能の設定」(P.45) も参照してください。

[ポート設定]

クライアントに接続されている本機のインターフェイスの設定をします。

注記

- LPD、Port9100、HTTP-SSL/TLS 通信は、ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

HTTP を使用するポート (IPP、インターネットサービス (HTTP)、UPnP ディスカバリー、SOAP、Web Services on Devices (WSD)、BMLinkS) は、LPD、Port9100、HTTP-SSL/TLS 通信のポート番号と同じ番号を使用しないでください。

また上記のどれも、次のポート番号を設定した場合、ポートの設定状況によっては正常に動作しなくなることがあります。

25、139、427、445、631、15000

参照

- HTTP-SSL/TLS 通信ポートについては、「[HTTP - SSL/TLS 通信ポート番号]」(P.163) を参照してください。

[USB]

■ [USB- ポート]

USB を使用するときは [起動] に設定します。

■ [USB- プリントモード指定]

使用するプリント言語の種類を設定します。[自動] に設定すると、ホスト装置から受信したデータが、どの言語で記述されているかを自動的に判断し、データに合わせて適切にプリント処理します。

■ [USB-JCL]

JCL (Job Control Language) コマンドとは、実際のプリントジョブの先頭に付加されたデータです。通常は、[有効] のままで使用します。

■ [USB- 自動排出時間]

本機にデータが送られなくなってから、用紙を自動的に排出するまでの時間を設定します。

◆ [PS 印刷待ちタイムアウト]

本機ではデータを一定時間受信しないと、接続を自動的に切断します。[USB- Adobe 通信プロトコル] を [RAW] に設定して、データを印刷しているときに、接続を切断するまでの時間を [USB- 自動排出時間] に従う場合は [無効]、PostScript のタイムアウトに従う場合は [有効] に設定します。

■ [USB - Adobe 通信プロトコル]

◆ [標準]

プリンタードライバーの出力プロトコルが ASCII 形式のときに設定します。

◆ [バイナリー]

プリンタードライバーの出力プロトコルが BCP 形式のときに設定します。

◆ [TBCP]

プリンタードライバーの出力プロトコルが TBCP 形式のときに設定します。

◆ [RAW]

プリンタードライバーの出力プロトコルが ASCII 形式またはバイナリ形式のときに設定します。

Adobe® 通信プロトコルの制御を受けないで、データをそのまま出力します。

[LPD]**■ [LPD- ポート]**

LPD を使用するときは [起動] に設定します。

■ [LPD- ポート番号]

LPD のポート番号を設定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■ [LPD- セッション数]

本機に LPD で同時に接続できるクライアントの最大数を設定します。

[IPP]**■ [IPP- ポート]**

IPP を使用するときは [起動] に設定します。

IPP (Internet Printing Protocol) を使って、インターネット経由でプリントするときに設定します。

■ [IPP- 追加ポート番号]

標準のポート番号以外で IPP を受け付けるかどうかを設定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート (インターネットサービス (HTTP)、UPnP ディスカバリー、SOAP、Web Services on Devices (WSD)、BMLinkS) は、同じポート番号を共用できます。

補足

- [IPP- ポート] が [停止] に設定されているときは、[IPP- 追加ポート番号] は設定できません。[IPP- ポート] を [起動] に設定し、ホームボタンを押して [はい (再起動する)] をタップして本機が再起動したあとに、[IPP- 追加ポート番号] を設定してください。

[Bonjour]**■ [Bonjour- ポート]**

Bonjour を使用するときは [起動] に設定します。

補足

- Bonjour を使用して検出したプリンターでプリントするためには、LPD ポートを起動しておく必要があります。

[Port9100]

■ [Port9100- ポート]

Port9100 を使用するときは [起動] に設定します。

Windows の標準 TCP/IP ポートモニターで Raw プロトコルを使用する場合に設定します。

■ [Port9100- ポート番号]

Port9100 のポート番号を設定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

[SNMP]

■ [SNMP- ポート]

本機をネットワーク上で管理する弊社製アプリケーションを使用する場合など、SNMP を使用するときは [起動] に設定します。

[メール受信]

■ [メール受信 - ポート]

メールを受信するときは [起動] に設定します。

[メール通知サービス]

■ [メール通知サービス - ポート]

メール通知サービスを使用するときは [起動] に設定します。メール通知サービスとは、本機の状態やプリントジョブの実行終了をメールで通知する機能です。

補足

- 通知される本機の状態は、[消耗品の状態]、[交換部品の状態]、[用紙の状態]、[排出先の状態]、[ジャム状態]、[インターロック状態]、[フォルトの通知] です。
- メール通知サービスの設定は CentreWare Internet Services で行います。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

[UPnP ディスカバリー]

■ [UPnP ディスカバリー - ポート]

UPnP を使用するときは [起動] に設定します。

■ [UPnP ディスカバリー - ポート番号]

UPnP の通信で使用するポート番号を設定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート (IPP、インターネットサービス (HTTP)、UPnP ディスカバリー、SOAP、Web Services on Devices (WSD)、BMLinkS) は、同じポート番号を共用できます。

[WSD]

■ [WSD プリント - ポート]

WSD プリントを使用するときは [起動] に設定します。

Windows OS からネットワーク内の機器を検索するときに設定します。

■ [WSD- ポート番号]

WSD の通信で使用するポート番号を設定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート (IPP、インターネットサービス (HTTP)、UPnP ディスカバリー、SOAP、Web Services on Devices (WSD)、BMLinkS) は、同じポート番号を共用できます。

[BMLinkS]

■ [BMLinkS - ポート]

BMLinkS を使用するときは [起動] に設定します。

■ [プリントサービス - ポート番号]

プリントサービス用のポート番号を設定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート (IPP、インターネットサービス (HTTP)、UPnP ディスカバリー、SOAP、Web Services on Devices (WSD)、BMLinkS) は、同じポート番号を共用できます。

■ [ディスカバリー - ポート番号]

ディスカバリー用のポート番号を設定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート (IPP、インターネットサービス (HTTP)、UPnP ディスカバリー、SOAP、Web Services on Devices (WSD)、BMLinkS) は、同じポート番号を共用できます。

[インターネットサービス (HTTP)]

■ [インターネットサービス - ポート]

CentreWare Internet Services を使用するときは [起動] に設定します。

参照

- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を使う」(P.63) を参照してください。

■ [インターネットサービス - ポート番号]

インターネットサービスで使用するポート番号を設定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート (IPP、インターネットサービス (HTTP)、UPnP ディスカバリー、SOAP、Web Services on Devices (WSD)、BMLinkS) は、同じポート番号を共用できます。

補足

- [インターネットサービス - ポート] が [停止] に設定されているときは、[インターネットサービス - ポート番号] は設定できません。[インターネットサービス - ポート] を [起動] に設定し、ホームボタンを押して [はい (再起動する)] をタップしてください。本機が再起動したあとに、[インターネットサービス - ポート番号] を設定してください。

[SOAP]

■ [SOAP- ポート]

Device Setup (デバイス設定ツール) などのアプリケーションを使用する場合など、SOAP ポートを使用するときは [起動] に設定します。

■ [SOAP- ポート番号]

SOAP で使用するポート番号を設定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート (IPP、インターネットサービス (HTTP)、UPnP ディスカバリー、SOAP、Web Services on Devices (WSD)、BMLinkS) は、同じポート番号を共用できます。

[ThinPrint]

■ [ThinPrint- ポート]

本機は、ThinPrint 環境での印刷に対応しています。サーバー (Windows Server) から圧縮して送られた印刷データを解凍して印刷します。

■ [ThinPrint- ポート番号]

ThinPrint で使用するポート番号を設定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。

補足

- 通信プロトコルが IPv4 で動作しているときに利用できます。
- 同時に接続できる最大接続数は、3 です。

[無線 LAN 設定]

無線 LAN 通信を行う際の基本設定をします。

参照

- 設定手順については、「無線キットの接続」(P.31) を参照してください。

[プロトコル設定]

通信に必要な条件を設定します。

[Ethernet 設定]

■ [Ethernet1- ネットワークの名称]

Ethernet インターフェイスの名称を設定します。

補足

- 無線 LAN を取り付けている場合に設定できます。

■ [Ethernet- 速度設定] / [Ethernet1- 速度設定]

Ethernet インターフェイスの通信速度を設定します。接続するネットワーク環境に合わせて、自動検知または固定の速度を選びます。

■ [Energy Efficient Ethernet]

Ethernet インターフェイスの省電力機能を有効にするかどうかを設定します。

[TCP/IP - 共通設定]

■ [プライマリーネットワーク]

複数のインターフェイスを使用している場合、プライマリーネットワークとして動作するネットワークの名称が表示されます。

補足

- プライマリーネットワークの設定は、CentreWare Internet Services で行います。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

■ [IP 動作モード]

TCP/IP の動作モードを設定します。

[TCP/IP - ネットワーク設定] / [TCP/IP 設定 (Ethernet1)]、[TCP/IP 設定 (Wi-Fi)]

注記

- [TCP/IP 設定 (Ethernet1)]、[TCP/IP 設定 (Wi-Fi)] に同じ IP アドレスを設定することはできません。同一 IP アドレスを設定したい場合は、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

補足

- 本設定のタイトルはインターフェイスが 1 回線るとき [TCP/IP - ネットワーク設定] のみ表示されます。無線キットを取り付けている場合は、[TCP/IP 設定 (Ethernet1)] および [TCP/IP 設定 (Wi-Fi)] が表示されます。
- [TCP/IP 設定 (Ethernet1)]、[TCP/IP 設定 (Wi-Fi)] には [TCP/IP - ネットワーク設定] と同じ設定項目が表示されます。インターフェイスごとに独立した TCP/IP のネットワーク設定ができます。
- [Ethernet1- ネットワークの名称] で任意の名称を設定した場合、[TCP/IP 設定 (Ethernet1)] の「Ethernet1」に設定した名称が表示されます。

■ [IPv4 - IP アドレス取得方法]

IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの取得方法を指定します。

■ [IPv4 - IP アドレス]

[IPv4-IP アドレス取得方法] で [手動で設定] を選んだ場合に、IP アドレスを指定します。

■ [IPv4 - サブネットマスク]

[IPv4-IP アドレス取得方法] で [手動で設定] を選んだ場合に、サブネットマスクを指定します。

■ [IPv4 - ゲートウェイアドレス]

[IPv4-IP アドレス取得方法] で [手動で設定] を選んだ場合に、ゲートウェイアドレスを指定します。

■ [IPv4 - DNS 設定]

DNS サーバーを設定します。

◆ [DHCP からのアドレス取得]

DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから自動的に取得するかどうかを設定します。

◆ [DNS サーバーアドレス 1] ～ [DNS サーバーアドレス 3]

[DHCP からのアドレス取得] のチェックマークを外したときは、DNS サーバーのアドレスを手動で設定します。DNS サーバーアドレス 2 と 3 には代替 DNS サーバーのアドレスを設定できます。

■ [IPv4 - 受付 IP アドレス制限]

本機への接続を IPv4 アドレスで制限するかどうかを設定します。

補足

- [IPv4- 受付 IP アドレス制限] は、TCP/IP を使用する全機能が対象となります。たとえば、プリント、CentreWare Internet Services、外部アクセスなどです。
- 接続を受け付ける IPv4 アドレスの登録は、CentreWare Internet Services の [受付 IP アドレス制限] で行います。設定方法は、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。また、使用方法は、「CentreWare Internet Services を使う」(P.63) を参照してください。

■ [IPv6 - アドレスの手動設定]

IPv6 アドレスを手動で設定するかどうかを設定します。

■ [IPv6 - 手動設定 IP アドレス]

[IPv6- アドレスの手動設定] にチェックマークを付けたときに、本体の IPv6 アドレスを設定します。

■ [IPv6 - 手動 IP アドレスプレフィクス]

[IPv6- 手動設定 IP アドレス] を設定した場合に、プレフィクス長を設定します。

■ [IPv6 - 手動設定ゲートウェイ]

[IPv6- 手動設定 IP アドレス] を設定した場合に、ゲートウェイアドレスを設定します。

■ [IPv6 - DNS 設定]

DNS サーバーを設定します。

◆ [DHCP からのアドレス取得]

DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから自動的に取得するかどうかを設定します。

◆ [DNS サーバーアドレス 1] ~ [DNS サーバーアドレス 3]

[DHCP からのアドレス取得] のチェックマークを外したときは、DNS サーバーのアドレスを手動で設定します。DNS サーバーアドレス 2 と 3 には代替 DNS サーバーのアドレスを設定できます。

■ [IPv6 - 自動設定アドレス]

自動的に設定された IP アドレスを表示します。

補足

- 手動で IP アドレスを設定している場合、ステートレス自動設定で割り当て可能なアドレスは 2 つまでです。

■ [IPv6 - 受付 IP アドレス制限]

本機への接続を IPv6 アドレスで制限するかどうかを設定します。

補足

- [IPv6- 受付 IP アドレス制限] は、TCP/IP を使用する全機能が対象となります。たとえば、プリント、CentreWare Internet Services、外部アクセスなどです。
- 接続を受け付ける IPv6 アドレスの登録は、CentreWare Internet Services の [受付 IP アドレス制限] で行います。設定方法は、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。また、使用方法は、「CentreWare Internet Services を使う」(P.63) を参照してください。

[Ping 接続確認]

設定した条件で本機とお使いのコンピューターが正しく通信できるかを確認できます。

[ネットワークプロトコルレポート出力]

プライマリーインターフェイスのプロトコル設定をレポート出力します。

[本体メールアドレス / ホスト名]

[メールアドレス]

本機のメールアドレスを、128 文字以内で入力します。

■SMTP 受信の場合

アカウント (@ マークの左側) は、任意の名称を設定できます。アドレス部 (@ マークの右側) には、ホスト名とドメイン名を組み合わせたものを設定します。エイリアスは設定できません。

たとえば、

- アカウント名 : mymail
- ホスト名 : myhost
- ドメイン名 : example.com

の場合、メールアドレスは、mymail@myhost.example.com となります。

■POP3 受信の場合

アカウント (@ マークの左側) には POP3 ユーザー名を、アドレス部 (@ マークの右側) には受信用 POP3 メールサーバー名を設定します。mymail@example.com のようなエイリアスも設定できます。

たとえば、

- アカウント名 : mymail

の場合、メールアドレスは、mymail@myhost.example.com となります。

[名前]

本機の名前を 32 文字以内で入力します。

[ホスト名]

ホスト名を半角 32 文字以内で入力します。

注記

- SMB で通信する場合、先頭から半角 15 文字までをホスト名として使用します。本機を正しく識別するためには、ホスト名を半角 15 文字以内で設定してください。

[ドメイン名]

ドメイン名を 64 文字以内で入力します。

[プロキシサーバー一覧]

外部アクセスを使用するときに設定してください。

注記

- プロキシ設定が必要なサービスを使う場合だけ、設定を変更してください。

[プロキシサーバー設定] / [プロキシサーバー設定 -Ethernet1]、[プロキシサーバー設定 -Wi-Fi]

お使いのネットワーク環境に応じて、インターフェイスごとのプロキシサーバー設定ができます。

■ [プロキシサーバーの使用]

プロキシサーバーを使用するかどうかを設定します。

■ [プロキシサーバー指定方法]

プロキシサーバーの指定方法を設定します。

■ [PAC ファイルの URL]

[プロキシサーバー指定方法] を [PAC ファイルを指定] に設定した場合に、URL を指定します。

■ [プロキシを使用しないアドレス]

プロキシサーバーを使用しないアドレスを設定します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。また、「*」（ワイルドカード）を使った指定もできます。

■ [HTTP プロキシサーバー - サーバー名]

HTTP プロキシサーバーのサーバー名または IP アドレスを入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

■ [HTTP プロキシサーバー - ポート番号]

HTTP プロキシサーバーのポート番号を指定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■ [HTTP プロキシサーバー - 認証]

HTTP プロキシサーバーに接続するときに認証が必要な場合は、[有効] に設定します。

■ [HTTP プロキシサーバー - ログイン名]

HTTP プロキシサーバーのログイン名を入力します。

■ [HTTP プロキシサーバー - パスワード]

HTTP プロキシサーバーのパスワードを入力します。

■ [HTTPS プロキシサーバー - サーバー名]

HTTPS プロキシサーバーのサーバー名または IP アドレスを入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

■ [HTTPS プロキシサーバー - ポート番号]

HTTPS プロキシサーバーのポート番号を指定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■ [HTTPS プロキシサーバー - 認証]

HTTPS プロキシサーバーに接続するときに認証が必要な場合は、[有効] に設定します。

■ [HTTPS プロキシサーバー - ログイン名]

HTTPS プロキシサーバーのログイン名を入力します。

■ [HTTPS プロキシサーバー - パスワード]

HTTPS プロキシサーバーのパスワードを入力します。

[EP プロキシサーバー設定]

インターネットを使用して EP システムを利用する場合の、EP 通信用のプロキシサーバーについて設定します。

注記

- インターネットを使用する EP システムの場合に、設定を変更してください。

[プロキシサーバー指定方法]

プロキシサーバーの指定について設定します。[プロトコルごとに設定] に設定すると、HTTPS プロキシサーバーおよび HTTP プロキシサーバーをそれぞれ設定できます。

[すべてのプロトコルに同じ設定] に設定すると、HTTPS プロキシサーバーの設定が HTTP プロキシサーバーに反映されます。

[HTTPS プロキシサーバー - サーバー名]

HTTPS プロキシサーバーのサーバー名または IP アドレスを入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

[HTTPS プロキシサーバー - ポート番号]

HTTPS プロキシサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

[HTTPS プロキシサーバー - 認証]

HTTPS プロキシサーバーに接続するときに認証が必要な場合は、[有効] に設定します。

[HTTPS プロキシサーバー - ログイン名]

HTTPS プロキシサーバーのログイン名を入力します。

[HTTPS プロキシサーバー - パスワード]

HTTPS プロキシサーバーのパスワードを入力します。

[HTTP プロキシサーバー - サーバー名]

HTTP プロキシサーバーのサーバー名または IP アドレスを入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

[HTTP プロキシサーバー - ポート番号]

HTTP プロキシサーバーのポート番号を指定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

[HTTP プロキシサーバー - 認証]

HTTP プロキシサーバーに接続するときに認証が必要な場合は、[有効] に設定します。

[HTTP プロキシサーバー - ログイン名]

HTTP プロキシサーバーのログイン名を入力します。

[HTTP プロキシサーバー - パスワード]

HTTP プロキシサーバーのパスワードを入力します。

[メール送受信設定]

[POP3 サーバー設定]

■ [POP3 サーバー - サーバー名 / アドレス]

POP3 サーバーのサーバー名または IP アドレスを入力します。

■ [POP3 サーバー - ポート番号]

POP3 サーバーのポート番号を設定します。

■ [POP3 サーバー - 受信間隔]

POP3 サーバーへのメールの確認間隔を設定します。

■ [POP3 サーバー - ログイン名]

POP3 サーバーにログインするための名前を入力します。

■ [POP3 サーバー - パスワード]

POP 受信用のパスワードを設定します。

■ [POP 受信パスワードの暗号化]

パスワードを暗号化するかどうかを設定します。

[SMTP サーバー設定]

[接続確認] をタップし、本機から指定したメールアドレスにテストメールを送信することで、本機と SMTP サーバーとの接続状況を確認できます。また、[接続確認] > [SMTP 通信レポート出力] を選ぶと、本機が送信 / 受信した SMTP 通信のプロトコルの内容を表すレポートが出力されます。

■ [SMTP サーバー - サーバー名 / アドレス]

SMTP サーバーのサーバー名または IP アドレスを入力します。

■ [SMTP サーバー - ポート番号]

SMTP サーバーのポート番号を設定します。

■ [送信時の認証方式]

SMTP 送信時の認証方法を設定します。

補足

- 認証方式は、AUTH GSSAPI (Kerberos 指定時のみ)、AUTH NTLMv2、AUTH NTLMv1、AUTH PLAIN、AUTH LOGIN、AUTH CRAM-MD5 に対応しています。

■ [送信時の認証ユーザー]

送信時の認証ユーザーを設定します。

[外部認証のユーザー] に設定した場合、ジョブの実行前に本機で外部認証していれば、外部認証のユーザー名 / パスワードで SMTP サーバーに認証します。また、認証に失敗した場合の動作を選ぶことができます。外部認証を利用しない場合は、本体設定のユーザー名 / パスワードが使用されます。

■ [SMTP AUTH - ログイン名]

SMTP サーバーのログイン名を設定します。

■ [SMTP AUTH - パスワード]

SMTP サーバーの認証用パスワードを設定します。

[外部認証サーバー設定]

[認証システムの設定]

■ [認証システム]

認証するためのシステムを選びます。

補足

- 外部認証サーバーに、ApeosWare Management Suite 2（別売）を使用する場合は、[Authentication Agent] を選んでください。
- Azure Active Directory の設定は、CentreWare Internet Services で行います。各項目については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

■ [認証応答待ち時間の上限]

認証の応答の待ち時間の上限を設定します。

■ [ユーザー情報検索時間の上限]

ユーザー情報の検索の待ち時間の上限を設定します。

[Kerberos サーバー設定]

■ [Kerberos サーバー 1（標準）] ～ [Kerberos サーバー 5]

Kerberos サーバー 1 ～ 5 それぞれに、次の設定をします。

Kerberos サーバー 1 に設定した内容が、認証時の初期値として使用されます。

◆ [プライマリーサーバー - 名前 / アドレス]

プライマリーサーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

◆ [プライマリーサーバー - ポート番号]

プライマリーサーバーのポート番号を指定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

◆ [セカンダリーサーバー - 名前 / アドレス]

セカンダリーサーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

◆[セカンダリーサーバー - ポート番号]

セカンダリーサーバーのポート番号を指定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

◆[認証先 (レルム名)]

サーバーとして、Windows Server のアクティブディレクトリーを使用する場合は、アクティブディレクトリーのドメイン名を認証先に指定します。

注記

- 認証先名は、必ず大文字で設定してください。小文字で設定すると認証エラーになります。

■[サーバー証明書の検証]

サーバー証明書を検証するかどうかを設定します。

[LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定]

LDAP 認証を行うための、サーバーや認証方式について設定します。

[接続確認] をタップすることで、サーバーとの接続を確認できます。

[接続確認] > [LDAP 通信レポート出力] を選ぶと、本機が送信 / 受信した LDAP 通信のプロトコルの内容を表すレポートが出力されます。

■[プライマリーサーバー - 名前 / アドレス]

プライマリーサーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

■[プライマリーサーバー - ポート番号]

プライマリーサーバーのポート番号を指定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■[セカンダリーサーバー - 名前 / アドレス]

セカンダリーサーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

■[セカンダリーサーバー - ポート番号]

セカンダリーサーバーのポート番号を指定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■[認証方式]**◆[直接認証]**

入力したユーザー ID とパスワードで、LDAP サーバーに認証します。

◆[ユーザー属性認証]

入力したユーザー ID は、[入力ユーザー名の属性] に設定された属性の値として、LDAP サーバーで検索するために使用されます。見つかったユーザーの、[認証用ユーザー名の属性] に設定された属性の値は、ジョブのユーザー ID として使用されます。

■ [入力ユーザー名の属性]

LDAP 認証の認証方式が [ユーザー属性認証] の場合に、入力されたユーザー ID のユーザー名の属性を設定します。

操作パネルからユーザー名として入力する値に対応して、LDAP サーバーに登録されている UserAttribute 情報の属性を設定します。たとえば、メールアドレスを入力させる場合は「mail」を設定します。

■ [認証用ユーザー名の属性]

LDAP サーバーに登録されている UserAttribute 情報の中から実際に認証に使用する属性を入力します。

■ [ユーザー名追加文字列の使用]

操作パネルから認証情報を入力するときに、[ユーザー名の追加文字列] で入力した情報を自動で付加するかどうかを設定します。

■ [ユーザー名の追加文字列]

ユーザー名追加文字列を使用する場合の、追加する文字列を設定します。

[ユーザー名追加文字列の使用] で [使用する] を設定した場合にその固定文字列を入力します。

例)

[入力ユーザー名の属性] に「mail」を設定し、その対象ユーザーの登録情報が「mail@myhost.example.com」だった場合、通常は「mail@myhost.example.com」と入力する必要があります。

[ユーザー名追加文字列の使用] を [使用する] に設定し、[ユーザー名の追加文字列] で「@myhost.example.com」と指定すれば、操作パネルから入力するデータは「mail」だけで後ろの「@myhost.example.com」は本機が付加するので、入力の手間を簡略化できます。

■ [IC カード認証に使用する属性]

IC カードを使用して LDAP 認証する場合に、カード ID の検索属性を設定します。

■ [ネットワーク用ユーザー ID 属性]

IC カードを使用して LDAP 認証する場合に、IC カードのカード ID で検索するユーザー名の属性を設定します。取得したユーザー名は、外部サービスに通知する認証情報として使用されます。

■ [検索用の認証ユーザー]

検索のときに使用するユーザーを設定します。

■ [検索用ログイン名]

[ユーザー属性認証] 方式の LDAP 認証で、ディレクトリーサーバーにアクセスするときのユーザー名を設定します。ディレクトリーサービス認証が必要なときだけ設定してください。

■ [検索用パスワード]

[検索用ログイン名] で指定したユーザーのログインパスワードを設定します。

■ [検索起点エントリー (DN)]

検索の起点となる文字列を入力できます。

■ [起点からの検索範囲]

起点からの検索範囲を設定します。

■ [検索対象のオブジェクトクラス]

検索のためのオブジェクトクラスを入力できます。

■ [リフェラルの使用]

接続した LDAP サーバーから、別の LDAP サーバーへの接続を指示された場合に、指示されたサーバーに再接続するかどうかを設定します。

■ [リフェラルのホップ数上限]

リフェラル機能を使用する場合に、接続するサーバーの切り替えを何回まで許可するかを設定します。

[SMB サーバー設定]

外部認証サーバーとして SMB サーバーを利用するときに設定します。

■ [SMB サーバー指定方法]

サーバーの指定方法を、[ドメイン名で指定]、[ドメイン名とサーバー名 / アドレス] から設定できます。

ここで設定した指定方法に合わせて、SMB サーバー 1 ～ 5 それぞれに、次の設定をします。

SMB サーバー 1 に設定した内容が、認証時の初期値として使用されます。

■ [SMB サーバー 1 (標準)] ～ [SMB サーバー 5]**◆ [サーバー - ドメイン名]**

サーバーのドメイン名を設定できます。

[SMB サーバー指定方法] で設定している SMB サーバーの指定方法にかかわらず、ドメイン名の設定は必須です。

注記

- ドメイン名は NetBIOS ドメイン名、またはアクティブディレクトリーのドメイン名を指定してください。

◆ [サーバー - サーバー名 / アドレス]

サーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

注記

- サーバー名は NetBIOS コンピューター名、または DNS サフィックス付きのフルコンピューター名を指定してください。

[セキュリティ設定]

[SSL/TLS 設定]

サーバーやクライアント PC と本機との通信を暗号化するときに設定します。SSL/TLS を設定するとネットワーク上で不正アクセスをしようとしても、経路が暗号化されているため、情報の漏えいやデータの改ざんを抑止できます。

■ [本体の証明書 - サーバー]

SSL/TLS 通信するための、サーバー証明書を設定します。

■ [HTTP - SSL/TLS 通信]

SSL/TLS 通信のみを使用可能にするかどうかを設定します。

注記

- [HTTPS のみ使用可能] に設定すると、[UPnP ディスカバリー]、[WSD]、および [BMLinkS] の各ポートは停止されます。

■ [HTTP - SSL/TLS 通信ポート番号]

SSL/TLS 通信のポート番号を指定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■ [SMTP-SSL/TLS 通信]

SSL/TLS 通信について設定します。

◆ [無効]

SSL/TLS 通信しません。

◆ [STARTTLS 接続（利用可能時）]

証明書を検証して、SSL/TLS 通信します。検証できない場合は、SSL/TLS 通信しません。

◆ [STARTTLS 接続]

証明書を検証して、SSL/TLS 通信します。検証できない場合は、通信できません。

◆ [SSL/TLS 接続]

SSL/TLS 通信します。

■ [ThinPrint-SSL/TLS 通信]

SSL/TLS 通信を有効にするかどうかを設定します。

■ [本体の証明書 - クライアント]

SSL/TLS 通信するための、クライアント証明書を設定します。

■ [相手サーバーの証明書の検証]

本機を SSL クライアントとして動作させるときに、相手サーバーの証明書を検証するかどうかを設定します。

[IPsec 設定]

■ [IPsec 設定]

ネットワークをパケット単位で暗号化して安全に通信するように設定します。

補足

- 無線キット（オプション）を取り付けている場合、この項目は1回線にのみ指定できます。
- [IKE 認証方式]、[事前共有鍵]、[DH グループ]、[PFS 設定] についてはネットワーク管理者に確認してください。
- [IKE 認証方式]
IKE 認証方式を設定します。
- [事前共有鍵]
事前共有鍵を入力します。
[IKE 認証方式] が [事前共有鍵による認証] の場合に設定します。
- [本体の証明書]
IPsec 通信で使用する証明書を設定します。
[IKE 認証方式] が [デジタル署名による認証] の場合に設定します。
ここでは、CentreWare Internet Services で作成した自己証明書は使用できません。

参照

- 詳しくは、「証明書の種類」(P.182) を参照してください。
- [IPsec 通信]
IPsec 通信を有効にするかどうかを設定します。
- [IKE SA のライフタイム]
IKE SA の有効期間を設定します。

補足

- [IPsec SA のライフタイム] より長くなるように設定してください。
- [IPsec SA のライフタイム]
IPsec SA の有効期間を設定します。

補足

- [IKE SA のライフタイム] より短くなるように設定してください。
- [DH グループ]
DH グループを設定します。
- [PFS 設定]
PFS を有効にするかどうかを設定します。
- [相手アドレス - IPv4]
通信を許可する相手先の IPv4 アドレスまたは範囲を設定します。
- [相手アドレス - IPv6]
通信を許可する相手先の IPv6 アドレスまたは範囲を設定します。
- [非 IPsec 通信]
相手アドレスで設定した以外のアドレスの、IPsec に対応していない機器に対して、通信をするかどうかを設定します。

[IEEE802.1x 設定]**■ [IEEE 802.1x 設定] / [IEEE 802.1x 設定 (Ethernet1)]**

- [IEEE 802.1x 認証の使用]
IEEE 802.1x 認証を使用するかどうかを設定します。

- [認証方式]
IEEE 802.1x の認証方式を設定します。
- [認証ユーザー名]
認証ユーザー名を 128 文字以内で入力します。
- [認証パスワード]
認証パスワードを 1 ～ 128 バイト以内で入力します。
- [サーバー証明書の検証]
[認証方式] が [PEAP/MS-CHAPv2] の場合に、サーバー証明書を検証するかどうかを設定します。

[証明書失効確認の設定]

証明書失効確認の設定をします。

■ [証明書検証レベル]

証明書の検証レベルを設定します。

[低] の場合、証明書の失効確認を行いません。

[中] の場合、証明書の失効確認まで行います。ネットワークエラーなどで失効確認できなかったときも有効な証明書として扱います。

[高] の場合、失効していないと確認された証明書だけを有効な証明書として扱います。

■ [証明書失効確認方式]

証明書失効確認の方式を設定します。

本機が検証局から失効リスト（CRL）を取得して照合する場合は、[失効リスト（CRL）を取得する] に設定します。証明書の有効性を確認できる OCSP（Online Certificate Status Protocol）を使って認証局や検証局に問い合わせ確認する場合は、[OCSP で問い合わせる] に設定します。

■ [失効リスト（CRL）の自動取得]

失効リスト（CRL）を自動取得するかどうかを設定します。

■ [失効リスト（CRL）取得時間上限]

失効リスト（CRL）を取得する時間の上限を設定します。

■ [OCSP レスポンダ指定方法]

OCSP レスポンダーの指定方法を指定します。

[証明書に記載の URL を使用]、[本体で設定した URL を使用] から設定できます。

■ [OCSP レスポンダ]

[OCSP レスポンダ指定方法] で [本体で設定した URL を使用] を選んだ場合は、問い合わせ先の URL を設定します。

■ [OCSP 通信時間上限]

OCSP レスポンダーとの通信時間の上限を設定します。

[その他の設定]

■ [FIPS140 認定モード]

FIPS140 (Federal Information Processing Standard 140) とは、暗号モジュールに関するセキュリティ要件の仕様を規定する米国連邦標準規格です。

FIPS140-2 認定モードを [有効] に設定することによって、セキュリティをより強化できます。

補足

- 以下の機能はFIPS140認定されていない暗号アルゴリズムで動作します。FIPS140に対応した環境での運用をおすすめします。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| • SMB 認証 | • LDAP 認証 |
| • SMTP 認証 | • Kerberos 認証 |
| • HTTP 認証 | • 802.1x 認証 |
| • DocuWorks ダイレクトプリント | • メール送信 ^{*1} |
| | • PDF ダイレクトプリント |

^{*1}: SMTP AUTH を使用した場合に該当します。

[その他の設定]

ネットワークに関するそのほかの設定をします。

[メール受信プロトコル]

使用環境に合わせて設定します。

[認証ユーザー名へのドメイン付加]

ユーザー名にドメイン名を付加するかどうかを設定します。

[USB ポート ID 固定機能]

USB インターフェースで通知する ID としてシリアル番号を使用するか固定値を使用するかを設定します。

[認証 / 集計管理]

[ユーザー情報の設定]

[パスワード変更]

認証ユーザーが自分のパスワードを変更できます。

参照

- 変更方法については、「パスワードの変更」(P.213)を参照してください。

[集計管理]

本機を利用するユーザーの登録や集計管理機能の運用設定ができます。

参照

- 機能については、「認証と集計管理機能について」(P.189)を参照してください。

[ユーザー登録 / 集計確認]

集計管理を有効にする場合、登録したユーザーの認証を行うために、ユーザー ID、およびユーザー名を登録します。

本機を利用するユーザーごとに、使用枚数の上限を設定できます。また、登録したユーザーごとの累積ページの確認などができます。

[認証・セキュリティ設定] の [認証の設定] の [ユーザー登録 / 集計確認] と同じ内容です。

注記

- ユーザー登録は、「[集計管理機能の運用]」(P.168) で、使用する集計管理モードを設定してから、行ってください。

補足

- この項目は、「[集計管理機能の運用]」(P.168) を [ネット集計管理] に設定しているときは表示されません。

参照

- 詳しくは、「ユーザーを登録する (本体認証)」(P.199)を参照してください。

[登録内容の削除 / 集計リセット]

全登録ユーザーに対して、一括で登録内容を削除したり、集計データをリセットしたりできます。削除 / リセットする前に、レポートを出力して、削除 / リセットされる内容を事前に確認することもできます。

[認証・セキュリティ設定] の [認証の設定] の [登録内容の削除 / 集計リセット] と同じ内容です。

補足

- この項目は、「[集計管理機能の運用]」(P.168) を [ネット集計管理] に設定しているときは表示されません。

■ [全ユーザーの登録内容]

ユーザーごとに登録している設定内容をすべて削除します。また、上限ページ数、累積ページ数、プリンター集計データなどのデータもすべて削除します。

■ [全ユーザーの機能制限]

全ユーザーの機能制限をすべて削除します。

■ [全ユーザーの上限ページ数]

全ユーザーの上限ページ数を初期値にリセットします。

■ [全ユーザーの集計管理データ]

機械管理者を含む、全ユーザーのすべての集計管理データをリセットします。ページ数も、「0」にリセットされます。

■ [全ユーザーの権限グループ]

全ユーザーのすべての権限グループをリセットします。

■ [プリンター集計データ]

すべてのプリンター集計データをリセットし、自動登録されたジョブオーナー名を削除します。プリントした集計枚数も、「0」にリセットされます。

補足

- [プリンター集計データ] は、プリンターを集計しない設定の場合に表示されます。

■ [全機能の集計管理レポート]

全機能の集計データのレポートをプリントできます。削除 / リセットする内容を、事前に確認する場合に使用します。

■ [プリンター集計レポート]

プリントの集計データのレポートをプリントできます。削除 / リセットする内容を、事前に確認する場合に使用します。

補足

- [プリンター集計レポート] は、プリンターを集計しない設定の場合に表示されます。

■ [削除 / リセット]

選んだ項目のデータを削除 / リセットします。

[集計管理機能の運用]

集計管理機能を使用するかどうかを設定します。

■ [運用しない]

本機で操作するときに、集計管理は行いません。

■ [本体集計管理]

集計管理します。

■ [ネット集計管理]

外部サービスで管理されているユーザー情報を使用して集計管理します。ユーザー情報は、外部サービスから登録します。

補足

- [ネット集計管理] に設定すると、集計が必要なサービスを利用しようとしたときに表示される認証画面で、「Account ID」を入力できるようになります。

参照

- 詳しくは、「集計管理モードの種類」(P.192)を参照してください。

■ [各機能の集計]

サービスごとに集計管理機能を使用するかどうかを設定します。設定できるサービスは次のとおりです。

- [文書プリント]
- [プリンター]

補足

- 表示される項目は、搭載しているサービスによって異なります。
- サービスを [集計する] に設定すると、ホーム画面の該当するサービスに  が表示されます。認証すると表示は消えます。
- 「[受信制御]」(P.175) の設定によっては、ジョブが中止されることがあります。

■ [入力情報の照合]

入力するときに、入力情報を照合するかどうかを設定します。

[する] を選ぶと、[プリントの照合] も選ぶことができます。

■ [ユーザー入力項目]

認証するために、ユーザーが入力する項目を設定します。

補足

- Account ID は集計のための ID です。

[集計管理情報の設定]

■ [User ID の代替表記]

タッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリアをタップしたときに表示される認証画面の、「ユーザー ID」と表示されている表記を、「UserName」や「Number」のように必要に応じて変更できます。

補足

- 設定した値は、レポート / リストの表示にも反映されます。

■ [User ID の入力表示]

ユーザー ID を入力したときの文字列の表示方法を設定できます。

■ [Account ID の代替表記]

タッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリアをタップしたときに表示される認証画面の、「Account ID」と表示されている表記を、「AccountName」や「Number」のように必要に応じて変更できます。

補足

- この項目は、「[集計管理機能の運用]」(P.168) を [ネット集計管理] に設定しているときに表示されます。
- 設定した値は、レポート / リストの表示にも反映されます。

■ [Account ID の入力表示]

Account ID を入力したときの文字列の表示方法を設定できます。

補足

- この項目は、「[集計管理機能の運用]」(P.168) を [ネット集計管理] に設定しているときに表示されます。

■ [認証時の集計情報表示]

認証直後に、ユーザー別の集計情報を表示するかどうかを設定します。チェックマークを付けると、認証中のユーザーの [累積ページ数]、[上限ページ数]、[残りページ数] を確認できます。

補足

- この項目は、[認証方式の設定] が [本体認証] に設定されていて、さらに [集計管理機能の運用] が [本体集計管理] に設定されているときに表示されます。
- 利用を制限されている機能は表示されません。
- 機械管理者で認証したときには、表示されません。

[認証・セキュリティ設定]

本機を利用するユーザーの登録や認証およびセキュリティーの設定ができます。

参照

- 機能については、「認証と集計管理機能について」(P.189) を参照してください。

[機械管理者情報の設定]

設定変更の抑止やセキュリティー確保のために、本機を設置したあと、すぐに機械管理者 ID とパスワードの変更をお勧めします。

■ [機械管理者 ID]

機械管理者のユーザー ID を設定します。

補足

- 機械管理者のユーザー ID の初期値は、「111111」です。

■ [機械管理者パスワード]

機械管理者のパスワードを設定します。

補足

- 機械管理者のパスワードの初期値は、「x-admin」です。
- パスワードなしに設定する場合は、空欄にします。

[認証の設定]

■ [認証方式の設定]

◆ [認証しない]

認証機能を利用しません。

◆ [本体認証]

本機に登録されたユーザー情報を、認証に使用します。

注記

- [本体認証] から、[認証しない] または [外部認証] に変更した場合、本機に登録されているユーザー情報がすべて削除されます。

◆ [外部認証]

外部認証サーバーに登録されたユーザー情報を、認証に使用します。

注記

- 外部認証を行うと、ユーザー情報が本機に保存され、外部認証時に外部認証サーバーが起動していても、本機に保存されたユーザー情報を利用してユーザーを認証し、本機を使用できます。
- 外部認証に使用したユーザー情報を本機に保存させたくない場合は、[認証情報の設定] の [外部認証情報の本体保存] を [しない] に設定してください。詳しくは、「[外部認証情報の本体保存]」(P.174) を参照してください。
- 本機に保存された外部認証のユーザー情報を自動的に削除できます。詳しくは、「[保存済み外部認証情報削除]」(P.174) を参照してください。

◆ [カスタム認証]

サーバーレス認証連携キット（別売）を有効にした時の認証に使用します。

■ [アクセス制御]

認証モードでは、本機自体および各サービスの利用を制限できます。利用するには、ユーザー認証が必要になります。

補足

- 外部認証時（ApeosWare Management Suite 2（別売）を使用する場合を除く）は、外部認証サーバーから取得した利用可能なサービスへのアクセス許可情報に基づき、操作パネルから利用できます。
- 外部認証時にゲストユーザーを使用する場合、ゲストユーザーにアクセス制御は設定できません。本機を使用できるゲストユーザーを制限する場合は、「[ゲストの使用]」(P.173) を参照してください。

◆ [仕様設定へのアクセス]

機械管理者以外の本機の設定変更を制限するかどうかを設定します。

注記

- [制限しない] に設定すると、誰でも本機の設定を変更できる状態になります。

◆ [デバイスへのアクセス]

本機の操作パネルのボタンの操作を制限するかどうかを設定します。

◆ [サービスへのアクセス]

本機の各サービスについて、制限するかどうかを設定します。

補足

- サービスを [制限する（表示）] に設定すると、ホーム画面の該当するサービスに  が表示されます。認証すると  の表示は消えます。
- サービスを [制限する（非表示）] に設定すると、ホーム画面に該当するサービスは表示されません。認証すると該当するサービスも表示されます。

■ [ユーザー登録 / 集計確認]

認証を有効にする場合、登録したユーザーの認証を行うために、ユーザー ID、およびユーザー名を登録します。

本機を利用するユーザーごとに、使用枚数の上限を設定できます。また、登録したユーザーごとの累積ページの確認などができます。ユーザーデータは、1,000 件まで登録できます。

[集計管理] の [ユーザー登録 / 集計確認] と同じ内容です。

参照

- 詳しくは、「[ユーザー登録 / 集計確認]」(P.167) を参照してください。

■ [登録内容の削除 / 集計リセット]

全登録ユーザーに対して、一括で登録内容を削除したり、集計データをリセットしたりできます。削除 / リセットする前に、レポートを出力して、削除 / リセットされる内容を事前に確認することもできます。

[集計管理] の [登録内容の削除 / 集計リセット] と同じ内容です。

参照

- 詳しくは、「[登録内容の削除 / 集計リセット]」(P.167) を参照してください。

■ [権限グループ登録]

機械管理者は認証ユーザーに対して、本来利用できない機能を利用できるようにする「権限」を与えることができます。権限グループを登録しておく、ユーザーを権限ごとにグループ化して管理できます。

■ [認証情報の設定]

認証するときに必要な情報を設定します。

◆ [User ID の代替表記]

タッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリアをタップしたときに表示される認証画面の、「User ID」と表示されている表記を、「UserName」や「Number」のように必要に応じて変更できます。

補足

- 設定した値は、レポート / リストの表示にも反映されます。

◆ [User ID の入力表示]

ユーザー ID を入力したときの文字列の表示方法を設定できます。セキュリティの強化など、必要に応じて設定してください。

[そのまま表示する] に設定すると、ユーザー ID を入力したときに、入力した文字列で表示します。[隠す] に設定すると、[*****] のように表示します。

◆ [認証失敗の記録]

不正なアクセスを検知するための、認証回数を設定します。所定時間（10 分）以内に、ここで設定した回数の認証に失敗したときに、エラーとして記録します。

◆ [認証解除時の確認画面表示]

認証解除時に確認画面を表示するかどうかを設定します。

◆ [認証時の User ID 文字種]

認証時、ユーザー ID の文字種を設定します。

[大文字小文字を区別する] に設定すると、登録したまま（大文字小文字を含む）のユーザー ID で認証します。[大文字小文字を区別しない] に設定すると、ユーザー ID に大文字小文字が混在していても、大文字小文字を区別しないで認証します。

注記

- プライベートプリントに文書が保存された状態で設定を切り替えないでください。プリントできないなど、問題が発生することがあります。保存された文書をすべてプリントしたあと、設定を切り替えてください。
- “ABC”と“abc”のように、[大文字小文字を区別しない]に設定すると同一になるユーザーIDが登録されているときは、設定を切り替えないでください。設定を切り替えると、一部のユーザーが表示されないなど、問題が発生することがあります。大文字小文字を区別しなくても同一にならないユーザーIDに変更してから設定を切り替えてください。

◆ [IC カード接続時の認証]

本体認証の場合、本機に IC カードリーダー（オプション）が接続されているときに、ユーザー ID 認証を有効にするかどうかを設定します。

[IC カードのみ] に設定すると、ユーザー ID 認証は使用できません。[IC カードまたはパネル入力] に設定すると、IC カード認証とユーザー ID 認証の両方が使用できます。

◆ [IC カード認証時のユーザー登録]

本体認証の場合、登録されていないユーザーが IC カードリーダー（オプション）に IC カードをかざしたときに、ユーザーを登録するかどうかを設定します。

[しない] に設定すると、ユーザー登録はされません。[自動登録する] に設定すると、ユーザーが登録されます。

補足

- [自動登録する] を選ぶと、[ユーザー名]、[利用制限]、[権限の追加設定] の項目が表示されます。
- [設定] > [認証 / 集計管理] > [認証・セキュリティ設定] > [認証の設定] > [パスワードの運用] > [パスワード使用 -IC カード認証時] が [する] に設定されている場合、ユーザー登録時にパスワードを 2 回入力します。

◆ [ゲストの使用]

外部認証の場合、ゲストのユーザーを使用するかどうかを設定します。

◆ [IC カードの使用]

本機に IC カードリーダー（オプション）が接続されているときに、IC カードを使用するかどうかを設定します。

[する] に設定すると、IC カードでジョブを制御するかしないかを、機能ごとに設定できます。

[する (PKI のみ)] は、認証やジョブ制御には IC カードを使用せず、セキュリティ機能だけを制御する場合に設定します。

補足

- この項目は、カスタマイズ拡張機能をご利用されている場合に表示されます。

◆ [IC カード連携モード]

外部認証の場合、IC カード認証時に、パスワードの入力を要求するかどうかを設定します。

◆ [IC カードの証明書検証]

IC カードを使用する場合に、IC カードの証明書を検証するかどうかを設定します。

チェックマークを付けると、IC カードの所有者を、PIN コードによる照合だけでなく、IC カード内の証明書の検証と秘密鍵との鍵の一致を検証します。この場合、IC カードの証明書の上位 CA 証明書を本機にインポートしておく必要があります。

チェックマークを外すと、IC カードの所有者を、PIN コードによる照合で検証します。

◆ [非接触型 IC カード設定]

非接触型 IC カード認証時に、認証の解除方法を設定します。

[カードが離れると認証解除] に設定すると、IC カードをカードリーダーから離すことで、認証が解除されます。[パネル指示で認証解除] に設定すると、タッチパネルディスプレイの操作で認証が解除されます。

◆【外部認証情報の本体保存】

外部認証に使用したユーザー情報を本機に保存するかどうかを設定します。保存に設定して外部認証を行うと、ユーザー情報が本機に保存され、外部認証時に外部認証サーバーが起動していなくても、本機に保存されたユーザー情報を利用してユーザーを認証し、本機を使用できます。

補足

- IC カードで認証したユーザーだけが対象です。
- 本体保存されたユーザー情報を利用して認証されたユーザーは、〔（保存済み外部認証情報での動作時の権限）〕に設定されます。

◆【保存済み外部認証情報削除】

本機に保存した外部認証のユーザー情報を、削除するかどうかを設定します。

補足

- IC カードで認証したユーザーだけが対象です。

■【不正使用防止の設定】

なりすましによる不正な操作が行われないようするための機能です。同一のユーザー ID の認証に連続して失敗した場合にアクセスを拒否するように、その失敗回数を設定します。

〔認証回数制限 - 機械管理者〕、または〔認証回数制限 - 一般ユーザー〕で〔する〕を選び、〔連続失敗回数〕にアクセスを拒否するまでの回数を入力します。

補足

- 本機を再起動すると、失敗した回数はリセットされます。
- アクセス拒否状態を解除するときは、本機の電源を切って、入れ直して、本機を再起動してください。
- 一般ユーザーの認証回数制限は、本体認証の場合に設定できます。

■【パスワードの運用】

◆【パスワード使用 - パネル入力時】

ユーザーが本機を使用するときに、パスワードを入力するかどうかを設定します。

〔する〕に設定すると、〔ユーザー登録 / 集計確認〕の〔パスワード〕が有効になります。

〔しない〕に設定すると、上記の設定でパスワードが指定されていてもパスワードの入力は要求されません。

注記

- 〔パスワード使用 - パネル入力時〕の設定は、操作パネルで認証するときに適用されます。CentreWare Internet Services などの外部からのアクセス時には、パスワードの使用の有無にかかわらず、常にパスワードの入力が必要です。また、認証の方法によっても常にパスワードの入力が必要なことがあります。

◆【パスワード使用 -IC カード認証時】

本体認証の場合、機械管理者およびユーザーが IC カード認証をするときに、パスワードを入力するかどうかを設定します。

◆【パスワードの最小桁数】

パスワードの最小桁数を指定します。

◆【パスワードの最大桁数】

パスワードの最大桁数を指定します。

■ [認証 / プライベートプリントの設定]

受信したプリントジョブを、どのように扱うかを設定します。

プリントジョブを直接プリントしたり、保管文書の認証プリントやプライベートプリントに一時的に保存したりできます。

認証プリントは、認証されたユーザーのジョブをプリントする機能ですが、本機に一時的に保存することもできます。プリントするときに、本機からの操作でプリントします。本機を不特定ユーザーが使う場合に、出力紙を不用意に見られることを防止できます。認証プリントへの保存が設定されている場合、受信したプリントジョブはプリンタードライバー設定の蓄積用ユーザー ID ごとに保存されます。

プライベートプリントは、プリント指示の際に認証用ユーザー ID やサブユーザー ID を使って、本機にジョブを保存します。プリントするときは、本機からの操作でプリントしますが、本機のパネルには、認証されたユーザーと関連づけられたサブユーザーの文書のみ表示されるため、プリント放置に限らず、プライバシーの保護を図ることができます。

参照

- 認証プリント、プライベートプリントについては、「認証プリント」(P.88)、および「プライベートプリント」(P.90)を参照してください。

◆ [受信時の PJI 命令制御]

外部機器からのプリント受信を制御できます。コンピューターからプリント指示された認証プリントまたはプライベートプリントジョブを、指示どおりに [ジョブ情報] 画面に表示される [認証プリント] または [プライベートプリント] に保存する場合は、[する] に設定します。

[しない] に設定したときは、後述の [受信制御] の設定に従います。

補足

- PJI とは、プリントジョブを制御するコマンドです。

◆ [出力時の PJI 命令制御]

外部機器からのプリントジョブのプリントを制御できます。[ジョブ情報] 画面に表示される [認証プリント] または [プライベートプリント] に保存された文書をプリントするときに、出力用紙、両面プリントなどのプリントモードをジョブの指示どおりに行う場合に、[する] に設定します。

補足

- PJI とは、プリントジョブを制御するコマンドです。

◆ [受信制御]

受信したプリントジョブを、どのように扱うかを設定します。

参照

- プリンタードライバーからのプリント方法は、「プリント」(P.81)を参照してください。
- 保存されたプリントジョブをプリントおよび削除する方法は、「本機に蓄積したデータのプリント」(P.86)を参照してください。

• [プリンターの認証に従う]

認証 / 集計機能を利用し、[サービスへのアクセス] の [プリンター] を [制限する] に設定しているときに、[認証成功のジョブ]、[認証が不正のジョブ]、[User ID なしのジョブ]、それぞれについてジョブの扱いを設定できます。

補足

- 認証 / 集計機能を利用しない場合、および [サービスへのアクセス] の [プリンター] を [制限しない] に設定している場合は、プリンタードライバーの指示に従います。
- [プライベートプリントに保存] に設定すると、プリンタードライバーで、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリントを指示しても無視されます。
- CentreWare Internet Services の [認証 / 集計 / 権限] > [権限設定] > [アクセス制限設定] > [ユーザー指定なしプリント] を [制限しない] に設定すると、本機側では、[User ID なしのジョブ] は自動的に [プリント] に設定されます。本機側で [認証プリントに保存] または [ジョブを中止] に設定すると、CentreWare Internet Services の [ユーザー指定なしプリント] が自動的に [制限する] に変わります。

- **[プライベートプリントに保存]**

認証機能を利用しているいないにかかわらず、ユーザー ID が付いたジョブをすべてプライベートプリントに保存します。また、[User ID なしのジョブ]、[PJL 命令なしのジョブ]、それぞれについてジョブの扱いを設定できます。

注記

- [プライベートプリントに保存] に設定すると、認証に成功してもしなくても、ユーザー ID が付いたプリントジョブはすべて保存されます。不要なプリントジョブを増やさないためには、保存期間を設定して保存期間を過ぎたプリントジョブを自動的に削除するように設定するか、機械管理者が手動で削除してください。保存期間を設定する方法は、「[蓄積プリント文書の保存設定]」(P.140) を参照してください。

補足

- [プライベートプリントに保存] に設定すると、プリンタードライバーで、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリントを指示しても無視されます。
- CentreWare Internet Services の [認証 / 集計 / 権限] > [権限設定] > [アクセス制限設定] > [ユーザー指定なしプリント] を [制限しない] に設定すると、本機側では、[User ID なしのジョブ] は自動的に [プリント] に設定されます。本機側で [認証プリントに保存] または [ジョブを中止] に設定すると、CentreWare Internet Services の [ユーザー指定なしプリント] が自動的に [制限する] に変わります。

- **[認証プリントに保存]**

認証機能を利用しているいないにかかわらず、受信したジョブをすべて認証プリントに保存します。

注記

- [認証プリントに保存] に設定すると、認証に成功してもしなくても、プリントジョブはすべて保存されます。不要なプリントジョブを増やさないためには、保存期間を設定して保存期間を過ぎたプリントジョブを自動的に削除するように設定するか、手動で削除してください。保存期間を設定する方法は、「[蓄積プリント文書の保存設定]」(P.140) を参照してください。

補足

- [認証プリントに保存] に設定すると、プリンタードライバーで、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリントを指示しても無視されます。

[強制印字一時解除]

本機能は、基本的には強制印字をしたいが、特定の出力物のみ強制印字なしで出力したいといった場合に使用します。

UUID 印字、強制アノテーションなどの強制印字が設定されていても、一時的に強制印字を解除できます。

本機能を [する] に設定した状態で実行した文書プリントが一時解除の対象となります (通常のプリント、レポート / リストは対象となりません)。

この設定は、認証ユーザーの属する権限グループの [強制印字の一時解除] が [許可する] に設定されている場合のみ表示されます。

補足

- 実行中のジョブに関しては反映されません。
- 管理者権限のユーザーは権限グループにかかわらず設定可能です。
- TrustMarkingBasic（別売）でユーザーが指定した複製管理に関しては解除対象となりません。

参照

- UUID 印字については、「[UUID 印字]」(P.133) を参照してください。
- 権限グループの設定は、「権限グループ」(P.191) を参照してください。

[ジョブ操作の設定]

実行中や実行待ちジョブやログの表示制限ができます。認証していないユーザーやジョブオーナーでないユーザーに対して、プライバシー保護、情報漏えいの抑止になります。

補足

- ジョブを表示しない設定にした場合、自分が実行したジョブを止めたり、削除したりできなくなります。

■ [実行中 / 待ちジョブの表示設定]

実行中 / 実行待ちジョブの情報表示を制限するかどうかを設定します。

■ [実行完了ジョブの表示設定]**◆ [常に表示する]**

認証に関わらず、すべての完了ジョブを確認できます。ジョブの詳細情報の表示を制限するかどうかを設定します。

◆ [認証中は表示する]

本機に認証中のユーザーのみが完了ジョブを確認できます。確認できるジョブを認証ユーザーのジョブのみにするかどうか、ジョブの詳細情報の表示を制限するかどうかを設定します。

◆ [表示しない]

認証に関わらず、すべての完了ジョブを非表示にします。

■ [ジョブ操作の制限]

操作の種類ごとに、ジョブ操作を許可するユーザーの範囲を設定します。

[ダイレクトプリント機能の禁止]

本機能を [する] に設定した場合、文書プリント、メール受信プリント、モバイルプリントなどのダイレクトプリント機能が使用できなくなります。

[稼働時の改ざん防止]

本機の稼働時に、許可されていないファイルへのアクセスおよび実行を検知するかどうかを設定します。

- [する] に設定すると、ファイルの書き込みや実行を拒否して、アクセス内容を監査ログに記録します。
- [ログ記録のみ] に設定すると、監査ログには記録しますが、ファイルへのアクセスは拒否されません。

補足

- 監査ログに記録するには、監査ログ機能を有効に設定する必要があります。詳しくは、「[監査ログ設定]」(P.178) を参照してください。

[監査ログ設定]

監査ログの設定と Syslog 送信（Syslog プロトコルを使って監査ログをネットワーク上の他のコンピューターに送信）に関する設定をします。

監査ログとは、いつ、誰が、どのような作業を本体で行ったかを記録したものです。監査ログ機能を使用すると、本体の不正使用や不正使用の試みを監視できます。

補足

- 監査ログを取り出すには、CentreWare Internet Services を使用します。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

参照

- 監査ログの記録項目については、弊社公式サイトで提供している『監査ログリファレンスガイド』を参照してください。

[監査ログの記録]

監査ログを記録するかどうか設定します。

監査ログ機能が有効になると、本体に監査ログが記録されます。

ログは最大で 15,000 件まで記録され、15,000 件を超えると日付の古いログから削除されます。

[監査ログの Syslog 送信]

監査ログを Syslog サーバーに送信するかどうか設定します。

[Syslog- サーバー名 / アドレス]

Syslog サーバーのサーバー名または IP アドレスを入力します。

[Syslog-UDP/TCP ポート番号]

Syslog サーバーの UDP または TCP のポート番号を入力します。

[Syslog-TLS ポート番号]

Syslog サーバーの TLS ポート番号を入力します。

[Syslog- トランスポートプロトコル]

Syslog に送信する際のトランスポートプロトコルを設定します。

[Syslog- ファシリティ]

Syslog に送信する監査ログのファシリティ番号を入力します。

[Syslog- タイムアウト値]

Syslog 送信時の送信タイムアウト値を入力します。

[送信エラー時の対応方式]

デバイス内の監査ログが Syslog 未送信のまま最大記録件数に達したときの動作を設定します。

■ [稼働優先]

日付の古いログから上書きされます。上書きされた監査ログは、Syslog 送信できません。

■ [監査優先]

システムエラーとなり、本機が停止します。本体と Syslog サーバーを接続できる状態にしてから、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯したら、もう一度電源を入れてください。

[リセット]

[IPsec と 802.1x の設定をリセット]

[ネットワーク設定] > [セキュリティ設定] の [IPsec 設定] および [IEEE802.1x 設定] を無効にし、設定を初期化します。

[フォントとフォーム、マクロを消去]

本体内にダウンロードされたフォントデータ、フォームデータ、マクロデータをすべて消去します。

[工場出荷時の設定に戻す]

本機のすべての設定を工場出荷時の状態に戻します。

8

暗号化と署名機能の設定

暗号化と署名機能の概要

証明書の種類

本機で暗号化と署名機能を利用するには、証明書が必要です。

補足

- 本機で利用できる電子証明書は次のとおりです。
 - CentreWare Internet Services を使って作成した自己証明書
 - 認証局（CA）によって署名された証明書
- 本機にインポートできる電子証明書の規格は次のとおりです。
 - X.509（DER/PEM 形式）
 - PKCS#12（DER/PEM 形式）
 - PKCS#7（DER/PEM 形式）

参照

- 証明書のインポートについては、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

暗号化の種類により使用できるデバイス証明書

○：使用できる

△：必要に応じて使用する

×：使用できない

	自己証明書	ほかの認証局で作成された証明書
クライアントから本機への HTTP 通信を暗号化する（SSL/TLS サーバー）	○	○
本機から外部サーバーへの HTTP 通信を暗号化する（SSL/TLS クライアント）	×	○
IPsec を使用して暗号化する	×	△*

*:[IKE 認証方式] が [デジタル署名による認証] の場合に使用します。

暗号化の種類により設定できる証明書の条件

	鍵用途（V3 拡張領域に本項目がある場合のみ）		拡張鍵用途（V3 拡張領域に本項目がある場合のみ）			メールアドレス
	鍵暗号	デジタル署名	サーバー認証	クライアント認証	電子メール保護	
クライアントから本機への HTTP 通信を暗号化する（SSL/TLS サーバー）	○	○	○	-	-	-
本機から外部サーバーへの HTTP 通信を暗号化する（SSL/TLS クライアント）	○	○	-	○	-	-
IPsec を使用して暗号化する	-	○	-	-	-	-

証明書の状態

証明書を使用するには、証明書の状態が有効である必要があります。証明書の状態を確認するには、CentreWare Internet Services の [システム] > [セキュリティ設定] > [証明書設定] 画面から、[証明書の状態] を確認してください。

通信の暗号化機能

クライアントから本機への HTTP 通信を暗号化する（SSL/TLS サーバー）

クライアントから本機への HTTP 通信の暗号化には、SSL/TLS プロトコルを使用します。

補足

- SSL サーバー用証明書としてインポートする証明書に V3 拡張（KeyUsage）がある場合には、鍵暗号のビットがオンに設定されている必要があります。

通信を暗号化するには、デバイス証明書として、自己証明書またはほかの認証局で作成された証明書を使用します。

参照

- 設定の手順については、「HTTP の通信を暗号化するための設定」(P.185) を参照してください。

補足

- HTTP の通信を暗号化することによって、IPP でプリントするときに通信データを暗号化 (SSL 暗号化通信) できます。

本機から外部サーバーへの HTTP の通信を暗号化する（SSL/TLS クライアント）

本機から外部サーバーへの HTTP 通信の暗号化には、SSL/TLS プロトコルを使用します。

通常、証明書を設定する必要はありませんが、外部サーバーが SSL クライアント証明を要求する設定の場合には、ほかの認証局で作成された証明書を使用できます。

また、サーバー証明書の検証を有効にして外部サーバーの SSL/TLS サーバー証明書を検証する場合には、その証明書パスに含まれる上位の認証局の証明書を CentreWare Internet Services を使用して本機にインポートしてください。

補足

- SSL クライアント用証明書としてインポートする証明書に V3 拡張 (KeyUsage) がある場合には、デジタル署名のビットがオンに設定されている必要があります。

IPsec を使用し暗号化する

IPsec を使用して本機と暗号化通信ができます。アプリケーションに関係なく、IP レベルでの暗号化が行われます。

[IKE 認証方式] が [デジタル署名] の場合は、ほかの認証局で作成されたデバイス証明書が必要です。

[IKE 認証方式] が [事前共有鍵] の場合は、デバイス証明書は必要ありません。

補足

- IPsec 用証明書としてインポートする証明書に V3 拡張 (Key-Usage) がある場合には、デジタル署名のビットがオンに設定されている必要があります。

参照

- IKE 認証方式については、「[IPsec 設定]」(P.163) を参照してください。
- 設定の手順については、「IPsec を使用して暗号化するための設定」(P.187) を参照してください。

また、通信相手装置を検証する場合には、相手側のほかの認証局で作成された証明書（上位の CA 証明書）を本機にインポートしておく必要があります。

HTTP の通信を暗号化するための設定

Step1 証明書の準備

HTTP の通信を暗号化するための証明書を用意します。自己証明書（SSL サーバー用）を生成する方法と、ほかの認証局で作成された証明書をインポートする方法があります。

補足

- [デバイス証明書] または [その他の証明書] のどちらかのカテゴリーに、すでに同じ証明書が登録されている場合は、インポートできません。登録されている証明書を削除してから、インポートしてください。

■自己証明書（SSL サーバー用）を生成する場合

- 1 CentreWare Internet Services を起動し、機械管理者モードにログインします。

参照

- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.64) を参照してください。

- 2 左側のメニューから [システム] をクリックします。
- 3 [セキュリティ設定] > [証明書設定] をクリックします。
- 4 [新規作成] > [自己署名証明書の作成] をクリックします。
- 5 必要に応じて、項目を設定します。
- 6 [実行] をクリックします。
- 7 生成が終了したら、[閉じる] をクリックします。

■ほかの認証局で作成された証明書を本機にインポートする場合

ほかの認証局で作成された証明書を本機にインポートする前に、自己証明書を生成し、HTTP 通信を暗号化するように設定してください。

- 1 CentreWare Internet Services を起動し、機械管理者モードにログインします。

参照

- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.64) を参照してください。

- 2 左側のメニューから [システム] をクリックします。
- 3 [セキュリティ設定] > [証明書設定] > [インポート] をクリックします。
- 4 [参照] をクリックして表示されるダイアログボックスでインポートするファイルを選び、[保存] をクリックします。

補足

- インポートするファイルのパスを直接入力することもできます。

- 5 [パスワード] にインポートする証明書に設定されたパスワードを入力します。
- 6 [パスワードの再入力] に同じパスワードを入力します。

7 [実行] をクリックします。

8 インポートが終了したら、[閉じる] をクリックします。

Step2 証明書の設定

サーバー用の証明書を本機に設定します。

補足

- 本項目の設定を行っていない状態では、自己生成した証明書がサーバー用として自動的に設定されます。

1 CentreWare Internet Services を起動し、機械管理者モードにログインします。

参照

- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.64) を参照してください。

2 左側のメニューから [システム] をクリックします。

3 [セキュリティ設定] > [SSL/TLS 設定] をクリックします。

4 [本体の証明書 - サーバー] で証明書を選びます。

注記

- 証明書を選べないときは、[システム] > [セキュリティ設定] > [証明書設定] にデバイス証明書が登録されていることを確認してください。

5 [HTTP - SSL/TLS 通信ポート番号] を必要に応じて設定します。

注記

- ほかのポートと同じポート番号にしないでください。

6 [保存] をクリックします。

7 本機を再起動する表示に変わったら、[今すぐ再起動] をクリックします。

Step3 コンピューターから本機へのアクセス方法

Web ブラウザーと本機の通信を暗号化する場合には、Web ブラウザーのアドレス欄には「http」ではなく「https」から始まるアドレスを入力します。

- IP アドレスの入力例

https://192.0.2.1/ (IPv4 の場合)

https://[2001:DB8::1234]/ (IPv6 の場合)

- インターネットアドレスの入力例

https://myhost.example.com/

IPP の通信（インターネット印刷）を暗号化する場合は、コンピューターでプリンターを追加するときに、プリンターの URL に、「http」ではなく「https」から始まるアドレスを入力します。

IPsec を使用して暗号化するための設定

IPsec 通信で IKE 認証方式を「デジタル署名」にするときは、本機に証明書を設定します。証明書は、本体出荷時には、本機にインポートされていません。IPsec 用証明書をインポートします。インポート後、IPsec の設定をします。

IKE 認証方式が事前共有鍵の場合には、Step1 の「証明書の準備」は不要です。Step2 の「IPsec の設定」を行ってください。

参照

- IKE 認証方式は、「[IPsec 設定]」(P.163) を参照してください。

注記

- [デバイス証明書] または [その他の証明書] のどちらかのカテゴリに、すでに同じ証明書が登録されている場合は、インポートできません。登録されている証明書を削除してから、インポートしてください。

補足

- IPsec 用証明書としてインポートする証明書に V3 拡張 (KeyUsage) がある場合には、デジタル署名のビットがオンに設定されている必要があります。

Step1 証明書の準備

CentreWare Internet Services で証明書を設定するには、HTTP の通信を暗号化する設定を行ってから、ほかの認証局で作成された証明書を本機にインポートして、IPsec 用証明書として設定します。

補足

- 本機にインポートできる証明書の公開鍵は、RSA[®] 公開鍵 4096 ビットまで、または ECC 公開鍵の P-256/P-384/P-521 のどれかとなります。
- IPsec 用には、CentreWare Internet Services で作成した自己証明書は使用できません。

参照

- HTTP の通信を暗号化する設定方法は、「HTTP の通信を暗号化するための設定」(P.185) を参照してください。

- 1 CentreWare Internet Services を起動し、機械管理者モードにログインします。

参照

- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.64) を参照してください。

- 2 左側のメニューから [システム] をクリックします。

- 3 [セキュリティ設定] > [証明書設定] > [インポート] をクリックします。

- 4 [参照] をクリックして表示されるダイアログボックスでインポートするファイルを選び、[保存] をクリックします。

補足

- インポートするファイルのパスを直接入力することもできます。

- 5 [パスワード] にインポートする証明書に設定されたパスワードを入力します。

- 6 [パスワードの再入力] に同じパスワードを入力します。

- 7 [実行] をクリックします。

- 8 インポートが終了したら、[閉じる] をクリックします。

Step2 IPsec の設定

本機の操作パネルを使用して、IPsec の設定をする手順について説明します。

- 1 ホーム画面で [設定] をタップします。
- 2 [ネットワーク設定] > [セキュリティ設定] をタップします。
- 3 [IPsec 設定] > [IPsec 設定] をタップします。
- 4 [IKE 認証方式] をタップし、IKE 認証方式を設定します。

■デジタル署名方式の場合

- 1) [デジタル署名による認証] を選びます。
- 2) [本体の証明書] をタップします。
- 3) 認証に使う証明書を選び、[OK] をタップします。

■事前共有鍵方式の場合

- 1) [事前共有鍵による認証] を選びます。
 - 2) [事前共有鍵] をタップします。
 - 3) 事前共有鍵にする文字列を入力し、[OK] をタップします。
- 5 [IPsec 通信] をタップし、[有効] を選びます。
 - 6 その他の必要な設定をします。

参照

- 詳しくは、「[IPsec 設定]」(P.163) を参照してください。

Step3 通信先機器の設定

通信する相手機器の設定について説明します。

通信先機器では次の設定を行う必要があります。

- IP セキュリティポリシーの作成
- ポリシーの割り当て

参照

- 設定方法は、通信先機器のヘルプを参照してください。

9

認証と集計管理機能について

認証機能と集計管理機能の概要

認証機能を利用すると、本機自体の利用を制限したり、サービスごとに利用を制限したりできます。また、サービスの使用状況をユーザーごとに集計して管理することもできます。

ユーザーの種類について

認証機能を利用しているときは、次のユーザーに分けられます。

補足

- 認証機能を利用していないときは、機械管理者と一般ユーザーに分けられます。

■ 機械管理者

使用環境に合わせてシステムの設定値を登録 / 変更できるユーザーです。

機械管理者は、機械管理者 ID という特別に定義されたユーザー ID を使用します。

■ 認証ユーザー

本機または外部のサーバーに登録されているユーザーです。それぞれのユーザー ID を使って認証します。

認証ユーザーのユーザー ID には、使用目的に応じてサブユーザーを関連づけできます。ひとつのユーザー ID には、最大 10 個のサブユーザー ID を関連づけできます。

補足

- サブユーザーを利用するには、別途アプリケーションが必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■ 認証未登録ユーザー

登録されていないユーザーです。

認証未登録ユーザーは、利用が制限されているサービスを利用できません。

管理の権限と権限グループについて

本機でユーザーごとに管理の権限や権限グループを設定できます。

外部サーバーを利用しているユーザーの場合は、ApeosWare Management Suite 2（別売）または LDAP で設定します。LDAP を利用する場合は、CentreWare Internet Services で設定します。

注記

- 本体認証でネット集計管理の場合、ユーザーに権限グループを指定できないため、権限グループに設定した機能を使用できません。

管理の権限

認証ユーザーごとに管理の権限を設定できます。指定したユーザーに機械管理や集計管理の権限を持たせることができます。

■ 機械管理の権限

機械管理者と同じ権限が与えられます。ただし、次の操作はできません。

- 機械管理者パスワードの変更

■集計管理の権限

次の権限が与えられます。

- ユーザー情報の登録、削除、変更（パスワードのみ変更不可）、参照（設定により操作できないことがあります）
- 集計管理の登録、削除、変更、参照
- Account ID の代替表記 /Account ID の入力表示の変更
- ユーザー別集計管理レポートのプリント

権限グループ

利用制限に対する操作を許可する権限をグループ分けして、認証ユーザーを登録できます。権限グループに属したユーザーは、機械管理者と同様に操作を実行できます。

参照

- 詳しくは、「[権限グループ登録]」(P.172) を参照してください。

利用制限について

全体での利用制限

認証モードでは、本機自体および各サービスの利用を制限できます。利用するには、ユーザー認証が必要です。

参照

- 詳しくは、「[アクセス制御]」(P.171) を参照してください。

■デバイスへのアクセス

本機の操作パネルのボタン操作を制限できます。

■サービスのアクセス

プリント機能の利用を制限するかどうかを設定できます。

ユーザーごとの利用制限

ユーザーごとに、サービスの利用制限、上限ページ数を制限できます。

参照

- 詳しくは、「認証機能を使ったサービスの利用制限」(P.195) を参照してください。

認証の種類について

認証の種類

■本体認証

本機に登録したユーザー情報を使用して認証管理します。

補足

- コンピューターから直接送信されたプリントデータは、あらかじめクライアント側のプリンタードライバで設定した認証情報と、本機側に登録されている認証情報を照合することによって認証され、本機で受信できます。

参照

- プリンタードライバの設定については、プリンタードライバのヘルプを参照してください。

■ 外部認証

外部の認証サーバー（LDAP、Kerberos、SMB、ApeosWare Management Suite 2（別売）または Azure Active Directory が使用できます）で管理されているユーザー情報を使用して認証します。本機にユーザー情報は登録しません。

注記

- 外部認証時（ApeosWare Management Suite 2（別売）を使用する場合を除く）は、外部認証サーバーから取得したアクセス許可情報に基づき、本機の操作パネルから利用可能なサービスを利用できます。
- 本体認証から外部認証に変更した場合、本機に登録されたユーザー情報、およびプライベートプリントジョブは削除されます。
- 外部認証サーバーに登録するユーザーIDは32文字以内、パスワードは128文字以内で設定してください。ただし、SMB 認証の場合、パスワードは 32 文字以内で設定してください。

認証方法

■ ユーザー ID 認証

ユーザー ID やパスワードなどのユーザー情報を、本機または外部の認証サーバーにあらかじめ登録しておき、本機の操作パネルから直接ユーザー ID やパスワードを入力して認証します。

■ カード認証

カードに登録されているカード番号、またはユーザー ID やパスワードなどのユーザー情報を、本機または外部の認証サーバーにあらかじめ登録しておき、カードを使って認証します。

補足

- カード（IC カードリーダー（オプション）または DocuLyzer（別売））を利用して認証します。
- DocuLyzer（別売）を接続する場合、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご相談ください。また、利用時の管理/取り扱いについては、DocuLyzerのマニュアルを参照してください。
- DocuLyzer（別売）で使用するカードには、あらかじめカード番号が登録されています。
- 外部認証と DocuLyzer（別売）を組み合わせることはできません。

■ カード認証とユーザー ID 認証の併用

本機では、ユーザー ID 認証とカード認証の両方を併用できます。ただし、本体認証で併用する場合は、ユーザー ID 認証を有効にする必要があります。

参照

- ユーザー ID 認証を有効にするには、「[IC カード接続時の認証]」（P.173）を参照してください。

集計管理機能について

集計管理モードの種類

注記

- 認証モードが [外部認証] で、[認証システム] に [Authentication Agent] を設定しているときは、ApeosWare Management Suite 2（別売）が自動的に集計 / 認証サーバーになります。

補足

- 認証モードにより選ぶことができない集計管理モードがあります。詳しくは、「認証モードと集計管理モードの関係」（P.193）を参照してください。

■ 本体集計管理

本機にあらかじめ登録されている認証ユーザー情報を利用して、ユーザー別に集計管理します。

補足

- ユーザー別集計管理レポートは、機械管理者、機械管理の権限が設定されているユーザー、または集計管理の権限が設定されているユーザーで認証して出力できます。レポートの出力手順は、「[レポート / リストの出力]」(P.108)を参照してください。

参照

- 集計できるジョブは、「本体集計管理で集計できるサービス」(P.194)を参照してください。

■ ネット集計管理

外部サービスで管理されているユーザー情報を使用して集計管理します。

外部のサーバーが本機に保存されているジョブデータを収集し、ユーザー別に集計します。

補足

- 外部サービスで管理されているユーザー情報は、外部サービスから本機に送られてきて、本機に登録されます。外部サービスで管理されているユーザー情報が更新された場合は、外部サービスからユーザー情報を本機に送信する必要があります。
- 外部サービスの ApeosWare Management Suite 2（別売）を使用することで、ユーザー情報を管理したり、ジョブデータを収集したりできます。

■ 認証サーバーによる集計管理

認証サーバーを使って集計管理します。

外部のサーバーが本機に保存されているジョブデータを収集し、ユーザー別に集計します。

補足

- 認証サーバーは、ユーザー情報を管理し、集計情報を外部のサーバーから取得します。本機が対応している認証サーバーは、ApeosWare Management Suite 2（別売）です。

認証モードと集計管理モードの関係

認証モードと集計管理モードは別々に設定できます。設定できる組み合わせは、次のとおりです。

		集計管理モード			
		運用しない	本体集計管理	ネット集計管理	認証サーバー
認証モード	認証しない	○	×	○	×
	本体認証	×	○	○	×
	外部認証	○ ^{*1}	×	×	○ ^{*2}

○：できる、×：できない

*1 : 認証モードが [外部認証] で、[認証システム] が [Authentication Agent] 以外の場合、集計管理モードは「運用しない」になります。ApeosWare Management Suite 2（別売）で集計できます。

*2 : 認証モードが [外部認証] で、[認証システム] が [Authentication Agent] の場合、集計管理モードは「認証サーバー」になりますが ApeosWare Management Suite 2（別売）で集計はできません。

本体集計管理で集計できるサービス

サービスごとのジョブについて、集計管理できる情報について説明します。

■プリント

対象サービス（ジョブ）		集計対象ユーザー	管理項目
通常プリント	本機用プリンタードライバー	認証ユーザー	プリント面数 / 枚数
	本機用プリンタードライバー以外（BMLinkS など）*	認証未登録ユーザー	
セキュリティープリント	文書のプリント	認証ユーザー	
サンプルプリント			
時刻指定プリント			
認証プリント			
プライベートプリント			
メール受信プリント*		認証未登録ユーザー	

*:CentreWare Internet Services で、[認証 / 集計 / 権限] > [権限設定] > [アクセス制限設定] > [ユーザー指定なしプリント] を [制限しない] にした場合にプリントできます。

認証機能を使ったサービスの利用制限

制限できる機能は、本機の利用形態によって異なります。

利用制限できるサービス

利用制限には、ユーザーごとに設定できるものと、ユーザーにかかわらず機能に設定できるものとがあります。

参照

- ユーザーごとの設定は、「ユーザーを登録する（本体認証）」(P.199) を、機能への設定は、「[サービスへのアクセス]」(P.171) を参照してください。

認証モードと集計管理モードの組み合わせ

認証モードと集計管理モードの組み合わせによる、利用制限できるサービスおよび集計管理できるサービスは次のとおりです。

参照

- 認証方法については、「ユーザー認証機能を有効にする」(P.197) を参照してください。

補足

- 本体認証でユーザーID 認証とカード認証を併用して利用する場合は、ユーザーID 認証を有効にしてください。設定方法は、「[IC カード接続時の認証]」(P.173) を参照してください。

認証モードが「本体認証」で、集計管理モードが「本体集計管理」のとき

対象サービス	ユーザーごとの利用制限		ユーザー別の集計
	機能別利用制限 *	上限ページ数 *	
プリント	○	○	○

○：できる、×：できない

*:ユーザーごとの設定は、「ユーザーを登録する（本体認証）」(P.199) を参照してください。

認証モードが「本体認証」で、集計管理モードが「ネット集計管理」のとき

対象サービス	ユーザーごとの利用制限		ユーザー別の集計 *2
	機能別利用制限 *1	上限ページ数	
プリント	○	×	○

○：できる、×：できない

*1 :ApeosWare Management Suite 2（別売）で利用制限できます。

*2 :ApeosWare Management Suite 2（別売）で集計できます。

認証モードが「外部認証」のとき

対象サービス	ユーザーごとの利用制限		ユーザー別の集計 ^{*2}
	機能別利用制限 ^{*1}	上限ページ数 ^{*1}	
プリント	○	○	○

○：できる、×：できない

^{*1} :認証システムとして ApeosWare Management Suite 2（別売）を利用している場合は、利用制限できます。

^{*2} :ApeosWare Management Suite 2（別売）で集計できます。

注記

- ApeosWare Management Suite 2（別売）によるユーザー別集計管理を行う場合の注意事項は、次のとおりです。
- 複数ドメインにユーザー登録して運用する場合は、ユーザーIDが重複しないように運用 / 管理する必要があります。
- コンピューターから指示するジョブは、ユーザーIDを一致させるために、コンピューターから外部認証サーバーにログインしておく必要があります。

ユーザー認証機能を有効にする

本体認証をする場合は、認証方式とアクセス制御を設定したあとにユーザーを本機に登録します。外部認証をする場合は、認証方式とアクセス制御を設定したあとに認証サーバーを設定します。

補足

- 本体認証に設定する場合、必要に応じて権限グループを先に登録しておきます。
- 認証時にパスワードの入力を必須にするには、[パスワード使用 - パネル入力時] または [パスワード使用 - IC カード認証時] を [する] に設定します。詳しくは、「[パスワードの運用]」(P.174) を参照してください。
- 文字の入力方法については、「文字の入力方法」(P.57) を参照してください。

認証方式を設定する

- 1 ホーム画面で [設定] をタップします。
- 2 [認証 / 集計管理] > [認証・セキュリティ設定] をタップします。
- 3 [認証の設定] をタップします。
- 4 [認証方式の設定] をタップします。
- 5 [本体認証] または [外部認証] を選び、[OK] をタップします。

参照

- 認証方式については、「認証の種類」(P.191) を参照してください。

アクセス制御を設定する

本機の操作に認証が必要かどうかを設定します。

- 1 ホーム画面で [設定] をタップします。
- 2 [認証 / 集計管理] > [認証・セキュリティ設定] をタップします。
- 3 [認証の設定] > [アクセス制御] をタップします。
- 4 [デバイスへのアクセス] で [制限しない] または [制限する] を選びます。

補足

- [制限する] に設定すると、本機の操作パネルですべての操作に認証が必要になります。

- 5 [サービスへのアクセス] をタップします。

6 操作に認証が必要かどうかをサービスごとに設定します。



1) 変更したいサービスをタップします。

2) 設定を選びます。

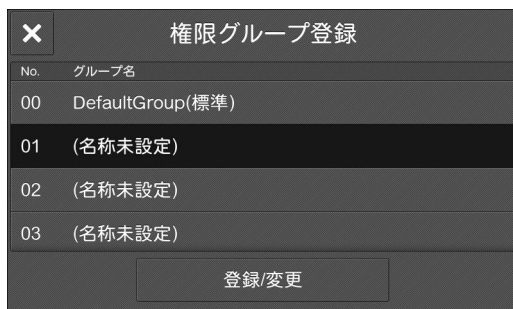
補足

- [制限する (表示)] に設定すると、ホーム画面の該当する機能ボタンに  が表示されます。サービスの利用には認証が必要になります。
- [制限する (非表示)] に設定すると、認証していない状態ではホーム画面に該当する機能ボタンが表示されません。

権限グループを設定する（本体認証）

本体認証のユーザーに割り当てる権限グループを登録します。

- 1 ホーム画面で [設定] をタップします。
- 2 [認証 / 集計管理] > [認証・セキュリティ設定] をタップします。
- 3 [認証の設定] > [権限グループ登録] をタップします。
- 4 登録したい権限グループ No. を選び、[登録 / 変更] をタップします。



補足

- No.00 の [DefaultGroup (標準)] は、ユーザーを新規作成したときのデフォルト権限グループです。認証していないユーザーもデフォルト権限グループに属します。
- デフォルト権限グループも他の権限グループと同様に変更できます。

5 [グループ名] をタップし、名称を入力して [OK] をタップします。

6 変更したい権限をタップし、設定を選びます。

補足

- お使いの機種またはオプションの取り付け状況によって、表示されない項目があります。

■[強制印字の一時解除]

UUID 印字、強制アノテーションなどの強制印字が設定されているときに、強制印字を一時的に解除できるようにするかどうかを設定します。

ユーザーを登録する（本体認証）

本体認証を設定したときの認証ユーザーを本機に登録します。

ユーザーごとに管理権限、サービスの利用制限や上限ページ数を設定できます。

補足

- [集計管理] の [ユーザー登録 / 集計確認] でも同様にユーザーを登録できます。

- 1 ホーム画面で [設定] をタップします。
- 2 [認証 / 集計管理] > [認証・セキュリティ設定] をタップします。
- 3 [認証の設定] > [ユーザー登録 / 集計確認] をタップします。
- 4 ユーザーを登録する [No.] をタップします。

補足

- [No.] はユーザー管理番号です。

- 5 ユーザー ID を入力し、[OK] をタップします。
- 6 [ユーザー名] をタップします。
- 7 ユーザーの表示名を入力し、[OK] をタップします。
- 8 [パスワード] があるときは、パスワードを設定します。
 - 1) [パスワード] をタップします。
 - 2) [新しいパスワード] を選び、パスワードを入力します。
 - 3) [次へ] をタップし、同じパスワードを入力します。
 - 4) [OK] をタップします。

補足

- 認証ユーザーが自分のパスワードを変更する方法は、「ユーザー自身でパスワードを変更する」(P.213) を参照してください。

- 9 必要に応じてメールアドレスを設定します。
 - 1) [メールアドレス] をタップします。
 - 2) メールアドレスを入力し、[OK] をタップします。
- 10 必要に応じて利用制限や権限を設定します。

■[デバイス利用許可]

本機の利用を許可するかどうかを設定します。

補足

- IC カードリーダー（オプション）が接続されている場合、許可するかどうかを認証方法ごとに設定できます。

■[サービスの利用制限]

サービスごとに利用制限や上限ページ数を指定します。サービスを選んでから [機能制限] または [上限ページ数] を設定し、[OK] をタップします。

■[ユーザーの権限]

ユーザーに権限を与えることができます。権限グループは [権限の追加設定] で設定します。

- [一般ユーザーの権限]

管理権限を持たない通常のユーザー権限です。

- [機械管理の権限]

機械管理者と同じ権限が与えられます。ただし、機械管理者のパスワード変更はできません。

- [集計管理の権限]

集計管理に関する以下の権限が与えられます。

- ユーザー情報の登録 / 変更（一部） / 削除
- 集計管理の登録 / 変更 / 削除
- Account ID の代替表記 / Account ID の入力表示の変更
- ユーザー別集計管理レポートのプリント

■[カード番号]

DocuLyzer（別売）を取り付けているときは、カード番号を設定します。

登録ユーザーを削除するとき

■ユーザーを個別に削除する

[ユーザー登録 / 集計確認] 画面で削除するユーザー登録番号を選び、[すべての登録内容を削除] > [はい（削除する）] をタップします。

■すべてのユーザーを削除する

[認証の設定] 画面で、[登録内容の削除 / 集計リセット] をタップし、[全ユーザーの登録内容] を選んでから [削除 / リセット] > [はい（削除する）] の順にタップします。

デフォルト権限グループを設定する（外部認証）

外部認証に設定したときのデフォルト権限グループの権限を設定します。

- 1 ホーム画面で [設定] をタップします。
- 2 [認証 / 集計管理] > [認証・セキュリティ設定] をタップします。
- 3 [認証の設定] > [権限グループ登録] をタップします。
- 4 [DefaultGroup（標準）] を選び、[登録 / 変更] をタップします。
- 5 変更したい権限をタップし、設定を選びます。

補足

- お使いの機種またはオプションの取り付け状況によって、表示されない項目があります。

■[強制印字の一時解除]

UUID 印字、強制アノテーションなどの強制印字が設定されているときに、強制印字を一時的に解除できるようにするかどうかを設定します。

認証システムを設定する（外部認証）

外部認証サーバーを本機に登録します。

- 1 ホーム画面で [設定] をタップします。
- 2 [ネットワーク設定] > [外部認証サーバー設定] をタップします。
- 3 [認証システムの設定] > [認証システム] をタップします。
- 4 外部認証サーバーの種類を選び、[OK] をタップします。

補足

- 外部認証サーバーに、ApeosWare Management Suite 2（別売）を使用する場合は、[Authentication Agent] を選びます。

- 5 [Authentication Agent] 以外を選んだ場合は、[<] をタップしてから認証サーバーの情報を登録します。

参照

- 詳しくは、「[Kerberos サーバー設定]」(P.159)、「[LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定]」(P.160)、「[SMB サーバー設定]」(P.162) を参照してください。
- Azure Active Directory の設定については、「外部認証の Azure Active Directory を設定する」(P.205) を参照してください。

外部認証の LDAP サーバーを設定する

[認証システム] を [LDAP] に設定したときは、LDAP サーバーの情報を本機に登録します。

補足

- 本機が対応する LDAP サーバーは、Active Directory および OpenLDAP です。
- 手順で説明している Active Directory での DN 形式や属性値の確認方法、グループにアカウントを追加する方法については、Microsoft 社の公式サイトを参照してください。
- 属性名などで操作パネルから入力できない文字列を使っている場合は、CentreWare Internet Services から設定してください。

- 1 ホーム画面で [設定] をタップします。
- 2 [ネットワーク設定] > [外部認証サーバー設定] をタップします。

- 3 [LDAP サーバー/ディレクトリサービス設定]>[プライマリーサーバー- 名前 / アドレス] をタップします。

- 4 LDAP サーバーの IP アドレス（またはホスト名）を入力し、[OK] をタップします。

補足

- LDAP サーバーのポート番号を変更するには、[プライマリーサーバー- ポート番号] で設定します。
- [セカンダリーサーバー- 名前 / アドレス]、[セカンダリーサーバー- ポート番号]を設定しておく、サーバーがメンテナンス中などで通信不能の場合に、自動的に代替サーバーに接続します。

- 5 [認証方式] をタップし、LDAP サーバーへの認証方式を設定します。

■[直接認証]

ユーザー ID を使って、LDAP サーバーに認証を行います。

■[ユーザー属性認証]

特定の属性情報を基に、LDAP サーバーに認証を行います。たとえば、「mail」属性を設定しているときは、メールアドレスを入力してログインします。

[ユーザー属性認証] にするときは、[入力ユーザー名の属性] に属性名を設定します。

補足

- ユーザーごとに一意な値であることが保証される属性を設定してください。

- 6 [認証用ユーザー名の属性] をタップし、ユーザーの表示名や識別子とする属性名を入力して [OK] をタップします。

補足

- ユーザーごとに一意な値であることが保証される属性を設定してください。
- 設定した属性が LDAP サーバーから取得できない場合は、ログインできません。
- 認証方式が [直接認証] の場合、操作パネルから認証時に入力するユーザー ID の属性と同じものを設定してください。

- 7 ログインするときの入力文字列に、補完情報を付与するかどうかを設定します。

たとえば、メールアドレス (user@myhost.example.com) を使って認証する場合、「@myhost.example.com」を追加する設定にしておくと、「user」のみの入力でもログインできるようになります。

[ユーザー名追加文字列の使用] を [使用する] にして、[ユーザー名の追加文字列] に追加する文字列を設定します。

8 ディレクトリツリー上の検索範囲を設定します。

補足

- ここで指定したエントリーがユーザー検索の基準になります。ログインするユーザーが含まれる階層のエントリーを指定してください。ただし、エントリー以下の階層に含まれるユーザーやグループの数が多すぎると、本機へのログインに時間がかかることがあります。適切な検索範囲を設定してください。

- 1) [検索起点エントリー (DN)] をタップし、検索の起点とするエントリーを DN 形式で入力して [OK] をタップします。
- 2) [起点からの検索範囲] で検索範囲を選びます。
- 3) 必要に応じて、[検索対象のオブジェクトクラス] をタップし、オブジェクトクラス名を入力して、[OK] をタップします。

9 ホームボタンを押し、[はい (再起動する)] をタップします。

その他の設定事例 (LDAP)

本機と LDAP サーバー間の通信を暗号化したい

- 1 ホーム画面で [設定] をタップします。
- 2 [ネットワーク設定] > [外部認証サーバー設定] をタップします。
- 3 [LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定] > [プライマリーサーバー - ポート番号] をタップします。

LDAPサーバー設定	
プライマリーサーバー 名前/アドレス	192.0.1.25
プライマリーサーバー ポート番号	389
セカンダリーサーバー 名前/アドレス	(未設定)
セカンダリーサーバー ポート番号	389
認証方式	直接認証
接続確認	

- 4 LDAPS が稼働するポート番号を入力し、[OK] をタップします。

補足

- 通常は 636 番ポートが使われますが、確認のうえ設定してください。

- 5 ホームボタンを押し、[はい (再起動する)] をタップします。

Active Directory で信頼関係を構築した LDAP サーバーのユーザーでログインしたい

次の条件を満たしている場合を例に、信頼関係先のドメインサーバー上のユーザーで本機にログインするための手順を説明します。

- ドメイン名に “w2k8adtest.local” が設定されている。
- [Active Directory ドメインと信頼関係] で信頼関係が構築されている。

- 1 ホーム画面で [設定] をタップします。
- 2 [ネットワーク設定] > [外部認証サーバー設定] をタップします。
- 3 [LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定] をタップします。
- 4 [リフェラルの使用] を [使用する] に設定します。

LDAPサーバー設定	
検索起点エントリー(DN)	(未設定)
起点からの検索範囲	起点から下の階層すべて
検索対象のオブジェクト	(未設定)
リフェラルの使用	使用しない
リフェラルのホップ数上限	5
接続確認	

- 5 必要に応じて、[リフェラルのホップ数上限] を設定します。

注記

- 接続するサーバー数の上限は [リフェラルのホップ数上限] で設定された数値までですので、この場合は 5 つの信頼関係先まで接続します。5 つを越える信頼関係先には接続しません。
- [検索用の認証ユーザー] について、信頼関係先の LDAP サーバーにもアクセス資格が必要になります。
- セキュリティー機能の観点から、LDAPS が設定されている場合、非暗号の信頼関係先には接続しません。

- 6 ホームボタンを押し、[はい (再起動する)] をタップします。

ログインに時間がかかり、同じユーザーでログインに成功したり失敗したりする場合

LDAP サーバーやネットワークに負荷がかかっている可能性が高いため、基本的には使用環境の調査と見直しが必要です。

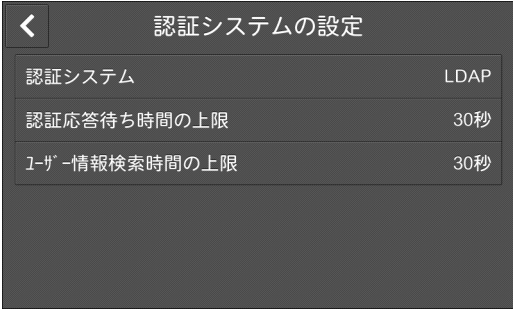
LDAP サーバーの検索範囲が大きすぎる場合、または検索範囲に含まれるエントリー数が多すぎることで時間がかかっている場合は、[ネットワーク設定] > [外部認証サーバー設定] > [LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定] の [検索起点エントリー (DN)] を見直してください。

本機の LDAP サーバーへの通信時の待ち時間を十分長い時間に設定することでログインの失敗を回避できることがあります。ただし、ログインにかかる時間は短縮されないため、あくまでも暫定的な回避方法です。

次の手順で通信時の待ち時間を設定できます。

- 1 ホーム画面で [設定] をタップします。
- 2 [ネットワーク設定] > [外部認証サーバー設定] をタップします。

- 3 [認証システムの設定] をタップします。
- 4 以下の設定を確認し、必要に応じて変更します。



認証システムの設定	
認証システム	LDAP
認証応答待ち時間の上限	30秒
ユーザー情報検索時間の上限	30秒

■[認証応答待ち時間の上限]

LDAP サーバーに認証要求を行った場合の、サーバーからの応答に対する待ち時間の上限を設定します。

ネットワークへの負荷が疑われる場合には、この値を変更してください。

■[ユーザー情報検索時間の上限]

LDAP サーバーに検索要求を行った場合の、サーバーからの応答に対する待ち時間の上限を設定します。

LDAP サーバーへの負荷が疑われる場合には、この値を変更してください。

- 5 ホームボタンを押し、[はい (再起動する)] をタップします。

外部認証の Azure Active Directory を設定する

[認証システム] を [Azure Active Directory] に設定したときは、Azure Active Directory を利用するための設定をします。

注記

- この機能は、ストレージが取り付けられ、かつ、ストレージに空きがある場合にのみ使用できます。
- この機能を利用するためには、EP-BB の契約をしている必要があります。また、EP 通信用のプロキシサーバーを設定する必要があります。設定方法は、「[EP プロキシサーバー設定]」(P.157) を参照してください。

補足

- Azure Active Directory の設定を変更する場合、事前に影響を確認してください。

参照

- Azure Active Directory について、詳しくは Microsoft 社の公式サイトを参照してください。

Azure Active Directory を使うための準備

■ Azure Active Directory 上での管理者による同意

本機で Azure Active Directory を利用するには、本機が以下の各処理を行うことを、お客様に同意していただく必要があります。

- ユーザーの認証
- ユーザー名など基本情報の参照
- ユーザーのメールアドレスの参照
- ディレクトリ内に存在するグループ一覧の参照

同意の手順を説明します。

- 1 Web ブラウザーのアドレス入力欄に以下の URL を入力し、〈Enter〉キーを押します。
`https://login.microsoftonline.com/common/
adminconsent?client_id=8d4725eb-672b-4d11-8f26-
069a8844097b&redirect_uri=https://account.fujixerox.com/
consentResult.html`
- 2 テナント管理者のアカウントでログインします。
- 3 権限に対する同意画面が表示されます。内容を確認し、[承諾] をクリックします。
- 4 同意成功の画面が表示されたら、Web ブラウザーを閉じます。

■ DNS サーバーの設定

本機を使用するためには、DNS サーバーを設定する必要があります。

参照

- 設定方法は、「[IPv4 - DNS 設定]」(P.153)、または、「[IPv6 - DNS 設定]」(P.154) を参照してください。

■ プロキシサーバー設定

本機能を使用するためには、プロキシサーバーを設定する必要があります。

参照

- 設定方法は、「[プロキシサーバー設定] / [プロキシサーバー設定 -Ethernet1]、[プロキシサーバー設定 -Wi-Fi]」(P.155) を参照してください。

Azure Active Directory への接続情報を設定する

本機が Azure Active Directory に接続するために必要な情報の設定方法を説明します。

- 1 CentreWare Internet Services を起動し、機械管理者モードにログインします。

参照

 - 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.64) を参照してください。
- 2 左側のメニューから [認証 / 集計 / 権限] をクリックします。
- 3 [認証設定] をクリックします。
- 4 [外部認証] の [設定] をクリックします。
- 5 [Azure Active Directory] を選び、[保存] をクリックします。
- 6 [ディレクトリー ID] に、お客様が契約されている Azure Active Directory のディレクトリ ID を入力します。
- 7 [ドメイン設定] の [確認 / 変更] をクリックします。
- 8 Azure Active Directory のドメイン情報を入力します。
- 9 [保存] > [保存] をクリックします。

- 10 本機を再起動する表示に変わったら、[はい (変更する)] をクリックします。

Azure Active Directory グループアカウントを設定する

ここでは、文書プリント機能へのアクセス権限を割り当てる Azure Active Directory グループアカウントを例に設定方法を説明します。

- 1 CentreWare Internet Services を起動し、機械管理者モードにログインします。

参照

- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.64) を参照してください。

- 2 左側のメニューから [認証 / 集計 / 権限] をクリックします。
- 3 [認証設定] をクリックします。
- 4 [外部認証] の [設定] をクリックします。
- 5 [Azure Active Directory] を選び、[保存] をクリックします。
- 6 [グループアカウントの権限設定] の [確認 / 変更] をクリックします。
- 7 [文書プリント] をクリックします。
- 8 [文書プリント] のグループに操作権限を割り当てたい Azure Active Directory グループのオブジェクト ID (OID) を xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。

補足

- ログインしたユーザーがここで設定したグループアカウントに所属する場合、そのユーザーに対して操作権限を与えます。

参照

- Azure Active Directory でのグループアカウントの DN の確認方法は、「Azure Active Directory グループのオブジェクト ID の確認方法」(P.207) を参照してください。

- 9 [OK] をクリックします。
ほかの機能も制限する場合は手順 7 ～ 9 と同様に設定します。
- 10 [保存] > [保存] の順にクリックします。

その他の設定事例 (Azure Active Directory)

Azure Active Directory グループのオブジェクト ID の確認方法

Azure Active Directory グループに登録されているオブジェクト ID を確認する方法を説明します。

- 1 Azure Portal に全体管理者でログインします。
- 2 [Azure Active Directory] > [グループ] で対象のグループを選びます。
- 3 [オブジェクト ID] で Azure Active Directory のオブジェクト ID を確認します。

Azure Active Directory でグループにアカウントを追加する方法

Azure Active Directory で既存のグループにアカウントを追加する方法を説明します。

- 1 Azure Portal に全体管理者でログインします。
- 2 [Azure Active Directory] > [グループ] で対象のグループを選びます。
- 3 [管理] 領域の [メンバー] を選び、[メンバーの追加] をクリックします。
- 4 [メンバーの選択または外部ユーザーの招待] から追加したいユーザーを選びます。
- 5 [選択] をクリックします。

ログインに時間がかかり、同じユーザーでログインに成功したり失敗したりする場合

Azure Active Directory もしくはネットワークに負荷がかかっている可能性が高いため、基本的には使用環境の調査と見直しが必要です。

本機の Azure Active Directory への通信時の待ち時間を十分長い時間に設定することでログインの失敗を回避できることがあります。ただし、ログインにかかる時間は短縮されないため、あくまでも暫定的な回避方法です。

次の手順で通信時の待ち時間を設定できます。

- 1 CentreWare Internet Services を起動し、機械管理者モードにログインします。

参照

- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.64) を参照してください。

- 2 左側のメニューから [認証 / 集計 / 権限] をクリックします。
- 3 [認証設定] > [詳細設定] をクリックします。
- 4 [認証応答待ち時間の上限] と [ユーザー情報検索時間の上限] に適切な時間を入力します。

■[認証応答待ち時間の上限]

Azure Active Directory に認証要求を行った場合の、サーバーからの応答に対する待ち時間の上限を設定します。

ネットワークへの負荷が疑われる場合には、この値を変更してください。

■[ユーザー情報検索時間の上限]

Azure Active Directory に検索要求を行った場合の、サーバーからの応答に対する待ち時間の上限を設定します。

Azure Active Directory への負荷が疑われる場合には、この値を変更してください。

- 5 [保存] をクリックします。

IC カード利用時にパスワードを省略したい

IC カード情報とユーザー情報ならびに当該ユーザーのリフレッシュトークンが複合機本体に保存されている場合、リフレッシュトークンの有効期間内であれば、パスワード入力を省略できます。

次の手順で、IC カード情報とユーザー情報ならびにリフレッシュトークンを複合機本体に保存できます。

1 IC カードを設定します。

補足

- IC カードの設定は、CentreWare Internet Services で行います。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

2 [設定] > [認証 / 集計管理] > [認証・セキュリティ設定] > [認証の設定] > [認証情報の設定] > [外部認証情報の本体保存] を [する] に設定します。

3 IC カードをかざし、ユーザー ID とパスワードを入力します。

以降は、リフレッシュトークンの有効期間内は、IC カードをかざすだけで複合機へのログインが可能となります。

リフレッシュトークンの有効期間が切れた、またはリフレッシュトークンが無効となった場合は、再度ユーザー ID とパスワードの入力が必要です。

Azure Active Directory の情報を利用する

本機認証時に、Azure Active Directory からユーザー属性情報を取得します。

補足

- 証明書は取得されません。

取得した情報は、本機使用時に以下の用途に利用します。

- 認証用ユーザー名は、ジョブのユーザー ID として使用されます。

IC カードリーダー（オプション）で認証するための設定

IC カードに登録した情報によって認証したり、IC カードに登録した情報と本機に登録したユーザー情報を照合したりして、本機の利用制限やジョブなどの集計管理を行うことができます。

⚠ 警告

- 埋込み型心臓ペースメーカーおよび埋込み型除細動器を装着されている場合は、本装置または本装置のワイヤレスカードシステムのリーダライタ部（アンテナ部）から 12 cm 以上離れて携行および使用してください。電波により埋込み型心臓ペースメーカーおよび埋込み型除細動器の動作に影響を与える場合があります。
- 埋込み型心臓ペースメーカーおよび埋込み型除細動器以外の医用電気機器を本装置（ApeosPort- VII P4022 JM）の近傍で使用される場合には、電波による影響について個別に医用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医用電気機器などの動作に影響を与える場合があります。

Step1 事前準備

使用できる IC カードの種類は、機種によって異なります。使用できる IC カードについては、お使いの IC カードリーダー（オプション）に付属のマニュアルを参照してください。

Step2 IC カードとパスワードの併用の設定

外部認証で、IC カードを使って本機にログインするときに、パスワードの入力を求めるかどうかを設定します。

- 1 ホーム画面で「設定」をタップします。
- 2 「認証 / 集計管理」 > 「認証・セキュリティ設定」をタップします。
- 3 「認証の設定」 > 「認証情報の設定」をタップします。
- 4 「IC カード連携モード」でパスワード入力が必要かどうかを設定します。
- 5 ホームボタンを押し、「はい（再起動する）」をタップします。

Step3 IC カード使用時の認証解除の設定

IC カード使用時の認証解除方法を設定します。

- 1 ホーム画面で「設定」をタップします。
- 2 「認証 / 集計管理」 > 「認証・セキュリティ設定」をタップします。
- 3 「認証の設定」 > 「認証情報の設定」をタップします。

- 4 [非接触型 IC カード設定] をタップします。
 - 5 認証の解除方法を選び、[OK] をタップします。
- 参照
- 詳しくは、「[非接触型 IC カード設定]」(P.173) を参照してください。
- 6 ホームボタンを押し、[はい（再起動する）] をタップします。

Step4 IC カード情報の登録

機械管理者は、CentreWare Internet Services を使用して、IC カード情報と認証に使用する情報を設定します。

参照

- 詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

Step5 外部認証に LDAP サーバーを使うときの設定

IC カードの ID と対応させる属性と、認証後にユーザーの識別に使われる属性を設定します。

- 1 ホーム画面で [設定] をタップします。
- 2 [ネットワーク設定] > [外部認証サーバー設定] をタップします。
- 3 [LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定] > [IC カード認証に使用する属性] をタップします。

LDAPサーバー設定	
ユーザー名の追加文字列	(未設定)
ICカード 認証に使用する属性	(未設定)
ネットワーク用ユーザーID属性	sAMAccountName
検索用の認証ユーザー	本体設定
検索用ログイン名	(未設定)
接続確認	

- 4 IC カードの ID と対応させる属性名を入力し、[OK] をタップします。
- 補足
- 属性にはあらかじめカード ID が登録されている必要があります。
 - ユーザーごとに一意な値であることが保証される属性を設定してください。
- 5 [ネットワーク用ユーザー ID 属性] をタップします。
 - 6 IC カードで認証したときに、ユーザーの表示名や識別子とする属性名を入力し、[OK] をタップします。
- 補足
- ユーザーごとに一意な値であることが保証される属性を設定してください。
 - 設定した属性が LDAP サーバーから取得できない場合は、ログインできません。
- 7 ホームボタンを押し、[はい（再起動する）] をタップします。

集計管理するための設定

参照

- 認証モードと集計管理モードの関係については、「認証モードと集計管理モードの関係」(P.193)を参照してください。

- 1 ホーム画面で「設定」をタップします。
- 2 「認証 / 集計管理」 > 「集計管理」をタップします。
- 3 「集計管理機能の運用」をタップします。
- 4 集計管理モードを選び、「OK」をタップします。

参照

- 集計管理機能については、「集計管理モードの種類」(P.192)を参照してください。

ユーザー認証の操作

本機には、利用できるサービスを制限するための、認証機能があります。
制限されたサービスを利用するための認証とパスワードの変更について説明します。

登録ユーザーの認証

登録ユーザーを認証するには、本機の操作パネルを操作して認証する方法と、ICカードをICカードリーダー（オプション）にタッチして認証する方法があります。

補足

- 本機への認証方法は、「認証モードへのログイン」(P.58)を参照してください。

パスワードの変更

ユーザー自身でパスワードを変更する

ユーザーが認証されているときは、ユーザー自身のパスワードを変更できます。

- 1 ホーム画面で、[設定] をタップします。
- 2 [認証 / 集計管理] > [ユーザー情報の設定] をタップします。
- 3 [パスワード変更] をタップします。
- 4 現在のパスワードを入力し、[OK] をタップします。
- 5 [新しいパスワードを入力してください。] をタップします。
- 6 新しいパスワードを入力し、[次へ] をタップします。
- 7 同じパスワードを入力し、[OK] をタップします。

機械管理者がパスワードを設定 / 変更する

機械管理者は、CentreWare Internet Services を使用して、パスワードの設定や変更ができます。

参照

- タッチパネルディスプレイからのパスワードの設定 / 変更方法については、「[ユーザー登録 / 集計確認]」(P.167)を参照してください。

- 1 CentreWare Internet Services を起動し、機械管理者モードにログインします。

参照

- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.64)を参照してください。

- 2 左側のメニューから [認証 / 集計 / 権限] をクリックします。
- 3 [アカウント一覧] から設定 / 変更するユーザーをクリックします。
- 4 [パスワード変更] をクリックします。
- 5 [新しいパスワード] に新しいパスワードを入力します。

6 [パスワードの再入力] に同じパスワードを入力します。

7 [保存] をクリックします。

10

日常の管理

消耗品を交換する

本機には、消耗品、および定期交換部品が用意されています。

消耗品 / 定期交換部品の種類
トナーカートリッジ [K] (ブラック)
ドラムカートリッジ*

*: 契約方式によって、弊社のカスタマーエンジニアが交換する場合があります。

⚠ 警告

- こぼれたトナーを電気掃除機で吸い取らないでください。本製品内およびトナーカートリッジ、ドラムカートリッジに付着したトナーを電気掃除機で吸引することもおやめください。掃除機を用いると、掃除機内部のトナーが、電気接点の火花などにより、発火または爆発するおそれがあります。床などにこぼしたトナーは、ほうきで掃き取るか、または石けん水を湿らした布などで拭き取ってください。大量にこぼれた場合、弊社カスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
- トナーカートリッジおよびドラムカートリッジは、絶対に火中に投じないでください。トナーが発火または爆発する可能性があり、火傷のおそれがあります。使い終わった不要なカートリッジは弊社にて回収いたしますので、必ず弊社カスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

⚠ 注意

- ドラムカートリッジやトナーカートリッジは幼児の手が届かないところに保管してください。幼児がトナーを飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談し指示を受けてください。
- ドラムカートリッジやトナーカートリッジを交換する際は、トナーが飛散しないように注意してください。また、トナーが飛散した場合は、トナーが皮膚や衣服に付いたり、トナーを吸引したり、または目や口に入らないように注意してください。
- 次の事項に従って、応急処置をしてください。
 - トナーが皮膚や衣服に付着した場合は、石けんを使って水でよく洗い流してください。
 - トナーが目に入った場合は、目に痛みがなくなるまで15分以上多量の水でよく洗い、必要に応じて医師の診断を受けてください。
 - トナーを吸引した場合は、新鮮な空気のところへ移動し、多量の水でよくうがいをしてください。
 - トナーを飲み込んだ場合は、飲み込んだトナーを吐き出し、水でよく口の中をすすぎ、多量の水を飲んでください。すみやかに医師に相談し指示を受けてください。

消耗品 / 定期交換部品の取り扱いについて

- 消耗品 / 定期交換部品の箱は、立てた状態で保管しないでください。
- 消耗品 / 定期交換部品は、使用するまでは開封しないで、次のような場所を避けて保管してください。
 - 高温多湿の場所
 - 火気がある場所
 - 直射日光が当たる場所
 - ほこりが多い場所
- 消耗品 / 定期交換部品を使用するときは、取り扱い上の注意をよく読んでから使用してください。取り扱い上の注意は、消耗品 / 定期交換部品に同梱されているか、消耗品 / 定期交換部品の箱や容器に記載されています。
- 消耗品 / 定期交換部品は、予備を用意することをお勧めします。
- 消耗品 / 定期交換部品を発注するときは、商品コードを確認のうえ、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご注文ください。
- 弊社が推奨していない消耗品 / 定期交換部品を使用された場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。本製品には、弊社が推奨する消耗品 / 定期交換部品をご使用ください。
- 本機が節電状態になっている場合は、トナーカートリッジを交換する前に、電源 / 節電ボタンを長押しして節電状態を解除し、消耗品の状態を確認してください。

消耗品の状態確認

消耗品の状態は、[消耗品確認] 画面で参照できます。

参照

- 消耗品確認については、「[消耗品確認]」(P.116) を参照してください。

トナーカートリッジを交換する

トナーの残量によって、次のようなメッセージが操作パネルのディスプレイに表示されます。メッセージに従って、処置してください。

注記

- 弊社が推奨していないトナーカートリッジを使用した場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。本製品には、弊社が推奨するトナーカートリッジをご使用ください。

メッセージ	処置
予備を用意 (トナーカートリッジ)	トナーカートリッジを交換する必要はありません。表示されたトナーカートリッジの予備を用意してください。 補足 • メッセージが表示されてから、プリントできる残りページ数* は次のとおりです。 - ブラック (4K) : 約 800 ページ - ブラック (8K) : 約 1,600 ページ - ブラック (18K) : 約 3,600 ページ
交換時期 (トナーカートリッジ)	表示されたトナーカートリッジを交換してください。 補足 • メッセージが表示されてから、プリントできる残りページ数* は約 40 ページです。

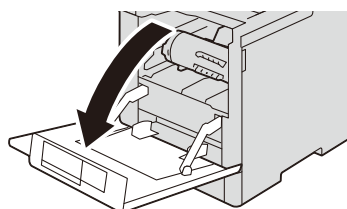
メッセージ	処置
要交換（トナーカートリッジ）	本機が停止します。表示されたトナーカートリッジを交換してください。

*:使用可能ページ数は、A4（□）の用紙を使用した場合の枚数です。使用可能ページ数は、印字内容、用紙のサイズ、種類、使用環境などによって異なりますので、あくまでも目安としてお考えください。

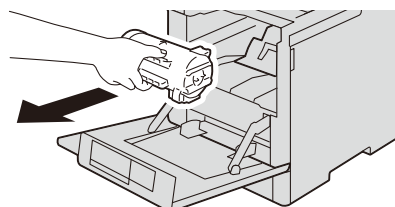
注記

- トナーカートリッジを交換するとき、トナーがこぼれて床面などを汚すことがあります。あらかじめ床に紙などを敷いて作業することをお勧めします。
- トナー残量が少なくなっている場合、プリント中に本機が停止してメッセージが表示されることがあります。その場合は、トナーカートリッジを交換すると、プリントが継続されます。
- トナーカートリッジを交換するときは、本機の電源を入れたままの状態にしておいてください。
- 操作パネルのディスプレイに、予備のトナーを用意するようにとメッセージが表示されたあとは、プリント濃度が低下することがあります。

- 1 本機が停止していることを確認し、フロントカバーを開けます。



- 2 トナーカートリッジの取手を持って、ゆっくりと手前に取り出します。



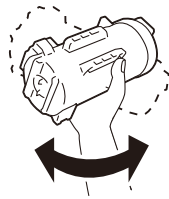
⚠ 警告

- トナーカートリッジは、絶対に火中に投げないでください。トナーカートリッジに残っているトナーが発火または爆発する可能性があり、火傷のおそれがあります。使い終わった不要なトナーカートリッジは弊社にて回収いたしますので、必ず弊社カスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

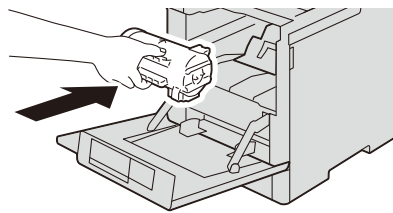
注記

- トナーカートリッジはゆっくりと引き出してください。トナーが飛び散ることがあります。
- 使い終わった不要なトナーカートリッジは弊社にて回収いたしますので、弊社カスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

- 3 新しいトナーカートリッジを箱から取り出し、上下左右に 5、6 回振ります。



- 4 トナーカートリッジの矢印（↑）部を上に向けて、奥に突き当たるまで差し込みます。



- 5 フロントカバーを閉じます。

ドラムカートリッジを交換する（スポット保守のお客様のみ）

ドラムカートリッジが寿命に近付くと予備のドラムカートリッジを用意することを促すメッセージがタッチパネルディスプレイに表示されます。

メッセージが表示されたら、ドラムカートリッジを交換してください。

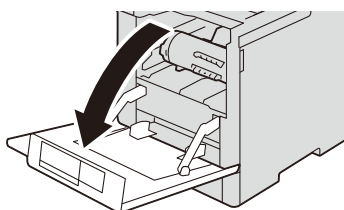
交換しないで使い続けると、メッセージが表示されたあと約 12,000 ページプリントしたときに本機が停止します。

ドラムカートリッジを交換するときには、濃度ムラや色ムラが発生するのを防ぐため、付属の清掃棒を使用して、LED プリントヘッド部を清掃してください。

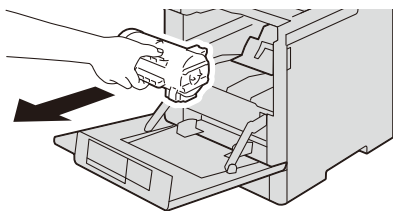
補足

- ドラムカートリッジを、直射日光や室内蛍光灯の強い光に当てないでください。また、ドラムの表面に触れたり、傷を付けたりしないでください。きれいなプリントができなくなることがあります。
- 使用可能ページ数は、A4（□）の用紙を使用した場合の枚数です。用紙のサイズや方向、連続プリント枚数、使用環境などによって異なりますので、あくまでも目安としてお考えください。
- 操作パネルのタッチパネルディスプレイに、メッセージが表示されたあとは、画像汚れが発生することがあります。
- 状態表示ランプが点滅していても、ドラムカートリッジの状態を確認してから交換してください。ドラムカートリッジの状態は、ホーム画面の〔設定〕＞〔消耗品確認〕で確認できます。

- 1 本機が停止していることを確認し、フロントカバーを開けます。



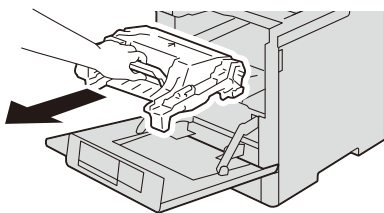
- 2** トナーカートリッジの取っ手を持って、ゆっくりと手前に取り出します。



- 3** オレンジ色の取っ手をしっかりと持って、ドラムカートリッジを引き抜きます。
引き抜いたドラムカートリッジは、平らな場所に置いてください。

注記

- ドラムカートリッジを床に落とさないように注意してください。
- ドラムカートリッジに付着したトナーに触れないように注意してください。



- 4** LED プリントヘッド部を清掃します。

参照

- 清掃方法については、「本体内部（LED プリントヘッド部）の清掃」(P.222) を参照してください。

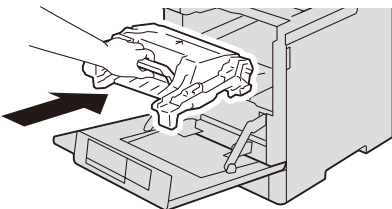
- 5** 新しいドラムカートリッジを箱から取り出し、同梱されているポリ袋に使用済みドラムカートリッジを入れてその箱にしまします。

注記

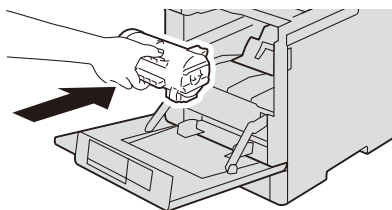
- 使い終わった不要なドラムカートリッジは弊社にて回収いたしますので、弊社カスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

- 6** ドラムカートリッジの保護カバーを外します。

- 7** 新しいドラムカートリッジを、奥に突き当たって「カチッ」と音がするまで押し込みます。



- 8** トナーカートリッジを、奥に突き当たるまで押し込みます。



- 9** フロントカバーを閉じます。

本体を清掃する

⚠ 警告

機械の性能の劣化を防ぎ安全を確保するため、清掃には指定されたものをご使用ください。スプレータイプのクリーナーは、引火や爆発の危険がありますので、絶対に使用しないでください。

⚠ 注意

機械の清掃を行う場合は、電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。電源を切らずに機械の清掃を行うと、感電の原因となるおそれがあります。

本体外部の清掃

注記

- ベンジン、シンナーなどの揮発性のものを使用したり、殺虫剤をかけたりすると、カバー類の変色、変形、ひび割れの原因になります。
- 本機を水でぬらしすぎると、故障したり用紙が破れたりするおそれがあるので注意してください。

- 1 水でぬらして固く絞った柔らかい布で、本体の外側を拭きます。

注記

- 水または中性洗剤以外の洗浄液は、絶対に使用しないでください。

補足

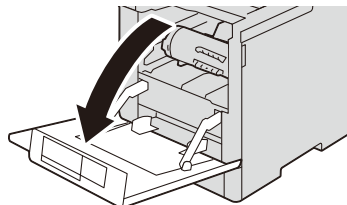
- 汚れが取れにくい場合は、柔らかい布に薄めの中性洗剤を少量含ませ、軽く拭いてください。

- 2 柔らかい布で、水分を拭き取ります。

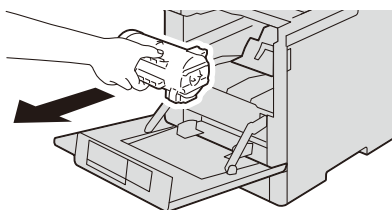
本体内部（LED プリントヘッド部）の清掃

LED プリントヘッド部の清掃は、通常、ドラムカートリッジの交換時に行います。ただし、白筋や色筋がでるなど画質に影響がある場合は、LED プリントヘッド部を清掃してください。

- 1 本機が停止していることを確認し、フロントカバーを開けます。



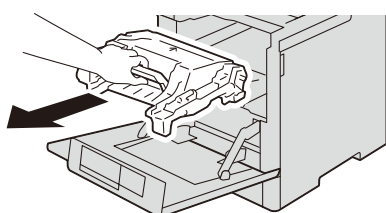
- 2 トナーカートリッジの取っ手を持って、ゆっくりと手前に取り出します。



- 3 オレンジ色の取っ手をしっかりと持って、ドラムカートリッジを引き抜きます。
引き抜いたドラムカートリッジは、平らな場所に置いてください。

注記

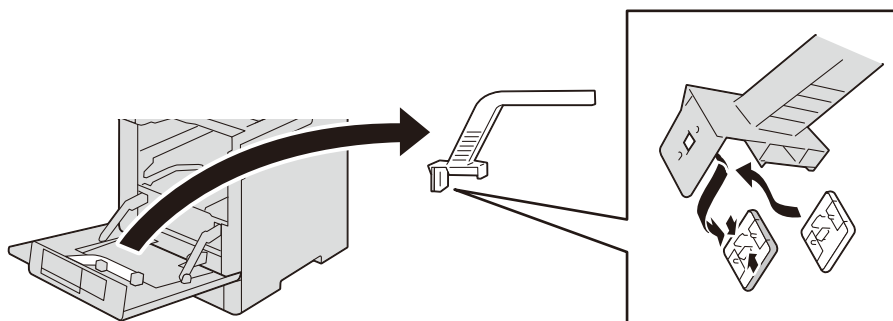
- ドラムカートリッジの表面には触れないように注意してください。



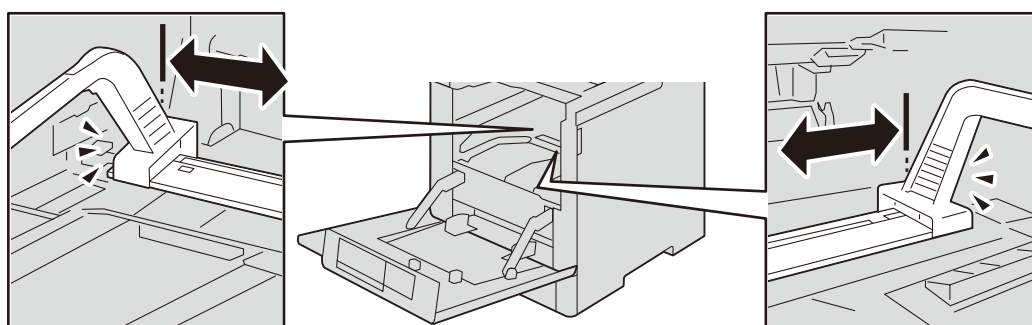
- 4 フロントカバーの裏側に付属している清掃用パッドを取り出します。

補足

- 清掃用パッドが汚れている場合は、ドラムカートリッジに同梱されているパッドと交換してください。

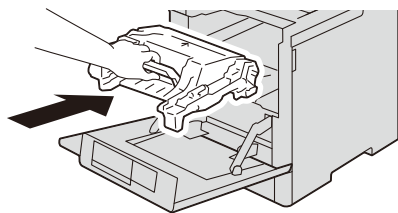


- 5 LED プリントヘッド部をに清掃具を差し込み、端から端までゆっくりと動かします。
これを3回繰り返します。

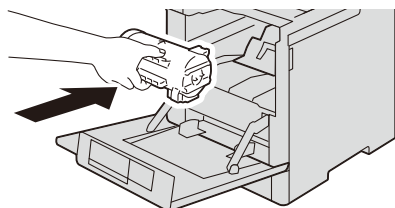


- 6 清掃用パッドをもとの場所に戻します。

- 7 ドラムカートリッジを、奥に突き当たって「カチッ」と音がするまで押し込みます。



- 8 トナーカートリッジを、奥に突き当たるまで押し込みます。



- 9 フロントカバーを閉じます。

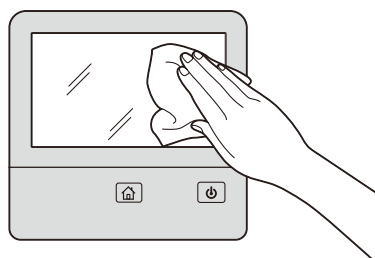
タッチパネルの清掃

1 か月に 1 回をめに、タッチパネルを清掃してください。

- 水でぬらして固く絞った柔らかい布で、タッチパネルを拭いてください。
- 清掃後、乾いた柔らかい布で拭いてください。
- 汚れが取れにくい場合は、柔らかい布に薄めの中性洗剤を少量含ませ、軽く拭いてください。

注記

- ベンジンやシンナーなどの薬品類は使用しないでください。タッチパネル表面のコーティングを傷めることがあります。
- かたい布で拭いたり、強くこすりすぎると、タッチパネル表面に傷がつくことがあります。
- 水または中性洗剤以外の洗浄液は、絶対に使用しないでください。



アライメント調整を行う

手動アライメント調整

出力イメージの位置がずれている場合などに、調整値を入力してずれを調整します。

補足

- 調整可能範囲以上の調整が必要な場合は、プリンタードライバーの[基本]タブの[とじしろ / プリント位置]でプリント位置の調整機能を使用してください。

調整可能項目

調整は次の順に行います。

■ リード / サイドレジ

副走査方向（用紙送り方向）、主走査方向（用紙送り方向に対して垂直方向）の出力イメージの位置を調整します。



調整手順

- 調整したいトレイに、調整したい用紙をセットします。

補足

- 調整のためのサンプルチャートを出力したいときは、以下のどれかの用紙をセットしてください。
- A4 8.5x11"

- ホーム画面で[設定]をタップします。
- [保守] > [画質調整]をタップします。
- [アライメント調整]をタップします。
- 手順1で用紙をセットしたトレイを、[用紙選択]で選びます。



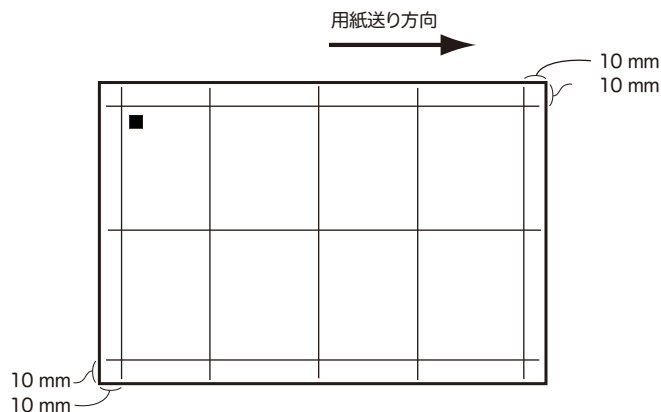
- [調整面]で調整する印刷面を選びます。
- [プリント設定]でサンプルのプリント枚数を指定します。

補足

- 出力ばらつきも考慮するため、サンプルは3枚程度プリントすることをお勧めします。

8 [サンプル出力] をタップします。

9 出力されたサンプルを確認し、調整値を入力します。



補足

- 出カイメージの位置が正しい場合には、用紙の端から 10 mm の位置に線がプリントされます。ただし、手順 1 でサンプルチャート出力に対応していないサイズ of 用紙をセットしたときは、この限りではありません。
- 用紙送り方向を示すため、用紙の後端には■（黒い四角マーク）がプリントされます。おもて面には■が 1 つ、うら面には■が 2 つプリントされます。

参照

- リード / サイドレジの調整については、「リード / サイドレジの調整」(P.226) を参照してください。

10 [調整値設定] をタップします。

調整値が反映されます。

11 [サンプル出力] をタップして、出力されたサンプルの調整結果を確認します。

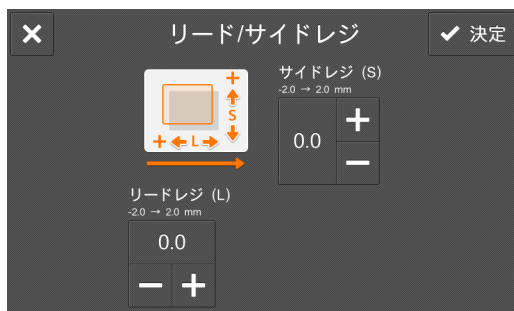
12 必要があれば、もう一度、調整し直します。

リード / サイドレジの調整

1 [リード / サイドレジ] をタップします。



2 調整量を現在の設定値に加えた値を、入力します（1 ステップ=0.5 mm）。

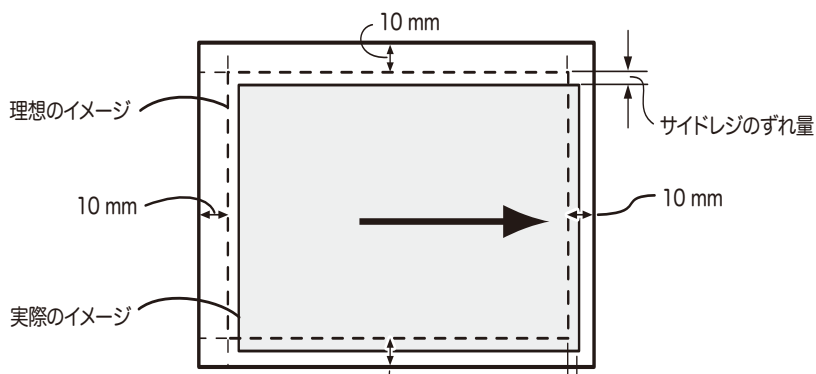


注記

- リードレジについては、トレイ / 調整面で同一の調整値となり、トレイ / 調整面ごとの調整はできません。

補足

- 調整量 (mm) = 実際のイメージ位置の用紙端からの距離 (mm) - 10



3 [決定] をタップします。

転写出力調整

本機で転写不良が発生した場合などに、転写出力値を手動で調整できます。

転写出力調整の設定

用紙種類ごとに、転写出力値を調整します。

転写出力値を手動で調整する

- 1 ホーム画面で「設定」をタップします。
- 2 「保守」 > 「転写出力調整」をタップします。
- 3 「用紙種類」で調整する用紙種類を選びます。



- 4 「調整値」の数値を変更します。
 - 5 「調整値設定」をタップします。
- 以降のプリントでは、ここで設定した転写出力値が反映されます。

11

困ったときは

トラブルを解決する

本機にトラブルが発生した場合の処置について説明します。

補足

- EP システムを利用している場合、機械の点検や修理が必要になったときに、機械から弊社のカスタマーコンタクトセンターに連絡が行きます。連絡を受けると、必要に応じて、カスタマーエンジニアが訪問します。
- EP システムは、一部の地域で利用できない場合があります。適用については、弊社の営業担当者または販売店にお問い合わせください。

機械本体のトラブル

故障かなと思う前に、もう一度、本機の状態を確認してください。

症 状	原 因	処 置
電源が入らない	電源が切れていませんか？	電源を入れてください。 参照 • 「本機のセットアップ」(P.21) を参照してください。
	電源プラグがコンセントに差し込まれていますか？	電源をいったん切り、電源コードを確実に差し込んでください。そのあと、電源を入れてください。
	本機側の電源コードのコネクターが抜けていませんか？	参照 • 「電源について」(P.22) を参照してください。
	電源の電圧が適切ですか？	電源が 100 V、15 A であることを確認してください。本機の最大消費電力に見合った電源容量が確保されていることを確認してください。
状態表示ランプがオレンジ色で点滅している	本機のシステムや付属機器にトラブルが発生しているおそれがあります。	本機の電源を切って、入れ直してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
	用紙づまりが発生していませんか？	詰まった用紙を取り除いてください。 参照 • 用紙が詰まった場合「用紙が詰まった場合」(P.250) を参照してください。
	ディスプレイに消耗品の交換を促すメッセージが表示されていませんか？	メッセージに表示されている消耗品を交換してください。 参照 • 「消耗品を交換する」(P.216) を参照してください。
	ディスプレイにメッセージが表示されていませんか？	メッセージの内容を確認し、処置してください。また、メッセージの末尾に「016-450」などの番号が表示されている場合はエラーコードの表で内容を確認し、処置してください。 参照 • 「エラーコード」(P.255) を参照してください。
ディスプレイが暗い	節電状態に入っていないですか？	電源 / 節電ボタンを長押しして、節電状態を解除してください。 参照 • 「本機のセットアップ」(P.21) を参照してください。
プリントできない	操作パネルのディスプレイにメッセージが表示されていませんか？	表示されているメッセージに従って処置してください。
	メモリー容量が不足していませんか？	次のどれかの方法で処置してください。 • プリンタードライバーで [印刷モード] を [標準] にするか、[ページ印刷モード] を利用して再プリントする • 使用していないポートを [停止] に設定する

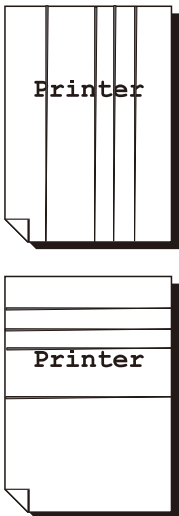
症 状	原 因	処 置
プリントできない	プリンターモードがオフラインになっていませんか？	ホーム画面で、[プリンターモード]を確認してください。[オフライン]になっていたら、[オンライン]を選択してください。
	プリンタードライバーがオフラインになっていませんか？	プリンターアイコンを開いて、プリンターメニューのオフライン使用のチェックを外してください。
プリントを指示したのにデータランプが点滅しない	インターフェイスクーブルが抜けていませんか？	インターフェイスクーブルの接続を確認してください。 参照 • 「本機をコンピュータに接続する」(P.24)を参照してください。
	使用するポートが[起動]に設定されていますか？	使用するポートの状態を確認し、[起動]に設定してください。 参照 • 「[ポート設定]」(P.148)を参照してください。
用紙トレイ 5 (手差し) にプリントを指示したのにプリントされない	指定したサイズ of 用紙がセットされていますか？	表示されたメッセージに従って、正しいサイズの用紙をセットして、もう一度プリントを指示してください。 参照 • 「手差しトレイに用紙をセットする」(P.72)を参照してください。
正しい文字が印字されない (文字化けが起こる)	本機に標準で搭載されていないフォントを使用してプリントしています。	アプリケーションまたはプリンタードライバーの設定を確認してください。 PostScript (オプション) を使用している場合は、必要なフォントを本機にダウンロードしてください。
用紙づまり、紙しわがたびたび発生する	用紙が用紙トレイに正しくセットされていますか？	用紙を正しくセットしてください。 参照 • 「用紙をセットする」(P.66)を参照してください。
	用紙トレイが正しくセットされていますか？	用紙トレイを確実に奥まで押し込んで正しくセットしてください。 参照 • 「用紙をセットする」(P.66)を参照してください。
	用紙が湿気を含んでいませんか？	未開封の用紙と交換してください。 参照 • 「用紙をセットする」(P.66)を参照してください。
	用紙がカールしていませんか？	用紙トレイ内の用紙をうら返すか、未開封の用紙と交換してください。 参照 • 「用紙をセットする」(P.66)を参照してください。
	用紙と用紙トレイの設定は正しいですか？	セットしている用紙に合わせて、正しく用紙と用紙トレイを設定してください。 参照 • 「[共通設定]」(P.112)を参照してください。

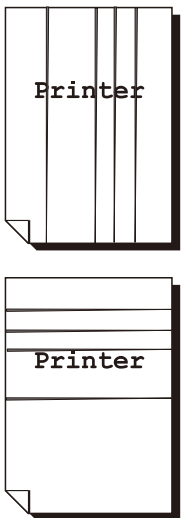
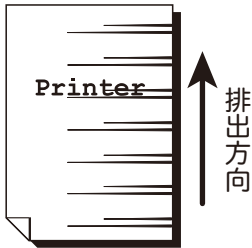
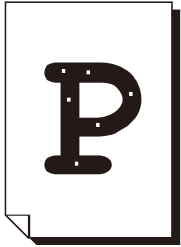
症 状	原 因	処 置
用紙づまり、紙しわがたびたび発生する	機械の内部に詰まった用紙や紙片が残っていたり、異物が入っていませんか？	機械を開けるか、用紙トレイを引き出して、紙片や異物を取り除いてください。 参照 ・「用紙が詰まった場合」(P.250)、「用紙をセットする」(P.66)を参照してください。
	規格外の用紙がトレイに入っていないですか？	使用基準内の用紙と交換してください。 参照 ・「用紙をセットする」(P.66)を参照してください。
	用紙トレイ内の用紙上限線を超えて、用紙をセットしていませんか？	用紙トレイ内の用紙上限線を超えないように、用紙をセットしてください。 参照 ・「用紙をセットする」(P.66)を参照してください。
	用紙ガイドが正しくセットされていますか？	用紙を正しくセットして、用紙ガイドを用紙に軽く当てるように合わせてください。 参照 ・「用紙をセットする」(P.66)を参照してください。
	用紙いっぱい画像がありませんか？	先端のわく消し量を増やしてください。 参照 ・詳しくは、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
	用紙がきれいに裁断されていますか？	用紙の種類によっては、きれいに裁断されていない場合があります。よくさばいてから用紙をセットしてください。
	A5 サイズの用紙をたて向きにセットしていませんか？	用紙の種類によっては、A5 サイズの用紙をたて向きにセットすると紙づまりや紙しわが発生する場合があります。その場合は、手差しトレイによこ向きにセットしてください。
用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットするとエラーメッセージが表示される	用紙トレイ 5（手差し）の手前にある用紙ガイドの位置がずれていませんか？	用紙ガイドを正しい位置にセットしてください。 参照 ・「手差しトレイに用紙をセットする」(P.72)を参照してください。

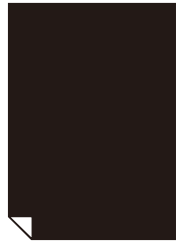
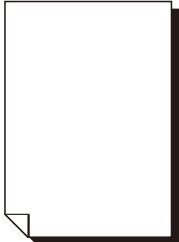
画質のトラブル

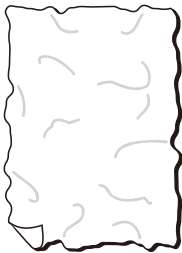
プリント結果の画質が悪い場合は、次の表から最も近いと思われる症状を選び、処置してください。

該当する処置をしても画質が改善されない場合は、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

症 状	処 置
プリントがうすい (かすれる、不鮮明) 	用紙が湿気を含んでいることがあります。新しい用紙と交換してください。 参照 ・「用紙をセットする」(P.66) を参照してください。
	ドラムカートリッジが劣化、または損傷していることがあります。新しいドラムカートリッジと交換してください。 参照 ・「ドラムカートリッジを交換する（スポット保守のお客様のみ）」(P.219) を参照してください。
	トナーカートリッジ内にトナーが残っていないことがあります。新しいトナーカートリッジと交換してください。 参照 ・「トナーカートリッジを交換する」(P.217) を参照してください。
黒点がプリントされる 	ドラムカートリッジが劣化、または損傷していることがあります。新しいドラムカートリッジと交換してください。 参照 ・「ドラムカートリッジを交換する（スポット保守のお客様のみ）」(P.219) を参照してください。
黒線がプリントされる 	ドラムカートリッジが劣化、または損傷していることがあります。新しいドラムカートリッジと交換してください。 参照 ・「ドラムカートリッジを交換する（スポット保守のお客様のみ）」(P.219) を参照してください。

症 状	処 置
黒線がプリントされる 	本体内部を清掃してください。 参照 「本体内部（LED プリントヘッド部）の清掃」(P.222) を参照してください。
等間隔に汚れが起きる 	用紙搬送路に汚れが付着していることがあります。数枚プリントしてください。 ドラムカートリッジが劣化、または損傷していることがあります。新しいドラムカートリッジと交換してください。 参照 「ドラムカートリッジを交換する（スポット保守のお客様のみ）」(P.219) を参照してください。
黒くぬりつぶされた部分に白点が現れる 	使用している用紙が適切かどうかを確認してください。 参照 「用紙をセットする」(P.66) を参照してください。 使用している用紙種類に対して適切な転写出力調整がなされていません。 参照 「転写出力調整」(P.228) を参照してください。 ドラムカートリッジが劣化、または損傷していることがあります。新しいドラムカートリッジと交換してください。 参照 「ドラムカートリッジを交換する（スポット保守のお客様のみ）」(P.219) を参照してください。

症 状	処 置
指でこするとかすれる トナーが定着しない 用紙がトナーで汚れる 	用紙が湿気を含んでいることがあります。新しい用紙と交換してください。 参照 ・「用紙をセットする」(P.66) を参照してください。
	使用している用紙が適切かどうかを確認してください。 参照 ・「用紙をセットする」(P.66) を参照してください。
用紙全体が黒くプリントされる 	ドラムカートリッジが劣化、または損傷していることがあります。新しいドラムカートリッジと交換してください。 参照 ・「ドラムカートリッジを交換する（スポット保守のお客様のみ）」(P.219) を参照してください。
	高圧電源の故障が考えられます。弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
何もプリントされない 	一度に複数枚の用紙が搬送されています（重送）。用紙をよくさばいてからセットし直してください。
	電源または高圧電源の故障が考えられます。弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
白抜けや白筋または白もやが出る 	用紙が湿気を含んでいることがあります。新しい用紙と交換してください。 参照 ・「用紙をセットする」(P.66) を参照してください。
	使用している用紙が適切かどうかを確認してください。
	参照 ・「用紙をセットする」(P.66) を参照してください。
	本体内部を清掃してください。 参照 ・「本体内部（LED プリントヘッド部）の清掃」(P.222) を参照してください。
全体がうっすらとプリントされる 	用紙トレイ 5（手差し）を使用してプリントしたときに、プリンタードライバーで指定した用紙と実際にセットされている用紙が異なります。 用紙トレイ 5（手差し）に、正しい種類とサイズ of 用紙をセットしてください。
	参照 ・「手差しトレイに用紙をセットする」(P.72) を参照してください。
	一度に複数枚の用紙が搬送されています（重送）。用紙をよくさばいてからセットし直してください。

症 状	処 置
用紙にしわが付く 	使用している用紙が適切かどうかを確認してください。 参照 ・「用紙をセットする」(P.66) を参照してください。 トレイに残っている用紙の上に新しい用紙を補給しないでください。 用紙が湿気を含んでいることがあります。新しい用紙と交換してください。 参照 ・「用紙をセットする」(P.66) を参照してください。
文字がにじむ 	使用している用紙が適切かどうかを確認してください。 参照 ・「用紙をセットする」(P.66) を参照してください。 用紙が湿気を含んでいることがあります。新しい用紙と交換してください。 参照 ・「用紙をセットする」(P.66) を参照してください。
たて長に白抜けする 	ドラムカートリッジが劣化、または損傷していることがあります。新しいドラムカートリッジと交換してください。 参照 ・「ドラムカートリッジを交換する（スポット保守のお客様のみ）」(P.219) を参照してください。 トナーカートリッジ内にトナーが残っていないことがあります。新しいトナーカートリッジと交換してください。 参照 ・「トナーカートリッジを交換する」(P.217) を参照してください。 本体内部を清掃してください。 参照 ・「本体内部（LED プリントヘッド部）の清掃」(P.222) を参照してください。
斜めにプリントされる 	用紙カセットの用紙ガイドが正しい位置にセットされていません。たてよこの用紙ガイドを正しい位置にセットしてください。 参照 ・「用紙をセットする」(P.66) を参照してください。

プリンターのトラブル

プリントできない

症 状	処 置
コンピューターのプリンターアイコンにデータが残っている	本機の電源が入っていないときは、電源を入れてください。 参照 ・「電源について」(P.22) を参照してください。
	コンピューターのネットワークケーブルが外れていないかを確認してください。
	本機のネットワークケーブルが外れていないかを確認してください。 参照 ・「本機をコンピューターに接続する」(P.24) を参照してください。
	本機でエラーが発生している場合は、内容を確認して対処してください。
	正しい IP アドレスを設定してください。 参照 ・「IP アドレスを設定する」(P.25) を参照してください。 ・「[プロトコル設定]」(P.152) を参照してください。
	コンピューターと本機の間ネットワークが正常ではないことがあります。ネットワーク管理者に相談してください。
	プリンタードライバーが利用しているポートを起動してください。 参照 ・「[ポート設定]」(P.148) を参照してください。
	本機のストレージ容量が不足しています。蓄積されている文書（認証プリント、プライベートプリント、セキュリティプリントなど）で不要になったデータを削除し、空きスペースを増やしてください。 しばらく待ってから、再度プリントしてください。
指定枚数より多くプリントされて処理が終わらない、または、プリント結果が文字化けする	適切なプリンタードライバーを使用してください。プリンタードライバーのプロパティ画面で、[詳細設定] タブのドライバーが本機になっていることを確認してください。他社のプリンタードライバーを使った場合は、動作は保証されません。
データは本機に送られている	用紙がないときは、用紙を補給してください。
	指定した用紙サイズの下紙をセットしてください。
	本機でエラーが発生している場合は、内容を確認して対処してください。
	ジョブが一時停止になっているときは、キャンセルするかどうかを指定してください。
	本機で保存文書を確認してください。 参照 ・「セキュリティプリント」(P.88) を参照してください。

思ったとおりのプリント結果にならない

症 状	処 置
両面でプリントされない	本機のメモリーが不足しています。プリンタードライバーで[印刷モード]を[標準]に設定してください。また、使用していないポートを[停止]に設定してください。
異なった用紙サイズでプリントされる	トレイにセットされている用紙サイズを変更するか、指定した用紙サイズがあるトレイにプリントオプションを変更してください。
用紙の端にあるイメージが欠ける	本機の印刷エリアを拡張するか、ドキュメントの印字エリアを小さくしてください。
コンピューターで指定したフォントとプリント結果のフォントが異なる	プリンタードライバーのフォントの置き換えテーブルを確認してください。 参照 ・プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
プリントスピードが遅い	写真などのイメージデータを高精細でプリントするとプリント速度が遅くなります。[印刷モード]で[標準]を選んでください。
プリントオプションで指定した内容が無効になる	適切なプリンタードライバーを使用してください。プリンタードライバーのプロパティ画面で、[詳細設定]タブのドライバーが本機になっていることを確認してください。 本機に取り付けられているオプションを確認して、プリンタードライバーのプロパティ画面で、[プリンター構成]タブの[オプションの設定]を再度設定してください。
端が欠ける	本機の印刷エリアを拡張するか、ドキュメントの印字エリアを小さくしてください。
出力紙に黒線が出る	適切なプリンタードライバーを使用してください。プリンタードライバーのプロパティ画面で、[詳細設定]タブのドライバーが本機になっていることを確認してください。
かんばん用紙を使用すると、ゆがんでプリントされる	用紙によっては、トレイ1にセットするためには小サイズ対応用紙ガイド（オプション）が必要です。小サイズ対応用紙ガイド（オプション）が正しく取り付けられているかどうか確認してください。

ネットワークのトラブル

TCP/IP を使用したときのトラブル

Windows OS の場合

症 状	処 置
プリントされない。	本機に正しい IP アドレスが設定されているかを確認してください。
	単一ファイルのデータサイズが受信バッファのメモリー容量の上限を超えている場合は、小さいサイズに分割してプリントしてください。
	複数ファイルのデータサイズの合計が受信バッファのメモリー容量の上限を超えている場合は、1 度にプリントするファイル数を減らしてください。
	操作パネルのディスプレイにエラーが表示されている場合は、本機の電源を切り、ディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。
	プリンタードライバーが使用するプロトコルを [起動] に設定してください。
	参照 ・「[ポート設定]」(P.148) を参照してください。
プリント結果がおかしい。	プリンタードライバーのプロパティ画面にある [デバイスの設定] タブで、CTRL-D を送信しない設定にしてください。
	適切なプリンタードライバーを使用してください。プリンタードライバーのプロパティ画面で、[詳細設定] タブのドライバーが本機になっていることを確認してください。他社のプリンタードライバーを使った場合は、動作は保証されません。

macOS/OS X の場合

症 状	処 置
プリントされない。	Bonjour を使用して検出したプリンターでプリントする場合は、LPD ポートを起動してください。

CentreWare Internet Services を使用したときのトラブル

症 状	処 置
CentreWare Internet Services に接続できない。	本機の電源が入っているかを確認してください。
	「機能設定リスト」をプリントしてインターネットサービスが起動しているかを確認してください。
	インターネットアドレスをもう一度確認してください。接続できない場合は、IP アドレスを入力して接続してください。

症 状	処 置
CentreWare Internet Services に接続できない。	プロキシサーバーによっては、接続できないことがあります。プロキシサーバーを使わないで、Web ブラウザーの設定を「プロキシサーバーを使用しない」にするか、使用するアドレスを「プロキシサーバーを使用しない」に設定してください。
最新の情報が表示されない。	Web ブラウザーの表示を更新してください。
「保存」をクリックしても反映されない。	本体の操作パネルで操作中は、CentreWare Internet Services での設定は適用されません。 また、自動リセット機能が設定されている場合、操作後であっても設定時間が経過するまで、CentreWare Internet Services での設定は無効になります。しばらくお待ちください。
「保存」をクリックすると、Web ブラウザーに「無効なまたは認識されない応答をサーバーが返しました」や「データがありません」などのメッセージが表示される。	パスワードの確認入力の内容が一致していません。正しいパスワードを入力してください。 本機を再起動してください。
ジョブを削除できない。	しばらく待ってから Web ブラウザーの表示を更新してください。

メール機能のトラブル

メール通知（消耗品の状態通知）サービス、メール受信プリントを使用している場合のトラブルについて、処置方法を記載しています。

症 状	処 置
メール受信ができない（メール受信プリント）	本体メールアドレスを正しく設定しているかを確認してください。
	「メール受信」が「起動」になっているかを確認してください。
	SMTP サーバーの IP アドレス、POP3 サーバーの IP アドレス（受信プロトコルで POP3 を選んでいる場合）などを正しく設定しているかを確認してください。
	POP3 ユーザー名、およびパスワードを正しく設定しているかを確認してください。
	「送受信ドメインの制限」を設定しているときは、CentreWare Internet Services で、自分のドメインが送受信許可ドメインに含まれているかどうかを確認してください。
	SMTP サーバー、POP サーバーが正常に動作しているかをネットワーク管理者に確認してください。
メール送信ができない（メール通知）	本体メールアドレスを正しく設定しているかを確認してください。
	「メール通知サービス」が「起動」になっているかを確認してください。（メール通知の場合）
	SMTP サーバーの IP アドレスなどを正しく設定しているかを確認してください。

症 状	処 置
メール送信ができない（メール通知）	メール通知の場合、通知項目が正しく設定されているかを CentreWare Internet Services のホーム画面にある [通知] の設定画面で確認してください。
	送信先メールアドレスが正しく入力されているかを確認してください。
	SMTP サーバーが正常に動作しているかをネットワーク管理者に確認してください。 SMTP サーバーが配送確認（DSN）に対応していないことが原因の可能性もあります。配送確認（DSN）の設定をしないで、メールを送信してください。

インターネット / イン트라ネット接続のトラブル

症 状	処 置
インターネット/ イン트라ネットに接続できない。	本機で対応している認証機能は、Basic 認証だけです。NTLM/digest には対応していません。外部サーバーで使用している認証機能が、本機に対応しているか確認してください。 セキュリティ上の問題を考慮する場合には、SSL を使った認証に変更してください。
	外部連携サービスを使用する場合は、該当する製品 / モデル / オプションを購入してください。
	IP アドレスの設定を確認してください。IP アドレスが正しく設定されていない場合は、IP アドレスを固定で指定するか、DHCP または AutoIP などを使用して、IP アドレスを解決してください。
	プロキシサーバーに接続する場合、または Web サーバーに接続するために IP ゲートウェイを経由する場合は、IP ゲートウェイアドレスを正しく入力してください。
	使用している環境に合わせてサブネットマスクを正しく設定してください。
	DNS サーバーのアドレスを確認してください。
	アドレスを解決できる DNS サーバーを設定してください。 • プロキシサーバーを経由する場合 プロキシサーバーのアドレスを解決できる DNS サーバーのアドレスを設定してください。 • プロキシサーバーを経由しない場合 宛先アドレスを解決できる DNS サーバーのアドレスを設定してください。
	プロキシを経由しないアドレスの設定が正しいかを確認してください。 FQDN 形式でプロキシを経由しないアドレスを指定していても、IP アドレスを指定してアクセスしている場合には、除外対象にはなりません。プロキシを経由しないアドレスを IP アドレスでも指定してください。 同様に、IP アドレスでプロキシを経由しないアドレスを指定していても、FQDN 形式でアクセスする場合には、除外対象にはなりません。プロキシを経由しないアドレスを FQDN 形式でも指定してください。

症 状	処 置
インターネット/ イン트라ネットに接続できない。	接続するサーバー、またはプロキシサーバーが正常に稼働しているかどうかを確認してください。
	ネットワークケーブルの接続を確認してください。ネットワークの切断に強い環境を構築するためには、スパニングツリー環境を使用することをお勧めします。
	サーバーアプリケーションに負荷がかかっているため、通信できないことがあります。その場合はしばらく待ってから、もう一度アクセスしてください。
	本体にエラーが発生していることがあります。バックグラウンド処理を実行中は、操作パネルにはエラーが表示されません。[ジョブ情報] 画面を表示するか、ジョブ履歴レポートをプリントして、エラー有無を確認してください。
	次のアクセス制限によって接続できていないことがあります。設定されているアクセス制限を確認してください。 • アドレス（ポート）制限 • SSL 利用制限 • ユーザーアクセス制限（アクセス権レベルも含む） • コンテンツブロック • 利用スキーム制限（HTTP 利用不可など） • 転送データサイズ制限 • 利用メソッド制限（POST 利用不可など） • HTTP ヘッダー制限（特定ブラウザだけ受付など） • 時間制限（特定時間帯だけ利用可能など）
	本機で有効な SSL/TLS バージョンは初期状態で TLS1.2 です。接続先が TLS1.2 をサポートしていない場合は、TLS1.1 を有効にしてください。
目的の Web サーバーに接続できない。	プロキシを経由する環境では、プロキシサーバーを使用するように設定されていないと、目的の Web サーバーに接続できません。プロキシサーバーを使用するように設定してください。
	イントラネットに接続する場合など、プロキシを経由する必要がない環境では、プロキシサーバーを使用する設定にはしないでください。
	プロキシサーバーを使用する設定になっている場合には、プロキシサーバーのアドレスが正しく設定されていないと、目的の Web サーバーに接続できません。プロキシサーバーのアドレスを正しく設定してください。
	プロキシサーバーに接続を許可されているユーザー名とパスワードを、本機に設定してください。
	本機で有効な SSL/TLS バージョンは初期状態で TLS1.2 です。接続先が TLS1.2 をサポートしていない場合は、TLS1.1 を有効にしてください。

IPv4 または IPv6 接続のトラブル

症 状	処 置
IPv4 に接続できない。	IPv4 アドレス入力時、「192.0.2.010」のようにアドレス先頭に 0 を付加した場合、正しく動作しません。「192.0.2.10」のように 0 を付けずに入力してください。

症 状	処 置
IPv6 に接続できない。	リンクローカルアドレスを指定するときに本機にアクセスできない場合は、リンクローカルアドレスにスコープ識別子を付加してください。 たとえば Windows 10 の Internet Explorer 11 を利用して、「fe80::203:baff:fe48:9010」を指定してアクセスする場合には、Windows 10 のイーサネットアダプタローカルエリア接続の番号（例：8）をスコープ識別子として付加し、「fe80::203:baff:fe48:9010%8」と入力してください。 IPv6 が利用できる Windows OS と通信できない場合は、Windows OS で固定アドレスを設定してください。通信を許可するホストアドレスとして、設定した IPv6 固定アドレスを本機に登録してください。 ルーターを越える検索が正しく動作しないことがあります。 SMB を使った検索でルーターを越える場合、宛先アドレスを直接入力してください。 マルチキャストに応答するのは、ローカルリンク内でのマルチキャスト（FF02::1）のみです。 SSL/TLS を有効に設定している場合、「https:// [IPv6 アドレス]」サイトを指定してください。
IPv6 でプリントできない。	DNS サーバーが存在しないと、IPv6 が利用できる Windows OS から Windows 共有プリンターが使用できません。 Windows OS 上の hosts ファイルに本機のコンピューター名を登録してください。 格納先例： C:\Windows\system32\drivers\etc の hosts ファイルに登録します。
UPnP（ユニバーサルプラグアンドプレイ）で IPv6 機器を検索できない。	IPv6 環境では Web Services on Devices (WSD) のディスカバリー機能を使用してください。
SMB 認証の SMB サーバー設定にコンピューター名を指定すると認証に失敗する。	DNS サーバーが存在しないことが原因と考えられます。認証サーバーのコンピューター名に、IPv6 アドレスを指定してください。
DocuShare など外部アクセス接続サービスで、接続先 URL に IPv6 アドレスを指定すると正しく動作しない。	DNS サーバーを運用して接続先 URL を FQDN 形式で指定してください。
出力されたジョブログに IPv6 アドレスが正しく記載されない。	IPv4 で運用してください。

ヘルプ / リモートアシスタンス接続時のトラブル

ホーム画面の「ヘルプ」または「リモートアシスタンス」に関するトラブルが発生した場合の処置方法を記載しています。

症 状	処 置
「ヘルプ」 / 「リモートアシスタンス」が表示されない。	「ヘルプ」 / 「リモートアシスタンス」を初めて使用するときは、機械管理者モードで利用規約への同意が必要です。同意されているかどうかを確認するか、機械管理者に連絡してください。
利用規約に同意しても、インターネットに接続できない。または通信エラーが発生する。	IP アドレスや DNS など、TCP/IP の設定を確認してください。 参照 ・「[プロトコル設定]」(P.152) を参照してください。
	プロキシサーバー経由の環境の場合、設定が正しいか確認してください。 参照 ・「[プロキシサーバー一覧]」(P.155) を参照してください。
	「Web ブラウザー設定」で、以下の設定になっているか確認してください。 ・ [外部アクセスバージョンの選択] : [V4] または [V5] ・ [ファイルプリント機能の使用] : [する] ・ [Cookie の使用] : [する] または [保存を確認する] 参照 ・ 「[Web ブラウザー設定]」(P.146) を参照してください。
	リモートアシスタンスが接続できないときは、以下の設定になっているか確認してください。 ・ [SOAP- ポート] : [起動] ・ [SOAP- ポート番号] : [80] 参照 ・ 「[SOAP]」(P.151) を参照してください。
「無効な証明書が通知されました。一時的に有効な証明書として通信を行いますか?」というメッセージが表示される。	本機にインストールされていた証明書が削除されていることがあります。 次のどちらかで処置してください。 ・ 表示された画面で、[はい] を選ぶと、一時的にヘルプに接続できます。 ・ 本機の電源を切 / 入し、再起動すると、必要な証明書が再インストールされます。

文書プリントのトラブル

症 状	処 置
ホーム画面に「文書プリント」が表示されない。	USB メモリーキットのソフトウェアオプションが認識されていません。ソフトウェアオプションを正しく設定するか、USB メモリーをいったん抜いてから、もう一度コネクタの奥まで差し込んでください。
	CentreWare Internet Services を起動し、[アプリ] > [USB] > [プリント機能の使用] にチェックマークを付けてください。

プライベートプリント（一括出力）のトラブル

症 状	処 置
文書がないと表示される	ジョブの送信が完了しているか、確認してください。[再試行] をタップすると、文書が再取得されます。
機能が使用できないと表示される	電源を切り、タッチパネルディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れ直してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

メール受信プリントのトラブル

症 状	処 置
Yahoo! メールを使用して、メール受信プリントすると、同一文書が何回もプリントされる。	メール送信画面で「添付ファイルとして転送」を選んでください。
Gmail などの Web メールを使用して、メール受信プリントすると、添付文書が印刷されない場合がある。	転送された Web メールがさらに転送されています。メール受信プリントでは、転送メールをさらに転送しないでください。
beat モバイルを使用して、メール受信プリントすると、印刷結果が印刷設定と異なる場合がある。たとえば、添付文書のみ印刷する設定にしても、メール本文が印刷されてしまう。	beat モバイルでメールを転送すると、転送元のメールの本文が添付文書として送信されます。ほかの Web メールを使用して、転送してください。

AirPrint のトラブル対処

プリンター選択時のトラブル

症状	処置
プリンターの選択画面で、本機が検出されない。	ネットワークに接続できませんでした。 本機と iOS/macOS/OS X のネットワーク設定を確認してください。
	Bonjour および IPP ポートが起動していません。 [設定] > [ネットワーク設定] で、ポートの設定を確認してください。
	AirPrint が有効になっていません。 CentreWare Internet Services を起動し、[ネットワーク] > [AirPrint] で、[有効] にチェックマークを付けてください。 参照 本機で AirPrint を有効にする設定については、「AirPrint の設定を有効にする」(P.96) を参照してください。
	macOS/OS X からプリント指示する場合に、本機とコンピューターが別のネットワークを使用しています。 本機とコンピューターで、同一のネットワークを使用してください。ルーターを超えてプリントする場合は、本機とコンピューターで、Wide-Area Bonjour を有効にしてください。 参照 - 本機で Wide-Area Bonjour を有効にする設定については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。 - macOS/OS X や DNS サーバー側での設定については、ネットワーク管理者にご相談ください。

プリント時のトラブル

症状	処置
プリントされない。	本機で認証プリントまたはプライベートプリントの設定をしています。 認証プリントやプライベートプリントには対応していません。本機の設定を変更してください。

用紙が詰まった場合

用紙が詰まると、機械が停止してアラームが鳴ります。また、ディスプレイには、メッセージが表示されます。表示されているメッセージに従って、詰まっている用紙を取り除いてください。

用紙は破れないように、ゆっくりと取り除いてください。取り出す途中で紙が破れたときも紙片を機械の中に残さないで、すべて取り除いてください。

処置を終了しても紙づまりのメッセージが表示されるときは、ほかの箇所でも用紙が詰まっています。メッセージに従って処置してください。

紙づまりの処置が終了すると、用紙が詰まる前の状態から自動的にプリントが再開されます。

⚠ 注意

機械内部に詰まった用紙や紙片は無理に取り除かないでください。

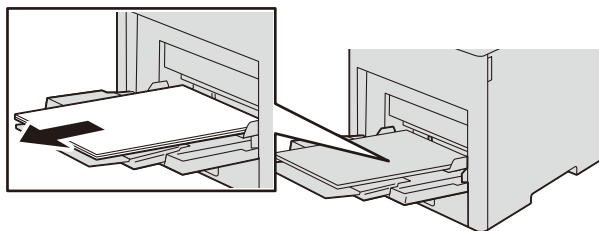
特に、定着ユニットやローラー部に用紙が巻き付いているときは無理に取らないでください。ケガややけどの原因となるおそれがあります。ただちに電源を切り、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

注記

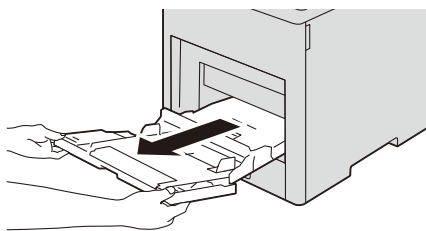
- 紙づまりが発生したとき、紙づまり位置を確認しないで用紙トレイを引き出すと、用紙が破れて機械の中に紙片が残ってしまうことがあります。故障の原因になるので、紙づまりの位置を確認してから、処置をしてください。
- 紙片が本機内に残っていると、紙づまりの表示は消えません。
- 紙づまりの処置をするときは、本機の電源を入れたままの状態にしておいてください。電源を切ると、本機のメモリー上に蓄積された情報が消去されます。
- 本機内部の部品には触れないでください。印字不良の原因になります。

用紙トレイ 1、手差しトレイでの紙づまり

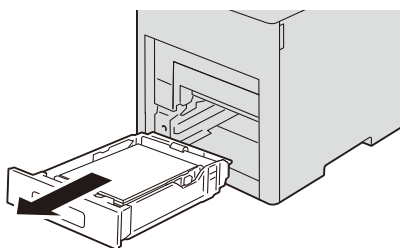
- 1 手差しトレイにセットされている用紙をすべて取り除きます。



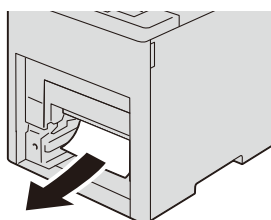
- 2 手差しトレイの両側を持ち、本体から真っ直ぐ引き抜きます。



- 3 用紙トレイ 1 が止まるまで引き出し、手前を少し持ち上げて本体から取り外します。



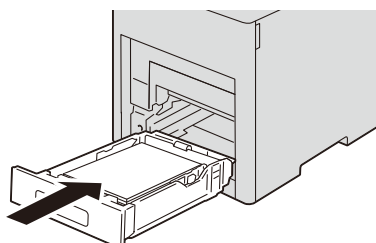
- 4 しわが入った用紙や、詰まっている用紙を取り除きます。



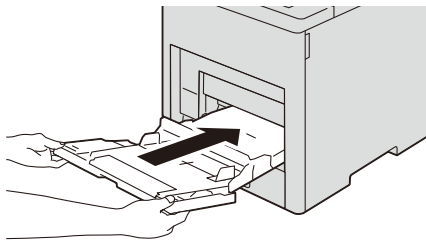
- 5 用紙トレイ 1 を奥まで押し込みます。

補足

- リーガルサイズ用の紙をセットするためにトレイの前面を引き出している場合は、トレイが突き出した状態になります。



- 6** 手差しトレイを奥まで押し込みます。

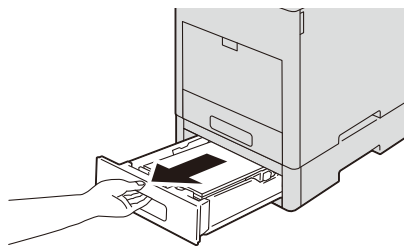


- 7** 手差しトレイから取り除いた用紙を、元のとおりセットします。

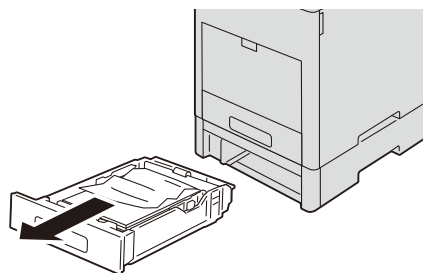
- 8** タッチパネルディスプレイに表示された「確認」をタップします。

用紙トレイ 2～4 での紙づまり

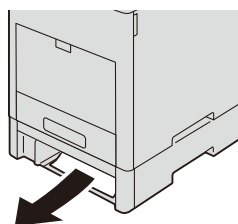
- 1** タッチパネルディスプレイに表示された用紙トレイを、手前に止まるまで引き出します。



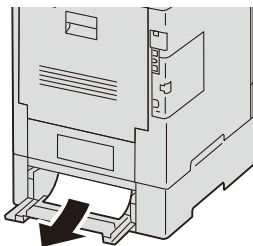
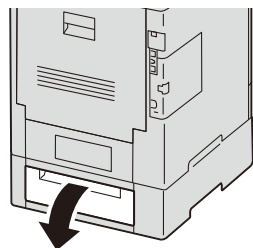
- 2** 用紙トレイの手前を少し持ち上げて本体から取り外します。



- 3** しわが入った用紙や詰まっている用紙を、本体の前面から取り除きます。



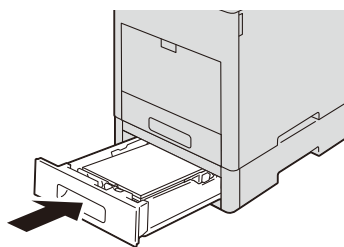
- 4 本体の背面にあるジャムアクセスカバーを開いて、詰まっている用紙を取り除きます。



- 5 用紙トレイを奥まで押し込みます。

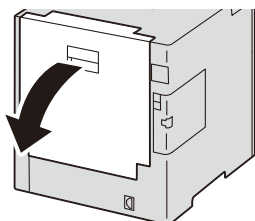
補足

- リーガルサイズ用の紙をセットするためにトレイの前面を引き出している場合は、トレイが突き出した状態になります。

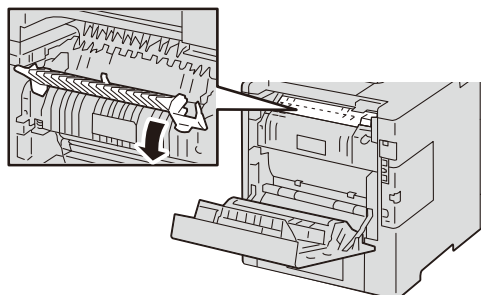


定着ユニットでの紙づまり

- 1 リリースレバーを引きながら、背面カバーを開きます。



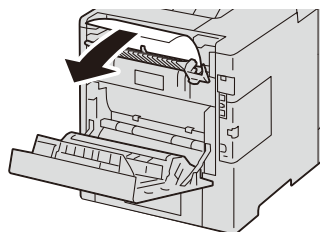
2 定着ユニットの緑色のつまみを開きます。



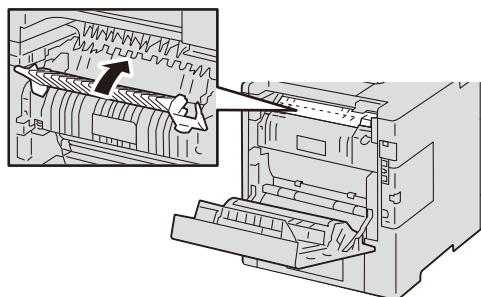
3 詰まっている用紙を取り除きます。

補足

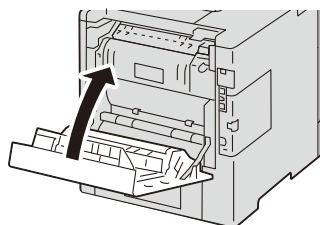
- 定着ユニットは高温になります。火傷のおそれがあるので、触らないでください。



4 緑色のつまみを元に戻します。



5 背面カバーを閉じます。



エラーコード

エラーが発生してプリントが正常に終了しなかった場合や本機に故障が発生した場合は、操作パネルのディスプレイにメッセージとエラーコード（***-***）が表示されます。

注記

- エラーコードが表示されたときは、本機内に残っているプリントデータや、本機のメモリーに蓄えられた情報は保証されません。

補足

- ホーム画面で、[ヘルプ] をタップし、[検索] > [エラーコード検索] を選択すると、エラーコードの詳細をタッチパネル上で確認できます。
- エラーコードの画面に [ヘルプ] が表示されている場合は、そのボタンをタップすると、該当するエラーコードの詳細を確認できます。

参照

- エラーコードの処置方法については、弊社公式サイトのエラーコード検索を参照してください。

弊社公式サイトに記載されていないエラーコードが表示された場合や、記載に従って処置をしても正常に戻らないときは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カスタマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。カスタマーコンタクトセンターの電話番号は、機械に添付してあるラベル、またはカードに記載されています。

12

オプションの取り付け・取り外し

オプション製品について

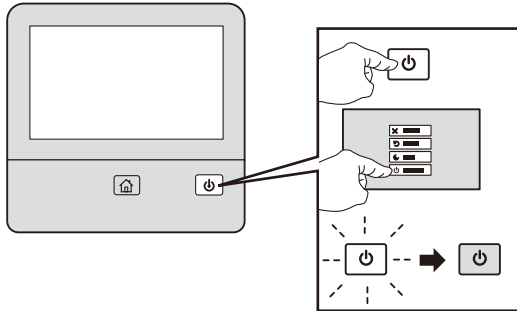
オプション製品の最新情報については、弊社公式サイトをご覧ください。

無線キットの取り付け・取り外し

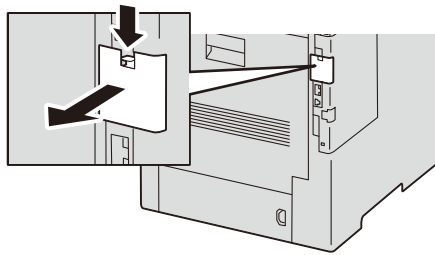
取り付け

- 1 電源 / 節電ボタンを押し、[電源を切る] を選択して、電源を切ります。

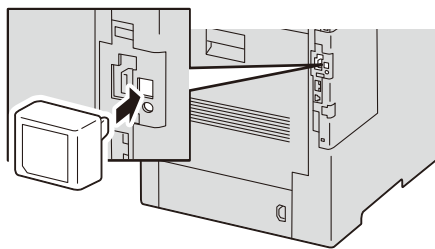
操作パネルのディスプレイおよび各ランプがすべて消えたことを確認して、電源コードをコンセントおよび本機から抜きます。



- 2 背面にある無線キットソケットのカバーを取り外します。



- 3 無線キットのコネクタを無線キットソケットに差し込みます。

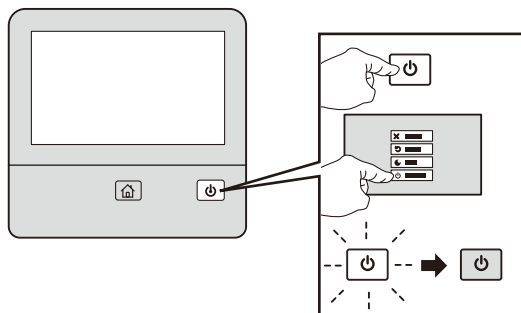


- 4 電源 / 節電ボタンを押して、電源を入れます。

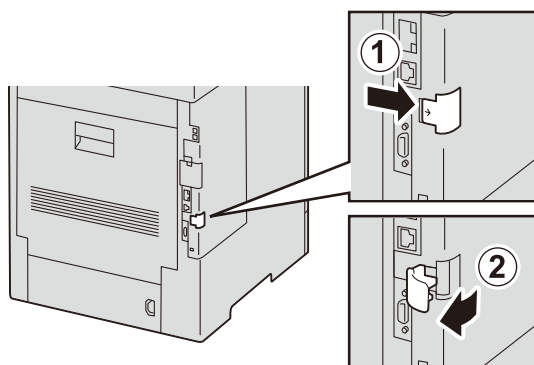
取り外し

- 1 電源 / 節電ボタンを押し、[電源を切る] を選択して、電源を切ります。

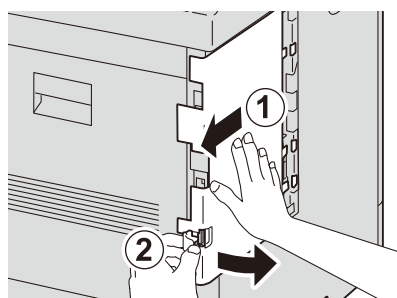
操作パネルのディスプレイおよび各ランプがすべて消えたことを確認して、電源コードをコンセントおよび本機から抜きます。



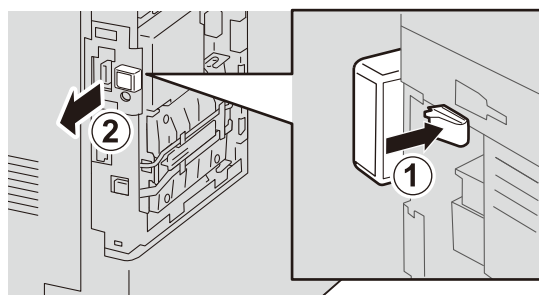
- 2 背面の左側にあるラッチを矢印の方向にスライドさせて、手前に起こします。



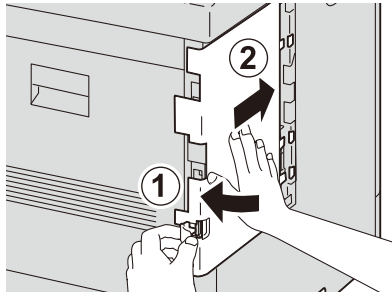
- 3 左側面のカバーを、本機の後ろ方向に向かってスライドさせて取り外します。



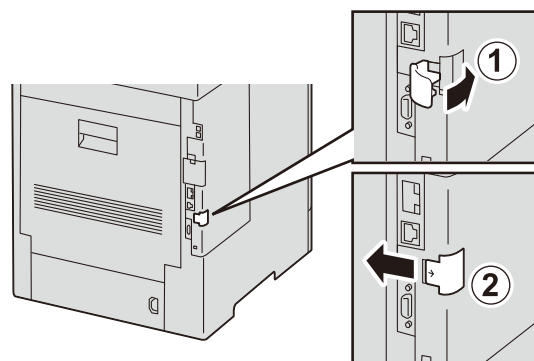
- 4 フックを解除して無線キットのコンネクターを取り外します。



- 5** 左側面のカバーを、本機の前方向にスライドさせ、突起を本体側の穴に差し込みます。



- 6** ラッチを本機の前方向に倒してから左にスライドさせ、カバーをロックします。



- 7** 無線キットソケットのカバーを取り付けます。

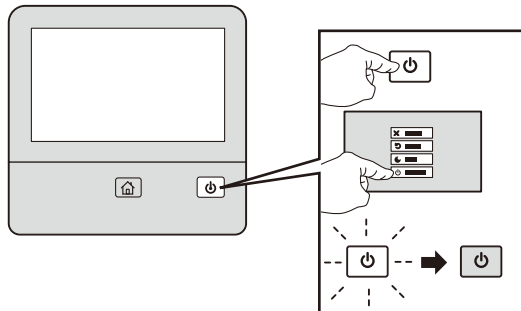
ストレージの取り付け

注記

- 一度取り付けしたストレージ（オプション）は、情報漏洩を防ぐため、その機械専用のストレージになります。取り外して、ほかの機械に取り付けることはできません。

- 1 電源 / 節電ボタンを押し、[電源を切る] を選択して、電源を切ります。

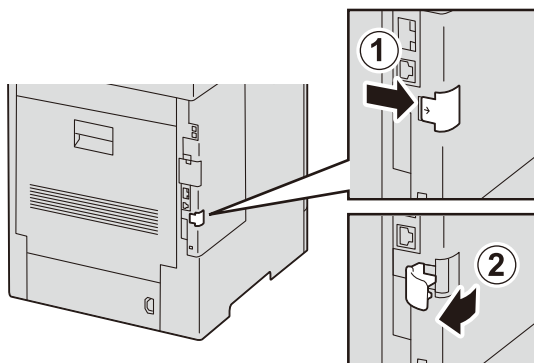
操作パネルのディスプレイおよび各ランプがすべて消えたことを確認して、電源コードをコンセントおよび本機から抜きます。



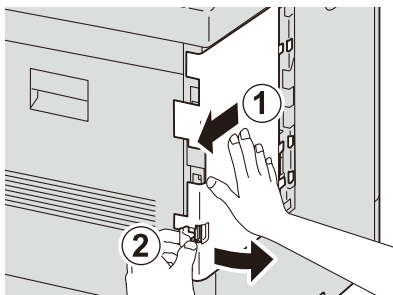
注記

- 本機の背面カバー内の電気部品が高温になっている場合があります。取り付けるときには必ず電源を切り、約 40 分後、本機の内部が冷めていることを確認してから作業を行ってください。

- 2 背面の左側にあるラッチを矢印の方向にスライドさせて、手前に起こします。

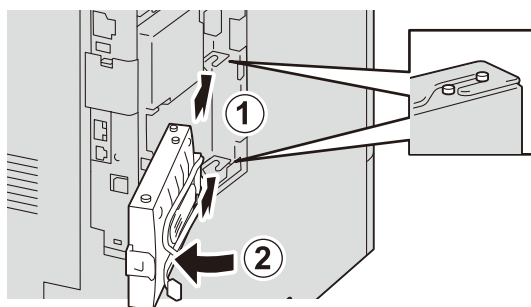


- 3 左側面のカバーを、本機の後ろ方向に向かってスライドさせて取り外します。
ストレージ（オプション）がすでに取り付けられている場合は取り外します。

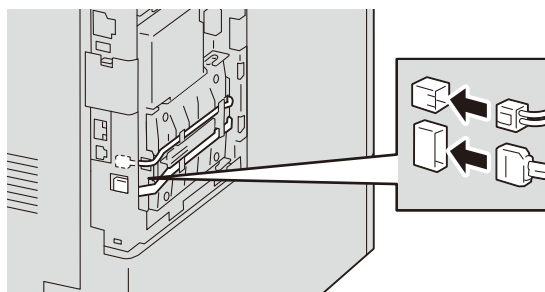


- 4** ストレージ（オプション）から出ているコネクタケーブルを外側にして、コントローラーボード上のフレームに差し込みます。

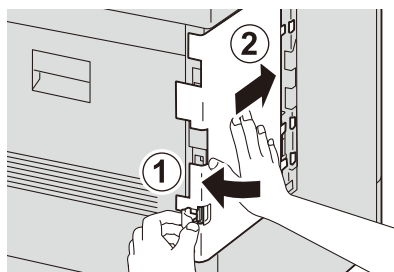
ストレージ（オプション）の突起部をフレームのくぼみに正しくはめてください。



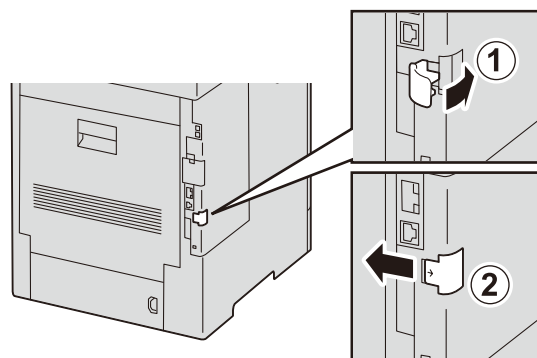
- 5** ストレージ（オプション）のコネクタケーブルを、コントローラーボード上のコネクタに接続します。



- 6** 左側面のカバーを、本機の前方向にスライドさせ、突起を本体側の穴に差し込みます。



- 7** ラッチを本機の前方向に倒してから左にスライドさせ、カバーをロックします。



8 電源コードを接続し、電源 / 節電ボタンを押して電源を入れます。

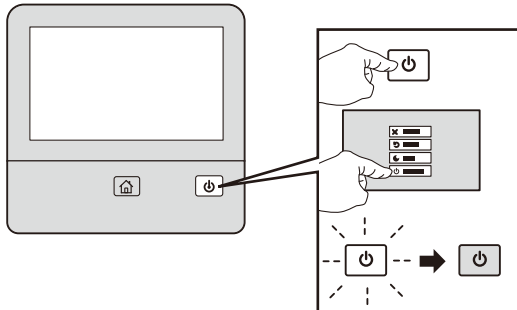
補足

- 機能設定リストをプリントすると、ストレージ（オプション）が正しく取り付けられたかどうかを確認できます。
- ストレージ（オプション）の取り付けが完了したら、プリンタードライバーのプロパティでプリンター構成を変更してください。変更方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

データ上書き消去キットの取り付け

- 1 電源 / 節電ボタンを押し、[電源を切る] を選択して、電源を切ります。

操作パネルのディスプレイおよび各ランプがすべて消えたことを確認して、電源コードをコンセントおよび本機から抜きます。



- 2 取り付けるキットの USB ドングルを用意します。
- 3 キャップを外し、操作パネルの下にある USB 2.0 インターフェイスコネクタに挿入します。



- 4 コンセントおよび本機に電源コードを差し込んで、電源を入れます。
これで、インストール準備は完了です。続けて、操作パネルで機能を有効に設定します。
- 5 本機に機械管理者モードにログインします。
- 6 ホーム画面の [設定] をタップし、[保守] > [ソフトウェアオプションの設定 -USB] の順に選択します。
- 7 [機能を有効化する] をタップします。
有効化が開始されます。処理が終了すると、本機が自動的に再起動します。

補足

- 有効化処理が開始されない場合は、正しく USB ドングルが取り付けられていません。USB ドングルを取り付け直してください。

- 8 USB ドングルを取り外します。

13

付録

主な仕様

製品の仕様、および外観は、予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

プリント機能

■商品コード

NL300081

■形式

デスクトップ

■プリント方式

LED ゼログラフィ

補足

- LED + 乾式電子写真方式です。

■ウォームアップ時間

38 秒以下（電源投入時、室温 23 °C）
（スリープモード時は 20 秒以下）

■連続プリント速度

- 片面プリント時
48 枚 / 分
- 両面プリント時
31.1 ページ / 分

補足

- A4、同一原稿を普通紙にプリントするときの速度です。用紙種類、サイズ、条件によっては、速度が低下します。

■ファーストプリント時間

A4 : 6.0 秒

注記

- 本体給紙トレイから給紙した場合です。数値は、出力環境によって異なります。

■解像度

- 標準【ART EX ドライバー】

標準 : 1,200×1,200 dpi、高画質 : 1,200×1,200 dpi、高精細 : 1,200×1,200 dpi

- オプション【Adobe PostScript 3 ドライバー】

高速 (標準) : 1,200×1,200 dpi、高画質 : 1,200×1,200 dpi、高精細 : 1,200×1,200 dpi

■階調

256 階調

■用紙サイズ

• 標準トレイ：

A5、A5 よこ^{*}、B5、A4、8.5×11" (レター)、8.5×13" (215.9×330.2 mm)、8.5×14" (リーガル)、封筒 (洋長形 3 号、洋形 4 号、長形 3 号、長形 4 号、角形 6 号)、往復はがき (日本郵便製)、4 連はがき、ユーザー定義用紙 (幅 76.2 ～ 215.9 mm × 長さ 148.0 ～ 355.6 mm)

^{*}:長さが 190.5 mm 未満の用紙をセットする場合は、小サイズ対応用紙ガイド (オプション) が必要です。

• 手差しトレイ：

A6、B6、A5、A5 よこ、B5、A4、8.5×11" (レター)、8.5×13" (215.9×330.2 mm)、8.5×14" (リーガル)、封筒 (洋長形 3 号、洋形 2 号、洋形 3 号、洋形 4 号、長形 3 号、長形 4 号、角形 6 号、#10、モナーク、DL、ISO-C5)、郵便はがき (日本郵便製)、往復はがき (日本郵便製)、4 連はがき、ユーザー定義用紙 (幅 76.2 ～ 215.9 mm × 長さ 127.0 ～ 355.6 mm)

• オプショントレイ：

A5、B5、A4、8.5×11" (レター)、8.5×13" (215.9×330.2 mm)、8.5×14" (リーガル)、ユーザー定義用紙 (幅 76.2 ～ 215.9 mm × 長さ 190.5 ～ 355.6 mm)

• 両面印刷：

A5、B5、A4、8.5×11" (レター)、8.5×13" (215.9×330.2 mm)、8.5×14" (リーガル)、ユーザー定義用紙 (幅 139.7 ～ 215.9 mm × 長さ 203.2 ～ 355.6 mm)

• 像欠け幅：

先端 / 後端 / 左右端 4.0 mm

■用紙坪量

標準トレイ：60 ～ 220 g/m²

手差しトレイ：60 ～ 220 g/m²

オプショントレイ：60 ～ 220 g/m²

両面印刷：60 ～ 176 g/m²

注記

- 弊社推奨紙の使用をお勧めします。用紙の種類 (紙質、サイズなど) によっては正しくプリントできない場合があります。
- ユーザー定義サイズの用紙を使用する場合は、用紙走行性を事前に確認してください。
- インクジェット専用用紙は使用できません。
- 再生紙はがきは使用できない場合があります。
- 使用済用紙のうら面、および事前に印刷した用紙にプリントする場合や、使用環境が乾燥地、寒冷地、高温多湿の場合は、用紙によってプリントの品質が低下することがあります。また、用紙の種類や環境条件により印刷の品質に差異が生じる場合がありますので、事前に印刷品質の確認を推奨します。なお、推奨用紙や事前の用紙走行確認については、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

■給紙容量

標準：トレイ 550 枚 + 手差しトレイ 150 枚

オプション：トレイ 550 枚

最大：2,350 枚 [標準 + オプショントレイ × 3]

補足

- 80 g/m² の用紙の場合です。

■ 出力トレイ容量

250 枚

補足

- 弊社 P 紙の場合です。

■ 両面機能

標準

■ CPU

ARM Dual Core 1.3 GHz

■ メモリー容量

2 GB（最大：2 GB）

■ ストレージ容量（オプション）

3.6 GB

オプション：128 GB 以上（使用領域 81 GB）*

*：ストレージ（SSD）（オプション）装着時。

注記

- 表記された容量のすべてをお客様が利用できるわけではありません。

■ 搭載フォント

- アウトラインフォント（平成明朝体™ W3、平成角ゴシック体™ W5、欧文 19 書体）
- ストロークフォント（日本語書体、欧文書体：HP-GL 用）、欧文 82 書体、シンボル 37 セット
- 【Adobe PostScript 3 キット】
平成 3 書体版：日本語 3 書体（平成明朝体™ W3、平成角ゴシック体™ W5、平成丸ゴシック体™ W4）、欧文 136 書体

■ ページ記述言語

ART EX、Adobe PostScript 3

■ エミュレーション

- 標準：

ART IV、ESC/P (VP-1000)、BMLinkS®、PDF、XPS (XML Paper Specification)、DocuWorks、TIFF、JPEG、PC-PR201H、HP-GL (HP7586B)、HP-GL2/RTL (HP Designjet 750C Plus)、PCL5/PCL6

■対応 OS

- 標準：[ART EX ドライバー]
Windows 10 (32 ビット)
Windows 10 (64 ビット)
Windows 8.1 (32 ビット)
Windows 8.1 (64 ビット)
Windows Server 2019 (64 ビット)
Windows Server 2016 (64 ビット)
Windows Server 2012 R2 (64 ビット)
Windows Server 2012 (64 ビット)

補足

- 最新の対応 OS については、弊社公式サイトをご覧ください。

■インターフェイス

- 標準
Ethernet 1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-T、USB3.0、USB2.0
- オプション
無線 LAN (IEEE 802.11 a/b/g/n/ac)

■対応プロトコル

TCP/IP (Ipd、IPP、Port9100)

■電源

AC 100 V $\pm$ 10 %、15 A、50/60 Hz 共用

補足

- 推奨するコンセント容量です。機械側の最大電流は、15 A です。

■騒音

稼働時 (本体のみ)：7.0 B、55.1 dB (A)

レディー時：4.2 B、26.3 dB (A)

補足

- ISO7779 に基づいて、本体だけを測定した値です。
- 単位 B は音響パワーレベル (LWAd)、単位 dB は放射音圧レベル (バースタンド位置) を表します。

■最大消費電力

最大：1,210 W、スリープモード時 0.4 W

平均：レディー時 57 W、稼働時 706 W

■エネルギー消費効率

122 kWh/ 年、区分：プリンター C

注記

- 省エネ法 (平成 25 年 3 月 1 日付) で定められた測定方法による数値です。

■外形寸法

幅 427.4× 奥行 465.5× 高さ 407.4 mm

補足

- オプションの用紙トレイの高さは 123 mm です。3 つまで追加できます。

■ 質量

- 消耗品とドラムカートリッジを含む場合

21.6 kg

- 消耗品とドラムカートリッジを含まない場合

20.0 kg

補足

- トナーカートリッジを含みます。
- オプションの用紙トレイの質量は、6.6 kg です。3 つまで追加できます。

プリント可能領域

標準印字領域

用紙の上下左右の端から余白（4.1 mm）を除いた領域です。

拡張印字領域

印字領域を広げてプリントします。

ただし、本機の制限によって用紙の端までプリントできない部分があります。

注記

- 本機は、用紙の端から 4.0 mm 未満の領域にはプリントできません。また、プリント時の本機の最大印字可能領域は、211.0 mm×352.0 mm です。これを越えてプリントすることはできません。

参照

- プリンタードライバーでの設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。操作パネルでの設定方法については、「[プリント可能領域]」(P.141) を参照してください。

エミュレーションについて

プリントデータはある規則（文法）に従ったデータになっています。この規則（文法）をプリント言語といいます。

本機が対応しているプリント言語は、ページ単位にイメージを作るページ記述言語と、他のプリンターでのプリント結果に近い結果を得ることができるエミュレーションに分類できます。

エミュレーションモード

本機が対応するページ記述言語以外のデータをプリントするときは、本機をエミュレーションモードにします。エミュレーションモードと、エミュレートするプリンターの対応は、次のとおりです。

エミュレーションモード	エミュレートするプリンター
ESC/P エミュレーションモード (ESC/P モード)	VP-1000
PC-PR201H エミュレーションモード (PC-PR201H モード)	PC-PR201H
HP-GL エミュレーションモード (HP-GL モード)	7586B または DJ750C Plus
HP-GL/2 エミュレーションモード (HP-GL/2 モード)	DJ750C Plus
PCL エミュレーションモード (PCL モード)	HP-LJ4200

プリント言語の切り替え

本機は、マルチエミュレーションに対応しています。このため、対応するプリント言語の切り替えができるようになっています。

対応するプリント言語を切り替える方法は、次のとおりです。

コマンド切り替え

対応するプリント言語を切り替えるコマンドを用意しています。本機は、コマンドを受け取ると、対応するプリント言語に切り替えます。

自動切り替え

ホストインターフェイスが受信したデータを分析し、プリント言語を自動的に特定します。

プロトコル従属

CentreWare Internet Services を使って、プロトコル（LPD、IPP、Port9100、WSD）ごとにプリント言語を固定化できます。

モードメニュー画面

エミュレーションモード固有の項目を設定する画面です。モードメニュー画面を表示するには、ホーム画面で「プリンターモード」をタップし、設定するエミュレーションモードを選んでください。

補足

- 「[メモリー呼び出し]」、「[メモリー登録 / 削除]」、「[立ち上げメモリー]」は、ESC/P モード、HP-GL/2 モード、PC-PR201H モードに表示されます。

「メモリー呼び出し」

メモリーに登録した設定を呼び出します。

「工場出荷時の設定」を選ぶか、「ユーザー登録メモリー」で登録してある設定の番号を選びます。

「詳細確認 / 変更」

エミュレーションモードの項目番号に設定されている値を確認 / 変更します。

- 「[項目番号]」に機能の項目番号を入力すると現在の設定値を表示できます。
- 設定値を変更するには、「[変更値]」に変更する値を入力し、「[決定]」をタップします。

「メモリー登録 / 削除」

現在の設定項目の内容を「ユーザー登録メモリー」に登録したり、登録済みのメモリーを削除したりします。

「立ち上げメモリー」

本機を起動したときの初期値を設定します。

「工場出荷時の設定」を選ぶか、「ユーザー登録メモリー」で登録してある設定の番号を選びます。

使用できるフォント

使用できるフォントは、「フォントリスト」および「PCL フォントリスト」で確認できます。

ユーザー定義文字（外字）

ESC/P モード、PC-PR201H モードでは、ユーザー定義文字（外字）を使用できます。

ユーザー定義文字は、ビットマップフォントとして登録され、電源を切っても保持されます。各プリント言語の間で共有はできません。

ART IV、ESC/P エミュレーションについて

エミュレーションモードでのプリント機能

■N アップ（ESC/P）

N アップは、複数ページを縮小して、1 枚の用紙にプリントする機能です。

ESC/P モードでは、2 アップを利用できます。

■ フォーム合成

ESC/P モードでは、あらかじめフォームをプリンターに登録しておき、プリントデータに合成してプリントできます。ESC/P モードからは、ESC/P および ART IV のフォームが使用でき、操作パネルから、合成するフォームを指定します。

■ バーコード

ESC/P および ART IV モードでは、バーコードを利用できます。利用できるバーコード規格は、次のとおりです。

- JAN コード
- CODE39
- CODABAR
- Industrial 2 of 5
- Matrix 2 of 5
- Interleaved 2 of 5

■ フォームについて

ART IV または ESC/P を使用して定形のフォームに登録できます。

登録できるフォームの数は次のとおりです。

	ART IV	ESC/P
ストレージなし	64	64
ストレージあり	2,048	64

補足

- フォーム登録数の上限を超えてフォームに登録しようとした場合またはフォーム用のメモリー容量がいっぱいになった場合、フォーム登録の操作中にエラーなどは表示されませんが、新しいフォームは登録されません。

参照

- フォームが登録されたかどうかは、「[ART IV, ESC/P ユーザー定義リスト]」(P.110) で確認してください。

ART IV および ESC/P に関連する設定メニュー

■ [ポート設定]

[設定] > [ネットワーク設定] > [ポート設定] で、エミュレーションモードで使用するポートを設定します。

- ポートの起動 (LPD/IPP/USB/Port9100/WSD)
エミュレーションモードで使用するポートを起動します。

- [USB- プリントモード指定]

USB ポートのプリントモード指定を、ART IV または ESC/P エミュレーションが使用できるように設定します。プリントモードとして [ART IV] や [ESC/P] を指定できます。

補足

- [USB- プリントモード指定] では、ホスト装置から受信したデータの処理方法を設定します。ここで [ART IV] や [ESC/P] を設定すると、「プリント言語の切り替え」(P.274) で説明している「自動切り替え」は行われません。
- CentreWare Internet Services を使って、プロトコル (LPD、IPP、Port9100、WSD) ごとにプリントモードを指定することもできます。

■ [メモリー設定]

[設定] > [アプリ設定] > [プリンター設定] > [メモリー設定] で、ART IV のフォームやユーザー定義で使用するメモリー容量を指定します。

- [ART IV, ESC/P, 201H フォームメモリー]

フォームを格納するメモリー容量を設定します。設定できる最大値はメモリーの空き容量によって変化します。ストレージが取り付けられている場合は、[(ストレージ)] と表示されます。

- [ART IV ユーザー定義用メモリー]

ART IV のユーザー定義で使用するメモリー容量を設定します。設定できる最大値はメモリーの空き容量によって変化します。

■ [フォーム削除]

[設定] > [アプリ設定] > [プリンター設定] > [フォーム削除] で、本機に登録されているフォームを削除します。

ESC/P 設定項目一覧

ESC/P のモードメニューで設定できる項目について、基本設定項目と拡張設定項目に分けて説明します。

基本設定項目

設定項目	項目番号	設定値
給紙トレイ	3	【0】：自動 【1】（初期値）：トレイ 1 【2】：トレイ 2 【3】：トレイ 3 【4】：トレイ 4 【5】：トレイ 5（手差し） 補足 • 「自動」に設定した場合、同じサイズ of 用紙が同じ用紙方向で複数のトレイにセットされているときは、トレイ 1 → トレイ 2 → トレイ 3 → トレイ 4 の順に給紙されます。また、同じサイズ of 用紙が異なる向きで複数のトレイにセットされているときは、よこにセットされている用紙が優先されます。

設定項目	項目番号	設定値
原稿サイズ	1	【99】(初期値)：用紙 【100】：連続紙 (10×12) 【101】：連続紙 (10×11) 【102】：連続紙 (15×12) 【103】：連続紙 (15×11) 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【21】：8.5×14 【22】：8.5×13 【23】：8.5×11 【24】：11×17 【0】：はがき 補足 ・「原稿サイズ」で連続紙に設定した場合、「用紙位置」の設定はできません。 ・「倍率」で「固定倍率」または「カット紙全面」が設定されている場合、「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせで倍率が自動設定されます。ただし、45～210% に収まらない倍率値となった場合、原稿は自動拡張 / 縮小されず等倍でプリントされます。また、2 アップモードが設定されている場合は、「原稿サイズ」と「用紙サイズの 1/2」の組み合わせで倍率が自動設定されます。
用紙方向	19	【0】(初期値)：縦 【1】：横 補足 ・ここで設定する方向は「原稿の向き」です。トレイ内の用紙のセットの方向には影響しません。
用紙サイズ	2	「給紙トレイ」の設定が「自動」、または「トレイ 5 (手差し)」の場合の用紙サイズを設定します。また、設定できる用紙はカット紙だけです。 【4】：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【21】：8.5×14 【22】：8.5×13 【23】：8.5×11 【0】：はがき 注記 ・「給紙トレイ」を「トレイ 1」～「トレイ 4」のどれかに設定しているときには、「用紙サイズ」の設定はできません。 補足 ・「倍率」で「固定倍率」または「カット紙全面」が設定されている場合、「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせで倍率が自動設定されます。ただし、45～210% に収まらない倍率値となった場合、原稿は自動拡張 / 縮小されず等倍でプリントされます。 また、2 アップモードが設定されている場合は、「原稿サイズ」と「用紙サイズの 1/2」の組み合わせで倍率が自動設定されます。

拡張設定項目

設定項目	項目番号	設定値
用紙位置	20	【0】(初期値) : カットシートフィーダーなし (左) 【1】: カットシートフィーダーあり (中央) 補足 • カットシートフィーダーなしの場合は、FF (改ページコマンド) を受信すると、VFU で設定された値だけ行送りをします。カットシートフィーダーありの場合は、改ページします。 • 「原稿サイズ」で連続紙に設定した場合、「用紙位置」の設定はできません。
出力部数	8	【1 ~ 250】(初期値 : 1) : 1 ~ 250 枚 注記 • クライアントからプリント部数の指定があった場合、その値が反映されてプリントされます。プリント後、操作パネルの設定もその値に書き換えられます。ただし、lpd ポートから指定された部数は、プリント後、操作パネルの設定を書き換えることはありません。
倍率	54 (倍率モード)	【0】(初期値) : 固定倍率 【1】: 任意倍率 【2】: カット紙全面 固定倍率とは、設定されている「原稿サイズ」と「用紙サイズ」から自動算出される倍率のことで、原稿サイズの印字エリアが用紙サイズの印字エリアに収まるように印字されます。このため、原稿サイズと用紙サイズが同じであれば 100% (等倍) 印字となります。また、2 アップが設定されている場合には、2 枚分の原稿サイズが 1 枚の用紙サイズの印字エリアに収まるように印字されます。 任意倍率とは、「倍率」 > 「任意倍率」で設定される倍率のことです。倍率の基準値は印字エリアの左上です。これは文字、イメージ、グラフィックスすべてにおける基準点になります。 カット紙全面領域が印字エリアに印字されます。 カット紙全面とは、設定されている「原稿サイズ」と「用紙サイズ」から自動算出される倍率のことで、設定されている原稿サイズの物理的な紙の大きさが用紙サイズの印字エリアに収まるよう印字されます。 補足 • 「原稿サイズ」で連続紙が設定されている場合、「固定倍率」と「カット紙全面」は同じ印字結果となります。
	17 (任意倍率 / 縦倍率)	【45 ~ 210】(初期値 : 100) : 45 ~ 210%
	18 (任意倍率 / 横倍率)	
2UP モード	21	【0】(初期値) : なし 【1】: 順方向 【2】: 逆方向 注記 • 「原稿サイズ」でよこ向きを指定している場合、「順方向」と「逆方向」のどちらを設定しても同じ結果となります。
トレイ5確認表示	67	トレイ 5 (手差し) から給紙するプリント指示をしたあと、本体側の操作によってプリントを開始します。 【0】(初期値) : なし 【1】: あり
罫線	22	2 バイト系罫線フォントの印字方法を設定します。 【0】(初期値) : イメージ 【1】: フォント

設定項目	項目番号	設定値
両面	12	【0】 （初期値）：なし 【1】 ：左右開き 【2】 ：上下開き
フォント	13 （漢字書体）	2 バイト系文字（漢字）の書体を設定します。なお、2 バイト系半角文字もこの書体が適用されます。 【0】 （初期値）：明朝 【1】 ：ゴシック 注記 本設定は、初期値を指定する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。
フォント	14 （英数字書体）	1 バイト系文字（ANK）の書体を設定します。 【0】 （初期値）：ローマン 【1】 ：サンセリフ 注記 本設定は、初期値を指定する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。
印字制御	50 （漢字コード）	使用する漢字コード表を設定します。 【0】 （初期値）：エプソン 【1】 ：東芝
	51 （白紙排出）	改ページだけのデータのように、プリントするデータがまったくない場合に、白紙を排出するかしないかを設定します。 【0】 （初期値）：しない 【1】 ：する 補足 「しない」に設定した場合でも、外字で作成されたスペースや、白だけのイメージデータのときは白紙が排出されます。 「しない」が設定され、2 アッププリントまたは両面プリントの指示がされている場合、白紙となるページはスキップして処理します。
	52 （印字桁範囲）	右マージンの位置を拡張できます。 【0】 （初期値）：標準 【1】 ：拡張 注記 - 印字桁範囲を「拡張」から「標準」に設定変更した場合は、左右マージン値が初期化されます。 - コマンドで右マージン位置が設定された場合は、その位置が右端となります。
	53 （イメージエンハンスメント）	イメージエンハンスメントとは、白黒の境目を滑らかにしてギザギザを減らし、疑似的に解像度を高める機能です。 【0】 ：OFF 【1】 （初期値）：ON
ESCP スイッチ	55 （文字品位）	文字の印字品質モードを高品位かドラフトに設定します。 【0】 （初期値）：高品位 【1】 ：ドラフト 注記 「文字品位」、「縮小文字」、「文字コード表」、「ページ長」および「1 インチミシン目スキップ」の各設定は、初期値を指定する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。 補足 - 設定状態の変更で、実際の印字は変化しません。 - 本設定は、文字品位選択コマンドに影響します。文字品位選択コマンドについては、『リファレンスマニュアル（ESC/P 対応）』（別売）を参照してください。

設定項目	項目番号	設定値
ESCP スイッチ	56 (縮小文字)	1 バイト系の英数字を印字する場合、文字を縮小して印字できます。縮小するか等倍で印字するかを設定します。 【0】(初期値)：しない 【1】：する
	57 (文字コード表)	1 バイト系の英数字を印字する場合のコード表の種類を設定します。国内版アプリケーションをご使用の場合はカタカナを、海外版アプリケーションをご使用の場合は拡張グラフィックスに設定してください。 【0】(初期値)：カタカナ 【1】：拡張グラフィックス
	58 (ページ長)	1 ページの長さ(印字エリア)を11インチまたは12インチに設定します。 【0】(初期値)：11 インチ 【1】：12 インチ
	59 (1 インチミシン目スキップ)	ページとページの間を1 インチ空けるか、空けないかを設定します。 【0】(初期値)：しない 【1】：する 注記 ・「用紙位置」で CSF が「なし」に設定されている場合だけ実行されます。
	60 (給紙位置)	印字開始位置を、用紙の上端から 8.5 mm か 22 mm に設定します。 【0】(初期値)：8.5 mm 【1】：22 mm
	61 (CR の機能)	CR コマンド受信時の動作を設定します。 【0】(初期値)：復帰 【1】：復帰改行
位置補正	15 (縦位置補正)	データをプリントする位置をたてまたはよこ方向に移動し、余白の位置を変える機能です。 【0】(初期値)：しない 【1 ~ 500】：-250 ~ +250 mm
	16 (横位置補正)	
拡張子	62 (拡張子指定)	通常の拡張コマンドは、コマンドを識別するための拡張子として、先頭に 16 進法で 1BH である ESC とそれに続く；(セミコロン =3BH) を指定しています。 ホストコンピュータで ESC コードやセミコロンを使用できない場合は、それに代わる特定の文字列を拡張子として使用できます。この拡張子の置き換え機能を有効にするかどうかを設定します。 有効にする場合、項目番号 63 で、拡張子を指定します。 【0】(初期値)：無効 【1】：有効 参照 ・拡張コマンドについては、『リファレンスマニュアル (ESC/P 対応)』(別売)を参照してください。
	63 (拡張子)	テキストコードで制御できるようにする場合は、拡張コマンドの拡張子(先頭 2 バイト)を指定します。画面に表示されるキーボードから 2 文字を入力します。 【&%】(初期値)：0x21 ~ 0x7e

設定項目	項目番号	設定値
フォーム合成	64	登録されているフォーム名 (No.01 ～ 64) を指定することによって、常にフォームを合成します。 【0】(初期値) : しない 【1 ～ 64】 : No.1 ～ No.64 注記 - 本設定は、初期値を指定する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。 - フォームを指定したあと、フォームが削除された場合でも、そのフォーム名が表示されています。この場合はフォームが合成されません。
手差し給紙の一時停止	67	手差しトレイから給紙するときに、一時停止するかしないかを設定します。一時停止したあとに本体側の操作によって、プリントを開始します。 【0】 : しない 【1】(初期値) : する
フォーム種類	68	【0】(初期値) : ESC/P 【1】 : ART IV
文字コード	71	【0】(初期値) : JIS 【1】 : ShiftJIS
バイナリーデータの指定文字列	72	16進表記でコマンドを入力する指定文字列を設定します。 【0】(初期値) : OFF 【1】 : &\$%\$ 【2】 : \$?!#
0の字体	73	0の字体を設定します。 【0】(初期値) : 0 【1】 : ∅
有効出力部数	74	プリント部数の指定方法を設定します。 【0】 : プロトコル指定 【1】 : パネル 【2】(初期値) : コマンド
バーコードモード	75	バーコードモードを設定します。バーコードモードに設定すると、バーコードの輪郭がはっきりと印刷されます。 【0】(初期値) : 通常モード 【1】 : バーコードモード

PC-PR201H エミュレーションについて

エミュレーションモードでのプリント機能

PC-PR201H エミュレーションモードで利用できる、本機のプリント機能について説明します。

■ N アップ

N アップは、複数ページを縮小して、1 枚の用紙にプリントする機能です。

■ フォーム合成

PC-PR201H モードでは、あらかじめフォームをプリンターに登録しておき、プリントデータに合成してプリントできます。PC-PR201H および ART IV のフォームが使用できます。

操作パネルから、合成するフォームを指定できます。

■ バーコード

PC-PR201H モードでは、バーコードを利用できます。利用できるバーコード規格は、次のとおりです。

- JAN コード
- CODE39
- CODABAR
- Industrial 2 of 5
- Matrix 2 of 5
- Interleaved 2 of 5

■ フォームについて

本機では、PC-PR201H を使用して定形のフォームを登録できます。フォームは、64 ファイルまで登録できます。

補足

- フォーム登録数の上限を超えてフォームを登録しようとした場合またはフォーム用のメモリー容量がいっぱいになった場合、フォーム登録の操作中にエラーなどは表示されませんが、新しいフォームは登録されません。

参照

- フォームが登録されたかどうかは、「[ART IV, ESC/P ユーザー定義リスト]」(P.110) で確認してください。

PC-PR201H に関連する設定メニュー

■ [ポート設定]

[設定] > [ネットワーク設定] > [ポート設定] で、エミュレーションモードで使用するポートを設定します。

- ポートの起動 (LPD/IPP/USB/Port9100/WSD)

PC-PR201H エミュレーションで使用するポートを起動します。

- [USB- プリントモード指定]

USB ポートのプリントモード指定を、PC-PR201H エミュレーションが使用できるように設定します。プリントモードとして [PC-PR201H] を指定できます。

補足

- [USB- プリントモード指定] では、ホスト装置から受信したデータの処理方法を設定します。ここで [201H] を設定すると、「プリント言語の切り替え」(P.274) で説明している「自動切り替え」は行われません。
- CentreWare Internet Services を使って、プロトコル (LPD、IPP、Port9100、WSD) ごとにプリントモードを指定することもできます。

■ [メモリー設定]

[設定] > [アプリ設定] > [プリンター設定] > [メモリー設定] で、PC-PR201H のフォームで使用するメモリー容量を指定します。

- [ART IV, ESC/P, 201H フォームメモリー]

フォームを格納するメモリー容量を設定します。設定できる最大値はメモリーの空き容量によって変化します。ストレージが取り付けられている場合は、[(ストレージ)] と表示されます。

■ [フォーム削除]

[設定] > [アプリ設定] > [プリンター設定] > [フォーム削除] で、本機に登録されているフォームを削除します。

PC-PR201H 設定項目一覧

モードメニューで設定できる項目について、基本設定項目と拡張設定項目に分けて説明します。

基本設定項目

設定項目	項目番号	設定値
原稿サイズ	301	【0】：はがき 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【21】：8.5×14 【22】：8.5×13 【23】：8.5×11 【24】：11×17 【99】（初期値）：用紙 【100】：連続紙（10×12） 【101】：連続紙（10×11） 【102】：連続紙（15×12） 【103】：連続紙（15×11） 補足 • プリント保証桁は、連続紙（10×12）は 80 桁 /72 行、連続紙（10×11）は 80 桁 /66 行、連続紙（15×12）は 136 桁 /72 行、連続紙（15×11）は 136 桁 /66 行です。 • 「原稿サイズ」で連続紙に設定した場合、「用紙位置」の設定はできません。 • 「倍率」で「固定倍率」または「カット紙全面」が設定されている場合、「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせで倍率が自動設定されます。ただし、45～210% に収まらない倍率値となった場合、原稿は自動拡張 / 縮小されず等倍でプリントされます。 また、2 アップモードが設定されている場合は、「原稿サイズ」と「用紙サイズの 1/2」の組み合わせで倍率が自動設定されます。
用紙サイズ	302	「給紙トレイ」の設定が「自動」、または「トレイ 5（手差し）」の場合の用紙サイズを設定します。また、設定できる用紙はカット紙だけです。 【0】：はがき 【4】：A4 【5】：A5 【15】：B5 【21】：8.5×14 【22】：8.5×13 【23】：8.5×11 注記 • 「給紙トレイ」を「トレイ 1」～「トレイ 4」のどれかに設定しているときには、その用紙トレイにセットされている用紙の大きさが用紙サイズとなるため、「用紙サイズ」の設定はできません。 補足 • 「倍率」で「固定倍率」または「カット紙全面」が設定されている場合、「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせで倍率が自動設定されます。ただし、45～210% に収まらない倍率値となった場合、原稿は自動拡張 / 縮小されず等倍でプリントされます。 また、2 アップモードが設定されている場合は、「原稿サイズ」と「用紙サイズの 1/2」の組み合わせで倍率が自動設定されます。

設定項目	項目番号	設定値
給紙トレイ	303	【0】：自動 【1】（初期値）：トレイ 1 【2】：トレイ 2 【3】：トレイ 3 【4】：トレイ 4 【5】：トレイ 5（手差し） 補足 「自動」に設定した場合、同じサイズ of 用紙が同じ用紙方向で複数のトレイにセットされているときは、トレイ 1 → トレイ 2 → トレイ 3 → トレイ 4 の順に給紙されます。また、同じサイズ of 用紙が異なる向きで複数のトレイにセットされているときは、よこにセットされている用紙が優先されます。
出力部数	305	【1】～【250】（初期値：1）：1～250 枚 注記 コンピューターからプリント部数の指定があった場合、その値が反映されてプリントされます。プリント後、操作パネルの設定もその値に書き換えられます。ただし、lpd ポートから指定された部数は、プリント後、操作パネルの設定を書き換えることはありません。

拡張設定項目

設定項目	項目番号	設定値
両面	307	【0】（初期値）：なし 【1】：左右開き 【2】：上下開き
フォント	308 （漢字書体）	2 バイト系文字（漢字）の書体を設定します。なお、2 バイト系半角文字もこの書体が適用されます。 参照 - フォントについては「使用できるフォント」(P.275) を参照してください。 【0】（初期値）：明朝 【1】：ゴシック 注記 - 本設定は、初期値を指定する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。
	309 （英数字書体）	1 バイト系文字（ANK）の書体を設定します。 参照 - フォントについては「使用できるフォント」(P.275) を参照してください。 【0】（初期値）：ローマン 【1】：サンセリフ 注記 - 本設定は、初期値を指定する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。
位置補正	310 （横位置補正）	データをプリントする位置をたてまたはよこ方向に移動し、余白の位置を変える機能です。
	311 （横位置補正）	【0】（初期値）：しない 【1】～【250】：-250～-1 mm 【251】～【500】：+1～+250 mm 注記 印字エリアを超えるデータは、位置補正をしても印字されません。また、位置補正により印字エリアを超えたデータは、印字されません。

設定項目	項目番号	設定値
倍率	312 (縦倍率)	【45】～【210】(初期値：100)：45～210%
	313 (横倍率)	
用紙方向	314	【0】(初期値)：縦 【1】：横 補足 ここで設定する方向は「原稿の向き」です。トレイ内の用紙のセットの方向には影響しません。
用紙位置	315	【0】(初期値)：左置き 【1】：中央置き 補足 「原稿サイズ」で連続紙に設定した場合、「用紙位置」の設定はできません。
2UP モード	316	【0】(初期値)：なし 【1】：順方向 【2】：逆方向 注記 「原稿サイズ」でよこ向きを指定している場合、「順方向」と「逆方向」のどちらを設定しても同じ結果となります。
罫線	317	2 バイト系罫線フォントの印字方法を設定します。 【0】(初期値)：イメージ 【1】：フォント
印字制御	318 (白紙排出)	改ページだけのデータのように、プリントするデータがまったくない場合に、白紙を排出するかどうかを設定します。 【0】(初期値)：しない 【1】：する 補足 「しない」に設定した場合でも、外字で作成されたスペースや、白だけのイメージデータのときは白紙が排出されます。 「しない」が設定され、2 アッププリントまたは両面プリントの指示がされている場合、白紙となるページはスキップして処理します。
	319 (印字桁範囲)	右マージンの位置を拡張できます。 【0】(初期値)：標準 【1】：拡張 注記 - 印字桁範囲を「拡張」から「標準」に設定変更した場合は、左右マージン値が初期化されます。 - コマンドで右マージン位置が設定された場合は、その位置が右端となります。
	320 (イメージエンハンス)	イメージエンハンスメントを行うか行わないかを設定します。 イメージエンハンスメントとは、画像の境目を滑らかにしてギザギザを減らし、疑似的に解像度を高める機能です。 【0】：OFF 【1】(初期値)：ON

設定項目	項目番号	設定値
印字制御	321 (倍率モード)	【0】(初期値): 固定 【1】: 任意 【2】: カット全面 固定倍率とは、設定されている「原稿サイズ」と「用紙サイズ」から自動算出される倍率のことで、原稿サイズの印字エリアが用紙サイズの印字エリアに収まるように印字されます。このため、原稿サイズと用紙サイズが同じであれば 100% (等倍) 印字となります。また、2 アップが設定されている場合には、2 枚分の原稿サイズが 1 枚の用紙サイズの印字エリアに収まるように印字されます。 任意倍率とは、「倍率」 > 「任意倍率」で設定される倍率のことで、倍率の基準値は印字エリアの左上です。これは文字、イメージ、グラフィックスすべてにおける基準点になります。 カット紙全面領域が印字エリアに印字されます。 カット紙全面とは、設定されている「原稿サイズ」と「用紙サイズ」から自動算出される倍率のことで、設定されている原稿サイズの物理的な紙の大きさが用紙サイズの印字エリアに収まるよう印字されます。
	322 (国別文字)	【0】(初期値): 日本 【1】: アメリカ 【2】: イギリス 【3】: ドイツ 【4】: スウェーデン
	323 (自動改行)	右マージン位置を超えたときの自動改行の動作を設定します。 【0】: CR 【1】(初期値): CR/LF 「CR」は印字復帰だけします。「CR/LF」は印字復帰したあと改行します。
	324 (印字指令)	印字指令のコマンドを設定します。 【0】(初期値): CR 【1】: すべて 「CR」は印字指令のコマンドを CR のみ、「すべて」は印字指令のコマンドを、CR、LF、VT、FF、US、ESC a、ESC b とします。
	325 (CR の機能)	CR コマンド受信時の動作を設定します。 【0】(初期値): 復帰 【1】: 復帰改行 注記 - この設定は、初期値を設定する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。 補足 - この設定は、8 ビットドットイメージ印字コマンドの印字結果に影響します。
	326 (0 の書体)	数字の 0 の字体を設定します。 【0】(初期値): 0 【1】: Ø 「0」は普通の字体、「Ø」は斜線のついた字体に設定します。
	327 (グラフィック ドット数)	ドット対応のグラフィックドット数の種類を設定します。 【0】(初期値): ネイティブ 【1】: コピー
	328 (データサイ ズ)	データのビットサイズを設定します。 【0】: 7 ビット 【1】(初期値): 8 ビット
	329 (1 ページ長)	1 ページの長さ (印字エリア) を 11 インチ (初期値) か 12 インチに設定します。 【0】(初期値): 11 インチ 【1】: 12 インチ

設定項目	項目番号	設定値
印字制御	330 (拡張子指定)	通常の拡張コマンドは、コマンドを識別するための拡張子として、先頭に 16 進法で 1BH である ESC とそれに続く ; (セミコロン =3BH) を指定しています。 ホストコンピュータで ESC コードやセミコロンを使用できない場合は、それに代わる特定の文字列を拡張子として使用できます。 この拡張子の置き換え機能を有効にするかどうかを設定します。 有効にする場合、項目番号 331 で、拡張子を指定します。 【0】(初期値) : 無効 【1】 : 有効 補足 拡張子に 1B3B を使用する時は「無効」、任意の文字列を使用する場合は「有効」を設定してください。
	331 (拡張子)	テキストコードで制御できるようにしたい場合は、拡張コマンドの拡張子(先頭 2 バイト)を指定します。画面に表示されるキーボードから 2 文字を入力します。 【&%】(初期値) : 0x21 ~ 0x7e
	332 (フォーム合成)	登録されているフォーム名 (No.01 ~ 64) を指定することによって、常にフォームを合成します。 【0】(初期値) : しない 【1】 ~ 【64】 : No.1 ~ No.64 注記 本設定は、初期値を指定する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。
	336 (フォーム種類)	フォームの種類を指定します。 【0】(初期値) : PC-PR201H 【1】 : ART IV
トレイ5確認表示	335	トレイ 5 (手差し) から給紙するプリント指示をしたあと、本体側の操作によってプリントを開始します。 【0】(初期値) : なし 【1】 : あり
カットシートフィーダー (CSF)	338	カットシートフィーダー機能を設定します。 CSF なしの場合は、改ページコマンドを受信したら、VFU で設定された設定値まで印字ヘッドを移動させ、印字位置は左よりになります。 CSF ありの場合は、改ページコマンドを受信したら、用紙を自動排出後に自動給紙して、印字位置は中央になります。 【0】(初期値) : CSF なし 【1】 : CSF あり
有効出力部数	339	プリント部数の指定方法を設定します。 【0】 : プロトコル指定 【1】 : パネル 【2】(初期値) : コマンド

PCL エミュレーションについて

PCL に関連する設定メニュー

■ [ポート設定]

[設定] > [ネットワーク設定] > [ポート設定] で、エミュレーションモードで使用するポートを設定します。

- ポートの起動 (LPD/IPP/USB/Port9100/WSD)

PCL エミュレーションで使用するポートを起動します。

• [USB- プリントモード指定]

USB ポートのプリントモード指定を、PCL エミュレーションが使用できるように設定します。プリントモードとして [PCL] を選びます。

補足

- [USB- プリントモード指定] では、ホスト装置から受信したデータの処理方法を設定します。ここで [PCL] を設定すると、「プリント言語の切り替え」(P.274) で説明している「自動切り替え」は行われません。
- CentreWare Internet Services を使って、プロトコル (LPD、IPP、Port9100、WSD) ごとにプリントモードを指定することもできます。

PCL 設定項目一覧

設定項目	項目番号	設定値
給紙トレイ	201	【0】(初期値): 自動 【1】: トレイ 1 【2】: トレイ 2 【3】: トレイ 3 【4】: トレイ 4 【5】: トレイ 5 (手差し) 補足 • 「自動」に設定した場合、同じサイズ of 用紙が同じ用紙方向で複数のトレイにセットされているときは、トレイ 1 → トレイ 2 → トレイ 3 → トレイ 4 の順に給紙されます。また、同じサイズ of 用紙が異なる向きで複数のトレイにセットされているときは、よこにセットされている用紙が優先されます。
用紙サイズ (「給紙トレイ」が「自動」の場合)	202	「給紙トレイ」の設定が「自動」の場合の用紙サイズを設定します。また、設定できる用紙はカット紙だけです。 【4】(初期値): A4 【5】: A5 【15】: B5 【21】: 8.5×14 【22】: 8.5×13 【23】: 8.5×11 【25】: ユーザー定義用紙 注記 • 「給紙トレイ」を「トレイ 1」～「トレイ 4」のどれかに設定しているときには、「用紙サイズ」の設定はできません。設定しているトレイにセットされている用紙サイズが表示されます。 補足 • 「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせによって、倍率符号が「?」となることがあります。この場合、原稿は等倍でプリントされます。
用紙サイズ (「給紙トレイ」が「手差しトレイ」の場合)	203	「給紙トレイ」の設定が「手差し」の場合の用紙サイズを設定します。また、設定できる用紙はカット紙だけです。 【4】(初期値): A4 【5】: A5 【15】: B5 【21】: 8.5×14 【22】: 8.5×13 【23】: 8.5×11 【25】: ユーザー定義用紙
原稿の向き	205	【0】(初期値): 縦 【1】: 横
両面	206	【0】(初期値): オフ 【1】: オン

設定項目	項目番号	設定値
デフォルトフォント	207	1 バイト系文字 (ANK) の書体を設定します。初期値は「23」で Courier です。 参照 • フォントについては「使用できるフォント」(P.275)を参照してください。 【0】: CG Times 【1】: CG Times Italic 【2】: CG Times Bold 【3】: CG Times Italic Bold 【4】: Univers Medium 【5】: Univers Medium Italic 【6】: Univers Bold 【7】: Univers Bold Italic 【8】: Univers Medium Condensed 【9】: Univers Medium Condensed Italic 【10】: Univers Bold Condensed 【11】: Univers Bold Condensed Italic 【12】: Antique Olive 【13】: Antique Olive Italic 【14】: Antique Olive Bold 【15】: CG Omega 【16】: CG Omega Italic 【17】: CG Omega Bold 【18】: CG Omega Bold Italic 【19】: Garamond Antiqua 【20】: Garamond Kursiv 【21】: Garamond Halbfett 【22】: Garamond Kursiv Halbfett 【23】(初期値): Courier 【24】: Courier Italic 【25】: Courier Bold 【26】: Courier Bold Italic 【27】: Letter Gothic 【28】: Letter Gothic Italic 【29】: Letter Gothic Bold 【30】: Albertus Medium 【31】: Albertus Extra Bold 【32】: Clarendon Condensed 【33】: Coronet 【34】: Marigold

設定項目	項目番号	設定値
デフォルトフォント	207	【35】 : Arial 【36】 : Arial Italic 【37】 : Arial Bold 【38】 : Arial Bold Italic 【39】 : Times New 【40】 : Times New Italic 【41】 : Times New Bold 【42】 : Times New Bold Italic 【43】 : Symbol 【44】 : Wingdings 【45】 : Line Printer 【46】 : Times Roman 【47】 : Times Italic 【48】 : Times Bold 【49】 : Times Bold Italic 【50】 : Helvetica 【51】 : Helvetica Oblique 【52】 : Helvetica Bold 【53】 : Helvetica Bold Oblique 【54】 : CourierPS 【55】 : CourierPS Oblique 【56】 : CourierPS Bold 【57】 : CourierPS Bold Oblique 【58】 : SymbolPS 【59】 : Palatino Roman 【60】 : Palatino Italic 【61】 : Palatino Bold 【62】 : Palatino Bold Italic 【63】 : ITC Bookman Light 【64】 : ITC Bookman Light Italic 【65】 : ITC Bookman Demi 【66】 : ITC Bookman Demi Italic 【67】 : Helvetica Narrow 【68】 : Helvetica Narrow Oblique 【69】 : Helvetica Narrow Bold 【70】 : Helvetica Narrow Bold Oblique 【71】 : New Century Schoolbook Roman 【72】 : New Century Schoolbook Italic 【73】 : New Century Schoolbook Bold 【74】 : New Century Schoolbook Bold Italic 【75】 : ITC Avant Garde Book 【76】 : ITC Avant Garde Book Oblique 【77】 : ITC Avant Garde Demi 【78】 : ITC Avant Garde Demi Oblique 【79】 : ITC Zapf Chancery Medium Italic 【80】 : ITC Zapf Dingbats

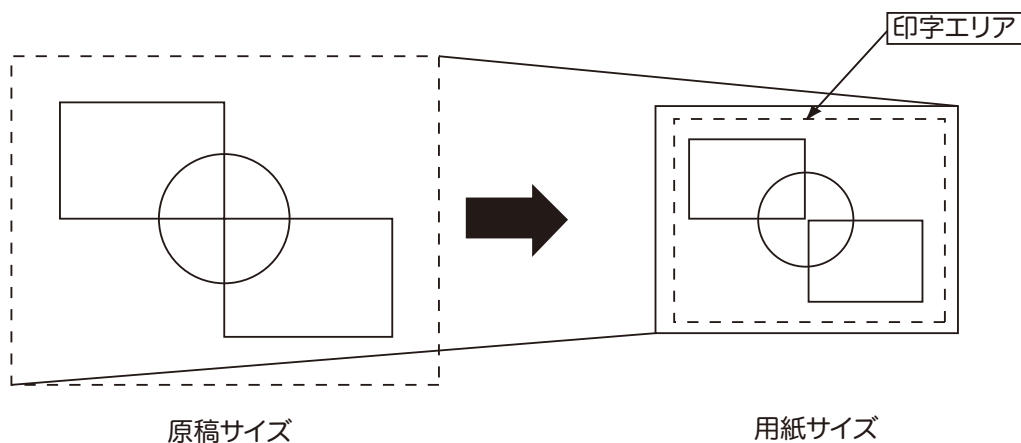
設定項目	項目番号	設定値
デフォルトシンボル	208	シンボルセットの初期値を設定します。 【0】(初期値) : Roman 8 【1】 : ISO 8859-1 Latin 1 【2】 : ISO 8859-2 Latin 2 【3】 : ISO 8859-9 Latin 5 【4】 : ISO 8859-10 Latin 6 【5】 : PC-8 【6】 : PC-8 DN 【7】 : PC-775 【8】 : PC-850 【9】 : PC-852 【10】 : PC-1004 (OS/2) 【11】 : PC Turkish 【12】 : Windows 3.1 Latin 1 【13】 : Windows 3.1 Latin 2 【14】 : Windows 3.1 Latin 5 【15】 : DeskTop 【16】 : PS Text 【17】 : MC Text 【18】 : Microsoft Publishing 【19】 : Math 8 【20】 : PS Math 【21】 : Pi Font 【22】 : Legal 【23】 : ISO 4 United Kingdom 【24】 : ISO 6 ASCII 【25】 : ISO 11 Swedish:names 【26】 : ISO 15 Italian 【27】 : ISO 17 Spanish 【28】 : ISO 21 German 【29】 : ISO 60 Norwegian v1 【30】 : ISO 69 French 【31】 : Windows 3.0 Latin 1 【32】 : Windows Baltic 【33】 : Symbol 【34】 : Wingdings 【35】 : UCS-2
フォントサイズ	209	【400】 ~ 【5000】 (初期値 : 1200) : 4.00 ~ 50.00 ポイント
フォントピッチサイズ	210	【600】 ~ 【2400】 (初期値 : 1000) : 6.00 ~ 24.00 ポイント
フォント行数	211	【5】 ~ 【128】 (初期値 : 64) : 5 ~ 128 行
プリント部数	212	【1】 ~ 【999】 (初期値 : 1) : 1 ~ 999 部 注記 • コンピューターからプリント部数の指定があった場合、その値が反映されてプリントされます。プリント後、操作パネルの設定もその値に書き換えられます。ただし、lpd ポートから指定された部数は、プリント後、操作パネルの設定を書き換えることはありません。
イメージエンハンス	213	イメージエンハンスとは、画像の境界を滑らかにしてギザギザを減らし、疑似的に解像度を高める機能です。 【0】 : OFF 【1】 (初期値) : ON
HexDump	214	HexDump を有効にするかどうかを設定します。 【0】 (初期値) : OFF 【1】 : ON

設定項目	項目番号	設定値
薄墨印刷	215	白黒でプリントする場合に、黒でプリントされる部分を薄墨色でプリントします。この機能は、原稿全体に対して有効です。 【0】（初期値）：OFF 【1】：ON
両面時のとじ方	217	【0】（初期値）：長辺とじ 【1】：短辺とじ
行末処理	218	行末処理を設定します。 「CR-xx」は、CR のとき LF を後につけ、LF と FF のとき CR を前につけます。 【0】（初期値）：OFF 【1】：LF を後につける 【2】：CR を前につける 【3】：CR-xx
ユーザー定義用紙サイズの初期値	219 （短辺）	ユーザー定義用紙の初期値を設定します。 【2100】（短辺初期値）：210.0 mm 【2970】（長辺初期値）：297.0 mm
	220 （長辺）	【0】～【9999】：0～999.9 mm
有効出力部数	221	プリント部数の指定方法を設定します。 【0】：プロトコル 【1】：パネル 【2】（初期値）：コマンド

HP-GL/2 エミュレーションについて

工場出荷時の設定

工場出荷時の、HP-GL、HP-GL/2 エミュレーションモードの設定では、次のように用紙サイズに合わせて、原稿データを縮小拡大してプリント（オートレイアウト）します。



■ ペーパーマージン

工場出荷時は用紙サイズが A サイズに設定されており、少しでもプリントデータが有効座標エリアからはみ出す場合は、次の大きさの A 系列サイズに（例：A5 サイズの次は A4）プリントされます。

ペーパーマージンを設定すると、エリア判定モードで求めた有効座標エリアから、ページマージンで設定した領域を差し引いたエリアを有効座標エリアとします。指定した用紙サイズより大きいサイズにプリントされるような場合は、本設定を行ってください。

ハードクリップエリア

HP-GL モードでは、印字可能エリアとは別に、用紙によって作画可能な領域が決まっています。この領域はハードクリップエリアと呼ばれ、ペンが移動する最大範囲を決定します。したがって、ハードクリップエリアを超えて作画することはできません。本機では、次の中からハードクリップエリアを選びます。

- 標準

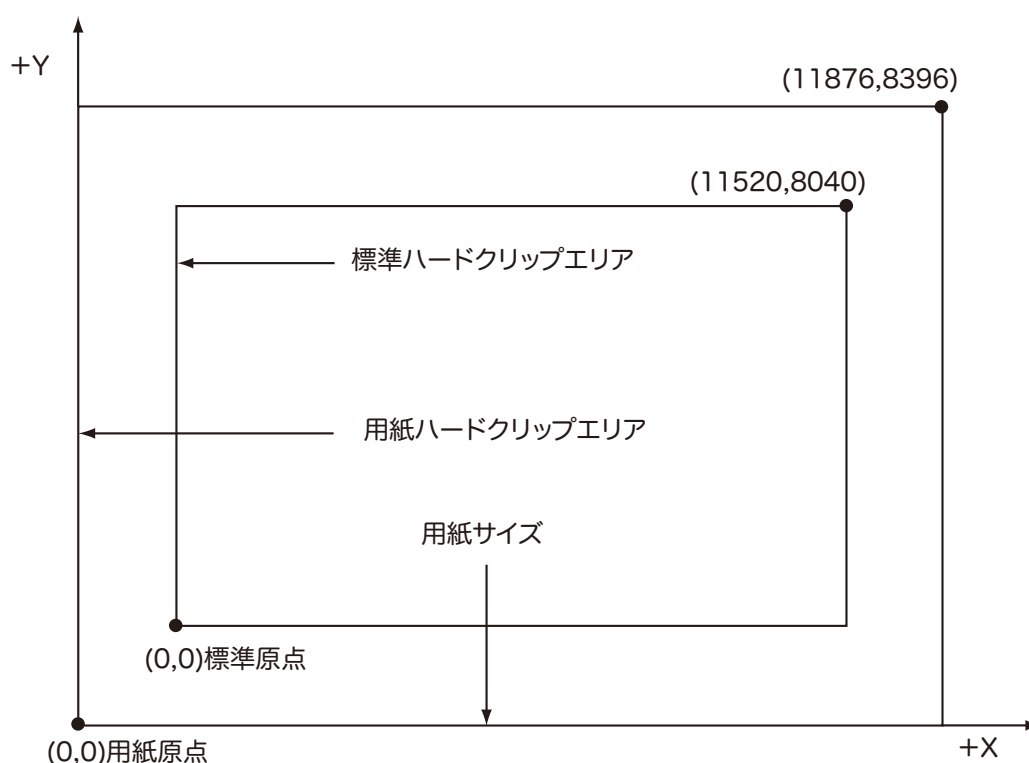
本機の印字可能エリアをハードクリップとして定義します。

- 用紙

用紙と同じサイズをハードクリップエリアとして定義します。しかし、実際にプリントできる領域は印字可能エリア内のみとなります。

ハードクリップエリアの設定は、HP-GL エミュレーションモード設定、またはハードクリップの指定コマンド &I で行うことができます。

下図の座標値は、A4 サイズで原点が左下（HP-GL/2 でオートレイアウト時）に設定されている場合です。



印字可能エリア

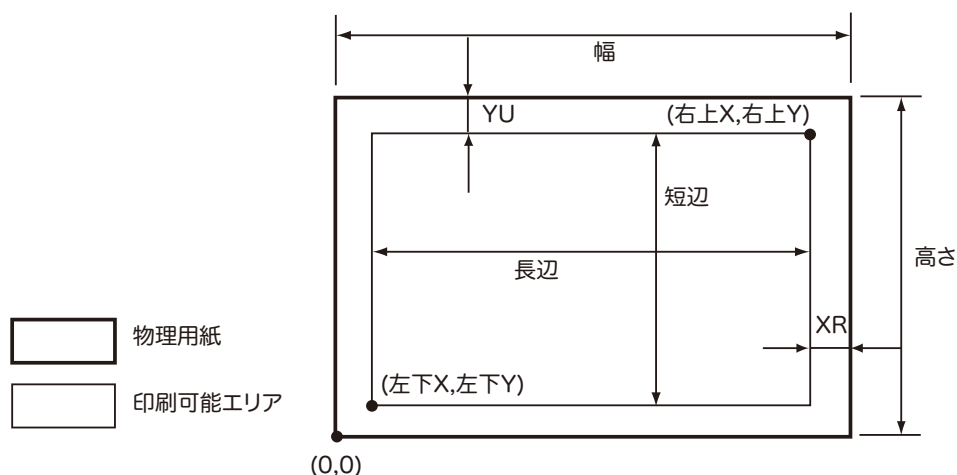
HP-GL モードで印刷できるエリアは、次のとおりです。

■用紙サイズと印刷可能エリア

用紙 サイズ	用紙長 (1/7200 インチ)		座標値 (1/7200 インチ)							
	X 方向	Y 方向	マージン		印刷可能エリア		右上端		マージン	
	幅	高さ	左下 X	左下 Y	長辺	短辺	右上 X	右上 Y	XR	YU
A4	84168	59508	1260	1260	81648	56988	82908	58248	1260	1260
A5	59508	41940	1260	1260	56988	39420	58248	40680	1260	1260
B5	72828	51588	1260	1260	70308	49068	71568	50328	1260	1260

補足

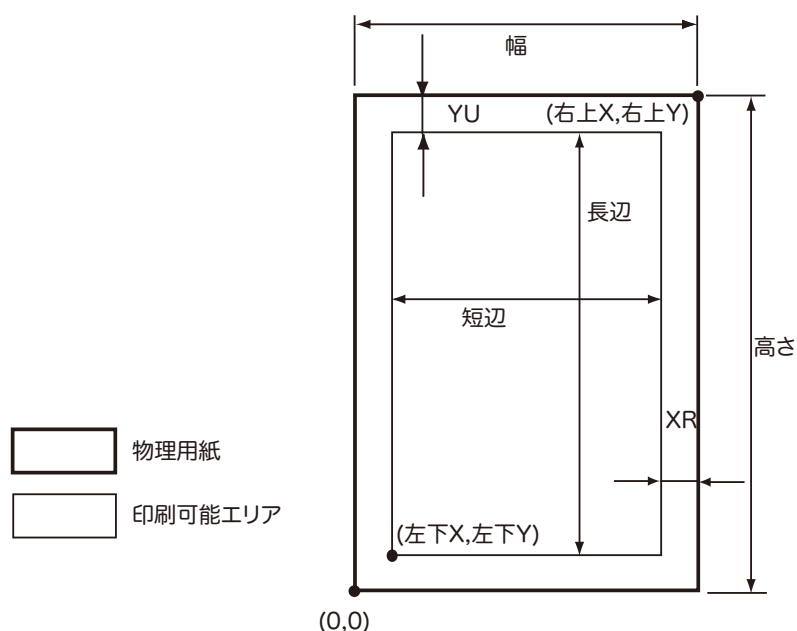
- HP-GL エミュレーションでサポートしている用紙サイズは、A5、A4、B5 の 3 種類です。



用紙 サイズ	用紙長 (1/7200 インチ)		座標値 (1/7200 インチ)							
	X 方向	Y 方向	マージン		印刷可能エリア		右上端		マージン	
	幅	高さ	左下 X	左下 Y	長辺	短辺	右上 X	右上 Y	XR	YU
A4	59508	84168	1260	1260	56988	81648	58248	82908	1260	1260
A5	41940	59508	1260	1260	39420	56988	40680	58248	1260	1260
B5	51588	72828	1260	1260	49068	70308	50328	71568	1260	1260

補足

- HP-GL エミュレーションでサポートしている用紙サイズは、A5、A4、B5 の 3 種類です。



オートレイアウト

■ オートレイアウトとは

オートレイアウトとは、ホスト装置から入力された HP-GL データをもとに原稿サイズを判断し、描画する用紙サイズに合わせて拡大・縮小し、描画データが用紙の中央にくるようにレイアウトする機能のことです。オートスケール・オートレイアウト機能を使用することによって、原稿サイズ、原点位置などを意識することなく、HP-GL モードでプリントできます。

オートレイアウトの指定はすべて操作パネルで行います。拡張コマンドで設定することはできません。

■ オートレイアウト機能を有効にするためには

オートレイアウト機能を有効にするためには、操作パネルを使って次の項目の設定をします。

- 原稿サイズを「オート」に設定します。
- 原点位置を設定するために、オートレイアウトを「ON」に設定します。
- スケールを「ON」に設定します。
- エリア判定モードで、有効座標エリアを求める方法を選びます。
- ペーパーマージンでペーパーマージンを設定します。
- スケールモードを設定します。

■ 設定項目の詳細

◆ 原稿サイズ

原稿サイズで「オート」を選ぶと、オートレイアウトの設定を「ON」にできるようになります。

◆オートレイアウト

オートレイアウトの設定を「ON」に設定します。「ON」に設定すると、スケール、エリア判定モード、ペーパーマージン、スケールモードの設定が有効になります。

◆スケール

原稿サイズが用紙サイズに合うように、原稿サイズを拡大・縮小（スケーリング）するかどうかを設定します。

◆エリア判定モード

HP-GL データをもとに有効座標エリアを求める方法には、次のものがあります。

「自動」

有効座標エリア判定方法を、PS、IW、IP、Adapted の中から自動的に選択されます。このときの優先順位は、PS > IW > IP > Adapted となります。

「IW」

データ中の最後の IW コマンドで指定された領域を、有効座標エリアとします。データ中に IW コマンドがない場合は、Adapted で有効座標エリアを決定します。

「IP」

データ中のすべての IP コマンドで指定された領域を含むエリアを、有効座標エリアとします。データ中に IP コマンドがない場合は、Adapted で有効座標エリアを決定します。

「Adapted」

次の条件から有効座標エリアを決定します。

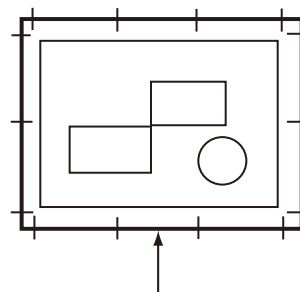
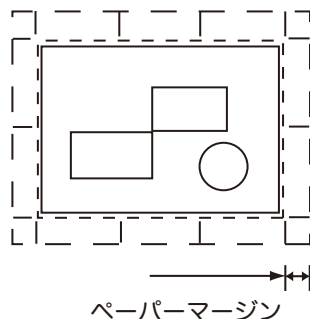
- 描画するコマンドがプロットする最大と最小の位置座標
- そのページ内に指定された最大の文字サイズ
- 最大の線幅

「PS」

データ中の最初に PS コマンドで指定された領域を含むエリアを、有効座標エリアとします。データ中に PS コマンドがない場合は、Adapted で有効座標エリアを決定します。

◆ペーパーマージン

0 ～ 99 mm の範囲で設定します。初期値は 0 mm です。エリア判定モードで求めた有効座標エリアから、ページマージンで設定した領域を差し引いたエリアを有効座標エリアとします。



ハードクリップを超えるため描画されない

「—」 エリア判定モードで求めたエリア

「---」 エリア判定モードで求めたエリアからペーパーマージンを差し引いたエリア

◆スケールモード

求めた有効座標エリアから、原稿サイズを決定するモードを選びます。また、有効座標エリアからよこ置きまたはたて置きの判断もします。

「有効座標エリア」の場合

エリア判定モードで求めたエリアからページマージンで設定した領域を差し引いたエリアを原稿サイズとします。

「用紙サイズ」の場合

求めた有効座標エリアと原点位置の設定から、原稿サイズを設定します。原稿サイズは、A 系列の用紙サイズ (A0、A1、A2、A3、A4、A5 の 6 種類) から選択されます。

■原稿サイズの決定方法

原稿サイズは、スケールモード、ペーパーマージン、エリア判定モードで求めた有効座標エリアをもとに、各用紙サイズの用紙ハードクリップエリアと比較し、決定されます。

◆スケールモードが用紙サイズの場合

- 1) エリア判定モードに従い、入力された HP-GL データから有効となる座標エリアを求めます。
- 2) 手順 1 で求めた有効となる座標エリアに対し、ページ内で指定された文字の大きさまたはデフォルトの文字の大きさ、または指定されたペン幅の 1/2 のいずれか値の大きいほうをマージンとして加えます。
- 3) 手順 2 で求めた有効な座標エリアから、ペーパーマージンで設定された値を引きます。
- 4) 手順 3 で求めた有効な座標エリアを含む最小のサイズを原稿サイズとします。

◆スケールモードが有効座標エリアの場合

- 1) エリア判定モードに従い、入力された HP-GL データから有効となる座標エリアを求めます。
- 2) 手順 1 で求めた有効となる座標エリアに対し、ページ内で指定された文字の大きさまたはデフォルトの文字の大きさ、または指定されたペン幅の 1/2 のいずれか値の大きいほうをマージンとして加えます。
- 3) 手順 2 で求めた有効な座標エリアから、ペーパーマージンで設定された値を引きます。
- 4) 手順 3 までの処理で求めた座標エリアを原稿サイズとします。

例：

スケールモード = 用紙サイズ、原点位置 = オート、ペーパーマージン 10 mm、エリア判定モード = IP の場合に下記データが入力された場合

ペン幅設定はすべて 0.1 mm

下記データでは文字サイズ指定コマンドは存在せず、IP,IW で指定しているエリアは A3 物理サイズ

IN;

IP-8399,-5938,8399,5938;

IW-8399,-5938,8399,5938;

PU;

SP1;

：

:

SP0;

1) エリア判定モードが IP のため IP コマンドで指定されたエリア -8399,-5938,8399,5938 を有効座標エリアとします。

2) 上記例では文字サイズ指定コマンドなし、ペン幅はすべて 0.1 mm のため A3 サイズのデフォルト文字サイズの高さ /2 (75 プロッタユニット) のサイズを手順 1 で求めた有効座標エリアに加えます。

手順 2 で求めた有効座標エリア -8474,-6013,8474,6013

3) ペーパーマージンで設定されている値 (10 mm=400 プロッタユニット) を手順 2 で求めた有効座標エリアから差し引きます。

手順 3 で求めた有効座標エリア -8074,-5613,8074,5613

4) 手順 3 で求めた有効座標エリアは A4 サイズを超え A3 サイズのため、原稿サイズは A3 と判断されます。

また、ペーパーマージンの設定が 0 mm だった場合の有効座標エリアは -8474,-6013,8474,6013 なので、A3 サイズを超え A2 サイズ以下のため、原稿サイズは A2 と判断されます。

■ 用紙サイズの決定方法

操作パネルの設定が次の場合、用紙サイズの決定方法は次のようになります。

- 原稿サイズ：オート
- 給紙トレイ：自動

用紙サイズの決定方法は、操作パネルの用紙サイズの設定、およびスケールモードの設定によって異なります。

◆ 用紙サイズの設定が「A サイズ」の場合

A4、A5 の 2 種類の中から実際にトレイにセットされている用紙サイズが、用紙サイズの候補となります。

A 系列 (A4、A5) の用紙がトレイにセットされていない場合は、A4 と A5 両方のサイズを候補とし、操作パネルには、A 系列の用紙のセットを促すエラーメッセージが表示されます。

◆ 用紙サイズの設定が「オート」の場合

A4、B5、A5 の 3 種類の中から実際にトレイにセットされている用紙サイズが、用紙サイズの候補となります。

A4、B5、A5 の用紙がトレイにセットされていない場合は、このすべてのサイズを候補とし、操作パネルには、用紙のセットを促すエラーメッセージが表示されます。

◆ スケールモードの設定が「用紙サイズ」の場合

原稿サイズと同じ用紙サイズがある場合は、原稿サイズと同じサイズの用紙を選びます。

原稿サイズが、候補となったどの用紙サイズよりも大きい場合は、いちばん大きいサイズの用紙を選びます。

原稿サイズが、候補となったどの用紙サイズよりも小さい場合は、いちばん近いサイズの用紙を選びます。

◆スケールモードの設定が「有効座標エリア」の場合

有効座標エリアを含むいちばん小さい用紙サイズを選びます。

有効座標エリアが、候補となったどの用紙サイズよりも大きい場合は、いちばん大きいサイズの用紙を選びます。

有効座標エリアが、候補となったどの用紙サイズよりも小さい場合は、いちばん近いサイズの用紙を選びます。

補足

- 原稿サイズが「オート」以外に設定されている場合、用紙サイズは操作パネルの〔用紙サイズ〕で設定されているサイズとなります。
- 給紙トレイが「自動」に設定されている場合、用紙サイズは各トレイにセットされている用紙サイズとなります。ただし、サポートされていないサイズの用紙がセットされていると、サポートしているサイズの用紙のセットを促すエラーメッセージが表示されます。

■倍率の決定方法

オートスケール実行時、スケーリングの倍率は原稿サイズおよび用紙サイズで決定しますが、スケールモードの設定によって異なります。

補足

- スケーリングを有効にするためには、操作パネルのスケールの設定を「ON」にします。「OFF」の場合は、等倍（100%）で描画されます。

◆原稿サイズが「オート」、スケールモードが「用紙サイズ」の場合

ハードクリップの設定は、無効になります。ハードクリップエリアは常に用紙ハードクリップエリアとなります。

- 原稿サイズ＝用紙サイズの場合は、等倍（100%）で描画します。
- 原稿サイズ＞用紙サイズの場合は、縮小して描画します。
- 原稿サイズ＜用紙サイズの場合は、等倍（100%）で描画します。

		用紙サイズ		
		A4	A5	B5
原稿サイズ	A0	25	100	100
	A1	35	25	31
	A2	50	35	43
	A3	71	50	61
	A4	100	71	87
	A5	100	100	100

描画位置は、原点位置がレイアウトの場合、原稿を用紙の中央に配置して描画します。

原点位置が左下または中央の場合、原稿、用紙それぞれの原点を合わせて描画します。

◆原稿サイズが「オート」、スケールモードが「有効座標エリア」の場合

ハードクリップの設定は、無効になります。ハードクリップエリアは常に拡張ハードクリップエリアとなります。

倍率は、有効座標エリアと用紙サイズによって決定します。各用紙サイズの有効座標範囲は次のとおりです。

単位：プロッターユニット

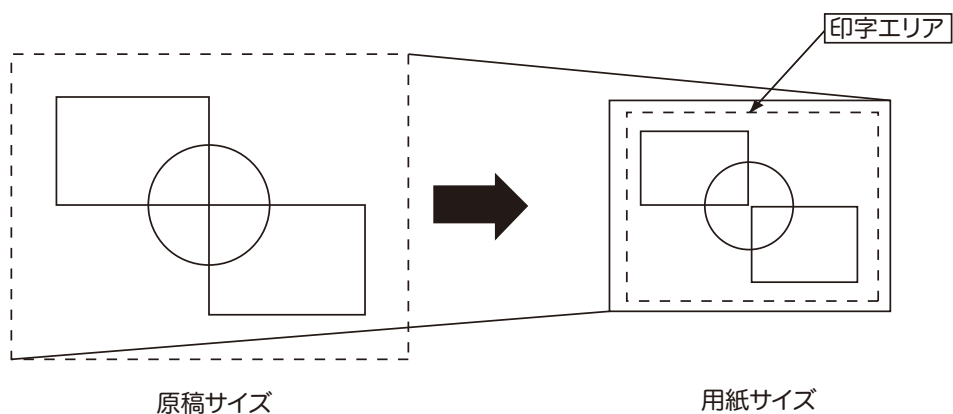
用紙 サイズ	0 度				90 度			
	最小値		最大値		最小値		最大値	
	P2x - P1x	P2y - P1y	P2x - P1x	P2y - P1y	P2x - P1x	P2y - P1y	P2x - P1x	P2y - P1y
A4	5485	3828	51200	35733	3828	5485	35733	51200
A5	3828	2648	35733	24720	2648	3828	44088	35733
B5	4723	3297	44088	30773	3297	4723	30773	44088

倍率の最大値は、各用紙サイズの拡張ハードクリップエリアの 210.0%、倍率の最小値は、22.5% となります。

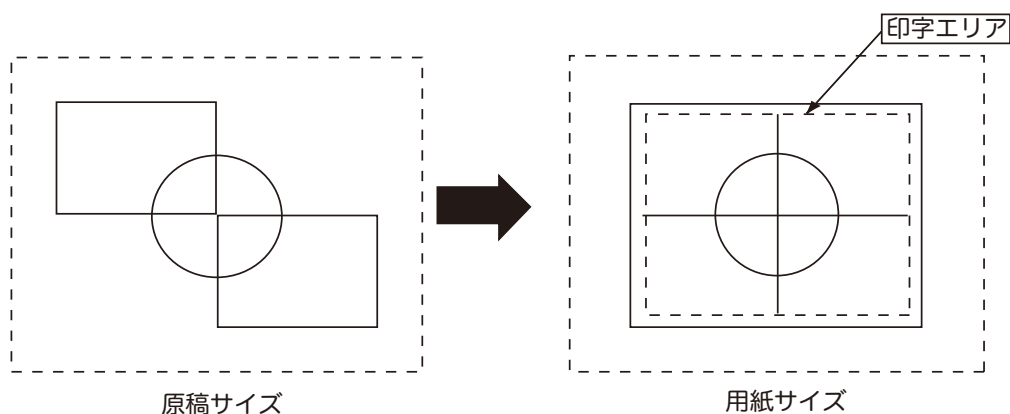
■ 各機能組み合わせ例

次に各機能の組み合わせによって、どのような印刷結果となるか例を記載します。

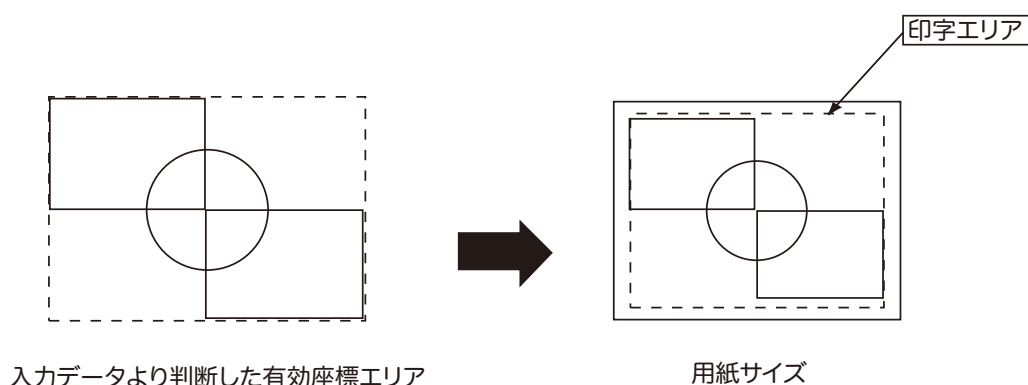
◆ 原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：用紙サイズ、スケール：ON



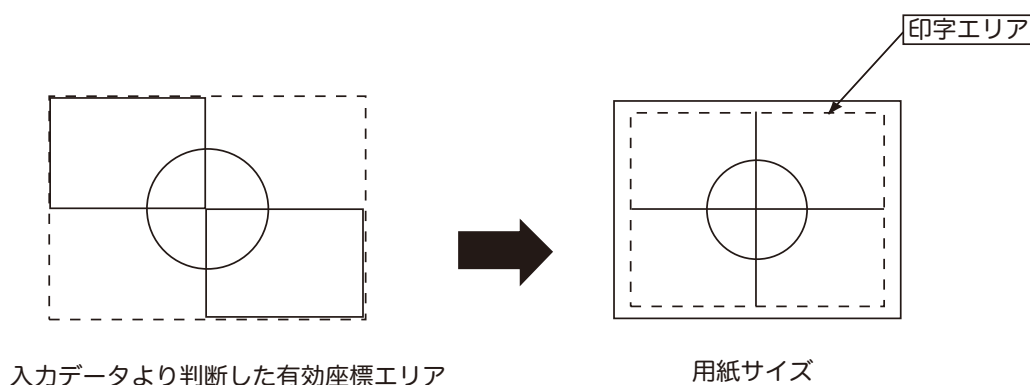
◆ 原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：用紙サイズ、スケール：OFF



◆原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：有効座標エリア、スケール：ON



◆原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：有効座標エリア、スケール：OFF



HP-GL/2 に関連する設定メニュー

■ [ポート設定]

[設定] > [ネットワーク設定] > [ポート設定] で、エミュレーションモードで使用するポートを設定します。

- ポートの起動 (LPD/IPP/USB/Port9100/WSD)
エミュレーションモードで使用するポートを起動します。
- [USB- プリントモード指定]
USB ポートのプリントモード指定を、HP-GL/2 エミュレーションが使用できるように設定します。プリントモードとして [HP-GL/2] を指定できます。

補足

- [USB- プリントモード指定] では、ホスト装置から受信したデータの処理方法を設定します。ここで [HP-GL/2] を設定すると、「プリント言語の切り替え」(P.274) で説明している「自動切り替え」は行われません。
- CentreWare Internet Services を使って、プロトコル (LPD、IPP、Port9100、WSD) ごとにプリントモードを指定することもできます。

■ [メモリー設定]

[設定] > [アプリ設定] > [プリンター設定] > [メモリー設定] で、HP-GL/2 のオートレイアウトメモリーで使用するメモリー容量を指定します。

• [HP-GL/2 オートレイアウト用メモリー]

オートレイアウト実行時、プリントデータを格納するメモリーの容量を設定できます。

HP-GL/2 設定項目一覧

モードメニューで設定できる項目について、基本設定項目と拡張設定項目に分けて説明します。

基本設定項目

設定項目	項目番号	設定値
原稿サイズ	101	【0】：A0 【1】：A1 【2】：A2 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【10】：B0 【11】：B1 【12】：B2 【13】：B3 【14】：B4 【15】：B5 【99】（初期値）：オート 【100】：用紙 「オート」に設定すると、「印字制御」のスケールモード、エリア判定モード、ペーパーマージンの設定が有効になります。 補足 ・「オート」以外に設定すると、拡張設定項目の「オートレイアウト」の設定は「しない」になります。 ・「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせによって、原稿は等倍でプリントされます。
用紙サイズ	102	「給紙トレイ」の設定が「自動」、または「トレイ 5（手差し）」の場合の用紙サイズを設定します。また、設定できる用紙はカット紙だけです。 【4】：A4 【5】：A5 【15】：B5 【99】：オート 【101】（初期値）：A サイズ 注記 ・「給紙トレイ」を「トレイ 1」～「トレイ 4」のどれかに設定しているときには、「用紙サイズ」の設定はできません。設定しているトレイにセットされている用紙サイズが表示されます。 補足 ・「A サイズ」または「オート」に設定した場合は、次のように設定されます。 - 「原稿サイズ」を「オート」以外に設定すると、「A4」になります。 ・「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせによって、倍率符号が「？」となることがあります。この場合、原稿は等倍でプリントされます。

設定項目	項目番号	設定値
給紙トレイ	103	【0】（初期値）：自動 【1】：トレイ 1 【2】：トレイ 2 【3】：トレイ 3 【4】：トレイ 4 【5】：トレイ 5（手差し） 補足 「自動に設定した場合、同じサイズの下紙が同じ用紙方向で複数のトレイにセットされているときは、トレイ 1 → トレイ 2 → トレイ 3 → トレイ 4 の順に給紙されます。また、同じサイズの下紙が異なる向きで複数のトレイにセットされているときは、よこにセットされている用紙が優先されます。
座標回転	104	【0】（初期値）：0 度 【1】：90 度
階調モード	105	【1】（初期値）：グレースケール 【2】：黒ペン

拡張設定項目

設定項目	項目番号	設定値
オートレイアウト	106	オートレイアウトを使用するかしないかを設定します。 【0】（初期値）：ON 【1】：OFF
パレット優先指定	107	優先して使用するパレットを設定します。 【0】（初期値）：コマンド 【1】：パネル
プリント部数	108	【1】～【250】（初期値：1）：1～250 枚 注記 コンピューターからプリント部数の指定があった場合、その値が反映されてプリントされます。プリント後、操作パネルの設定もその値に書き換えられます。ただし、lpd ポートから指定された部数は、プリント後、操作パネルの設定を書き換えることはありません。
両面	110	【0】（初期値）：なし 【1】：左右開き 【2】：上下開き
フォント	111 （漢字書体）	2 バイト系文字（漢字）の書体を設定します。なお、2 バイト系半角文字もこの書体が適用されます。 参照 フォントについては「使用できるフォント」(P.275) を参照してください。 【0】（初期値）：ストローク 【1】：明朝 【2】：ゴシック
	112 （英数字書体）	1 バイト系文字（ANK）の書体を設定します。 参照 フォントについては「使用できるフォント」(P.275) を参照してください。 【0】（初期値）：ストローク 【1】：ローマン 【2】：サンセリフ

設定項目	項目番号	設定値
位置補正	113 (縦位置補正)	ハードクリップエリアをたてまたはよこ方向に移動させる機能です。-250 ~ 250 mm まで 1 mm 単位で設定できます。 【0】(初期値) : しない 【1】 ~ 【250】 : -250 ~ -1 mm 【251】 ~ 【500】 : +1 ~ +250 mm 注記 印字エリアを超えるデータは、位置補正をしても印字されません。また、位置補正により印字エリアを超えたデータは、印字されません。
	114 (横位置補正)	
有効出力部数	115	プリント部数の指定方法を設定します。 【0】(初期値) : プロトコル指定 【1】 : パネル 【2】 : コマンド
印字制御	150 (HP-GL モード)	グラフィックス言語の変更ができます。この設定は、HP-GL コマンドの IW、OW、UC コマンドに影響します。 【0】(初期値) : HP-GL 【1】 : HP-GL/2 補足 BP コマンドを含まない HP-GL/2 コマンドを印字する場合は「HP-GL/2」に設定してください。
	151 (ハードクリップ)	ハードクリップエリアの大きさを設定します。 HP-GL モードでは、用紙によって作画可能な領域が決まっています。この領域はハードクリップエリアと呼ばれ、ペンが移動する最大範囲を決定します。したがって、ハードクリップエリアを超えて描画することはできません。 【0】 : 標準 【2】(初期値) : 用紙
	152 (排出コマンド (SP))	描画の終了を示すコマンドを設定します。ここで指定したコマンドを受信すると描画を終了し、用紙が排出されます。 【0】 : OFF 【1】 : ON 初期値は、SP0 は「ON」、SP0 以外のコマンドは「OFF」に設定されています。 補足 複数のコマンドが指定された場合は、どれか1つのコマンドを受信した時点で、描画を終了して用紙が排出されます。
	153 (排出コマンド (SP0))	
	154 (排出コマンド (NR))	
	155 (排出コマンド (FR))	
	156 (排出コマンド (PG))	
	157 (排出コマンド (AF))	
	158 (排出コマンド (AH))	
	159 (スケール)	原稿サイズが用紙サイズに合うように、原稿サイズを拡大 / 縮小(スケーリング) するかを設定します。 【0】 : OFF 【1】(初期値) : ON

設定項目	項目番号	設定値
印字制御	160 (スケールモード)	オートスケール実行時の原稿サイズを、A 系列の用紙サイズ (A0、A1、A2、A3、A4、A5 の 6 種類) とするか、エリア判定モードで指定された方法によって求められた有効座標エリアとするかを設定します。 【0】(初期値)：用紙サイズ 【1】：有効座標エリア 補足 「有効座標エリア」は、「オートレイアウト」が「ON」の場合だけ設定できます。「OFF」の場合は、「用紙サイズ」になります。 - スケールモードの設定は、「原稿サイズ」が「オート」の場合に有効になります。
	161 (エリア判定コマンド)	オートスケール実行時、有効座標エリアを求める方法を設定します。 【0】(初期値)：Auto 【1】：PS 【2】：IW 【3】：IP 【4】：Adapted 補足 エリア判定コマンドの設定は、「原稿サイズ」が「オート」の場合に有効になります。
	162 (ペーパーマージン)	オートスケール実行時のペーパーマージンを設定します。 【0】～【99】(初期値：0)：0～99 mm 補足 ペーパーマージンの設定は、「原稿サイズ」が「オート」の場合に有効になります。
	163 (イメージエンハンス)	イメージエンハンスを行うか行わないかを設定します。 イメージエンハンスとは、画像の境界を滑らかにしてギザギザを減らし、疑似的に解像度を高める機能です。 【0】：OFF 【1】(初期値)：ON
トレイ5確認表示	165	【0】：なし 【1】(初期値)：あり
対象機	169	エミュレーションする対象機を設定します。 【0】(初期値)：HP750 【1】：FX4036
ペン属性	800～815 (幅)	16 本のペン (No.00～No.15) の幅 (太さ) を設定します。ペンの幅は、0.0～25.5 mm の範囲で、0.1 mm 刻みに設定できます。No.00 の項目番号が 800 です。 【0】～【255】(初期値：3)：0～25.5 mm 補足 「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせによって縮小された場合、ペンの幅も最小 0.1 mm まで縮小します。 - 線の幅は線の中心から太くなります。 - 太さが 0.0 mm の場合は、何も描画されません。 - 本項目は、書体がストローク以外の文字には無効です。

設定項目	項目番号	設定値
ペン属性	850 ~ 865 (ペン終端形状)	16本のペン (No.00 ~ No.15) の先端を設定します。No.00 の項目番号が 850 です。 【0】 (初期値) : 切断 【1】 : 丸め 【2】 : 矩形 「切断」 (初期値)  • : 座標指定位置 「丸め」  • : 座標指定位置 「矩形」  • : 座標指定位置 補足 • 本項目は、書体がストローク以外の文字には無効です。
	900 ~ 915 (ペン接続形状)	16本のペン (No.00 ~ No.15) の、ペンの線を接続した場合の処理を設定します。No.00 の項目番号が 900 です。 【0】 (初期値) : なし 【1】 : 交差 【2】 : 丸め 【3】 : 切断 「なし」 (初期値)  「交差」  「丸め」  「切断」  補足 • 「なし」は、処理時間がもっとも短く、確認用に適しています。 • シンボルモードコマンドによってシンボルが設定されている場合、連結処理は行われません。シンボルモードコマンドとは、シンボルを指定する HPGL コマンドです。 • 本項目は、文字には無効です。

PDF ダイレクトプリントを使用するには

PDF ダイレクトプリントとは、PDF ファイルをプリンタードライバーを使わずに、直接 lpr コマンドなどを使ってプリントする機能です。PDF ダイレクトプリントを使ってプリントする場合、次の項目は「プリンターモード」の「PDF エミュレーション設定」の設定に従ってプリントされます。

- 出力部数
- 両面
- 印刷モード
- ソート
- レイアウト
- 用紙サイズ
- プリント処理モード

補足

- PDFファイルのダイレクトプリント機能は、Adobe純正のPDFダイレクトプリントとPostScript非搭載のPDFダイレクトプリント（PDF Bridge）の2種類が可能です。どちらを優先するかは、「プリント処理モード」で設定できます。
- lpr コマンドを使ってプリントする場合、「PDF エミュレーション設定」の「出力部数」の設定は無効になります。部数を指定するときは、lpr コマンドで行ってください。なお、lpr コマンドで部数の指定をしない場合は、1部として処理されます。
- lprコマンドを使ってPDFファイルをプリントする場合は、操作パネルまたはCentreWare Internet Services を使って、本体側の LPD ポートを起動しておく必要があります。

モードメニュー画面

PDF ダイレクトプリント機能固有の項目を設定する画面です。モードメニュー画面を表示するには、ホーム画面で「プリンターモード」をタップし、「PDF エミュレーション設定」を選んでください。

【詳細確認 / 変更】

PDF ダイレクトプリント機能の項目番号に設定されている値を確認 / 変更します。

- 「項目番号」に機能の項目番号を入力すると現在の設定値を表示できます。
- 設定値を変更するには、「変更値」に変更する値を入力し、「決定」をタップします。

【パスワード】

ファイルにパスワードが設定されている場合は、あらかじめ、そのパスワードを設定しておきます。プリントするファイルと、設定したパスワードが一致した場合にだけプリントできます。

PDF ダイレクトプリント機能の設定項目

PDF ダイレクトプリント機能で設定できる項目について、説明します。

弊社ユーティリティの「ContentsBridge」を使用しないで PDF ファイルをプリントする場合は、ここでの設定が有効になります。

補足

- ContentsBridge Utility を使用して PDF ファイルをプリントする場合は、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内の『メディア情報』を参照してください。

設定項目	項目番号	設定値
出力部数	401	【1 ～ 999】（初期値：1）：1 ～ 999 枚
両面	402	【0】（初期値）：しない 【1】：長辺とじ 【2】：短辺とじ
印刷モード	403	【0】（初期値）：標準 【1】：高速 【2】：高画質
ソート	404	【0】（初期値）：しない 【1】：する
レイアウト	405	補足 • この項目は、「プリント処理モード」で「PDF Bridge」に設定した場合だけ、設定が有効になります。 【0】（初期値）：自動倍率 【1】：カタログ（製本） 【2】：2 アップ 【3】：4 アップ 【4】：100%（等倍）
用紙サイズ	406	【0】（初期値）：自動 【1】：A4
プリント処理モード	408	PDF エミュレーション機能を使用するとき、プリント処理をするモードを指定します。 【0】（初期値）：PDF Bridge 【1】：PS PDF Bridge は、PDF を弊社製の PDF エミュレーション機能を使用して処理します。 PS は、PDF を Adobe 社製の PostScript の機能を使用して処理します。 補足 • この項目は、Adobe PostScript キット（オプション）を取り付けている場合に表示されます。 • 「PDF Bridge」に設定した場合と「PS」に設定した場合では、プリント結果が異なることがあります。 • 「PS」に設定した場合は、「レイアウト」での設定は無効になります。

DocuWorks ダイレクトプリントを使用するには

DocuWorks ダイレクトプリントとは、DocuWorks ファイルをプリンタードライバーを使わないで、直接 lpr コマンドなどを使ってプリントする機能です。DocuWorks ダイレクトプリントを使ってプリントする場合、次の項目は [プリンターモード] の [DocuWorks プリント設定] の設定に従ってプリントされます。

- 出力部数
- 両面
- 印刷モード
- ソート
- レイアウト
- 用紙サイズ

注記

- DocuWorks文書をダイレクトプリント方式でプリントすると、デバイスフォントに置き換わってプリントされます。DocuWorks 文書をコンピューター上で表示した場合やプリンタードライバー経由でプリントした場合は、フォントの違いなどから見栄えが異なりますので注意が必要です。
- DocuWorks Desk Ver.7.0 と ContentsBridge の組み合わせの場合だけ、コンピューターの画面表示どおりのフォントでプリントされます。

補足

- lpr コマンドを使ってプリントする場合、[DocuWorks プリント設定] の「出力部数」の設定は無効になります。部数を指定するときは、lpr コマンドで行ってください。なお、lpr コマンドで部数の指定をしない場合は、1 部として処理されます。
- lpr コマンドを使って DocuWorks ファイルをプリントする場合は、操作パネルまたは CentreWare Internet Services を使って、本体側の LPD ポートを起動しておく必要があります。

モードメニュー画面

DocuWorks ダイレクトプリント機能固有の項目を設定する画面です。モードメニュー画面を表示するには、ホーム画面で [プリンターモード] をタップし、[DocuWorks プリント設定] を選んでください。

[詳細確認 / 変更]

DocuWorks ダイレクトプリント機能の項目番号に設定されている値を確認 / 変更します。

- [項目番号] に機能の項目番号を入力すると現在の設定値を表示できます。
- 設定値を変更するには、[変更値] に変更する値を入力し、[決定] をタップします。

[パスワード]

ファイルにパスワードが設定されている場合は、あらかじめ、そのパスワードを設定しておきます。プリントするファイルと、設定したパスワードが一致した場合にだけプリントできます。

DocuWorks ダイレクトプリント機能の設定項目

DocuWorks ダイレクトプリント機能で設定できる項目について、説明します。

弊社ユーティリティの「ContentsBridge」を使用しないで DocuWorks ファイルをプリントする場合は、ここでの設定が有効になります。

補足

- ContentsBridge Utility を使用して DocuWorks ファイルをプリントする場合は、メディア(ソフトウェア / 製品マニュアル) 内の『メディア情報』を参照してください。

設定項目	項目番号	設定値
出力部数	501	【1 ～ 999】（初期値：1）：1 ～ 999 枚
両面	502	【0】（初期値）：しない 【1】：長辺とじ 【2】：短辺とじ
印刷モード	503	【0】（初期値）：標準 【1】：高速 【2】：高画質
ソート	504	【0】（初期値）：しない 【1】：する
レイアウト	505	【0】（初期値）：自動倍率 【2】：2 アップ 【3】：4 アップ 【4】：100%（等倍）
用紙サイズ	506	【0】（初期値）：自動 【1】：A4

外部アクセス

外部アクセスの概要

外部アクセスとは、本機に組み込まれたブラウザーからネットワークを介して Web サーバーにアクセスし、データを格納したり、表示したりできる機能です。

本機では次の機能が使用できます。

- 外部サービスにアクセスして、Web アプリケーション画面を表示する
- 外部のサーバーに格納してあるファイルをプリントする

注記

- 表示できる Web アプリケーションは、連携済みのものだけです。インターネットのホームページなどにはアクセスできません。

接続先を登録する

接続先のサーバーを本機に登録します。

補足

- 登録したいサーバーが複数ある場合は、登録先をホーム画面に表示されるボタンに割り付けると便利です。詳しくは、「ホーム画面のカスタマイズ」(P.59)を参照してください。

- 1 ホーム画面で [設定] をタップします。
- 2 [アプリ設定] > [外部アクセス設定] をタップします。
- 3 [接続先の登録] をタップし、登録するサーバー番号を選びます。
- 4 サーバーの URL を入力し、[OK] をタップします。

補足

- 外部アクセス用 Web ブラウザーのバージョンを特定した接続にしたい場合は、プロトコルの種類 (http や https) とコロンの間にバージョンを指定します。たとえば、V4 で接続したいときは「http-v4://www.example.com」と入力します。
- Web ブラウザーのバージョンを URL に指定して接続したときは、[外部アクセスバージョンの選択] の設定は無効になります。

- 5 必要に応じて、ほかの項目を設定します。

■[接続先名]

接続先の表示名を設定します。

■[説明]

接続先の説明を設定します。

■[接続用ユーザー ID の使用]

外部サービスにアクセスするためのユーザー ID を使用するかどうかを設定します。

補足

- [使用しない] に設定しても、アクセス時にユーザー ID とパスワードの入力が必要になることがあります。
- [認証方式の設定] が [外部認証] の場合、本項目を [使用しない] に設定すると、本機で認証されているユーザー情報を使用して、外部サービスにアクセスします。

参照

- 外部サービスへアクセスしたときに、認証の確認画面を表示するかしないかを設定できます。「[認証情報送信時の確認画面]」(P.146)を参照してください。

■[接続用ユーザー ID]

外部サービスに認証するためのユーザー ID を設定します。

注記

- 外部サービスの種類によっては、[接続用ユーザー ID] を設定しても、設定が無効になることがあります。使用する外部サービスの設定を確認してください。

補足

- [接続用ユーザー ID] を設定するときは、[接続用ユーザー ID のパスワード] も一緒に設定してください。
- 接続する外部サービスの認証方法が、ユーザー ID とパスワードを入力する方法以外の場合、ここでの設定は無効になります。

■[接続用ユーザー ID のパスワード]

認証に使用するパスワードを設定します。

■[本体 / 認証情報の通知]

本体を特定するための情報や、利用するユーザーの認証情報を、外部サービスに接続するたびに接続先に通知するかどうかを設定します。

補足

- これらの情報は、接続する外部サービスによって使用するかどうか判断されます。

■[ユーザー権限情報の通知]

利用するユーザーの権限情報を、外部サービスに接続するたびに接続先に通知するかどうかを設定します。

■[機能コード]

ApeosPort との連携サービス使用時に必要に応じて設定します。

サーバー証明書の検証を行う場合の設定

インターネットゾーンなどにある外部サーバー（ASP）への接続において、Windows の Web ブラウザーと同様に、サーバー証明書を検証する設定にしてフィッシングを抑止できます。

サーバー証明書の検証には、サーバー証明書を発行しているルート証明機関のルート証明書（CA 証明書）を使います。

補足

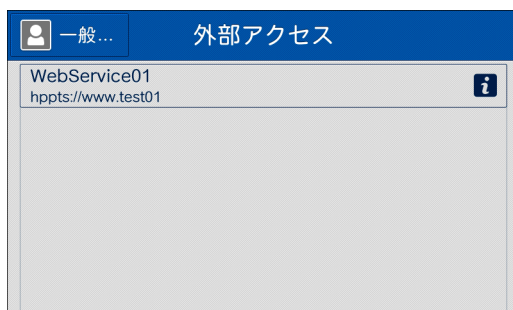
- CA 証明書ファイルの対応形式は次のとおりです。
 - DER encoded binary X.509 形式 (.CER)
 - Base64 encoded X.509 形式 (.CER)
 - Cryptographic Message Syntax Standard - PKCS #7 証明書形式 (.P7B)

参照

- 詳しくは、「本機から外部サーバーへの HTTP の通信を暗号化する (SSL/TLS クライアント)」(P.183)を参照してください。

外部サービスに接続する

- 1 ホーム画面で、[外部アクセス] をタップします。
- 2 接続先をタップします。



EP システムについて

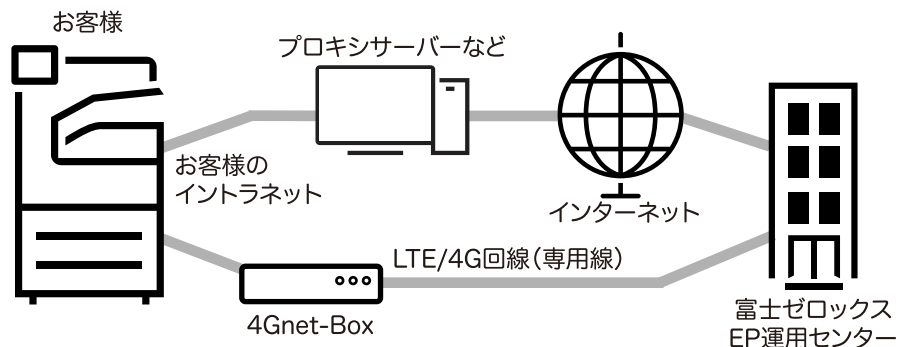
EP（エレクトロニック・パートナーシップ）とは、本機と弊社の EP 運用センターを結ぶことで、機械の管理業務を自動化するシステムです。

公衆回線を使用する場合と、インターネットを使用する場合があります。

本機で EP システムを使用する場合の操作について説明しています。

補足

- EP システムのサービスは、機械の電源が切られている状態ではご利用できません。
- EP システムは、一部の地域でご利用できない場合があります。適用については、担当の営業、または販売店にお問い合わせください。



EP システムで利用できるサービスは、次のとおりです。

• メーターカウントの自動検針

毎月、設定した日時に、メーターのカウントを機械が自動的に弊社に通知します。この締め時カウントは、メーター確認ボタンをタップするとディスプレイで確認できます。

補足

- [締め時カウント] を表示するには、カスタマーエンジニアの設定が必要です。詳しくは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

• 機械の点検 / 修理依頼

機械の点検や修理が必要になった場合、点検 / 修理の依頼を行うと、機械から弊社のカスタマーコンタクトセンターに点検 / 修理依頼の連絡をします。連絡を受けると、必要に応じてカスタマーエンジニアが訪問します。この操作は、機械を管理する機械担当者が行ってください。

• 機械異常時の自動通報

機械に異常が発生した場合、機械は自己診断をして、自動的に弊社のカスタマーコンタクトセンターに異常発生 of 通報をします。

通報を受けると、カスタマーエンジニアが訪問します。

• 機械消耗品の適時配送

トナーカートリッジなど、機械消耗品の使用数量を弊社に通知します。お客様の使用実績に基づき、機械消耗品を配送します。

• 各種設定のリモート変更

機械の各種設定を、ご要望に応じて弊社からリモートで変更できます。設定内容の詳細については、弊社のカスタマーコンタクトセンターにお問い合わせください。

- ソフトウェアの更新

本機のソフトウェアのバージョンアップが必要になったときは、お客様ご自身の操作で、新しいソフトウェアをダウンロードして、ソフトウェアバージョンアップを行うことができます。

参照

- ソフトウェアバージョンアップについては、「[ソフトウェアバージョンアップ]」(P.121)を参照してください。

使い方のヒント

操作パネルでヘルプを使う

操作パネルのヘルプ機能では、本機の操作方法やエラーコードの詳細を確認できます。調べた情報は、プリントしたり、モバイル端末に転送したりできます。

補足

- この機能を初めて使用するときは、機械管理者モードで利用規約への同意が必要になります。
- この機能を利用するには、インターネットに接続できる環境が必要です。お使いのネットワーク環境によっては、プロキシサーバーの設定も必要になることがあります。

1 ホーム画面で [ヘルプ] をタップします。

2 任意の項目を選びます。



■よくある質問

問い合わせの多い項目をまとめてあります。

■最近のジョブエラー

ジョブエラーの履歴から、必要な情報を確認できます。

■モバイル連携

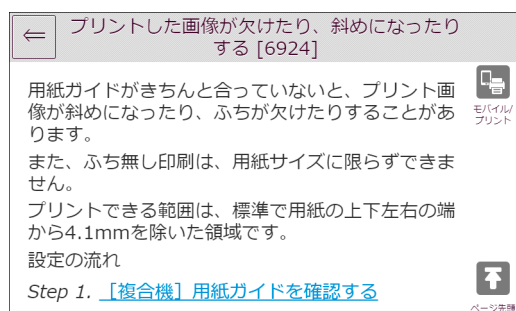
画面に表示された QR コードをモバイル端末で読み取ると、ヘルプの情報を Web ブラウザーで閲覧できます。

■ 🔍 (検索)

キーワードやエラーコードで、必要な情報を検索できます。

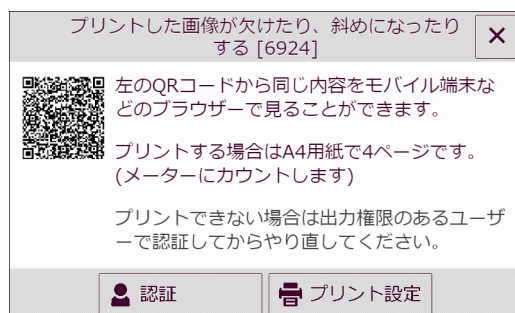
ヘルプのコンテンツ ID が分かっている場合は、ID を直接入力できます。

3 ヘルプの内容をプリントしたり、モバイル端末で閲覧したりする場合は、[モバイル / プリント] をタップします。



- 4 画面に表示された QR コードをモバイル端末で読み取ると、Web ブラウザーで閲覧できます。

プリントする場合は、[プリント設定] をタップします。



本機とコンピューターで厚紙を指定してプリントする

厚紙がセットされている用紙トレイを設定しておく、コンピューターで厚紙を指定してプリントを実行したときに、自動的に用紙トレイが選択されます。

- 1 用紙トレイに厚紙をセットします。

参照

- 「用紙をセットする」(P.66) を参照してください。

- 2 [用紙トレイの設定] 画面で、厚紙をセットしたトレイを選び、用紙種類をセットした厚紙に変更します。

参照

- 「用紙の設定を変更する」(P.80) を参照してください。

- 3 コンピューターで、アプリケーションソフトウェアの [ファイル] メニューから、[印刷] をクリックします。

補足

- プリントの手順はお使いのアプリケーションソフトウェアによって異なります。詳しくは、各アプリケーションソフトウェアのマニュアルを参照してください。

- 4 本機のプリンタードライバーを選び、[プロパティ] をクリックします。
- 5 [基本] タブで、[用紙設定ガイド] をクリックします。
- 6 ナビゲーション画面で、プリントする用紙に応じて必要な項目を設定したら、プリンターのプロパティ画面で [OK] をクリックします。
- 7 [印刷] ダイアログボックスで、印刷部数を指定し、[OK] をクリックします。

商品のお問い合わせ先について

- この商品の**保守、操作、修理**(内容、期間、費用)のお問い合わせ、および**消耗品**をご購入される場合は、商品に貼られている保守サポートの問い合わせ先カードの裏面に記載のあるカスタマーコンタクトセンターにお問い合わせください。

保守・操作の問い合わせ、
消耗品のご用命は、
裏面の電話番号へご連絡ください。

●裏面の記入がない場合の連絡先
富士ゼロックス株式会社
プリンターサポートデスク
TEL : 0120-66-2209
受付時間 9:00~17:30
(土、日、祝日および弊社指定休業日をのぞく)

A-24017F

FUJI XEROX

表面

●保守・操作の問い合わせ (カスタマーコンタクトセンター)
TEL. _____
FAX. _____

●用紙・消耗品のご用命 (カスタマーコンタクトセンター)
TEL. _____

●お手数ですが電話口の係員に下記の番号をお伝えください。
機種 _____ 機械No. _____

897E 14583

FUJI XEROX

裏面

お問い合わせ先が不明の場合は、富士ゼロックスプリンターサポートデスクにお問い合わせください。
(各アプリケーションの操作につきましては、各ソフトウェアメーカーの問い合わせ窓口にお問い合わせください。)

フジゼロックス

フリーダイヤル **0120-66-2209** FAX:0120-14-1046

フリーダイヤル受付時間:土、日、祝日、および弊社指定休業日を除く9時~17時30分

フリーダイヤルは、海外からはご利用いただけません。また、一部のIP電話からはつながらない場合があります。お話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただくことがあります。

本機を廃却する場合は、お買い上げいただいた富士ゼロックス、各販売会社の担当営業にお問い合わせいただき、お申し込みください。

担当営業が不明な場合には、富士ゼロックスお客様相談センターにお問い合わせください。

TEL:0120-27-4100

受付時間:9時から12時、13時から17時

(土・日・祝日および弊社指定休業日を除く)

弊社へのお問い合わせの際には、機種名と機械番号を確認させていただきます。

保守サポートの問い合わせ先カードの裏面の「機種」「機械No.」、もしくは商品の背面または側面の銀色のシールに記載されている「商品名」「商品コード」「SER#」を事前にご確認ください。

- 富士ゼロックスに対するご意見、ご相談などは、お客様相談センターにご連絡ください。

フリーダイヤル **0120-27-4100**

フリーダイヤル受付時間:土、日、祝日、および弊社指定休業日を除く9時~12時、13時~17時

フリーダイヤルは、海外からはご利用いただけません。また、一部のIP電話からはつながらない場合があります。

お話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただくことがあります。

- 公式サイトで富士ゼロックスの商品全般に関する情報、ソフトウェア等を提供しています。

<http://www.fujixerox.co.jp>

ApeosPort- VII P4022 JM ユーザーズガイド

著作者 — 富士ゼロックス株式会社
発行者 — 富士ゼロックス株式会社

発行年月 — 2021 年 3 月 第 1 版

(管理番号:ME8992J1-2)